

536.6-Te86ㄅ



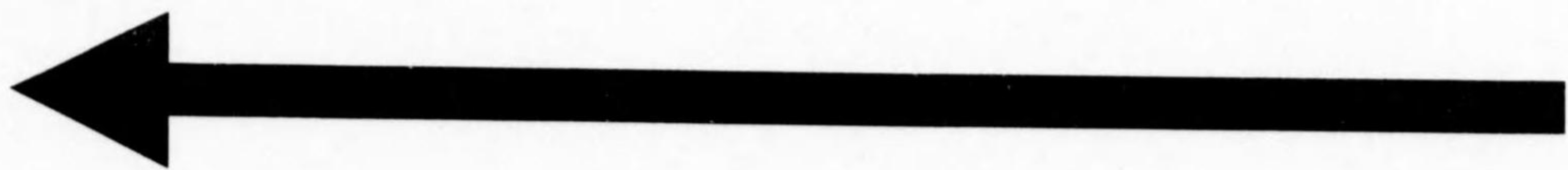
1200500745777

536.6  
86

×  
複  
写



始



536.6  
TE86



鐵道教育研究會編

最新  
客貨車關係法規便覽



株式會社 交 友 社 發 行



目次

第一編 建設規程、運轉規程其ノ他

- 一、國有鐵道建設規程 (拔萃) ..... 一九
- 二、國有鐵道簡易線建設規程 (拔萃) ..... 一〇
- 三、國有鐵道運轉規程 (拔萃) ..... 一一
- 四、國有鐵道簡易線運轉規程 (拔萃) ..... 一三
- 五、運轉取扱心得 (拔萃) ..... 一四
- 六、客貨車運轉禁止ニ關スル件 ..... 二〇
- 七、機關區、電車區、檢車區ノ名稱及位置並機關區、電車區及檢車區ノ支區ノ名稱、位置及所屬 (拔萃) ..... 二四
- 八、工場受持區域 (拔萃) ..... 二六

第二編 車輛稱號、塗色及標記其ノ他

- 九、車輛稱號規程 (拔萃) ..... 二九
- 一〇、車輛塗色及標記方式 (拔萃) ..... 三五
- 一一、宮廷用客車ノ塗色及標記方式 ..... 五六
- 一二、客貨車、電車及自動車ノ各部分ノ位置稱呼ノ件 ..... 五六

一三、客貨車寸法重量積載量其他算法	五七
一四、車輛換算法(拔萃)	六二

## 第二編 檢 査

一五、客貨車檢査規程	六九
一六、客貨車檢査規程及電車檢査規程所定ノ檢査期限ニ依ラサル客貨車及電車指定ノ件	七六
一七、客貨車檢査取扱心得	七七
一八、雪掻車、暖房車及操重車(事故救援用)ノ保管方ノ件	九五

## 第四編 輪 軸 及 軸 箱

一九、客貨車用車軸ノ種類、稱號、寸法及負擔力ニ關スル件	九六
二〇、車輛用車軸圧入ニ關スル件(拔萃)	一〇一
二一、客貨車用輪軸使用手續	一〇二
二二、車輛用外輪ノ基本寸法、外周形狀、取付裝置磨耗限度ニ關スル件	一一一
二三、車軸及輪心ノ刻印ニ關スル件	一一六
二四、製作又ハ加工品ニ附スル工場名稱符號ノ件	一一九
二五、客貨車外輪弛緩ノ疑アルモノノ取扱方ノ件	一一九

二六、客貨車用軸箱ノ基本	一二〇
--------------	-----

## 第五編 擔 バ ネ

二七、貨車用擔「バネ」ノ基本負擔力其ノ他ノ件	一四一
二八、貨車用擔「バネ」使用手續	一五七

## 第六編 自動連結器及暖房裝置

二九、自動連結器ノ取付位置ノ基本	一六三
三〇、有蓋緩急車(形式ワフ二一〇〇〇)自動連結器高サ其ノ他ノ件	一六五
三一、自動連結器ノ磨耗限度並修繕基準制定ノ件	一六六
三二、自動連結器(引張摩擦裝置及接手付桿關係)ノ磨耗限度並ニ修繕基準假制定ノ件	一七〇
三三、蒸氣暖房器使用手續	一七一
三四、車輛ノ蒸氣暖房主管ヲ連結スル暖房「ホース」ノ取付及取扱方ノ件	一七二

## 第七編 ブレーキ裝置

三五、空氣制動機取扱心得(拔萃)	一七四
三六、空氣ブレーキ檢査心得(拔萃)	一七七

三七、客車ト貨車トヲ以テ組成スル列車ノ空氣制動機取扱方ニ就テ……………	一八四
三八、客貨車制輪子摩耗限度制定ノ件……………	一八四

### 第八編 修繕及掃除

三九、機關區、檢車區及電車區ニ於テ施行スヘキ客貨車修繕工事ノ範圍……………	一八五
四〇、車輛部分品磨耗限度種別規程……………	一八六
四一、貨車部分品修繕限度制定ノ件……………	一八七
四二、貨車修繕基準制定ノ件(拔萃)……………	一八八
四三、客貨車、電車及氣動車ノ修繕車廻送並入出場手續……………	二〇〇
四四、空氣制動機修繕取扱手續……………	二〇五
四五、貨車一般檢査施行後修理シタル場合ノ表示方ノ件……………	二〇七
四六、客貨車掃除心得……………	二〇八

### 第九編 省外貨車

四七、私有貨車取扱手續……………	二一四
四八、内地連絡運輸取扱細則(拔萃)……………	二一五
四九、連絡運輸ヲ爲セル地方鐵道及軌道ト省線相互間貨車直通運輸ノ件……………	二一八

### 第十編 貨物運送

五〇、貨物輸送手續(拔萃)……………	二三一
五一、火藥類鐵道運送規程……………	二四六
五二、貨物運送規則貨物運送規則補則(拔萃)……………	二五一
五三、特種貨物運送手續(拔萃)……………	二五九
五四、潤大貨物其ノ他輸送檢査取扱心得……………	二六九
五五、貨物ノ側板、棲板、轉環枕木及ステーキ取外手續……………	二九五

### 第十一編 雜

五六、運輸運轉從事員職制及服務規程(拔萃)……………	二九六
五七、機關區、電車區、檢車區從事員採用規程(拔萃)……………	三〇三
五八、車輛貸渡及使用規則(拔萃)……………	三〇五

# 最新 客貨車關係法規便覽

## 第一編 建設規程、運轉規程其ノ他

### 一、國有鐵道建設規程（拔萃）（昭和四、七、一五） 鐵道省令第二號

國有鐵道建設規程左ノ通定ム

#### 國有鐵道建設規程

##### 第一章 總 則

第一條 國有鐵道ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

一、丙線中特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ

二、特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサルトキ

三、其ノ他已ムコトヲ得サルトキ

（註） 軌條、車輪等カ摩耗シ又ハ車輪ノバネカ撓ミタル場合等

ニ於テモ本規程ニ抵觸セサルコトヲ要ス

本條但書第二號ニ於ケル特種ノ設計ヲ必要トスル鐵道トハ齒軌條式、第三軌條式等ノ如キモノヲ謂フ

第七條 車輛ノ固定軸距トハ二以上ノ車軸ヲ有スル不撓性臺枠ニ於テ横遊ヒヲ附セサル車軸中最前位ニ在ルモノト最後位ニ在ルモノトノ車軸中間ノ水平距離ヲ謂フ

##### 第二章 線 路

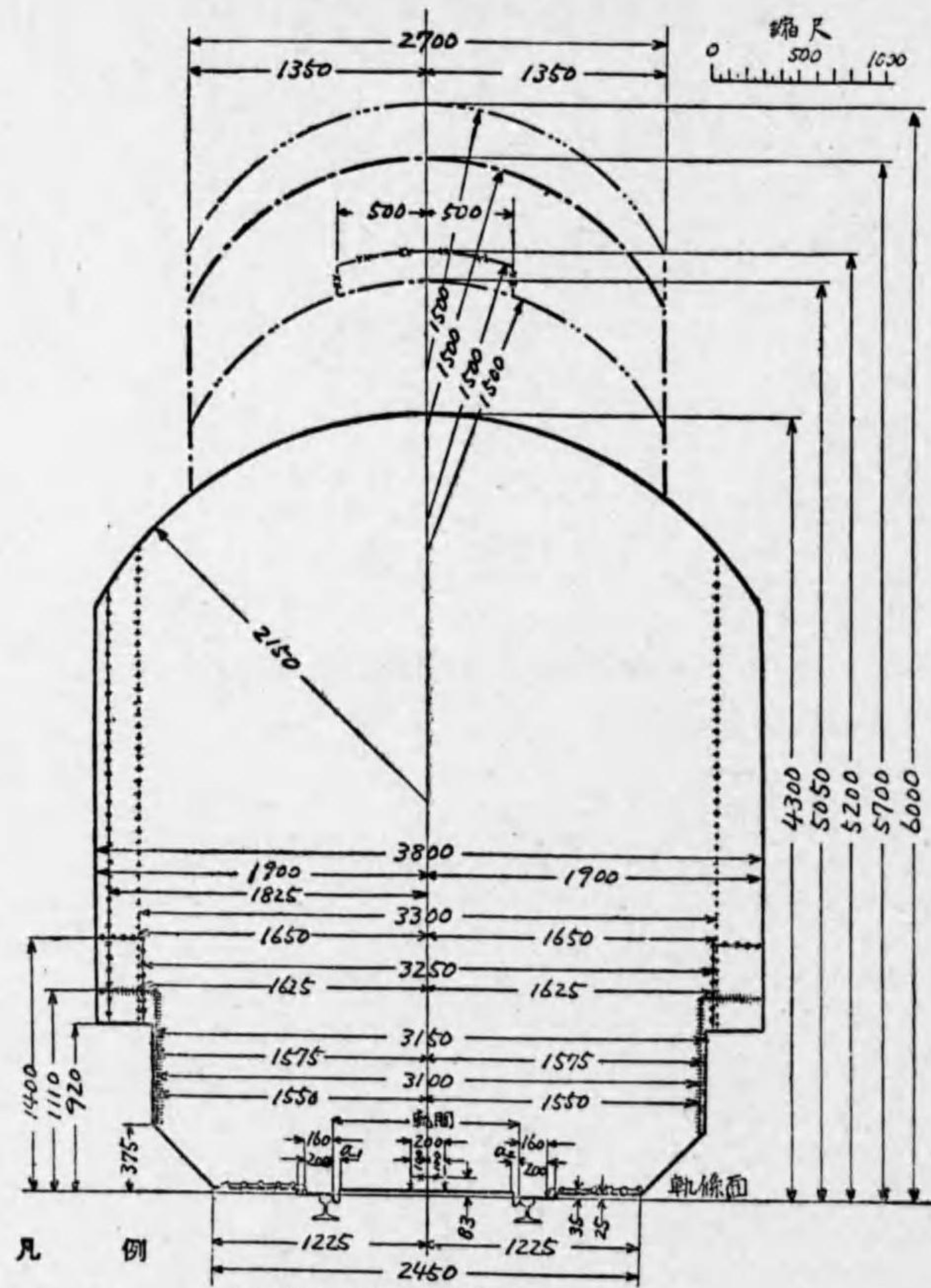
###### 第四節 建築限界

第十七條 建物其ノ他ノ建造物等ハ建築限界内ニ入ルコトヲ得ス

第十八條 直線ニ於ケル建築限界ハ第一圖ニ依ル

第十九條 曲線ニ於ケル建築限界ハ半徑八百米ヨリ大ナ

第一圖 建築限界



- 凡 例
- 一般の場合に對する限界
  - - - - 架空電車線に依り電氣運轉を爲す區間に於て架空電車線及其の懸吊装置を除きたる上部に對する限界  
(本限界は橋梁、隧道、雪覆、跨線橋及其の前後に於て必要ある場合には - - - - を以て示す限度迄、乗降場上家庇の部分に於て必要ある場合には - x - x - を以て示す限度迄之を縮小し又停車場構内に於て必要ある場合には - - - - を以て示す限度迄之を擴大するものとす)
  - ..... 乗降場及荷物積卸場に對する限界

ル曲線ニ於テハ直線ニ於ケル建築限界ト同一トシ半徑八百米以下ノ曲線ニ於テハ其ノ幅ヲ車輛ノ偏倚ニ對シ擴大スルモノトス軌道中心線ノ各側ニ於テ擴大スヘキ寸法ハ左ノ式ニ依リ之ヲ算出ス

$$w = \frac{22500}{R}$$

Wハ軌條中心線ノ各側ニ於テ擴大スヘキ寸法(單位米)  
Rハ曲線ノ半徑(單位米)

前項ノ擴大寸法ハ緩和曲線ノ全長ニ於テ之ヲ遞減スルモノトス但シ緩和曲線ナキ場合又ハ緩和曲線ノ長サカ十七米ヨリ小ナル場合ニハ圓曲線端(直線ト曲線トノ場合)又ハ半徑小ナル圓曲線端(曲線ト曲線トノ場合)ヨリ十七米ノ長サニ於テ之ヲ遞減スルモノトス

曲線ニ於ケル建築限界ハカントニ伴ヒ傾斜セシムルモノトス

第十節 停車場

第三十七條 乗降場及荷物積卸場ノ線端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乗降場及荷物積卸場ニ於テハ曲線半径八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ第十九條ニ準シ之ヲ増スコトヲ要ス

乗降場ノ高サハ軌條面ヨリ七百六十耗トス但シ電車専用ノ場合ニ於テハ千百耗電車及他ノ列車ニ共用スル場合ニ於テハ九百二十耗トス

荷物積卸場ノ高サハ軌條面ヨリ九百六十耗トス但シ手小荷物専用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ七百六十耗、小口扱貨物専用ノ場合ニ於テハ軌條面ヨリ千二十耗トス前項ノ高サハ特別ノ場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

第三章 車輛

第一節 車輛限界

第五十六條 車輛ハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ除キ直線軌道上正位ニ於テ第四圖ニ示ス車輛限界外ニ出テサルモノタルコトヲ要ス

- 一 タイヤノ巾以内ニ於ケル車輪ノ部分
- 二 停止中ニ限り開閉スル扉類ニシテ開キタル場合ニ

第二節 車輛ノ重量

於ケルモノ

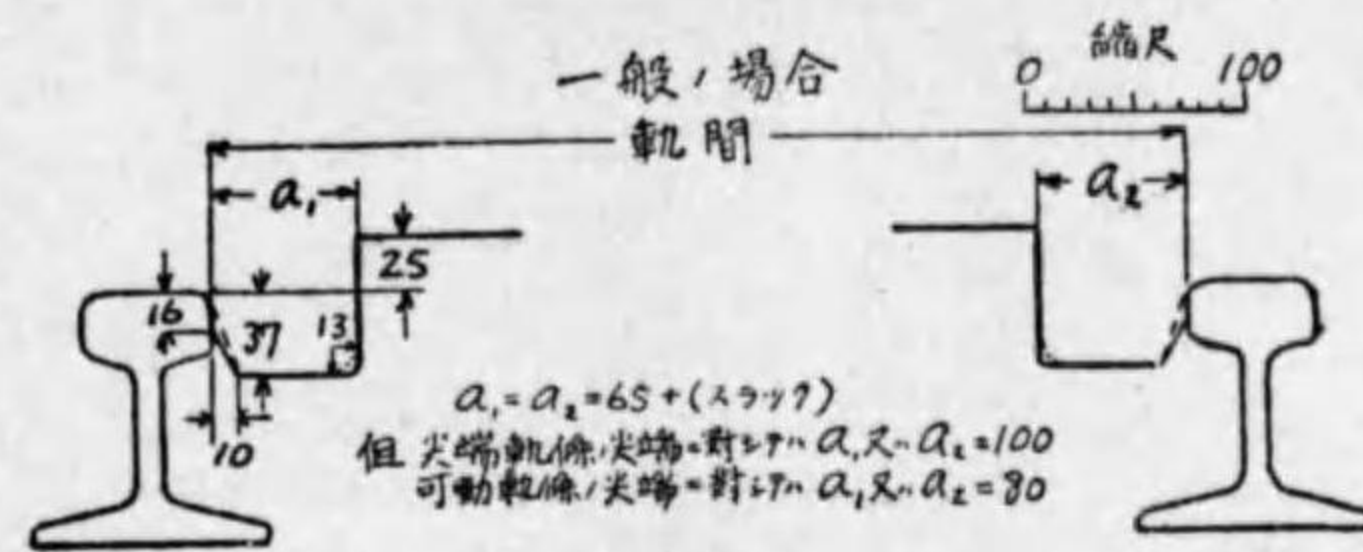
- 三 雪掻装置、郵便受渡器、クレーン、其ノ他特種ノ装置ニシテ使用スル場合ニ於ケルモノ
- 四 齒軌條用齒車

(註) 架空電車線ニ依リ電氣運轉ヲ爲ス車輛ノ屋上装置ハ車輛限界ノ示ス所ニ依リ其ノ基礎限界外ニ出ツルコトヲ得レトモ架空電車線ニ依ル運轉區間以外ノ區間ヲ運轉スル場合ヲ考慮シテ屋上装置ヲ容易ニ取外シ又ハ集電装置ヲ折疊ミテ基礎限界内ニ收メ得ル構造ト爲スヘキモノトス

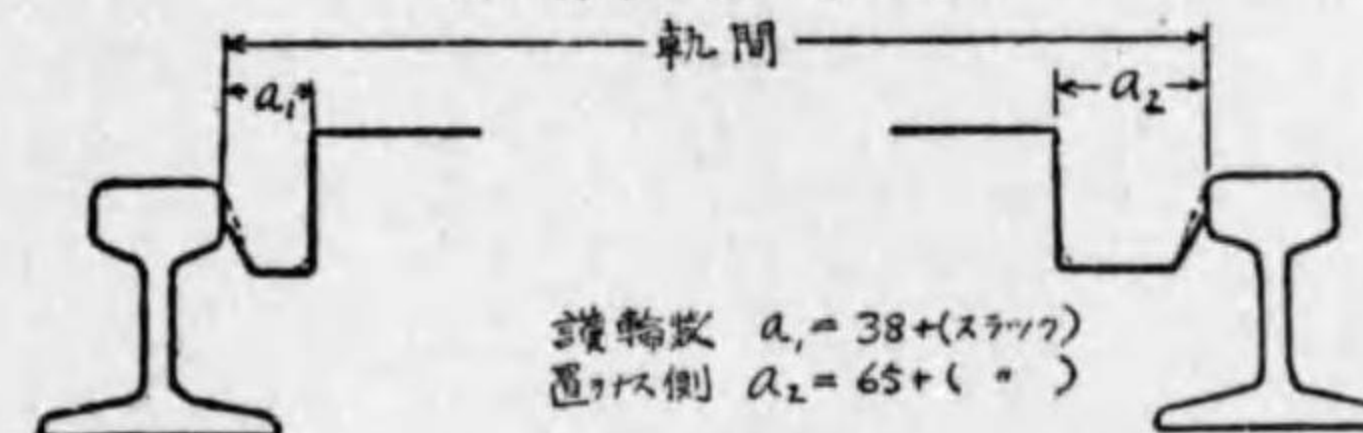
第五十七條 車輛ハ曲線軌道上正位ニ於テ其ノ中心線カ軌道中心線ヨリ偏倚シタル場合ニ於テモ其ノ各部カ前條ノ車輛限界ノ幅ニ第十九條ニ依ルWヲ各側ニ於テ加算シタル限界外ニ出テサルモノタルコトヲ要ス

(註) 本條ノ規定ハ車輛カ曲線軌道上ニ於テ軌道ニ對シ左右ニ偏倚シタル場合ニ其ノ各部ノ占ムル位置ヲ制限シタルモノニシテ曲線ニ於ケル建築限界ノ擴大寸法Wハ車體ノ長サ約十九米、ボギー中心間ノ距離約十三米四ナルボギー車ノ兩端部及中央部ニ於ケル偏倚ニ相當スルモノナリ故ニ車體ノ長サ及ボギー中心間ノ距離ノ關係上偏倚力Wヨリ大ナルヘキ車輛ヲ製作スル場合ニハ本條ノ限界外ニ出テサル様其ノ幅ニ付考慮スヘキモノトス

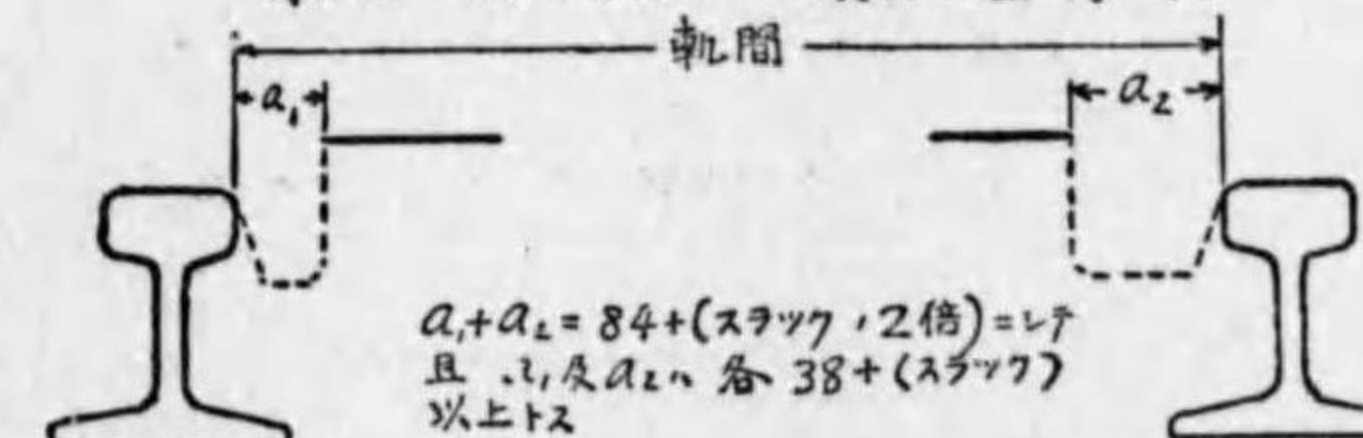
a<sub>1</sub>及a<sub>2</sub>部分ニ對スル限界



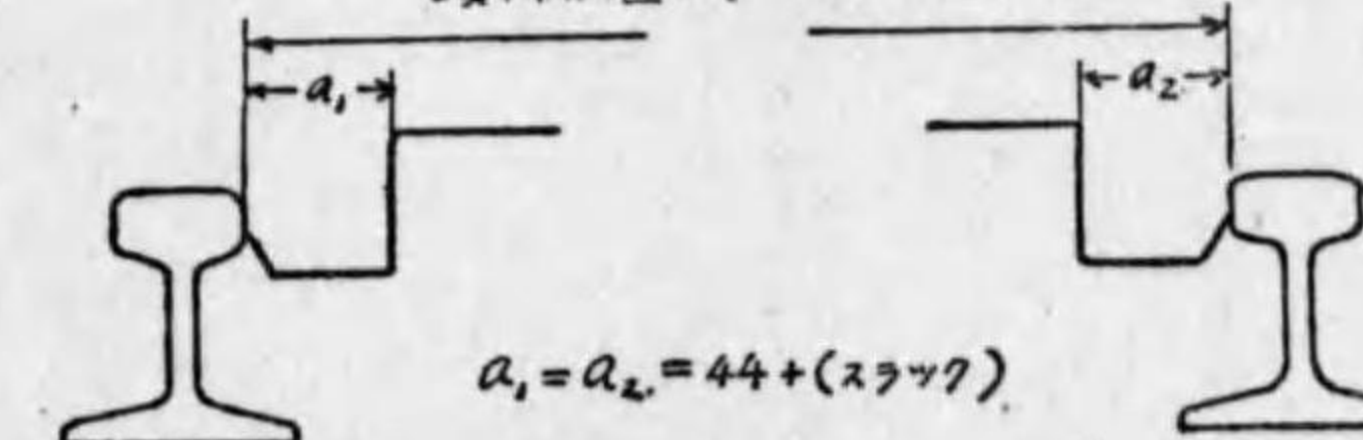
一側ニ護輪装置ヲ爲ス場合



轉轍器及轍又ニ於テ兩側ニ護輪装置ヲ爲ス場合



護輪装置ヲ有スル踏切直ノ場合



凡

- 轉轍器及轍又ニ對スル限界
- 信號標識並特種ノ隧道及橋梁ニ對スル限界
- 遷移轉轍器ニ對スル限界
- +++++++ 側線及貨物列車ノみの發着する本線路上ニ於テ燃料搭載、給水ノ設備及信號柱に、側線ニ於テ轉車、計重、洗車ノ設備、車庫ノ門路及其ノ内部ノ装置並軌道間に建ツる荷物積卸上家ノ支柱ニ對スル限界
- 側線及貨物列車ノみの發着する本線路上ニ於テ架空電車線支持柱を、側線ニ於テ構内照明燈支持柱を四線路以上毎に建ツる場合ニ對スル限界 (本限界ハ既設停車場ニ於テ一般ノ場合ニ對スル限界ニ依ること困難なる如キ場合ニ限り之を適用ス)
- x-x-x-x- 齒軌條ニ對スル限界



第六十一條 客貨車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十三噸以下タルコトヲ標準トシ十四噸ニ至ルコトヲ得但シ其ノ重量ハ兩端連結器ノ連結面間ノ距離一米ニ付平均五噸以下タルコトヲ要ス

第六十二條 前條ニ規定スル限度ハ運轉區間又ハ連結位置ニ制限ヲ有スル車輛ニ付テハ軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ超過スルコトヲ得

(註) 本條ハ電動車、氣動車、石炭車、冷藏車、特種貨車其ノ他特ニ重量大ナル客貨車ニ對スル規定ナリ

第三節 輪 軸

第六十三條 輪軸ノ配置及之ニ關スル車輛各部ノ構造ハ十八耗ノスラツクヲ有スル半徑百米ノ曲線ヲ通過シ得ルモノタルコトヲ要ス

第六十四條 固定軸距ハ四米六以下タルコトヲ要ス

第六十五條 車輪ノ直徑ハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十耗ノ距離ニ於ケル踏面ニ於テ測リ七百三十耗以上タルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

(註) 第五圖参照

第六十六條 タイヤ(タイヤナキ場合ハリム)ノ幅ハ百二十耗以上百五十耗以下タルコトヲ要ス

自動連結器ノ肘ハ二百二十五耗以上ノ高サヲ有スルモノタルコトヲ要ス

第五節 制 動 機

第七十一條 車輛ハ貫通制動機ヲ備フルコトヲ要ス但シ緩急車ニ非ザル貨車及特種ノ車輛ニハ制動管ノミヲ備ヘ貫通制動機ヲ備ヘサルコトヲ得

第七十二條 貫通制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力(タイヤニ制輪子ヲ使用セサル制動機ニアリテハ之ニ換算シタル壓力)ハ制動車輪ノ軌條ニ對スル壓力ニ對シ左ノ割合以上タルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ハ之ニ依ラサルコトヲ得

一 機關車(タンク機關車ニ在リテハ積載石炭及水量カ二分ノ一ノ場合其ノ他ノ機關車ニ在リテハ運轉整備ノ場合) 百分ノ五十

二 炭水車(空車ノ場合) 百分ノ八十

三 客貨車(空車ノ場合) 百分ノ七十

第七十三條 貫通制動機ハ制動管カ切斷シタル場合ニ於テハ自動的ニ制動スルモノタルコトヲ要ス但シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラサルコトヲ得

第七十四條 運轉室ヲ有スル車輛及緩急車ニハ貫通制動機ヲ作用セシメ得ル装置及制動管ノ壓力ヲ示ス装置ヲ

タイヤ(タイヤナキ場合ハリム)一對ノ内面距離ハ九百八十八耗以上九百九十四耗以下トシ九百九十耗ヲ以テ標準トス

(註) 第五圖参照

第六十七條 輪縁ノ高サハ車輪一對ノ中心線ヨリ五百六十耗ノ距離ニ於ケル踏面ヨリ測リ二十五耗以上三十五耗以下タルコトヲ要ス

車輪ノ一對ノ中心線ヨリ輪縁外面迄ノ距離ハ前項ノ踏面ヨリ十耗ノ下位ニ於テ五百十六耗以上五百二十七耗以下タルコトヲ要ス

(註) 第五圖参照

第四節 車輛連結器

第六十八條 車輛ハ兩端ニ自動連結器ヲ備フルコトヲ要ス

第六十九條 自動連結器ハ其ノ連結部ニ於テ第六圖ニ示ス寸法ノ輪廓ヲ有シ又ハ之ト相互連結シテ使用シ得ルモノタルコトヲ要ス但シ電車ノ連結器ハ之ニ依ラサルコトヲ得

第七十條 自動連結器ノ連結面ノ中心ノ高サハ車輛停止中ニ於テ軌條面上七百九十耗以上八百九十耗以下タルコトヲ要ス

爲スコトヲ要ス

第七十五條 運轉室ヲ有スル車輛(テンダー機關車ヲ除ク)炭水車及緩急車ニハ他ノ制動機ヲ備フル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フコトヲ要ス

第七十六條 手用制動機ノ制輪子ニ作用スル壓力ハ制動車輪ノ軌條ニ對スル壓力(空車ノ場合)ニ對シ百分ノ二十以上タルコトヲ要ス

第六節 車輛ノ裝置

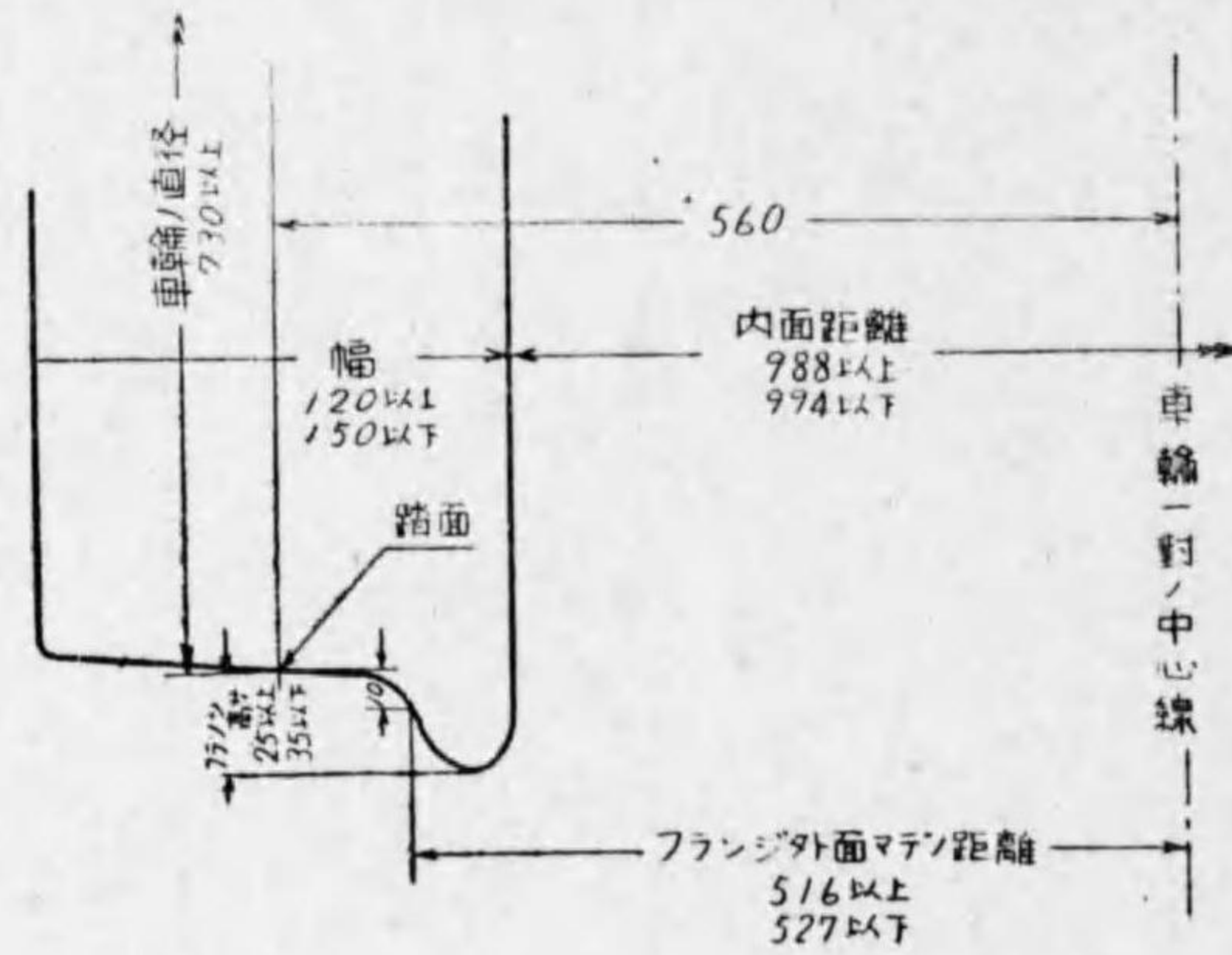
第八十條 客室ノ床面積ハ旅客定員一人ニ付〇、三平方米以上タルコトヲ要ス

第八十一條 旅客ノ使用スル室ニハ通風、點燈及必要ニ應ジテ暖房ノ裝置ヲ爲スモノトス

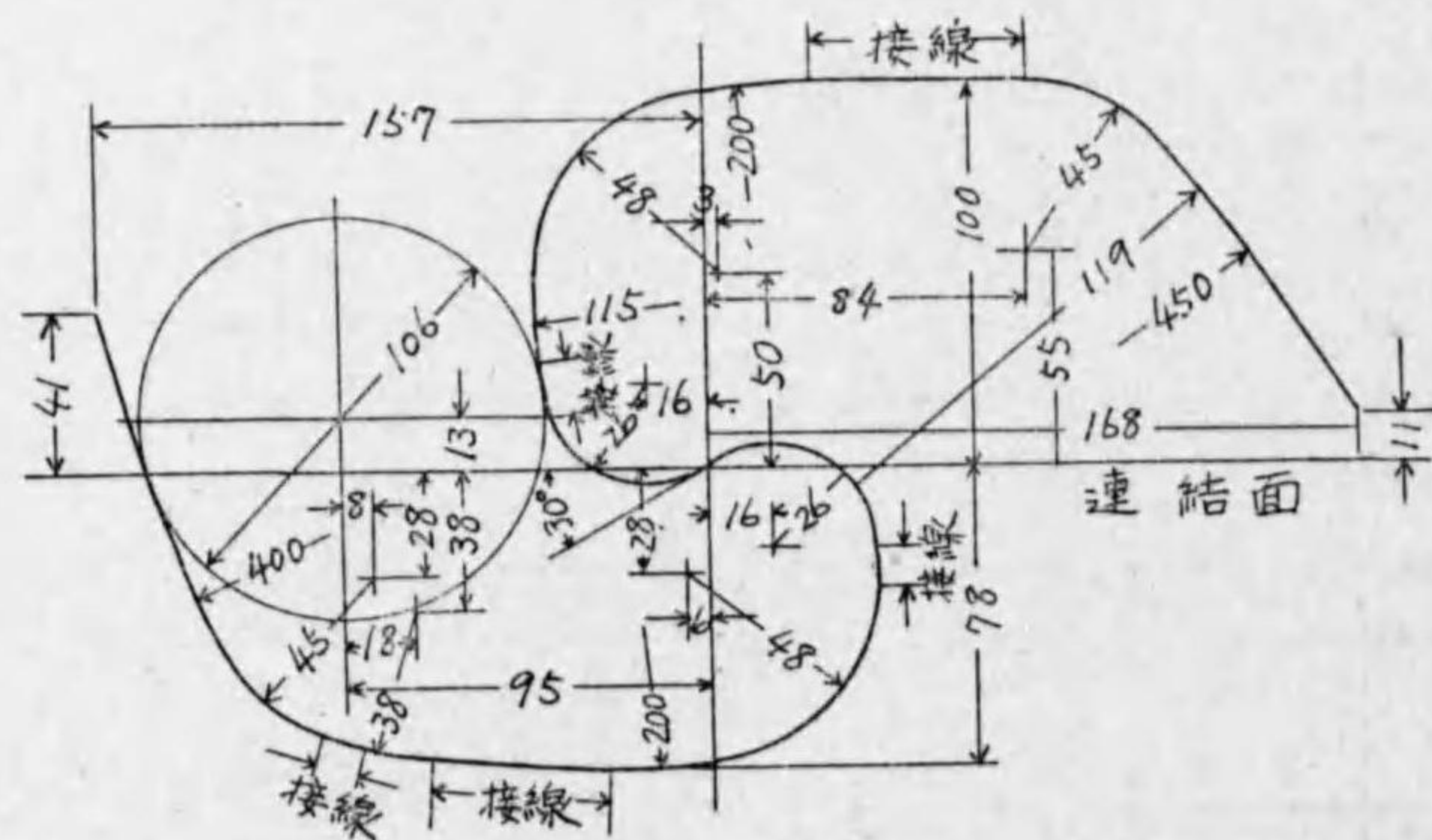
第八十二條 客車ノ側面ニ在ル外開戸及引戸ニハ二重ノ閉裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ特種ノ裝置ヲ有スル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得

(註) 本條但書ニ於テ特種ノ裝置トハ自動閉裝置ノ如キヲ謂フ

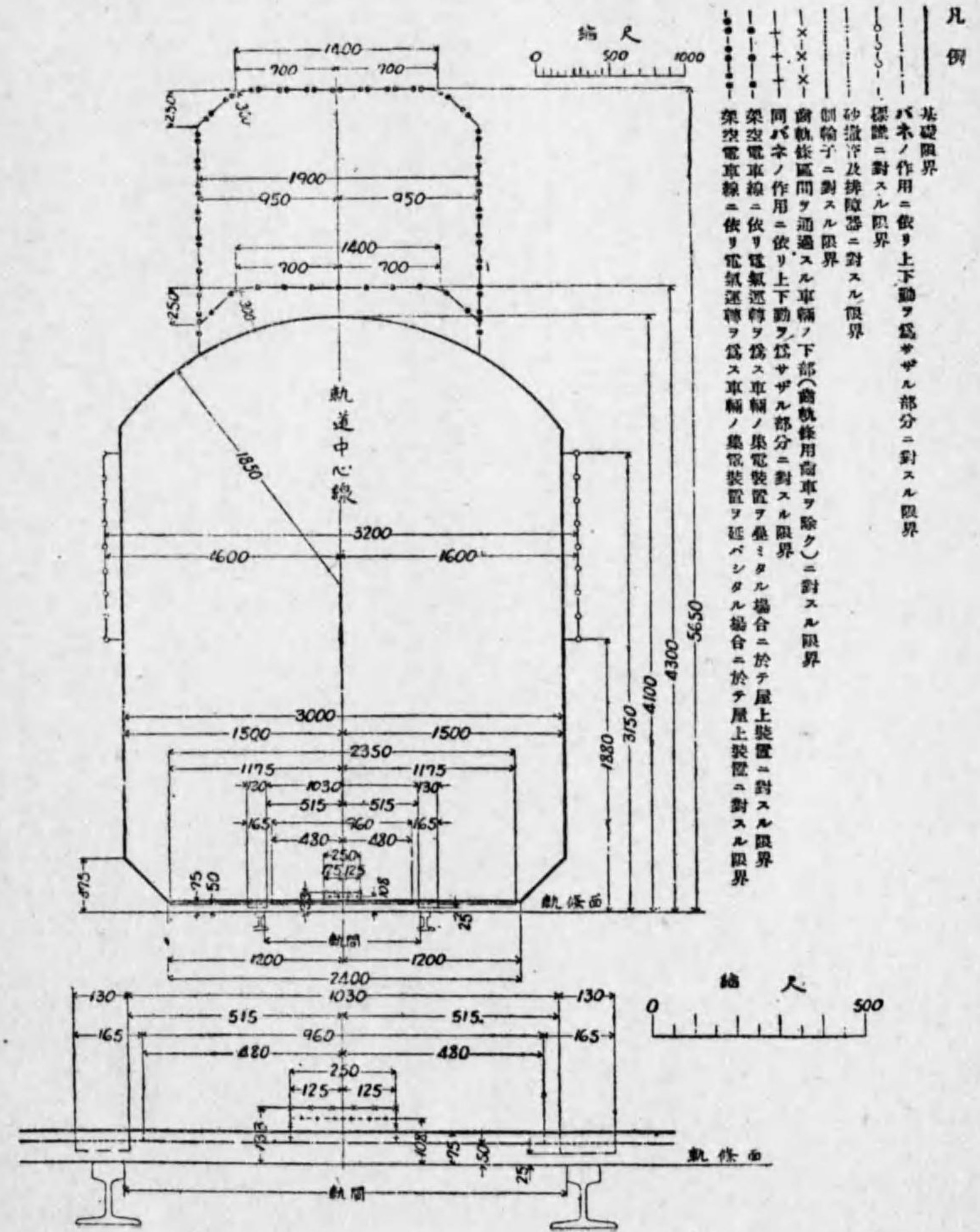
第五圖 車輪ノ寸法(單位耗)



第六圖 自動連結器ノ連結部ノ輪廓(單位耗)



第四圖 車輛限界(單位耗)



### 第七節 車輛ノ標記

第八十四條 客貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スルコトヲ要ス  
但シ特種ノ車輛ニ在リテハ之ニ依ラサルコトヲ得

- 一 國有鐵道ノ記號
- 二 記號及番號
- 三 自重
- 四 客車ニハ等級及旅客定員
- 五 荷物車、郵便車及貨車ニハ積載量

附 則

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正十年十月十四日鐵道省令第二號國有鐵道建設規程ハ

之ヲ廢止ス

本令施行前工事ニ着手シ又ハ竣工シタル線路其ノ他ノ建造物、車輛等ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ之ヲ改築又ハ改造シ終ル迄ハ第一條但書ニ依ルモノト看做ス

當該線路ニ第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乘降場、荷物積卸場ノ線端ト車輛ノ踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第三十七條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

(註) 第五項ヲ適用スル場合ハ將來乘降場及荷物積卸場ノ改築又ハ之ニ沿フ軌道ノ移轉ニ依リ第三十七條第一項ノ規定ニ依ルコトヲ得ル様考慮シ置クコトヲ要ス

## 二、國有鐵道簡易線建設規程(拔萃)

(昭和七、五、二七)  
(鐵道省令第八號)

國有鐵道簡易線建設規程左ノ通定ム

### 國有鐵道簡易線建設規程

- 第一條 國有鐵道簡易線ノ線路及車輛ノ構造ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 本規程ニ規定セサル事項ハ國有鐵道建設規程中丙線ニ對スル規程ニ依ル
- 第三條 本規程ヲ適用スル線路區間ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 乘降場及荷物積卸場ノ線端ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ一米五六タルコトヲ要ス

前項ノ距離ハ曲線ニ沿フ乘降場及荷物積卸場ニ於テハ曲線半径八百米ヨリ大ナル場合ニ於テモ國有鐵道建設規程第十九條ニ準シ之ヲ増スコトヲ要ス

乘降場及荷物積卸場ノ高ハ軌條面ヨリ六百六十耗トス  
第二十一條 客貨車ノ車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停

止中ニ於テ十二應以下タルコトヲ要ス

前項ノ壓力ノ限度ハ特ニ必要アル場合ニ限り軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ之ヲ増減スルコトヲ得

附 則 (昭和七年九月鐵道省令第十二號)

當該線路ニ國有鐵道建設規程第五十六條ニ規定スル車輛限界ニ近キ大サノ車輛ヲ運轉スル時期迄ハ乘降場及荷物積卸場ノ線端ト車輛ノ踏段又ハ床トノ空隙ヲ小ナラシムル爲一時第十三條第一項ニ規定スル距離ヲ最小一米四迄縮小スルモノトス

## 三、國有鐵道運轉規程(拔萃)

(大正三、二、一九)  
(鐵道省令第三號)

國有鐵道運轉規程左ノ通定ム

### 第三章 車輛

#### 第一節 車輛ノ保持

### 國有鐵道運轉規程

#### 第一章 總 則

第一條 國有鐵道ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
一 特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ

二 試運轉ヲ爲ス場合ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサルトキ

三 其ノ他已ムコトヲ得サルトキ

第二條 列車トハ停車場外ノ本線路ヲ運行スル目的ヲ以テ仕立テタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

第十六條 車輛ハ安全ニ運轉シ得ル狀態ニ在ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 新製車輛及改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛ハ檢査シ試運轉ヲ爲スル非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ改造又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

蒸氣機關車、蒸氣動車又ハ列車暖房用罐ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ水圧試驗ヲ行フコトヲ要ス

電氣機關車若ハ電車ノ電氣裝置又ハ客車ノ電氣暖房裝置ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタ

ルモノハ絶縁耐力試験ヲ行フコトヲ要ス  
 第二十七條 客車及貨車ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ各装置ヲ取外シ全般ニ亙リ検査スルコトヲ要ス  
 前項ノ期間ハ客車ニ在リテハ一年半、貨車ニ在リテハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條ノ二 客車及貨車ノ空氣制動機ハ九月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス  
 第二十七條ノ三 客車及貨車ハ各部ノ狀態及作用ニ就キ五十日以内毎ニ少クトモ一回之ヲ検査スルコトヲ要ス  
 第二十七條ノ四 稀ニ使用スル特殊ノ車輛ヲ検査スル場合ニ於テハ第十八條第二項、第二十一條、第二十二條第一項、第二十七條第二項、第二十七條ノ二及第二十七條ノ三ノ期間ハ之ヲ相當延長スルコトヲ得  
 第二十八條 機關車、電車及汽動車ニハ第十八條ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日ヲ、客車及貨車ニハ第二十七條ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日ヲ標記スルコトヲ要ス

**第二節 列車ヲ組成スル車輛ノ検査**

第二十九條 列車ヲ組成スル車輛ノ運轉要部ハ車輛ノ種類及運轉ノ狀況ニ應シ相當ノ距離ヲ運轉スル毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三十條 列車ノ貫通制動機ハ列車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタル場合ニ於テ列車出發前之ヲ試験スルコトヲ要ス

**第四章 運 轉**

**第一節 列車ノ組成**

第三十二條 列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スルコトヲ要ス但シ千分ノ三ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有セサル線路ヲ運轉スル列車ノ後部補助機關車ハ此ノ限ニ在ラス  
 自動連結器ヲ有セサル車輛ノ連結ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外螺旋連結器及連環連結器ヲ以テ二重ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第三十六條 列車ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニハ手用制動機附車輛ヲ連結シ之ニ制動機取扱人ヲ乗込マシムルコトヲ要ス、但シ全部ニ貫通制動機ヲ使用スル列車、排雪列車並救援列車ハ此ノ限ニ在ラス  
 毀損車輛及特殊構造ノ車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ得サルモノハ一輛ニ限り前項ノ後部手用制動機附車輛ノ後部ニ之ヲ連結スルコトヲ得

**第三節 入 換**

第五十五條 車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ

外突放ヲ爲シ又ハ重力ヲ利用シテ之ヲ入換スルコトヲ

得ス

**四、國有鐵道簡易線運轉規程(拔萃)**

(昭和七、五、二七)  
(鐵道省令第十號)

國有鐵道簡易線運轉規程左ノ通定ム

軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

**國有鐵道簡易線運轉規程**

連結軸數百ニ對スル制動軸數

線路ノ勾配ノ千分ノ一	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分
以下	一	二	三	四	五	六	七	八	九
線路ノ勾配ノ千分ノ二	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分
以下	一	二	三	四	五	六	七	八	九
線路ノ勾配ノ千分ノ三	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分	千分
以下	一	二	三	四	五	六	七	八	九

第一條 國有鐵道簡易線ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル  
 第二條 本規程ニ規定セサル事項ハ國有鐵道運轉規程ノ定ムル所ニ依ル

第三條 列車ノ最大軸數ハ機關車ヲ除キ之ヲ二十軸トス但シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 列車ハ貫通制動機ヲ使用シ機關車ヲ除キ其ノ連結現軸數百ニ對シ旅客列車ハ八十以上其ノ他ノ列車ハ五十以上ノ割合ノ制動現軸ヲ備フルコトヲ要ス但シ必要ニ應シ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ其ノ制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スルコトヲ得

特殊ノ事由アル場合ハ貫通制動機ノ作用セサル列車ヲ運轉スルコトヲ得

第一項但書ノ列車ニ於ケル貫通制動機ノ作用セサル部分及第二項ノ列車ニ於テハ線路ノ勾配ニ應シ其ノ連結

第五條 列車ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニハ制動簡附車輛ヲ連結スルコトヲ要ス

前條第一項但書及同條第二項ノ列車ニハ其ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニ緩急車ヲ連結シ之ニ車掌ヲ乗務セシムヘシ

第二項ノ場合ニ於テ列車ノ後部ニ制動機ノ作用セサル貨車又ハ廻送車輛ハ一輛ニ限り之ヲ連結スルコトヲ得

第六條 列車ノ後部標識ハ之ヲ掲ケサルコトヲ得但シ左ノ各號ノ列車ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得ス  
 一 臨時列車ノ運轉ヲ豫メ關係ノ向ニ通告スル能ハサル場合ニ於テ之ニ先子同方向ニ運轉スル直前ノ列車

二 事故ノ爲隔時法ニ依リ運轉スル列車

第十一條 列車ハ一時間四十五軒ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ス但シ軌道及橋梁ニ對シ其ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘサル場合ハ一時間六十五軒迄増スコトヲ得

(註) 本條但書ハ氣動車運轉ノ如キ場合ヲ考慮セルモノナリ

五、運轉取扱心得(拔萃)

(大正一三、一二、二〇) 達 第九、一三、三號

第二章 運 轉

第一節 列車ノ組成

第五條 旅客列車及一時間六十五軒ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル其ノ他ノ列車ハ貫通制動機ヲ使用シ其ノ連結軸數百ニ對シ八十以上ノ割合ノ制動軸ヲ備フヘシ  
前項ノ列車ニシテ第十條ニ依リ貫通制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スル場合ニ於テハ貫通制動機ノ作用スル部分ニハ前項ヲ適用シ又其ノ作用セサル部分ニハ千分ノ三ヨリ急ナル標準上リ勾配ヲ有スル線路ニ限り第三項ノ標準上リ勾配ニ對スル制動軸ヲ備フヘシ  
前二項以外ノ列車ニ在リテハ標準下リ勾配ニ對シテ機關車及炭水車ヲ含ミ標準上リ勾配ニ對シテ前部ノ機關

附 則

本令ノ適用ニ當タリ既設線路ニシテ現ニ一時間四十五軒ヲ超ユル速度ヲ以テ列車ノ運轉ヲナス區間ニ在リテハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ第十一條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得但シ一時間六十五軒ヲ超ユルコトヲ得ス

車及炭水車ヲ除キ左表ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フヘシ但シ救援列車(急遽運轉ヲ要スル工事列車ヲ含ム以下同シ)ノ標準上リ勾配ニ對スル制動軸ハ左表ニ依ラサルコトヲ得

標準勾配	連結軸數百ニ對スル制動軸數
千分ノ二以下(五〇〇分ノ一以下)	一一
千分ノ四(二五〇分ノ一)	一三
千分ノ六(一六七分ノ一)	一六
千分ノ一〇(一〇〇分ノ一)	二一
千分ノ一四(七二分ノ一)	二四
千分ノ二〇(五〇分ノ一)	二八
千分ノ二五(四〇分ノ一)	三三

標準勾配カ本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ハ制動軸數ノ大ナルモノニ依ル	三七	三三
千分ノ三〇(三四分ノ一)	三七	三三
千分ノ三五(二九分ノ一)	四一	三七

前三項ノ場合ニ於ケル軸數ノ計算ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 機關車ノ働輪一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ二軸ニ、炭水車ノ一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス
- 二 空貨車ノ一軸ハ連結軸トシテ之ヲ半軸ニ換算ス
- 三 制動力ヲ増加スル爲特ニ自重ヲ増加シタル貨車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス
- 四 車側制動機ヲ使用スル車輛ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ〇、二軸ニ換算ス
- 五 制動機ヲ備フルモ其ノ取扱人ナキ車輛ノ車軸ハ制動軸トシテ之ヲ計上セス

(註) 第一項ノ列車ニシテ貫通制動機故障ノ爲第一項又ハ第二項ニ依ルコトヲ得サルトキハ第三項ニ依ルモノナリ  
制動力ヲ増加スル爲ニ自重ヲ増加シタル貨車ニハ車體ノ兩側ニ標記シタル車號ノ下ニ白色圓ヲ標示ス  
ボギー車ノ手用制動機ハ一方ノトラックニ作用セサルモノト雖双方ノトラックニ作用スルモノト同様ニ扱ヒ制動軸數ニ算入シ得ルモノナリ

第六條 列車ヲ組成スルニハ其ノ全長ニ亙リ制動力ヲ成

ルヘク均等ナラシムル様車輛ヲ配置スヘシ

第七條 機關車、汽動車又ハ電動車ハ列車ノ前部ニ之ヲ連結スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 總括制御法ニ依リ列車ノ前部ヨリ操縦セラルルトキ
- 二 救援列車及排雪列車ヲ運轉スルトキ  
千分ノ十ヨリ急ナル標準上リ勾配區間及特ニ必要アル區間ヲ運轉スル列車竝故障ヲ生シタル列車ニハ前部機關車ノ外其ノ後部(必要アルトキハ中部)ニ機關車ヲ使用スルコトヲ得

- 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ列車ノ後部ニノミ機關車、氣動車又ハ電動車ヲ連結スルコトヲ得
  - 一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ
  - 二 工事列車ヲ運轉スルトキ
  - 三 停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於ケル運轉
  - 四 特殊ノ事由アルトキ
- 雪掻車ヲ廻送スル場合ハ前部機關車ノ前位ニ之ヲ連結スルコトヲ得(第七二條參照)
- 第八條 列車ノ後部(總括制御法ニヨリ前部ヨリ操縦セラルルモノヲ除ク)外推進ノ場合ハ前部)ニハ緩急車

ヲ連結シ之ニ車掌ヲ乗込マシムヘシ但シ全部ニ貫通制  
動機ヲ使用スル列車、排雪列車、救援列車又ハ機關車  
氣動車、電動車ノミニテ運轉スル場合ハ鐵道局長ニ於  
テ指定シ之ヲ省略スルコトヲ得

毀損車輛及特殊構造ノ車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ  
得サルモノハ一輛ニ限り列車後部ノ緩急車又ハ機關車  
ノ次位ニ連結スルコトヲ得

(註) 本條第一項但書ノ場合必要ニ應シ列車ノ後部(推進運轉  
ノ場合前部)ニハ制動筒付車輛ヲ使用スルモノトス

第九條 列車(軍用ニ専用スル列車ヲ除ク)中貨車ハ客  
車(廻送ノモノヲ除ク)ノ中間ニ之ヲ連結スルコトヲ  
得ス但シ有蓋緩急車ヲ荷物車ニ代用スル場合ハ此ノ限  
ニ在ラス

第十條 旅客列車又ハ混合列車(貨物列車ニ客車ヲ連結  
シテ旅客ノ取扱ヲ爲スモノヲ含ム以下同シ)ニ在リテ  
ハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ左ノ範圍ヲ超エ  
テ其ノ制動機ノ作用セサル客車又ハ貨車ヲ連結スルコ  
トヲ得ス但シ鐵道局長ハ承認ヲ得テ一時間六十五軒以  
下ノ速度ヲ以テ運轉スル列車ニ限り區間ヲ指定シテ二  
十軸以内連結スルコトヲ得(第六四條參照)

列車ノ最大速度一時間五十軒以下 十六軸  
六十五軒以下 十二軸  
同

同 七十五軒以下 八軸  
同 七十五軒ヲ超ユルトキ 六軸

(運轉中最後部車輛ノ貫通制動機故障  
ヲ生シ已ムコトヲ得サル場合ニ限ル)

前項以外ノ列車ニシテ一時間六十五軒ヲ超ユル速度ヲ  
以テ運轉スル場合ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車  
輛ノ後部ニ十軸ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル貨車  
又ハ廻送客車ヲ連結スルコトヲ得ス

(註) 所定ノ最大速度七十五軒、六十五軒若ハ五十軒ヲ超ユル  
列車ニ在リテモ特ニ其ノ最大速度ヲ七十五軒、六十五軒若ハ  
五十軒以下ニ低下シテ運轉スルトキハ低下シタル速度ニ對ス  
ル制限範圍ノ車輛ヲ連結スルコトヲ得ルモノナリ

第十三條 火藥類積載貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ之  
ヲ連結スルコトヲ得ス但シ「火藥乙表示票」又ハ「火  
藥小口表示票」ヲ掲ケタル火藥類積載貨車ハ此ノ限ニ  
在ラス

貨物列車ヲ運轉セサル區間ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラ  
ス「火藥甲表示票」ヲ掲ケタル火藥類積載貨車ハ二軸  
ニ限り之ヲ混合列車ニ連結スルコトヲ得

前項ノ場合旅客ノ乗用ニ供スル車輛ヨリ六軸以上ヲ隔  
ツヘシ

(註) 第三項ノ隔離車中四軸ハ第十三條ノ二第一項ニ依ルモノ  
トス

第十三條ノ二

「火藥甲表示票」ヲ掲ケタル火藥類積載  
貨車ノ前後ニハ各四軸以上ノ空車ヲ連結スヘシ但シ轉  
動ノ爲火藥類積載貨車ニ衝擊ヲ與フル虞アル貨物ヲ除  
キ不燃貨物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナキ貨  
物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得  
「火藥乙表示票」ヲ掲ケタル火藥類積載貨車ノ前後ニ  
ハ發火ノ虞アリ若ハ燃燒シ易キ貨物ヲ積載シタル無蓋  
貨車又ハ發火ノ虞アル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ連  
結スルコトヲ得ス

「火藥甲表示票」又ハ「火藥乙表示票」ヲ掲ケタル火  
藥類積載貨車ハ二十八軸以下ニ限り一箇列車ニ連結ス  
ルコトヲ得但シ十四軸ヲ超エテ連續連結スルコトヲ得  
ス

「火藥甲表示票」「火藥乙表示票」又ハ「火藥小口表  
示票」ヲ掲ケタル火藥類積載貨車ヲ相互ニ連續連結ス  
ル場合ハ第一項又ハ第二項ノ規定ノ適用ニ付全部ヲ重  
キ制限ヲ附シタル火藥類積載貨車ト看做ス

(註) 第一項ノ火藥類積載貨車カ列車ノ最後部トナル場合ニ於  
テモ隔離車ヲ要スルモノトス  
第三項但書ニ依リ火藥類積載貨車ヲ隔離スル場合ハ第一項又  
ハ第二項ニ依ルモノトス

第十四條 壓縮瓦斯及液化瓦斯ヲ積載シタル貨車ハ旅客

列車又ハ混合列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス但シアセ  
チリン瓦斯及壓縮水素瓦斯以外ノ小口扱ノモノヲ積載  
シタル貨車及タンク車ハ此ノ限ニ在ラス

貨物列車ノ運轉セサル區間ニ於テハ前項ノ制限ニ拘ラ  
ス壓縮瓦斯及液化瓦斯ヲ積載シタル貨車ハ二軸ニ限り  
之ヲ混合列車ニ連結スルコトヲ得

前項ノ場合旅客ノ乗用ニ供スル車輛ヨリ六軸以上ヲ隔  
ツヘシ

(註) 一、第三項ノ隔離車中四軸ハ第十三條ノ二第一項ニ依ル  
モノトス

第十五條 左ノ貨物積載車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ連  
結スル場合ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ヨリ四軸以上ヲ  
隔ツヘシ

一 「火藥乙表示票」又ハ「火藥小口表示票」ヲ掲ケ  
タルモノ  
二 アセチリン瓦斯及壓縮水素瓦斯以外ノ小口扱ニ依  
ル壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯  
三 火藥類、壓縮瓦斯及液化瓦斯以外ノ貨物ニシテ發  
火又ハ爆發ノ虞アルモノ但シタンク車ニ積載シタル  
モノ、小口扱ノモノハ此ノ限ニ在ラス

(註) 一、「火藥乙表示票」ヲ掲ケタル火藥類積載貨車ヲ隔離ス  
ル場合ニハ第十三條ノ二第二項ニ依ルモノトス

第十六條 左ノ貨物積載貨車ハ機關車ノ直前又ハ直後ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス

- 一 前條第一號及第三號ニ掲ケタルモノ
- 二 壓縮瓦斯及液化瓦斯但シタンク車ヲ除ク
- 三 軍用ニ専用スル列車ニ連結スル「火藥甲表示票」ヲ掲ケタルモノ

第十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ軍用ニ専用スル列車ニハ之ヲ適用セズ

第十三條ノ二第三項ノ規定ハ鐵道軍事供用令ニ依リ運送スル火藥類積載貨車ニシテ軍用ニ専用スル以外ノ列車ニ連結スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十八條 列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スヘシ第十九條 車輛ヲ連結セムトスルトキハ連結器ヲ連結シタル後制動管、汽管、電纜、幌等ノ接続ヲ爲スヘシ車輛ヲ解放セムトスルトキハ制動管、汽管、電纜、幌等ヲ切離シタル後連結器ヲ解放シ、切離シタル制動管、汽管、電纜、幌等ハ其ノ端ヲ所定ノ箇所ニ設置スヘシ

### 第三節 入 換

第六十一條 車輛ハ適任者ヲ附シ適當ニ制動シ得ルニ非サレハ突放入換(勾配アル線路ニ於テハ車輛ノ重力ヲ利用シテ入換ヲ爲ス場合ヲ含ム以下同シ)ヲ爲スコト

ヲ得ス

第六十二條 左ノ車輛ハ突放入換ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三號ノ車輛ヲ坂阜線ニ於テ入換スル場合之ニ制動機ノ取扱者ヲ乗込マシムルトキハ車輛ノ重力ヲ利用シテ入換スルコトヲ得

- 一 旅客ノ乗込ミタル車輛
- 二 火藥類ヲ積載シタル車輛
- 三 突放禁止ノ表示アル車輛

前項ノ車輛アル線路ニ於テハ其ノ方向ニ他ノ車輛ヲ突放スルコトヲ得ス但シ之ニ激動ヲ與フル虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

### 第四節 運 轉 速 度

第六十四條 列車ハ其ノ組成車輛ノ種類ニ應シ左ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ス

- 一 ボギー客車又ハ特ニ指定スル貨車ヲ以テ組成スル列車及ボギー客車ト特ニ指定スル貨車トヲ以テ組成スル列車 速度一時間ニ付 九十五軒
- 二 二軸客車又ハ二軸客車トボギー客車トヲ以テ組成スル列車 速度一時間ニ付 七十五軒
- 三 前號ノ列車ニ特ニ指定スル貨車ヲ連結スルトキ 速度一時間ニ付 七十五軒

四 貨車又ハ貨車ト客車トヲ以テ組成スル列車

速度一時間ニ付 六十五軒

(註) 本條第四號ノ貨車中ニハ特ニ指定スル貨車ノミノ場合ヲ含マサルモノトス

### 第五節 停止中ノ車輛

第七十四條 本線路ニ停止中ノ車輛ハ相互ニ之ヲ連結シ

且制動機ヲ緊締シ尙必要ニ應シ齒止ヲ爲シ置クヘシ

第七十五條 側線ニ停止中ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出シ又ハ之ヲ支障スル虞アル場合ハ不測ノ轉動ニ對スル防備ヲ爲シ置クヘシ

## 第四章 信 號

### 第七節 標 識

第九十六條 列車ノ前部ニハ左ノ方式ニ依リ標識ヲ掲クヘシ

晝 間 標識ヲ掲ケス但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ機關車前部ノ中央上部ニ白色圓板一箇

夜 間 機關車前部ノ中央上部ニ白色燈一箇但シ臨時列車(電車ヲ除ク)ニハ更ニ機關車前部端梁ノ左側ニ白色燈一箇  
機關車ヲ前頭ニ連結セサル列車ニ在リテハ前頭車輛ノ

前面相當ノ位置ニ之ヲ掲クヘシ但シバムコトヲ得サル場合ハ左側上部ニ之ヲ掲ケルコトヲ得

第九十七條 列車ノ後部ニハ左ノ方式ニ依リ標識ヲ掲クヘシ

晝 間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色圓板一箇但シ電車ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

夜 間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色燈一箇

第九十八條 臨時列車ニ先チ同方面ニ運轉スル直前ノ列車ニハ前條ニ規定スル標識ノ外左ノ標識ヲ掲クヘシ但シ臨時列車運轉ノ旨豫メ關係ノ向ニ通告シタル場合並列車ノ運轉頻繁ニシテ鐵道局長ニ於テ指定シタル區間ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得

晝 間 後部端梁ノ右側ニ赤色圓板一箇但シバムコトヲ得サル場合ニ於テハ赤色旗ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

夜 間 後部端梁ノ右側ニ赤色燈一箇

前項標識ノ掲出及撤去ハ途中停車場ニ於テハ後部車掌ヲ取扱フヘシ

(註) 電報ヲ以テ臨時列車ヲ運轉セシムル旨通告スル如キ場合ハ途中線路ニ於ケル保線係員ニ通告スルコト能ハサル虞アルヲ以テ標識ノ省略ヲ爲ササルモノナリ

第九十九條 列車ノ後部ニ掲ケル標識ノ圓板ハ赤色線

ノ燈器ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

### 第五章 事故ノ處置

#### 第三節 車輛及線路ノ事故

第二百二十三條 車輛發熱其ノ他故障ノ爲運轉上危險ナリト認メタル車輛ハ列車ヨリ之ヲ解放スヘシ

第二百二十七條 車輛脫線又ハ線路破損等ノ事故アリタル場合ハ左ノ係員ノ検査ヲ經ルニ非サレハ該車輛又ハ線路ハ列車ノ運轉ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

車輛ニ在リテハ機關區長、電車區長、檢車區長又ハ區長ノ命シタル者

### 六、客貨車運轉禁止ニ關スル件

(昭和三、七、六 達第五四〇號)

客貨車ニシテ運轉禁止ヲ要スヘキモノ左ノ通定ム

一 鋼製客車(氣動車ニアリテハキハニ三六四五〇形式ノミヲ含ム) 大形客車(略同大ノ電車ヲ含ム) 五〇〇〇形式二軸三等荷物車及五〇一〇形式二軸救援車(以上ノ車種ヲ以下單ニ大形客車ト稱ス)ハ別表(其ノ一)ノ區間ニ於テ運轉ヲ禁止ス但シ同表記事欄ニ記載シタル條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(註) 一 鋼製客車、大形客車トハ御料車第一、二、三、十、

線路ニ在リテハ保線區長、電力區長、通信區長又ハ區長ノ命シタル者

### 第六章 雜 則

第二百三十六條 車輛ハ運轉ニ先チ側面又ハ底部ノ扉ヲ閉鎖スヘシ但シ車扉ノ外方ニ開カサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二百三十七條 車輛止ハ所屬線内ニ車輛ヲ留置シタル場合ハ閉鎖シ然ラサル場合ハ之ヲ開放シ置クヘシ

鎖錠ノ裝置アル車輪止ハ之ヲ閉鎖シアル間ハ鎖錠シ其ノ鍵ハ驛長ニ於テ保管スヘシ

十一、十二號及鋼製供奉車並ニ番號萬位ノ數字カニ又ハ三、四ノモノヲ謂フ(車輛稱號規程第五條及第七條 參照)

二 大形客車ハ別表(其ノ一) 大形客車運轉禁止區間以外ニ於テモ軌條面ヨリノ高サ九百二十耗ヲ超ユル荷物積卸場ニ沿フ線路ヲ運轉セシムヘカラス

三 貨物緩急車、冷藏車、タンク車、水槽車及七六二耗軌間用貨車ヲ除キタル一般貨車ニシテ標記荷重十噸未

滿ノモノハ營業線内ニ於ケル運轉ヲ禁止ス但シ左ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

イ 工所用ノ機關車及車輛ノミニ依リ工事列車ヲ組成シ運轉スル場合

ロ 建設局及工務局所屬車廻送ノ爲後部緩急車ノ前位ニ連結シタル場合

ハ 甲種ノ鐵道車輛中標記荷重十噸未滿ノ貨車ニシテ運送ノ爲後部緩急車ノ前位ニ連結シタル場合

ニ 口號及ハ號ノ場合ニ於テ後部ニ補助助機關車ヲ連結スル區間ヲ運轉スルトキハ三噸以上ノ重量ヲ積載スルコト

四 石炭車、控車及七六二耗軌間用貨車ヲ除キタル一般二軸貨車ニシテ軸距三米未滿ノモノハ營業線内ニ於ケル運轉ヲ禁止ス但シ左ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

イ 工所用ノ機關車及車輛ノミニ依リ工事列車ヲ組成シ運轉スル場合

ロ 建設局及工務局所屬車廻送ノ爲後部緩急車ノ前位ニ連結シタル場合

ハ 甲種鐵道車輛ニシテ輸送ノ爲後部緩急車ノ前位ニ連結シタル場合

五 簡易線及二十五瓦未滿ノ軌條ヲ敷設シアル専用側線

ニ運轉ヲ禁止スヘキ貨車ハ別表(其ノ二)トス

六 區間ニヨリ運轉ヲ禁止スヘキ貨車ハ別表(其ノ三)ノ通トス

七 八〇噸積大物車ハ積車ノ場合坂早ノ通過ヲ禁ス本達實施ト同時ニ左ノ達示ハ之ヲ廢止ス(省 略)

別表(其ノ一)

五 簡易線及二十五瓦未滿ノ軌條ヲ敷設シアル専用側線

大形客車運轉禁止區間		線 名	區 間	記 事
東海道線	身延線	富	士甲府間	京阪電氣鐵道線ト線路共用ノ區間ニ於テ社線電車ト行違セサル場合ニ限リ運轉スルコトヲ得
	貨物線	沼津	蛇松間	
東北線	花輪線	陸中	花輪大館間	尾去澤驛表三番線及扇田驛表三番線並ニ二番線ヲ使用禁止シタル場合ニ限リ運轉スルコトヲ得
	白棚線	河	磐城棚倉間	
同	貨物線	白	藤足尾本間	同
	同	水	戸耶珂川間	
同	同	王	子北王間	同
	同	王	子須賀間	





筑肥線 (博多間)	積有五〇號形式三十噸積タンク車、十五噸積有蓋緩急車、二十五噸積有蓋車、八十噸積大物車	四噸積有蓋車、二十五噸積鐵製有蓋車、二十噸積及三十噸積石炭車、シム一〇形式十五噸積大物車、三十噸積以上ノ大物車
信越線 (輕井澤川間)	八十噸積大物車(積車ノ場合)	

白棚線 (磐城棚倉間)	活魚車、レニ五〇〇、二九〇〇及五〇〇〇形式十二噸積冷藏車、十三噸積有蓋車、十三噸積及十五噸積以上ノタンク車、十七噸積無蓋車、三十噸積石炭車、三十五噸積長物車、三十噸積以上ノ大物車、二十五噸積有蓋車、三十噸積水槽車、檢重車、操重車(事故救援用)	但シ十五噸積有蓋車及同無蓋車ニ積載重量十三噸以下ノ場合ニ限リ直通差支ナシ
----------------	---	--------------------------------------

七、機關區、電車區、檢車區ノ名稱及位置並機關區及檢車區ノ支區ノ名稱、位置及所屬(拔萃)(大正八、五、一達第三九七號)

鐵道局所管機關區、電車區及檢車區ノ名稱及位置並機關區、電車區及檢車區ノ名稱位置及所屬左ノ通定ム  
 大正二年六月達第四五〇號、同六年十一月達第一一六三號、同四年八月達第九三五號、同六年六月達第四八四號及同三年四月達第三〇六號ハ之ヲ廢止ス

鐵道局	檢車區	支區
東	新鶴見(新鶴見操車場)	沙留
東	橫濱	高島、平塚

東京	沼津	尾久	隅田川	大宮	高崎	新宿	錦糸町	字都宮
	上野、田端					飯田町、八王子	兩國、新小岩	白河

小	水	平	濱	名	米	高	富	金	敦	鹽	甲	京	吹	宮	鷹	明	姫
山	戸		松	古	原	山	山	澤	賀	尻	府	都	田	原	取	石	路
		綴	清水、静岡	稻澤	大垣	美濃太田	高岡		福井(福井操車場)			梅小路	安治川口	梅田	神戸港	(明石操車場)	

大	阪	廣	島	龍華(龍華操車場)	奈	龜	新	和	福	米	出	岡	廣	小	下	備	高	小	門	若	鳥
良	山	宮	山	山	山	山	山	山	山	子	雲	山	島	島	關	後	松	松	司	松	栖
湊町、浪速	山田		紀伊田邊	舞鶴、豐岡	鳥取	糸崎、新見						糸崎、新見		濱田、厚狹	幡生	十日市			門司港、戸畑、行橋、西八幡	直方	吉塚、西唐津

新 潟										門 司			
盛岡	青森 (森操車場)	新潟	長岡	直江津	長野	秋田	新庄	山形	都	大	鹿	熊	長
釜石	尻内、弘前、大湊	白山、新津	長岡操車場			横手、大館、機織	酒田	米澤	南延岡			本	崎
												人吉	早岐、上佐世保

八、工場受持區域(拔萃)

(昭和一六、四、一)  
(達第一五八號)

工場受持區域左ノ通定ム

昭和九年三月達第一六〇號工場受持區域ハ之ヲ廢止ス

札 幌										仙 臺			
野付	釧路(濱釧路)	名寄	旭川	室蘭	小樽	函館	岩見	郡山	福	仙	臺	臺	臺
網走	池田	稚内	瀧川、深川、下富良野	追分、苫小牧	俱知安、小樽、札幌、手	長萬部		會津若松				小	長
												牛	町
												田	一
													ノ
													關

所在地  
前記區ハ區名ノ下ニ括弧ヲ以テ示セルモノハ其ノ停車場構内ニ、然ラサルモノハ區名ト同一ノ停車場構内ニ在リ

鷹 取	松 任	名古屋	新小岩	大 井	大 宮	工場名	
						客 車	工 場 受 持 區 域
大阪運輸事務所管内 米原、神崎間及山陰本 線、西成線、福知山 線、有馬線ヲ除ク	金澤 同 敦賀 同 右	名古屋運輸事務所管内 靜岡 同 松坂 同 右 (龜山、島ヶ原間及 參宮線)	千葉運輸事務所管内 (電車ヲ除ク)	新橋運輸事務所管内 (暖房車ヲ除ク) 上野 同 千葉 同 右 (電車) 右 (同右)	高崎 同 水戸 同 宇都宮 同 右 (電車ヲ除ク) 右 (小川郷間ヲ除ク)	新橋運輸事務所管内 (暖房車) 上野運輸事務所管内 宇都宮 同 右 (電車) 右 (同右)	工場受持區域
大阪運輸事務所管内 (米原、神崎間及山陰本 線、西成線ヲ除ク) 福知山 同 右	金澤運輸事務所管内 敦賀 同 右	名古屋運輸事務所管内 靜岡 同 右	千葉事務所管内	新橋運輸事務所管内	高崎 同 水戸 同 右		

若 松	小 倉	幡 生	多 度 津	後 藤	吹 田	工場名	
						客 車	工 場 受 持 區 域
鐵製石炭車、水槽車及門 所管内運轉ノ鐵製有蓋車	門司運輸事務所管内 鳥栖 同 長崎 同 大分 同 右	下關運輸事務所管内 廣島 同 右 (電車ヲ除ク)	高松出張所管内 高知 同 同 右	米子運輸事務所管内	大阪運輸事務所管内 廣島 同 同 右 (宮線ヲ除ク) 右 (同右)	大阪運輸事務所管内 (米原、神崎間及山陰 本線、西成線、福 知山線、有馬線 線、西成線) 松坂 同 同 右	工場受持區域
	鐵製石炭車、水槽車 及鐵製有蓋車ヲ除ク (同右) 右 (同右) 右 (同右)	下關運輸事務所管内 廣島 同 右 (電車ヲ除ク)	高松出張所管内 高知 同 同 右	米子運輸事務所管内			

盛岡	郡山	新津	土崎	長野	西鹿兒島
仙臺運輸事務所管内 盛岡同右 青森同右			福島運輸事務所管内 山形同右 秋田同右 新津同右(新潟)	甲府運輸事務所管内 長野同右 新津同右(新潟ヲ除ク)	熊本運輸事務所管内 鹿兒島同右 熊本運輸事務所管内 (鐵製石炭車及水槽車ヲ除ク)
仙臺運輸事務所管内 盛岡同右 青森同右(東北線)	福島同右 (郷間) 水戸運輸事務所管内 小津平間及平小川	新津運輸事務所管内	山形運輸事務所管内 秋田同右 青森同右(奥羽線)	甲府運輸事務所管内 長野同右	熊本運輸事務所管内 鹿兒島同右(同右)

釧路	旭川	五稜廓	苗穂
野付牛同右	旭川運輸事務所管内 釧路同右 野付牛同右	函館運輸事務所管内 室蘭同右(室蘭)	札幌運輸事務所管内 室蘭同右 (室蘭ヲ除ク)
野付牛同右	旭川運輸事務所管内 (新得) 釧路同右 (回轉式雪掻車ヲ除ク)	函館運輸事務所管内 (回轉式雪掻車ヲ除ク)	札幌運輸事務所管内 (回轉式雪掻車)
	旭川運輸事務所管内 (新得) 釧路同右 (回轉式雪掻車ヲ除ク)	函館運輸事務所管内 (回轉式雪掻車ヲ除ク)	札幌運輸事務所管内 (回轉式雪掻車)
	旭川運輸事務所管内 (新得) 釧路同右 (回轉式雪掻車ヲ除ク)	函館運輸事務所管内 (回轉式雪掻車ヲ除ク)	札幌運輸事務所管内 (回轉式雪掻車)

## 第二編 車輛稱號、塗色及標記其ノ他

### 九、車輛稱號規程 (拔萃)

(昭和三、五、一七  
達第三八〇號)

車輛稱號規程左ノ通定ム

#### 車輛稱號規程

第一條 鐵道車輛ヲ大別シテ左ノ通トス



小荷物ヲ搭載スヘキ設備アルモノハ之ヲ客車トシ、貨物ヲ搭載スヘキ設備アルモノハ之ヲ貨車トス  
炭水車ハ機關車又ハ貨車ノ附隨物トシテ取扱フ  
機關車補水用トシテ機關車ニ常時連結運轉スル水槽車ハ炭水車ノ附隨物トシテ取扱フ

(註) 電車ヲ含メテ稱スル客車ト電車ヲ含メスシテ稱スル客車ト紛レ易キ場合ニハ其ノ區別ヲ明記スルコトヲ要ス

第五條 客車 (電車ヲ含マス) ノ名稱ハ左ノ各號ニ依リテ定メ之ヲ左ノ順序ニ重ネタルモノトス但シ特ニ必要ナラサル場合ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 構造

- ボギー客車ハ構造ニ應シ左ノ稱呼ヲ用ウ
- 形
- 形
- 形
- 形
- 鋼製

(註) 雜形トハ中形採用以前ノ製造ニ係ルモノ又ハ車體斷面ノ中形ヨリ小ナルモノ、中形トハ明治四十三年制定ノ形ニ依ル

車輛ニシテ從來基本形ト稱シタルモノ、大形トハ大正八年以降新製ノ車體幅二八〇〇耗ノモノ、鋼製トハ大正十五年度以降新製ノ鋼製車(車輛ノ大サハ大形ト殆ト同シ)ヲ謂フ

二 車軸ノ配置 車軸ノ配置ニ應シ左ノ稱呼ヲ用ウ

- 二 軸
- 三 軸
- 二軸ボギー
- 三軸ボギー

三 用途 左ノ種別ニ依ル、二種以上合造ノモノハ次ノ順序ニ重ネテ用ウ

- (ア) 官廷用客車
- 御料車
- 供奉車

(イ) 營業用客車

- 一等寢臺車
- 二等寢臺車
- 三等寢臺車
- 一等車
- 二等車
- 三等車
- 食堂車
- 展望車

- 病客車
- 郵便車
- 荷物車
- 展望車、病客車、郵便車、荷物車以外ノモノニシテ車掌室ヲ有シ且手ブレキ及車掌弁ノ設備アルモノニハ「緩急車」ナル名稱ヲ附加ス

(ウ) 省用客車

- 職用車
- 試験車
- 配給車
- 教習車
- 救援車
- 暖房車

(註) 名稱ノ例ヲ示セハ左ノ如シ

二軸三等車

大形二軸ボギー二三等緩急車  
鋼製三軸ボギー一等展望車

第六條 客車(電車ヲ含マス)ノ記號ハ左ノ各號ニ依リ片假名文字ヲ左ノ順序ニ重ネタルモノトス

- 一 重量 ボギー客車ニ限ル重量ハ積車重量ニ依ル
- 二 二・五噸未滿
- 三 二・五噸以上

二七・五噸以上	三二・五噸未滿	ナ
三二・五噸以上	三七・五噸未滿	オ
三七・五噸以上	四二・五噸未滿	ス
四二・五噸以上	四七・五噸未滿	マ
四七・五噸以上		カ

二 用途

(ア) 官廷用客車 記號ヲ用キス

(イ) 營業用客車

- 一等寢臺車
- 二等寢臺車
- 三等寢臺車
- 一等車
- 二等車
- 三等車
- 食堂車
- 展望車
- 病客車
- 郵便車
- 荷物車

「緩急車」ナル名稱ヲ有スルモノニハ「フ」ヲ末尾ニ附加ス  
(ウ) 省用客車

職用車	ヤ
試験車	ヤ
配給車	ヤ
教習車	ヤ
救援車	ヤ
暖房車	ヌ

(註) 職用車、試験車、配給車、教習車、救援車ハ何レモ記號「ヤ」ナルカ試験車ニハ試験用、配給車ニハ配給用、教習車ニハ教習用、救援車ニハ救援用ノ文字ヲ車體外側記號番號ノ下部ニ附記スルモノナリ

記號ノ例ヲ示セハ左ノ如シ  
二軸三等車  
積車重量二五噸ノボギー三等緩急車 ホハフ  
積車重量四〇噸ノボギー郵便荷物車 スニニ

第七條 客車(電車ヲ含マス)ノ番號ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 官廷用客車ノ番號ハ一ヨリ九九九迄ノ數字ヲ用ウ
- 二 木製營業用客車及木製省用客車(以下單ニ木製客車ト稱ス)ノ番號ハ左記ニ依ル
- 二 軸
- 三 軸
- 雜形二軸ボギー
- 雜形三軸ボギー

中形二軸ボギー 一〇〇〇〇——一六九九九  
 中形三軸ボギー 一七〇〇〇——一九九九九  
 大形二軸ボギー 二〇〇〇〇——二六九九九  
 大形三軸ボギー 二七〇〇〇——二九九九九  
 (註) 萬位ノ數字「一」ハ中形ボギー「二」ハ大形ボギーヲ表シ、千位ノ數字ハ「六」迄ハ二軸又ハ二軸ボギー「七」以上ハ三軸又ハ三軸ボギーヲ表ス

三 鋼製營業用客車及鋼製省用客車(以下單ニ鋼製客車ト稱ス)ノ番號ハ前條ノ記號及三位以上ノ數字ヨリ成リ其ノ記號及第一、第二ノ數字ハ形式ヲ表ハス記號及數字トシ第三以下ノ數字ハ一ヨリ順次ニ進ムモノトス

四 形式ノ似寄リタル客車ハ成可ク近似ノ番號ヲ附ス  
 第八條 客車(電車ヲ含マス)ノ形式稱號ハ左ノ各號ニ依ル但シ御料車ニハ適用セス

一、木製客車ニ在リテハ同形式中ノ最初ノ番號ヲ用ヒ一位ノ端數ヲ附セス  
 二、鋼製客車ニ在リテハ記號及數字ヲ用ヒ記號ハ重量及用途ヲ表ス文字ヲ重ネタルモノトシ數字ハ用途別ニ三〇乃至九九トシ第二位ノ數字ハ二軸ボギーニ對シテハ〇乃至六、三軸ボギーニ對シテハ七乃至九トス

(註) 鋼製客車ノ形式稱號ノ例ヲ示セハ左ノ如シ

二軸ボギーノ場合  
 オハ三〇……スハ三三……スハ四六……スハ九九  
 オロ三〇……スロ三三……スロ六六……スロ九九  
 三軸ボギーノ場合  
 スイテ三七……スイテ三八……スイテ九九  
 スロネ三七……マロネ三八……マロネ九九

第十二條 貨車ノ名稱ハ左ノ各號ニ依リテ定メ之ヲ左ノ順序ニ重ネタルモノトス但シ特ニ必要ナラサル場合ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 車軸ノ配置 車軸ノ配置ニ應シ左ノ稱呼ヲ用ウ

二 軸  
 三 軸

二軸ボギー  
 三軸ボギー

二 構造又ハ用途 構造又ハ用途ニ應シ左ノ名稱ヲ用ウ

(ア) 有蓋貨車  
 有蓋車(鐵側ニシテ内部ニ木板張ノモノヲ含ム)  
 鐵側有蓋車(内部ニ木板ヲ張ラサルモノ)  
 鐵製有蓋車

車運車  
 冷藏車  
 通風車  
 家畜車  
 豚積車  
 家禽車  
 活魚車  
 陶器車  
 (イ) タンク貨車  
 タンク車(積載スヘキ貨物ノ品積ニ應シ「何々」ヲ附加ス、例ヘハ「硫酸用」「ガス用」「アンモニヤ用」ノ如シ)  
 水槽車  
 (ウ) 無蓋貨車  
 無蓋車  
 土運車  
 石炭車  
 長物車  
 大物車  
 (ア)、(イ)、(ウ)中ノ貨車ニシテ車掌室ヲ有シ且手ブレーキ及車掌弁ノ設備アルモノニハ「緩急車」ナル名稱ヲ附加ス

(エ) 準貨車

車掌車  
 雪搔車  
 檢重車  
 操重車  
 控車

第十三條 貨車ノ記號ハ左記各號ニ依ル片假名文字ヲ左ノ順序ニ重ネタルモノトス  
 一 構造又ハ用途

(ア) 有蓋貨車  
 有蓋車  
 鐵側有蓋車  
 鐵製有蓋車  
 車運車  
 冷藏車  
 通風車  
 家畜車  
 豚積車  
 家禽車  
 活魚車  
 陶器車  
 (イ) タンク貨車  
 ワ ス テ タ レ ツ カ ウ パ ナ ボ

タンク車  
水槽車

ミタ

(ウ) 無蓋貨車

無蓋車

ト

土運車

リ

石炭車

セ

長物車

チ

大物車

シ

(ア)、(イ)、(ウ) 中ノ貨車ニシテ「緩急車」ナル名稱ヲ有スルモノニハ「フ」ヲ末尾ニ附加ス

(エ) 準貨車

車掌車

ヨ

雪掻車

キ

檢重車

コ

操重車

ソ

控車

ヒ

二、標記荷重應數

一三應以下ノモノ及標記荷重ナキモノハ記號ヲ用キス

一四應乃至一六應

ム

一七應乃至一九應

ラ

二〇應乃至二四應

サ

三四

二五應以上

キ

第十四條 貨車ノ番號ハ左ノ通トス

一 第十三條ノ記號毎ニ一ヨリ順ヲ追フテ之ヲ附ス

二 形式ノ似寄リタル貨車ハ成可ク近似ノ番號ヲ附ス

三 形式ヲ異ニスル毎ニ相當ノ空番號ヲ保留スルコトヲ得

第十五條 貨車ノ形式稱號ハ同形式中ノ最初ノ番號ニ當

該車ノ記號ヲ冠シタルモノヲ用ウ

第十六條 客車ニ屬スル氣動車、氣動制御車及氣動附隨

車ノ名稱、記號、番號及形式稱號ハ左ノ各號ニ依ル

一名稱

(ア) 蒸氣動車、内燃動車ノ如キ動力車ヲ總稱シテ

氣動車ト謂ヒ、内燃ハ更ニディーゼル、ガソリン等

ニ區別シ車軸ノ配置及用途別、動力別名稱ヲ冠シ

「何々動車」ト稱ス但シ緩急車ナル名稱ヲ附セス

(註) 名稱ノ例ヲ示セハ左ノ如シ

二軸ボギー三等ガソリン動車

二軸ボギー三等ディーゼル動車

(イ) 氣動車ニ連結運轉スル特種ノ設備ヲ有スル車

輻ニシテ動力ヲ有セサルモノハ其ノ構造ニ應シ車

軸ノ配置及用途別名稱ヲ冠シ氣動制御車又ハ氣動

附隨車ト稱ス但シ緩急車ナル名稱ヲ附セス

(註) 名稱ノ例ヲ示セハ左ノ如シ

二軸ボギー三等氣動制御車

二軸ボギー三等氣動附隨車

二 記號

記號ハ客車ニ對スル用途別記號ニ氣動車ニハ「キ」、氣

動制御車ニハ「キク」、氣動附隨車ニハ「キサ」ヲ冠ス

三 番號

番號ハ木製車又ハ二軸車(片ボギー車ヲ含ム)ナル

トキハ木製客車ノ規定ニ依ル

鋼製ボギー車ナルトキハ左記ニ依ル

鋼製二軸ボギー三〇〇〇〇—三六九九九

四〇〇〇〇—四六九九九

鋼製三軸ボギー三七〇〇〇—三九九九九

四七〇〇〇—四九九九九

四 形式稱號

形式稱號ハ同形式中ノ最初ノ番號ヲ用ヒ一位ノ端數

ヲ附セス

一〇、車輛塗色及標記方式(拔萃)

車輛塗色及標記方式

二、客車(電車ヲ含ム)

(昭和四、三、一一)

達第一五一號)

第七條 客車(氣動車、氣動制御車及氣動附隨車ヲ除ク)

ノ車體外部ハ深褐色、氣動車、氣動制御車及氣動附隨

第十六條ノ二 貨車ニ屬スル氣動車、氣動制御車、氣動

附隨車ノ名稱、記號、番號及形式稱號ハ貨車ニ對スル

規定ニ依ル

第十七條 七六二耗軌間用車輛ニ對シテハ前記所定ノ名

稱及記號ニ夫々名稱「輕便用」記號「ケ」ヲ冠ス

附 則

第十八條 本規程ハ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 明治四十四年一月達第二〇號車輛稱號規程、

大正二年五月達第三七二號輕便線用車輛稱號、明治四

十三年十一月達第九六四號客車名稱、番號、記號及形

式稱號、大正七年四月達第四二七號御料車ノ名稱及番

號並保管局ノ件、明治四十四年七月達第五四〇號貨車

番號改定ノ件ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本達施行前ノ車輛ニ對シテハ別ニ指定スル方

法及番號對照表ニ依リ其ノ形式稱號、記號、番號ノ變

更ヲ行フヘシ但シ機關車ニ在リテハ特ニ指定スルモノ

ニ限リ在來ノ儘ト爲スコトヲ得

車ノ車體外部ハ外帶下端ヲ界ニ上部ヲ帶黃灰色、下部ヲ藍青色、臺枠以下ハ黑色トス  
 但シ車體兩側ノ窓下ニ一五〇耗ノ幅ヲ以テ一等車ハ白色、二等車ハ青色ニ塗粧シ郵便車ハV B 一一一三四圖ニ依リ白色地ノ上ニ赤色ノ標示ヲ爲スモノトス  
 第八條 客車ニハ左ノ事項ヲ標記及標示スルモノトス  
 (ア) 等級、用途  
 (イ) 形式稱號、記號及番號  
 (ウ) 定員、荷重(噸)、但シ郵便車ニ在リテハ行囊數ヲ併記スルコト  
 (エ) 自重(噸)、但シ小數點以下二位迄トシ三位ハ之ヲ二位ニ切上ク  
 (オ) 換算輻數  
 (カ) 配屬局ヲ表ハス文字  
 (キ) 常備驛名又ハ配置區名略號  
 (ク) 軸箱位置稱呼標示數字  
 (ケ) 檢査標示  
 (コ) 國有鐵道ノ記號  
 (サ) 製作所名及製造年  
 (シ) 其ノ他特ニ必要アル標示

第九條 前條ノ標記及標示ノ位置竝外部ニ掲グル揭示類ノ位置ハ左記圖面ニ依ルモノトス

左記圖面ハ本達末尾ニアリ  
 標記及標示ノ字體等ハ左記圖面ニ依ルモノトス  
 左記圖面同上  
 標記文字ハ一等車ノ窓下帶ニ記入スルモノハ黑色トシ其他ハ總テ白色トス、但シ國有鐵道ノ記號、製造所名及製造年ハ標記ノ代リニ文字ヲ鑄出シタル鑄鐵製銘板ヲ用フルコトヲ得

三、貨車

第十條 貨車ハ車體外部竝臺枠以下共黑色トス但シ冷藏車及タンク車(牛乳用、液體アンモニア用、濃硝酸用アルコール用)ノ車體外部ニ限リ灰白色トス  
 第十一條 貨車ニハ左ノ事項ヲ標記及標示スルモノトス  
 (ア) 形式稱號、記號及番號  
 (イ) 荷重(噸) 但シ無蓋車及無蓋緩急車ニハ更ニ石炭荷重(噸)ヲ標示シ、無蓋貨車(車體ノ轉倒スル土運車、石炭車及大物車ヲ除ク)ニ在リテハ貨物積載高(米)ヲ附記シ、タンク車ニハ實容積(立方米)ヲ附記ス、準貨車及タンク車ガス用ニ在リテハ荷重ヲ標記セス  
 (ウ) (削除)  
 (エ) 自重(噸) 但シ小數點以下二位迄トシ三位ハ之ヲ二位ニ切上ク

(オ) 換算輻數

(カ) 配屬局所ノ決定セルモノハ該局所ヲ表ハス文字但シ門司及札幌鐵道局所屬石炭車竝雪搔車ニハ之ヲ標記セス  
 (キ) 常備驛ノ決定セルモノハ其ノ驛名  
 (ク) 軸箱位置稱呼標示數字  
 (ケ) 檢査標示  
 (コ) 國有鐵道ノ記號  
 (サ) 製造所名及製造年  
 (シ) 其ノ他特ニ必要アル標示  
 (ス) 私有貨車ニハ所屬會社名ヲ標記シ尙會社ノ徽章ヲ併記スルコトヲ得

貨車ニハ左記圖面ニ依リ票挿ヲ取付クルモノトス但シ水槽車、工所用土運車、石炭車、石炭緩急車、準貨車及七六二耗軌間用貨車ニハ表示票挿ヲ取付ケス  
 左記圖面同上

第十二條 前條ノ標記及標示ノ位置竝字體等ハ左記圖面ニ依ルモノトス  
 左記圖面同上

標記文字ハ白色トス但シ冷藏車及タンク車(牛乳用、液體アンモニア用、濃硝酸用、アルコール用)ノ車體ニ標記スルモノハ黑色トシ、國有鐵道ノ記號竝製造所

名及製造年ハ標記ノ代リニ文字ヲ鑄出シタル鑄鐵製銘板ヲ用フルコトヲ得

四、附則

第十三條 特殊ノ車輛ニ限リ認可ヲ得テ本方式ニ依ラサルコトヲ得  
 本方式以外ノ標記ヲ爲サントスルトキハ臨時ノ場合ヲ除クノ外之カ認可ヲ受クヘシ

第十四條 第八條又ハ第十一條ニ依リ標記スヘキ配屬局所、常備驛及配置區名ノ略號ハ別表ノ通トス  
 車輛ニ標記スヘキ配屬局、所、常備驛及配置區名略號表(第十四條別表)

一 配屬局所名略號	配屬局所	略號
配屬局所	略號	
官房研究所	研	
客車	工務	
貨車	工務	
旭川工事事務所	建旭工	建山工
札幌工事事務所	建札工	建熱工
熊本工事事務所	建熊工	盛岡工事事務所
東京第二工事事務所	建東二工	長岡工事事務所
岡山工事事務所	建岡工	岐阜工事事務所
		信濃川電氣事務所
		東京鐵道局
		名古屋鐵道局
		東









定員寢台形式食堂

二二三等自直

夏荷行囊換裝

冬 醜給教習

試驗用

救援

VC 13463 B

東名大

門仙札

廣新

VD 16484 B

積空

圖第一號 客貨車標記文字 其ノ三

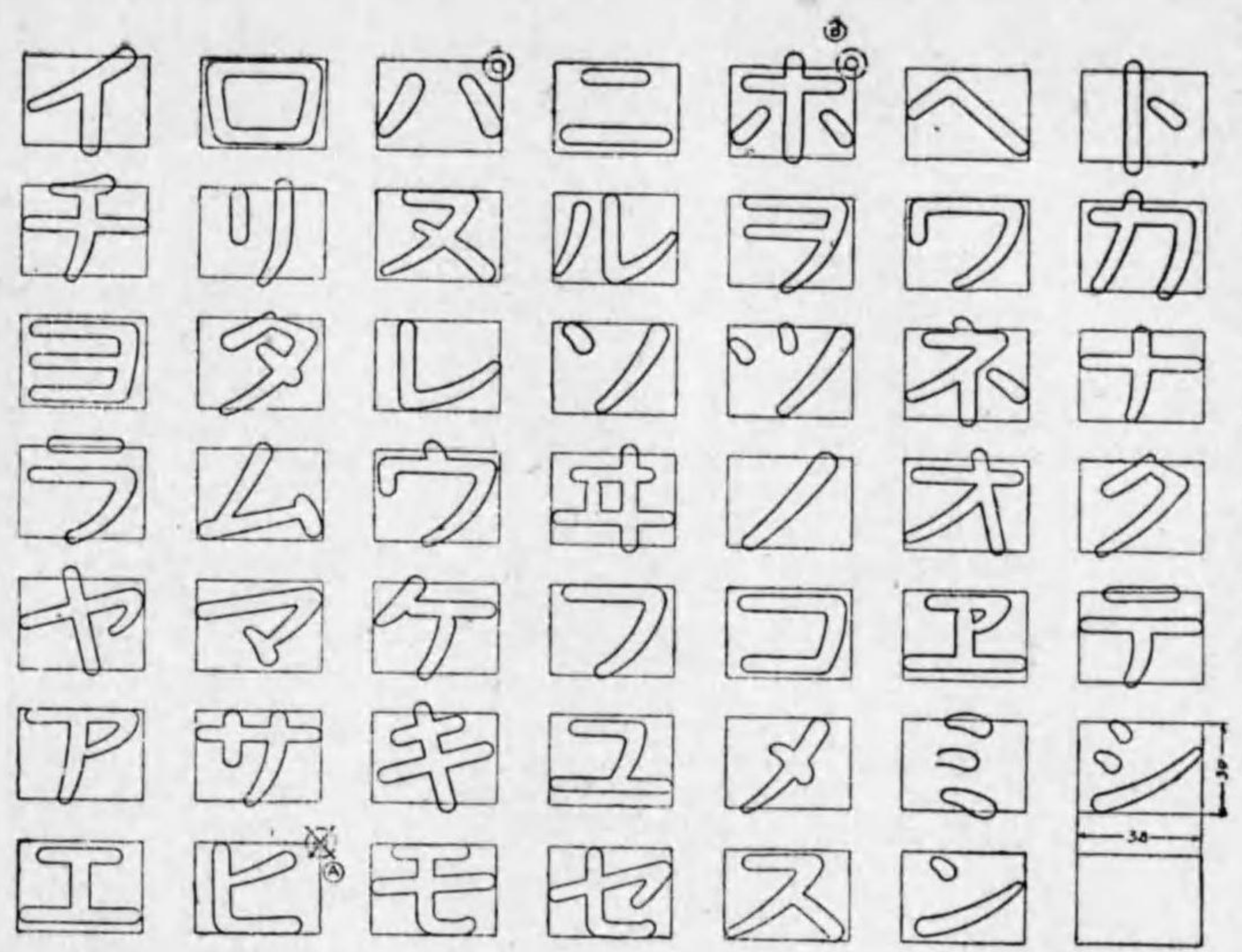
圖第一號 客車標記文字

ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ
ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ	ㄨ

CG-1-8 [K] 7.0mm x  
B7-1-1 [K] 7.0mm x  
A4-1-16 [K] 7.0mm x  
VB 11196C

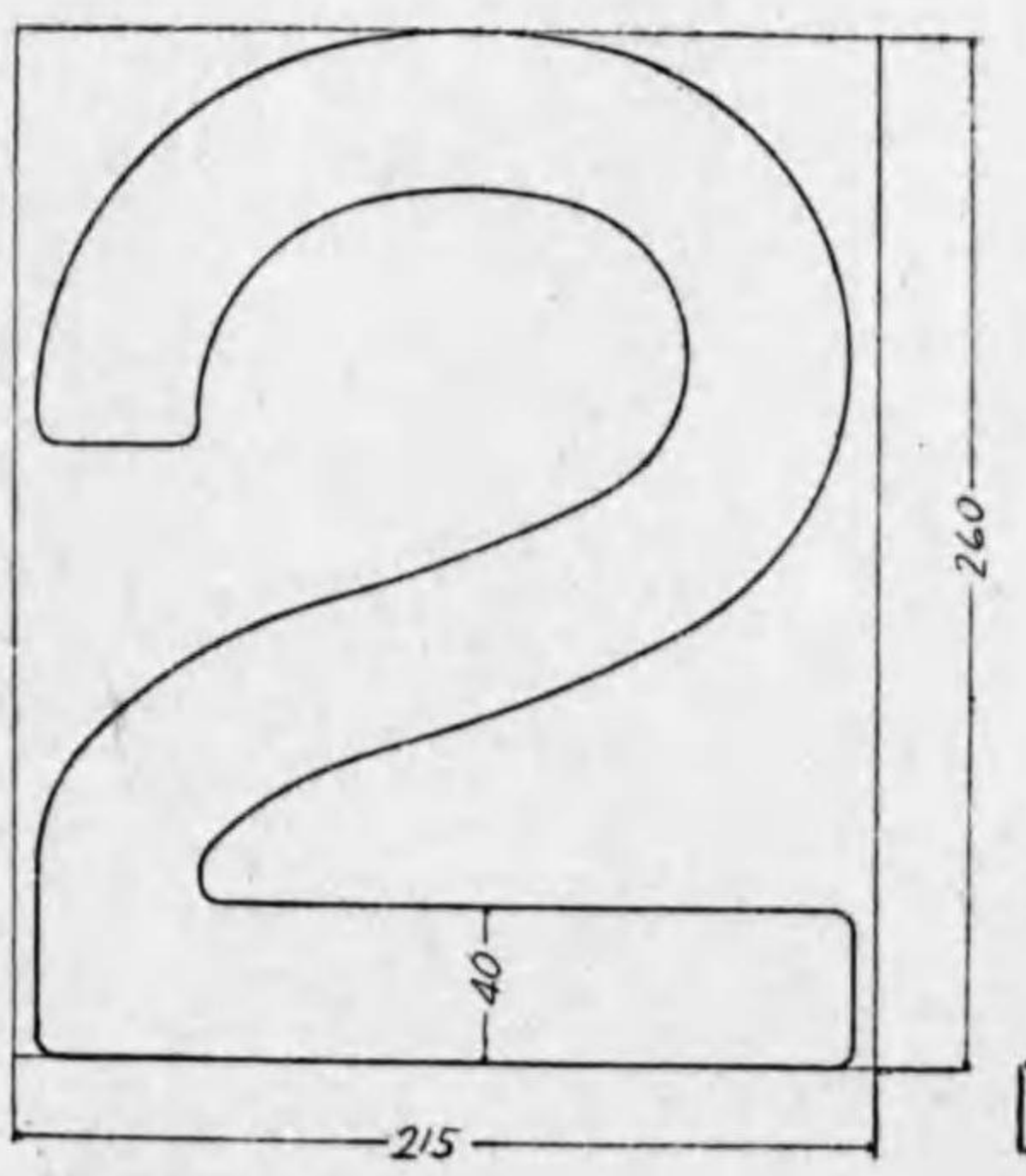
圖第一號 客貨車標記文字 記號用

圖第一號 客貨車標記文字 常備譯名略號及記號



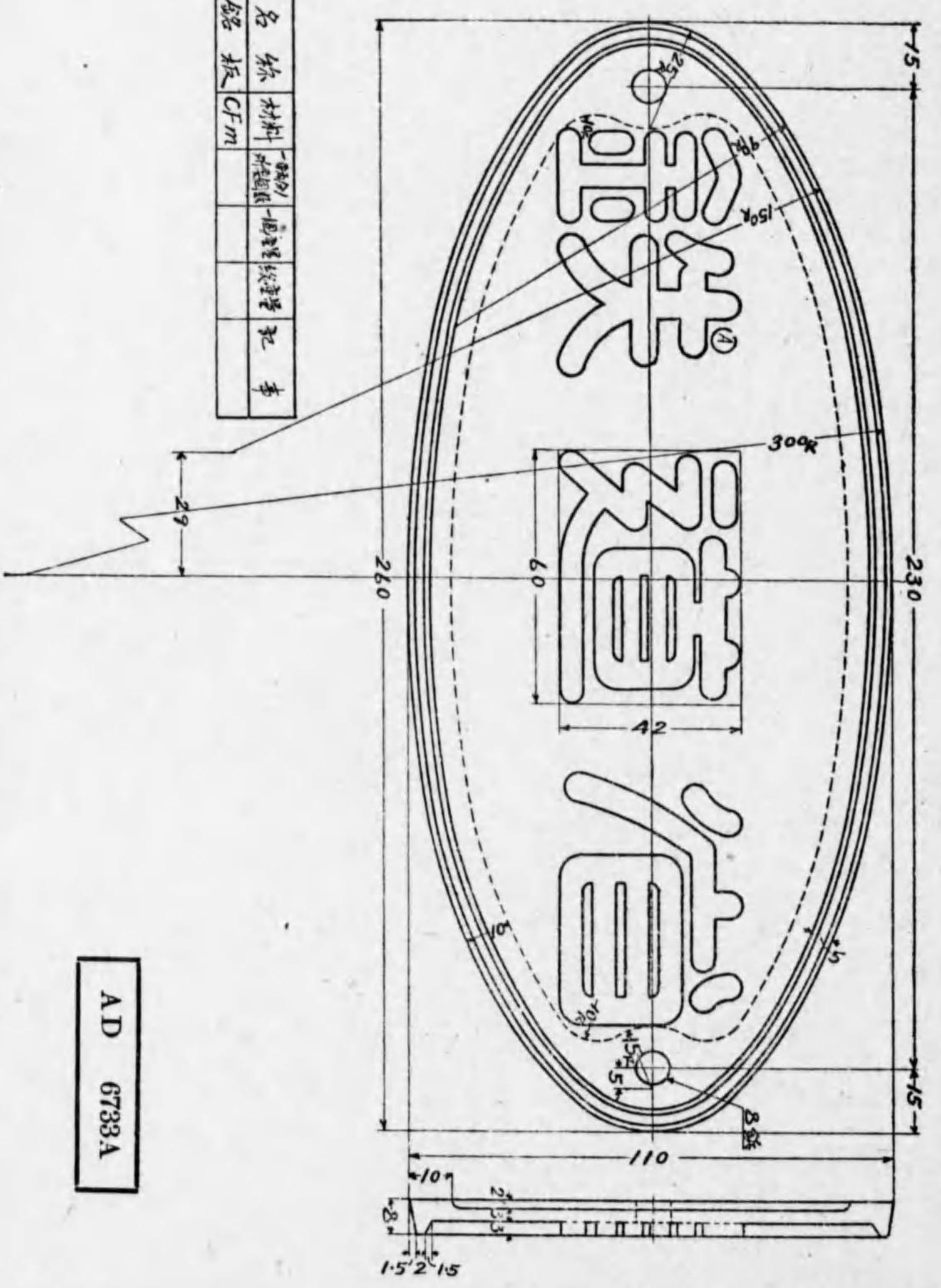
B9-1-8F et al. 記号  
A7-7-1F et al. 記号  
VC 13464 B

圖第一號 等級標記文字



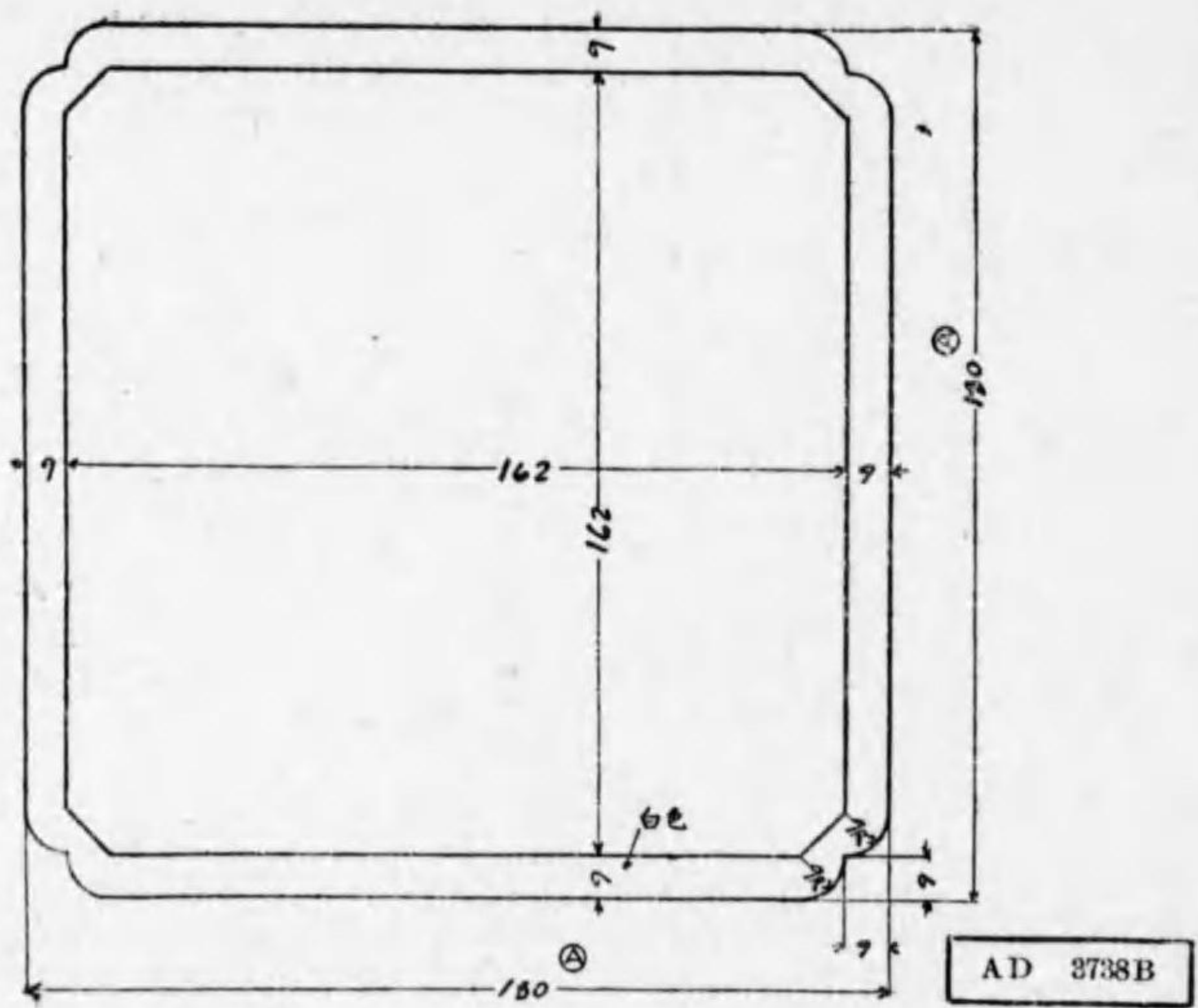
EC 13370

照号	名	材料	重量	記号
	銘	CFm		

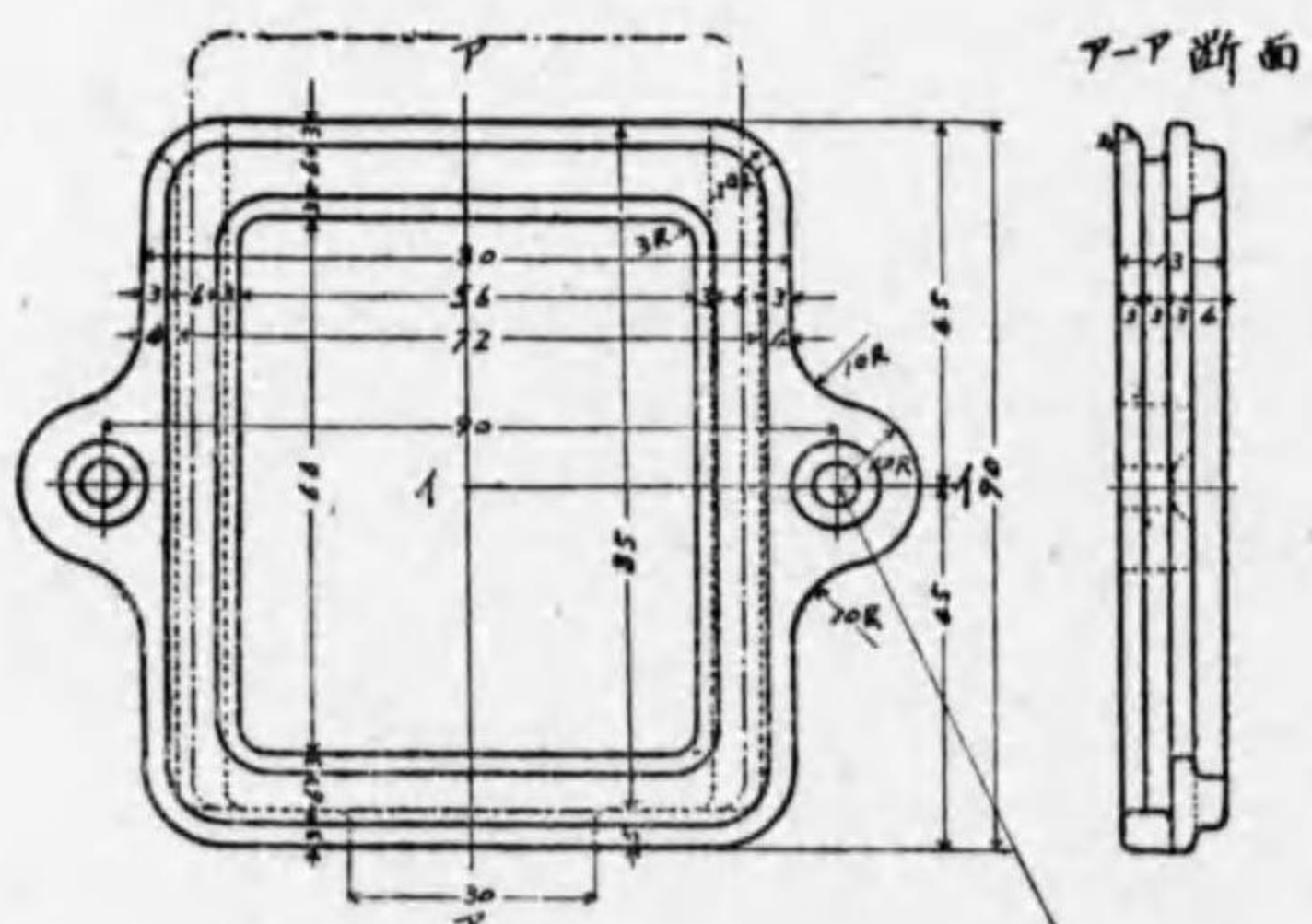


圖第一號 鐵道看銘板

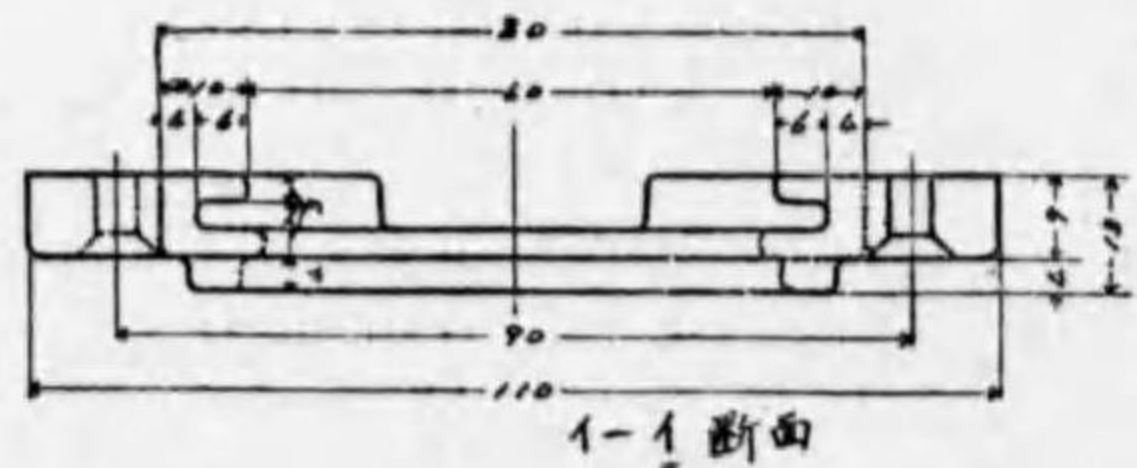
AD 6733A



圖第一號 一般檢查標輪廓



圖第一號 局部檢查票插



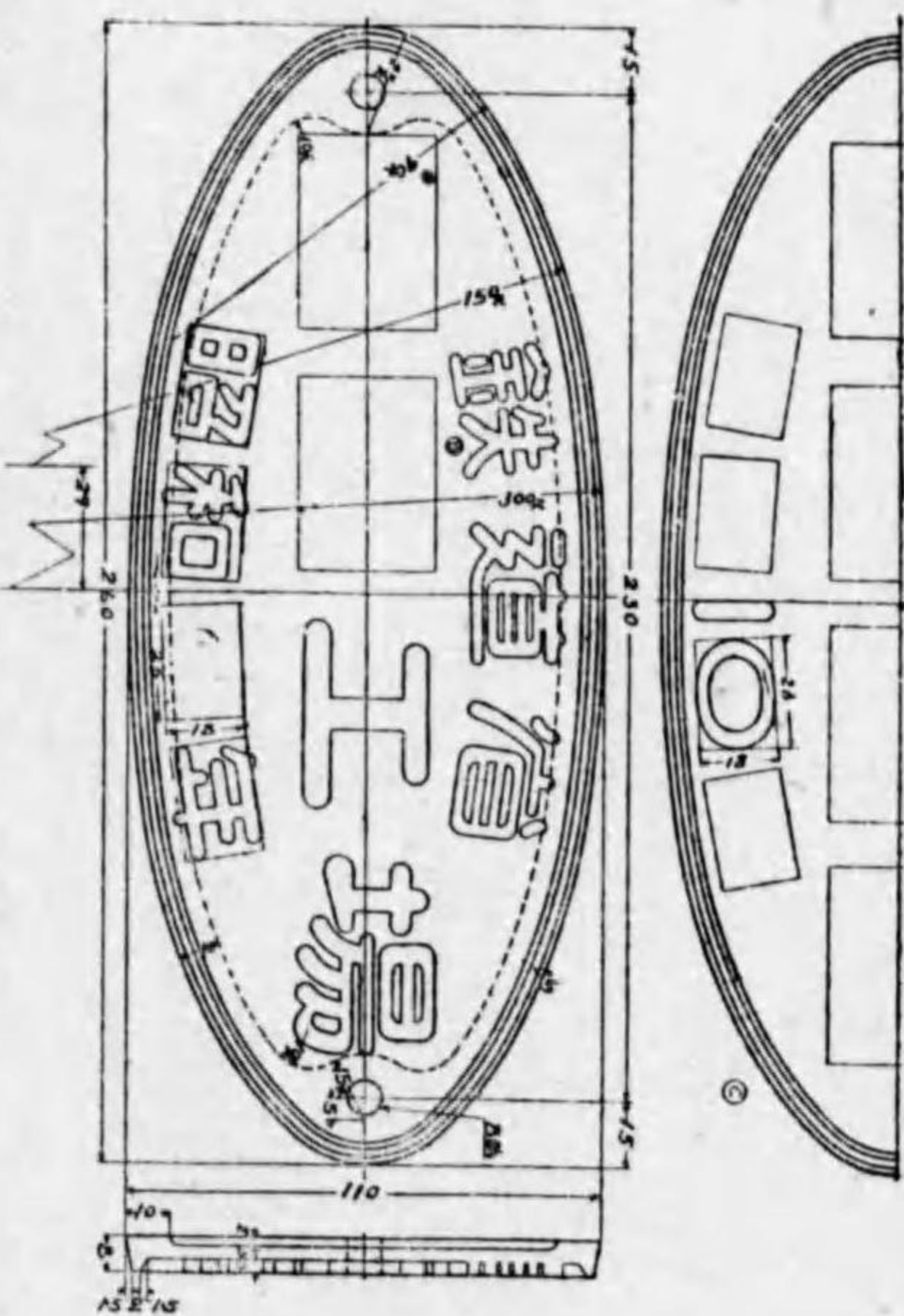
檢查票 26 28 28 28 28  
票以銀紙製成地色以黑字同色文字以白色以

名稱	材料	一個重	總重	記	率
局部檢查票插	CFm	2			1-2/26/28/28/28

AD 6737B

11 2 3 4 5 6 7 8 9 0

天井宮苗穂  
小倉鷹取

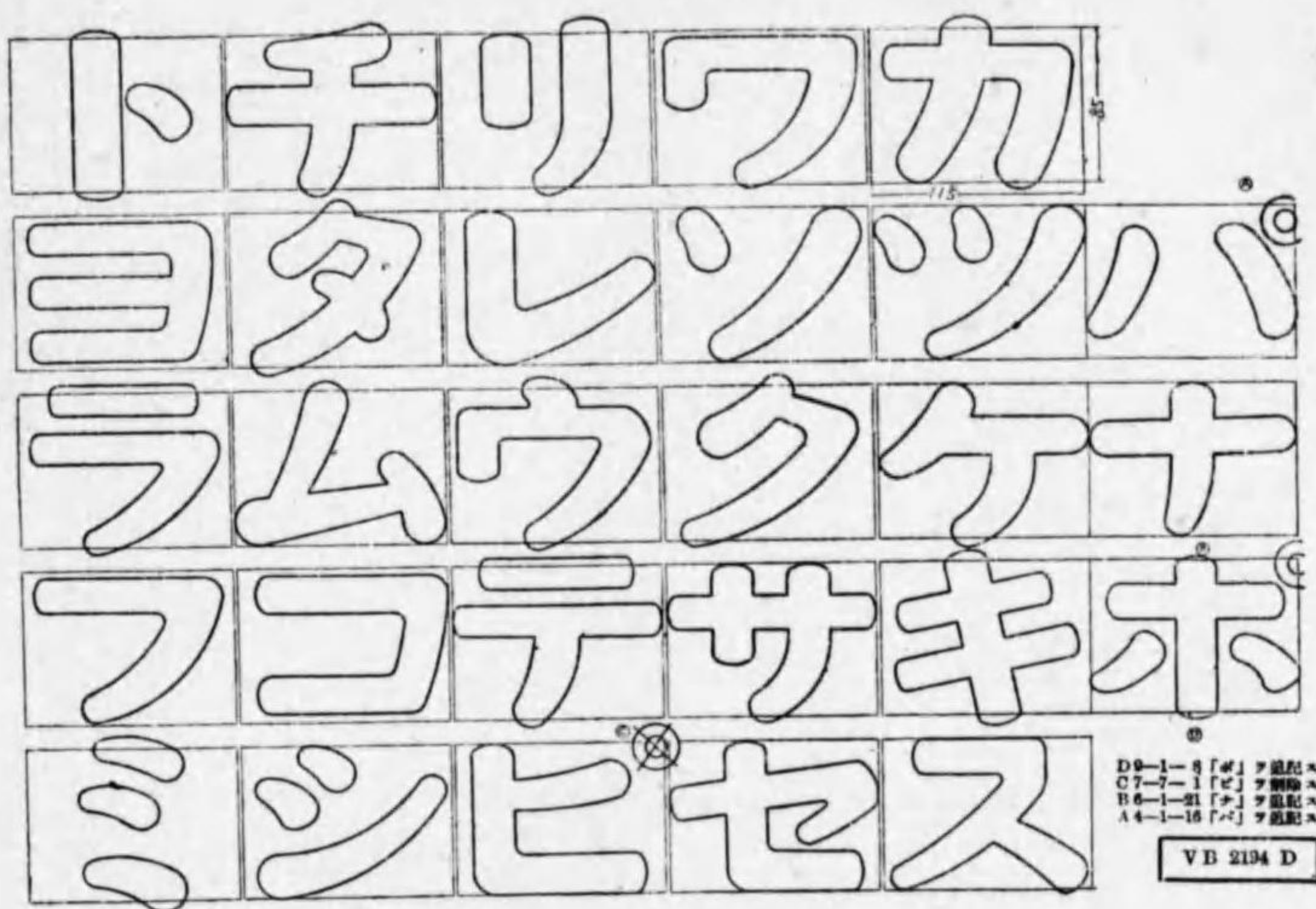


注意  
製造所銘板  
15 12 3

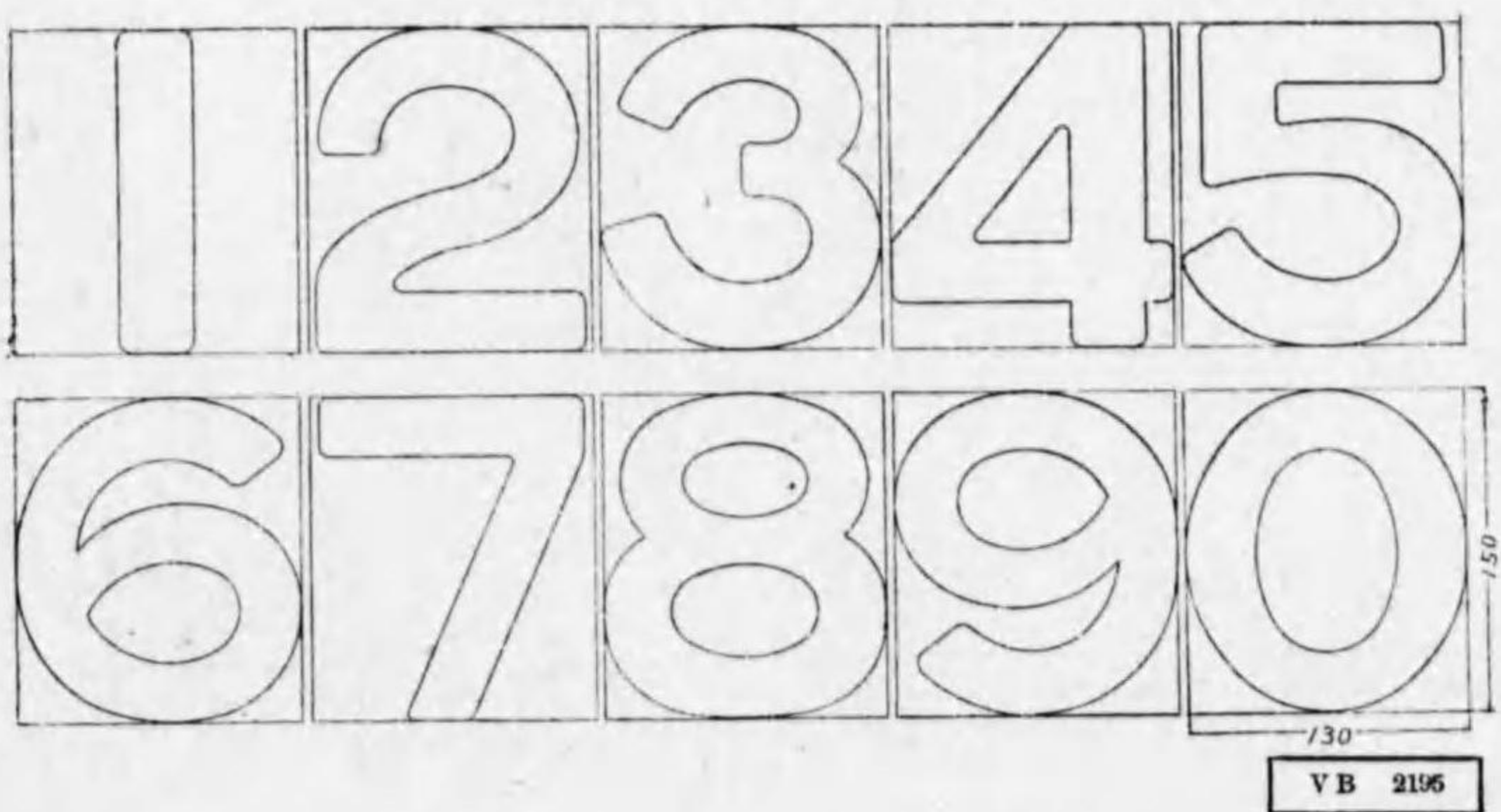
AC 6439C

圖第一號 製造所銘板

圖第一號 貨車標記文字 記號用

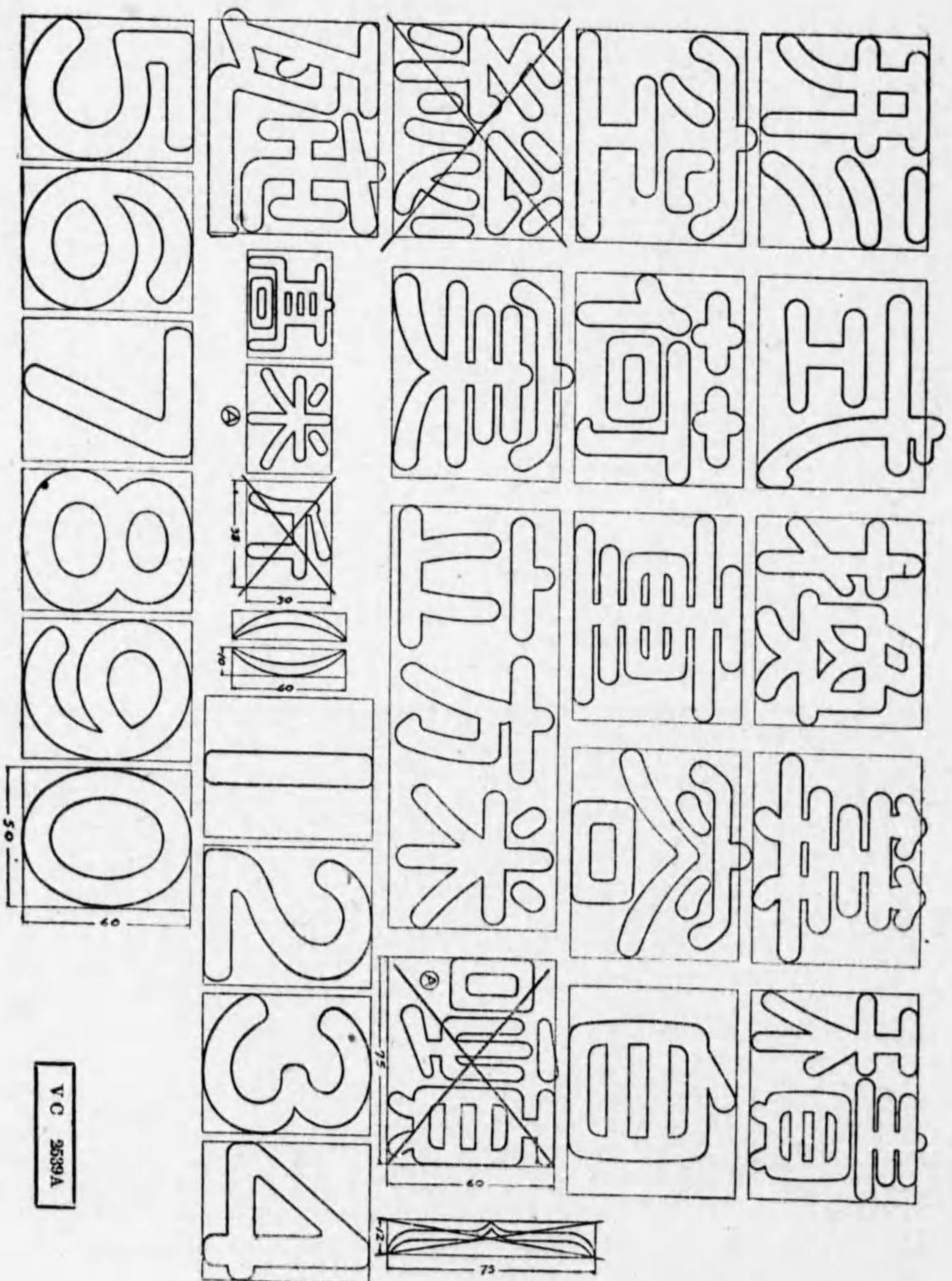


圖第一號 貨車標記文字 其ノ二

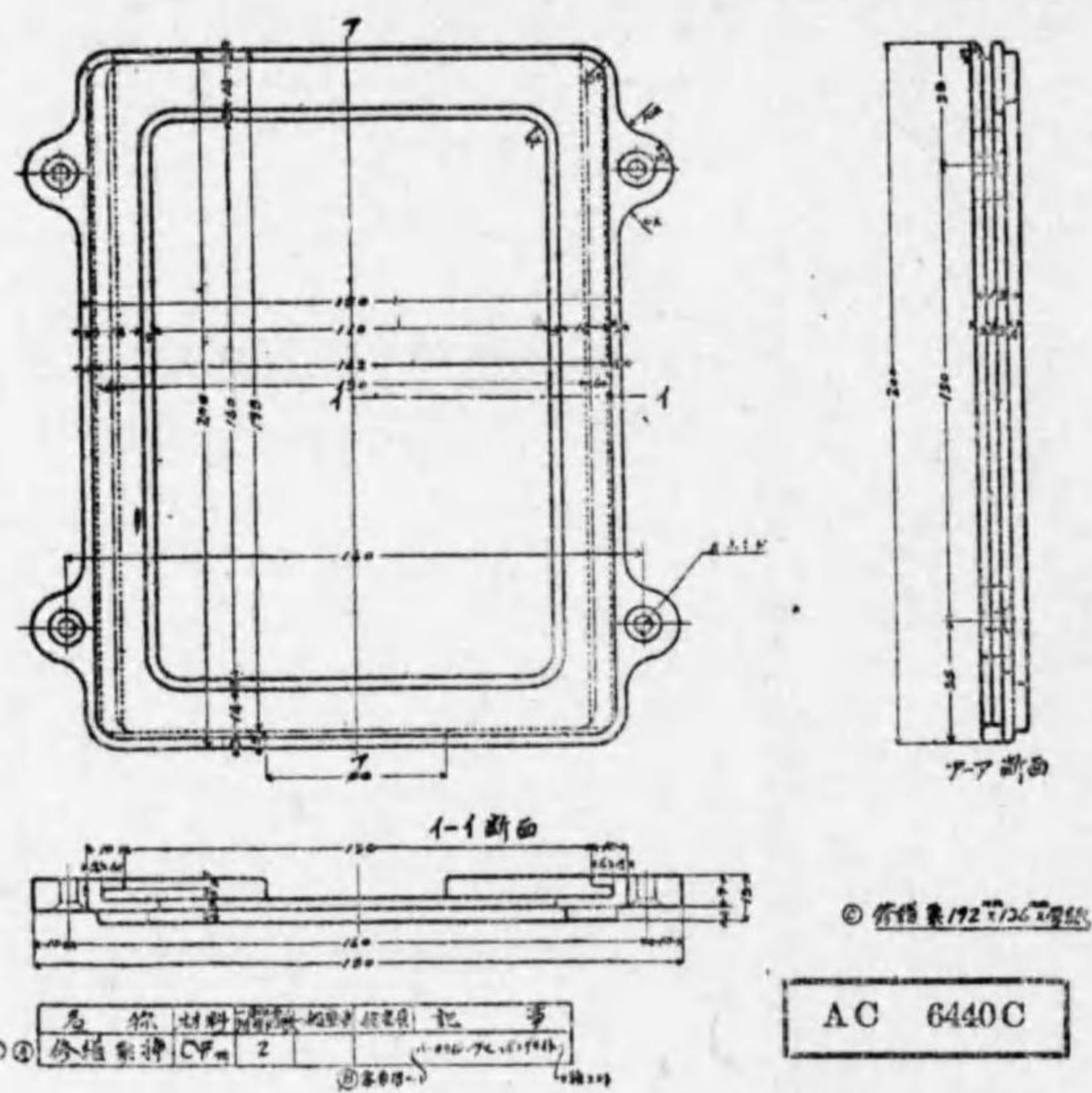


五〇

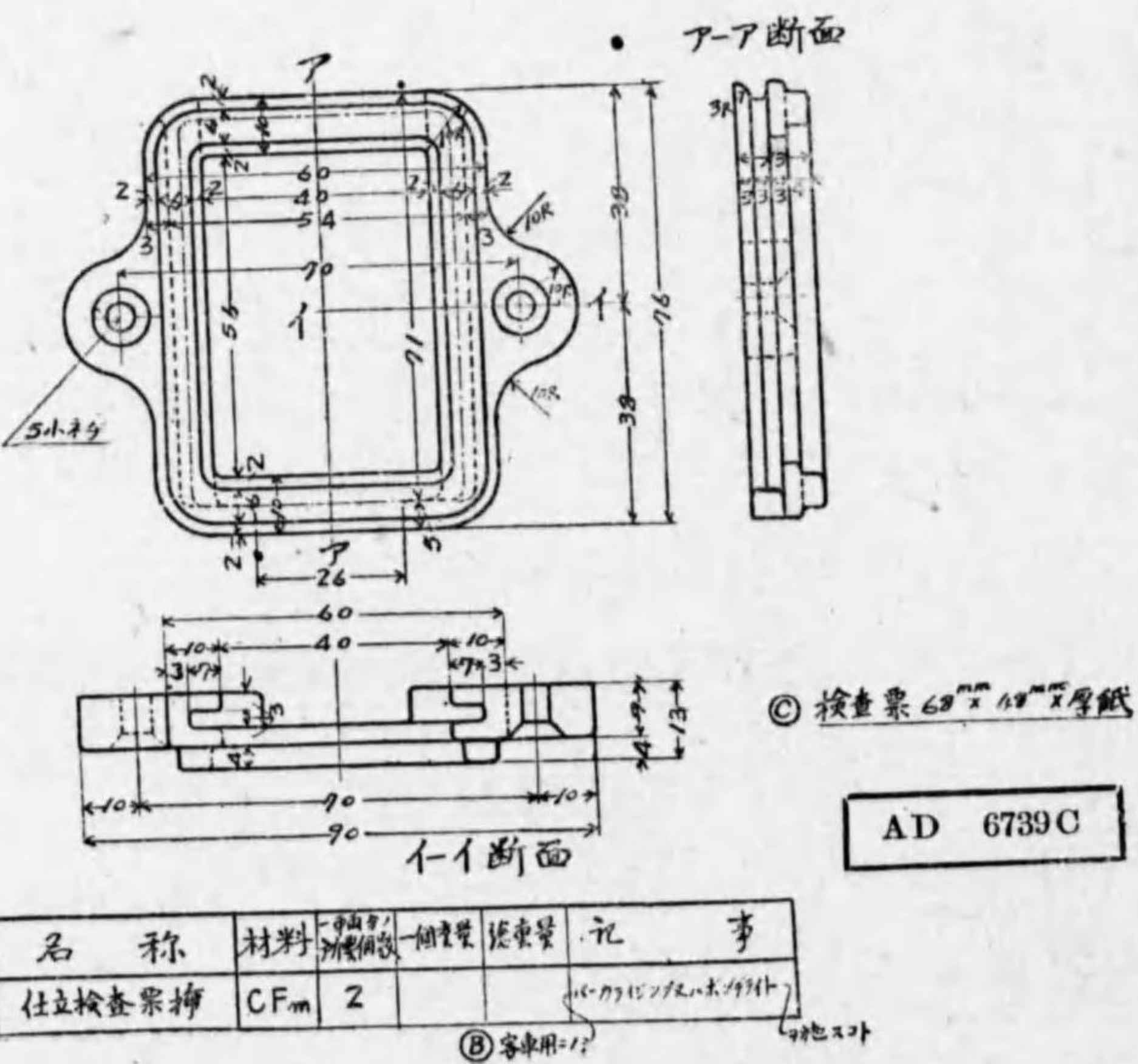
圖第一號 貨車標記文字 其ノ三



五 一

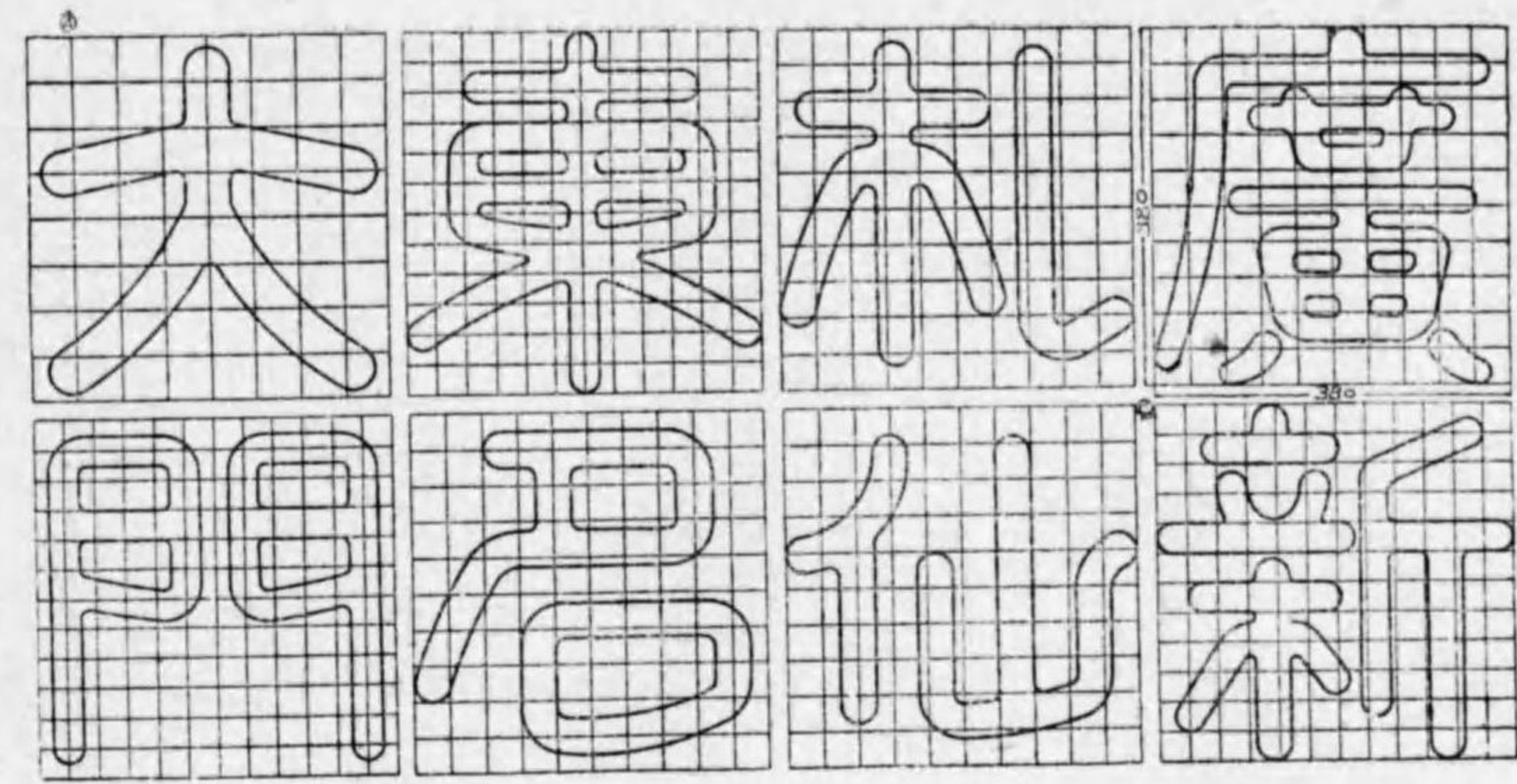


圖第一號 修繕票挿



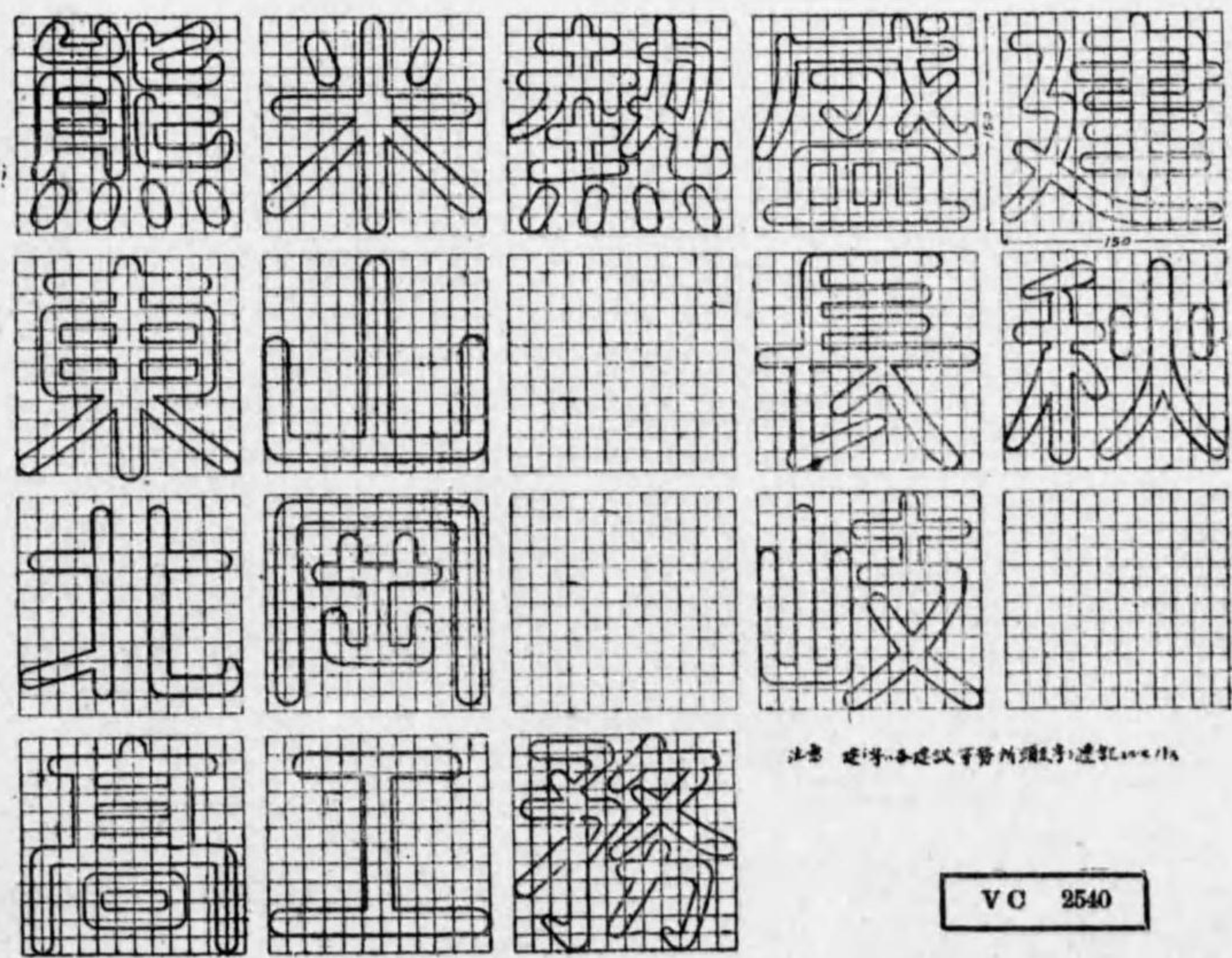
圖第一號 仕立検査票挿

五三



VB 11096 C

圖第一號 貨車標記文字 其ノ一

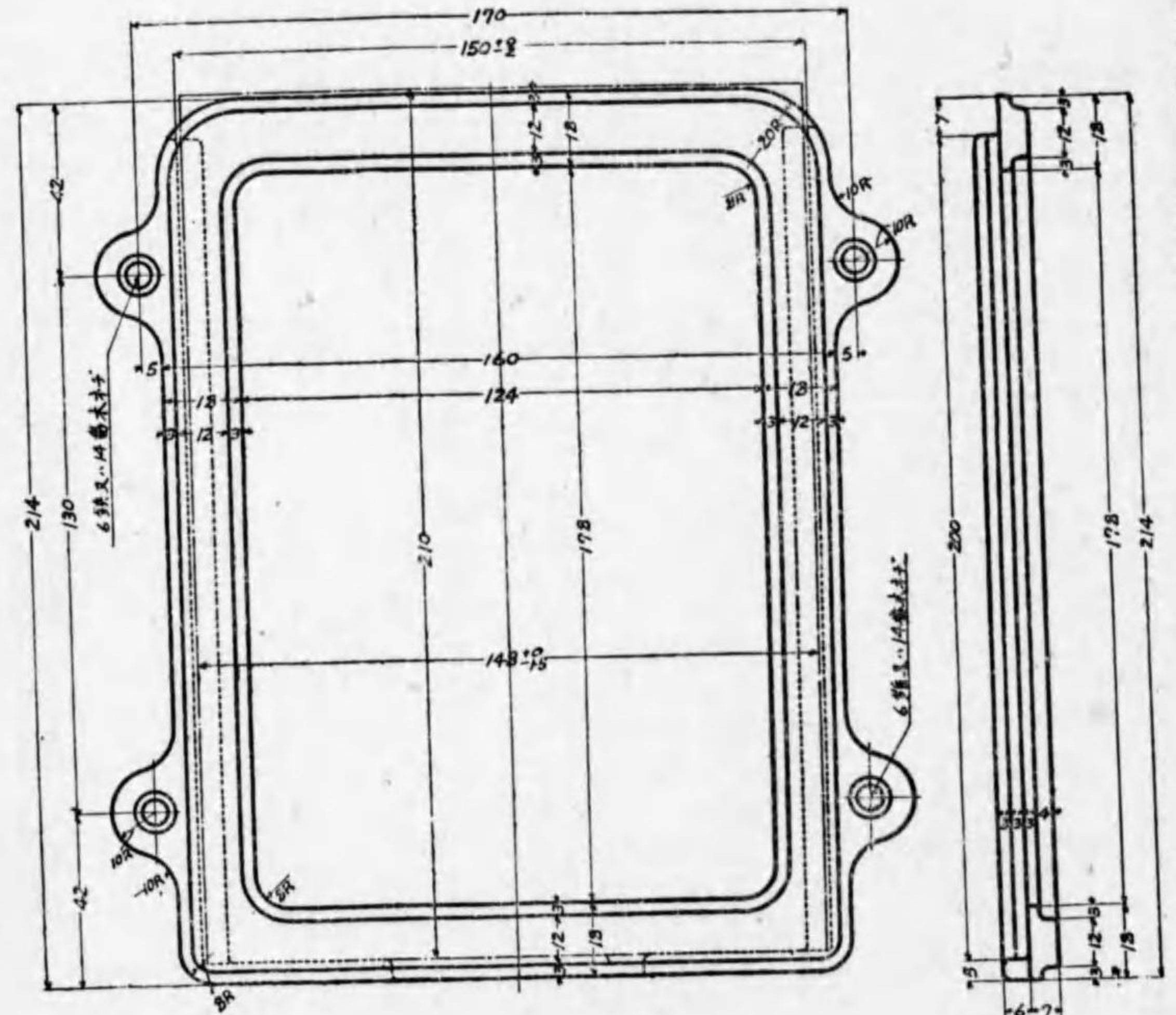


VC 2540

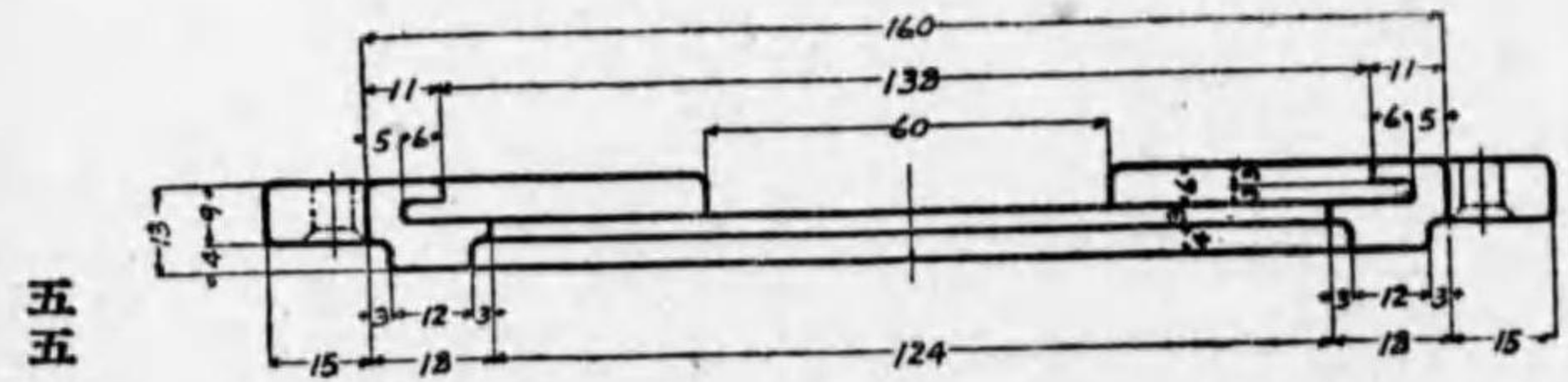
圖第一號 貨車標記文字 其ノ二

五二





圖第一號 貨車標示標牌

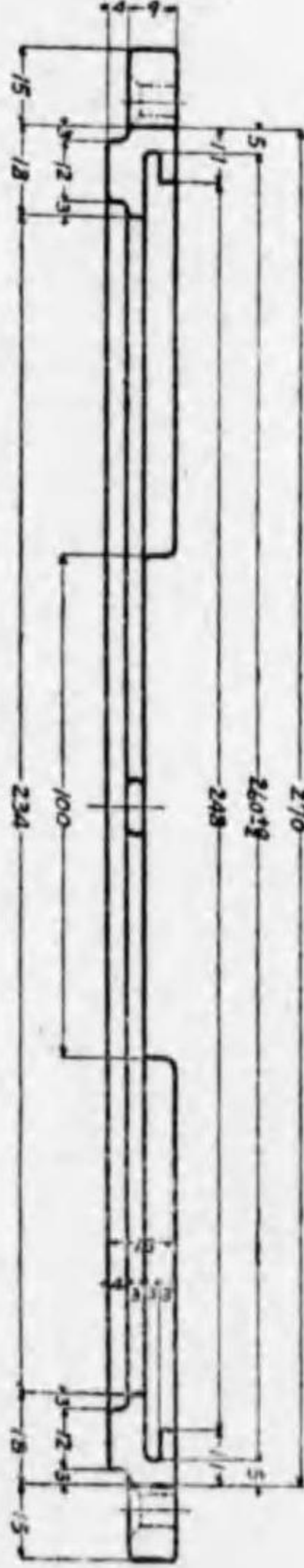


五

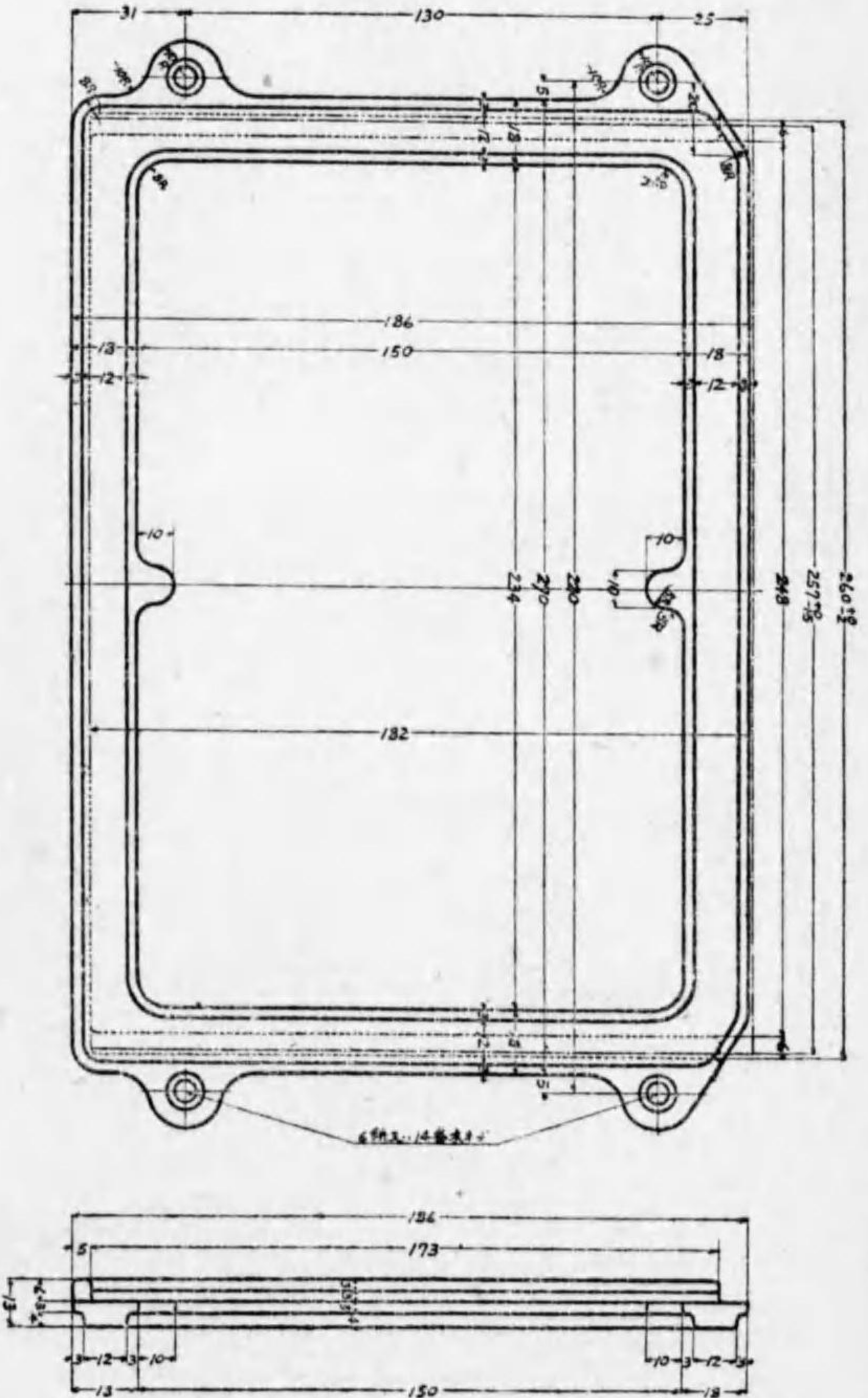
名 稱	材 料	一 個 重 量	純 重 量	記 號
貨車標示標牌	CM 28			

VC 28013

名 稱	材 料	一 個 重 量	純 重 量	記 號
貨車標示標牌	CM 28			



VC 28014



五

圖第一號 貨車標示標牌

一一、宮廷用客車ノ塗色及標記方式 (昭和四、三、一一) (達第一五二號)

宮廷用客車ノ塗色及標記方式左ノ通定ム

宮廷用客車ノ塗色及標記方式

(甲) 御 料 車

- 一 車體外部ハ暗紅色、臺枠以下ハ黒色トス
- 二 御料車ニハ車輛塗色及標記方式ニ依ル標記及標示ヲ爲サス
- 三 木製車臺枠側梁及鋼製車車體棲右下ニVB七二二九圖ニ依リ金色ニテ其ノ番號ヲ標記ス

(乙) 供 奉 車

- 一 車體外部ハ暗紅色、臺枠以下ハ黒色トス但シ木製車ノ車體ハ之ニ依ラサルコトヲ得
- 二 車體ニハ車輛塗色及標記方式第八條ニ依リ番號、定員及荷重ヲ標記シ其ノ他標記及標示ヲ爲サス定員及荷重ノ標記ハ其ノ車輛カ一等相當ノモノニハ「イ」二等相當ノモノニハ「ロ」三等相當ノモノニハ「ハ」荷物車ニハ「ニ」ノ記號ヲ附シテ爲ス
- 三 車體ニ標記スル文字ハ金色トス
- 四 木製車ニハ臺枠ニ車輛塗色及標記方式ニ依リ番號其ノ他ノ標記ヲ爲シ鋼製車ニハ車體棲右下部ニ製造所銘板ヲ附ス

一二、客貨車、電車及汽動車ノ各部分ノ位置稱呼ノ件 (大正五、一一、一四) (達第一二四二號)

客貨車、電車及汽動車各部分ノ位置稱呼左ノ通定ム

- 一 本車輛各部分ノ位置稱呼順位ヲ定ムル爲左記側ヲ車輛ノ前頭トシ該車ノ後部ヨリ前頭ニ向ヒテ左右ヲ決ス但シ車輛ノ裝置若ハ構造ガ(イ)號乃至(ニ)號ノ數號ニ該當スル場合ニハ各號中ノ先順號ニ依リ之ヲ決ス
- (イ) 一端ニ手用制動機ヲ有スルモノニ在リテハ制動

機ナキ側

- (ロ) 合造車ニ在リテハ優等車側(食堂、郵便、荷物室等ト客室トノ合造車ニ在リテハ客室側、郵便、荷物室トノ合造車ニ在リテハ郵便室側)
- (ハ) 各等全車ニシテ一端ニ便所ヲ有スルモノニ在リテハ便所ナキ側

(ニ) 車側制動機ヲ有スルモノニ在リテハリバーノ把手ノ向ト反對側

(ホ) 電車ニ在リテハ全運轉裝置ヲ完備セル運轉臺側、運轉臺ヲ有セサル附隨電車ニ在リテハ客車ノ例ニ依ル

(ヘ) 汽動車ニ在リテハ機關室側

(ト) 前各號ニ適合セサルモノハ適宜ノ側

二 本車輛各部分ハ前頭ヨリ後方ニ順次一位、二位又ハ

一三、客貨車寸法重量積載量其他算定法 (昭和七、二、二四) (達第六六號)

客貨車寸法重量積載量其ノ他算定法左ノ通定ム

客貨車寸法重量積載量其ノ他算定法

第一條 客貨車トハ昭和三年五月達第三八〇號車輛稱號規程ニ依リ定メラレタル客車(電車ヲ含ム)及貨車ヲ謂フ

第二條 空車ノ時トハ乘客、乗務員及荷物ヲ搭載セス且列車點燈用發電機及蓄電池(制御裝置ノ電源ヲ兼ヌルモノ竝ニ豫備燈用蓄電池ヲ除ク)水、燃料及列車備品ヲ含マサル場合ヲ謂フ

第三條 固定軸トハ其ノ中心線カ常ニ臺枠又ハ臺車枠ノ

三位ト稱シ左右ニ竝列セルモノ、稱呼順位ハ前頭ノ右ヲ一位同左ヲ二位トシ以下右ヨリ左ニ順次後方ニ及ホスモノトス

三 軸箱一位及二位ノ上方ソールバーニハ別ニ定ムル軸箱位置稱呼標示數字ヲ標記スヘシ

四 第一條(ト)號ニ該當スル車輛ニシテ一旦前頭ヲ定メ軸箱ノ位置ヲ標記シタル後ハ之ヲ基準トシ各部分ノ位置ヲ稱呼シ該標記ハ猥リニ變更スヘカラス

中心線ニ直角ナルヘキ車軸ニシテ特ニ設ケラレタル大ナル横遊ヲ有セサルモノヲ謂フ

(註) 三軸車ノ前後兩端ノ軸ニシテ特ニ設ケラレタル大ナル縦遊ヲ有スルモノハ其ノ中心線カ必スシモ常ニ臺枠中心線ニ直角ナラサル故之ヲ固定軸ト看做サス

第四條 固定軸距トハ一箇ノ不撓性臺枠又ハ臺車枠ニ取付ケラレタル一群ノ固定軸中最前位ニ在ルモノト最後位ニ在ルモノトノ中心水平距離ヲ謂フ

第五條 全軸距トハ前後兩端ニ在ル車軸ノ中心水平距離ヲ謂フ

第六條 ボギー車トハ二箇ノ臺車又ハ臺車群ヲ有スルモ

ノヲ謂ヒ其ノ一箇ノ臺車又ハ臺車群ノ有スル車軸ノ數カ二、三、四、、、、ナルニ從ヒ二、三、四、、、、軸ボギー車ト謂フ  
片ボギー車トハ一箇ノ臺車ト固定軸トヲ有スルモノヲ謂フ

前各項ニ該當セサルモノハ其ノ有スル車軸數カ、二、三、、、、ナルニ從ヒ二、三、、、、軸車ト謂フ  
(註) 第一項ノボギー車ニシテ一方ノ臺車カ二軸、他方カ三軸ナルトキハ之ヲ二三軸ボギー車ト謂フ

第七條 寸法ハ特ニ明記スル場合ヲ除クノ外空車(輪軸軸受金等ノ摩擦セサル場合ニ於ケル)ノトキニ於テ測ルモノトシパンタグラフ其ノ他折疊ミ得ルモノハ之ヲ折疊ミタルトキ、開戸、翼其ノ他開閉シ得ルモノハ之ヲ閉チタルトキ、柵柱其ノ他挿脱シ得ルモノハ之ヲ挿入シタルトキニ測ルモノトス但シ列車標識ハ之ヲ取附ケサルモノトス

第八條 長ハ耗、面積ハ平方米、容積ハ立方米、重量ハ噸ヲ以テ表スモノトス

第九條 最大長トハ前後兩連結器ノ連結面間ノ距離(引張装置ノ自由ナルトキニ於ケル)ヲ謂フ但シ螺旋及連環連結器ノ場合ハ前後兩緩衝器頭間距離(緩衝装置ノ自由ナルトキニ於ケル)ヲ謂フ

又ハ側ノ化粧枠、貨車ニ在リテハ棲板、側板又ハ内羽目板ノ兩内側面間ノ距離ヲ謂フ

第十六條 客車及有蓋貨車ノ車室内部ノ最大高ハ床板上面ヨリ屋根板下面(天井アルモノハ天井板下面、以下同シ)ノ最高部マテノ距離ヲ謂フ

第十七條 客車及有蓋貨車ノ車室内部ノ側ノ高トハ床板上面ヨリ長桁又ハ長桁添木上面マテノ距離ヲ謂フ

第十八條 無蓋貨車ノ側ノ高トハ床板上面(石炭車ニ在リテハ底板最低部ノ上面)ヨリ側板又ハ柵柱上面マテノ距離ヲ謂フ

第十九條 床面積トハ車室内部ノ長及幅ニ依リ算出シタル面積ヲ謂フ

第二十條 實容積トハ客車及有蓋貨車ニ在リテハ床面積ト車室内部ノ側ノ高ニ依リ算出シタル容積(但シ車掌室及冷蔵車ノ氷槽等ノ容積ハ之ヲ算入セス)ヲ謂ヒ無蓋貨車(側板ナキモノヲ除ク)ニ在リテハ床板上面又ハ底板上面、側板及棲板ノ内面竝ニ側板及棲板上縁ニ沿ヒテ描キタル面ヲ以テ圍ミタル容積ヲ謂フ  
タンク貨車ニ在リテハドームヲ除キタルタンク内部ノ容積ヲ謂フ

第二十一條 自重トハ空車ノ場合ノ重量ヲ謂ヒ 噸未満ハ二位マテ表ハシ三位ハ之ヲ二位ニ切上ク

(註) ラッセル式、回轉式雪掻車ノ如キモノニ在リテハ前部最突出點ト後部連結器ノ連結面トノ間ノ水平距離ヲ謂フ

第十條 最大高トハ車體最高部(附屬部分品ヲ含ム)ノ軌條面ヨリノ高ヲ謂フ

第十一條 最大幅トハ側部ニ於ケル最突出部ト車體中心線トノ距離ノ二倍ヲ謂フ

第十二條 車體外部ノ長トハ兩棲板ノ外側面間ノ距離ヲ謂フ但シ棲板ナキモノニ在リテハ兩端梁外側面間、タンク貨車ニ在リテハ臺枠又ハタンクノ兩端最突出點間ノ水平距離ヲ謂フ

第十三條 車體外部ノ幅トハ兩側板ノ外側面間ノ距離ヲ謂フ但シ側板ナキモノニ在リテハ柵柱ノ外側面間、側梁ノ外側面間又ハ胴板ノ外側面間ノ距離ノ中最大ナルモノヲ謂フ

第十四條 車體ノ高トハ床板上面(床面ニ荷摺木又ハ枕木アルモノハ其ノ上面、以下同シ)ヨリ客車及有蓋貨車ニ在リテハ屋根ノ頂部、無蓋貨車ニ在リテハ側板又ハ棲板ノ中高キモノノ上面マテノ距離、タンク貨車ニ在リテハ臺枠上面ヨリタンク胴板ノ上部マテノ距離、石炭車ニ在リテハ底板最低部ノ上面ヨリ側板又ハ棲板ノ中高キモノノ上面マテノ距離ヲ謂フ

第十五條 車室内部ノ長又ハ幅ハ客車ニ在リテハ棲仕切

第二十二條 氣動車、暖房車、雪掻車等ノ運轉整備重量トハ乗務員乗務シ水、燃料、道具類等ヲ積載シタル場合ノ重量ヲ謂フ

第二十三條 積載量トハ客車ニ在リテハ定員、荷重又ハ行囊數ヲ謂ヒ貨車ニ在リテハ大ナル荷重、小ナル荷重石炭荷重、貨物積載高又ハ容積ヲ謂フ

第二十四條 客車ノ定員トハ旅客ニ對スル座席又ハ寢臺ノ數ヲ謂フ但シ立席アルモノニ在リテハ座席數ト立席設備數トノ和ヲ謂フ

第二十五條 客車ノ荷重トハ荷物車及郵便車ニ積載シ得ヘキ荷物又ハ郵便物ノ制限重量ヲ謂ヒ其ノ算出ハ左ノ各號ニ依ル但シ噸未満ハ〇・七五噸以上ハ一噸ニ切上ケ他ハ之ヲ切捨ツルモノトス

一 荷物車及室内設備品ナキ締切郵便車ノ場合

$$\text{荷重 (t)} = \frac{\text{容積 (m}^3\text{)}}{6.24}$$

二 郵便取扱員ノ乗務スル郵便車及室内設備品アル締切郵便車ノ場合

$$\text{荷重 (t)} = \frac{\text{容積 (m}^3\text{)}}{6.24} - 1 \quad (\text{容積 } 24.0^3 \text{ 以上ノボギー車)}$$

$$\text{荷重 (t)} = \frac{\text{容積 (m}^3\text{)}}{6.24} - 0.25$$

第二十六條 行囊數トハ郵便車ニ積載シ得ヘキ郵便行囊ノ制限數ヲ謂ヒ其ノ算出ハ左ノ各號ニ依ル但シ小數點以下ハ四捨五入スルモノトス

一 荷物車及室内設備品ナキ締切郵便車ノ場合  
行囊數 =  $\frac{\text{容積}(m^3)}{0.014 \times 6.24}$

二 郵便取扱員ノ乗務スル郵便車及室内設備品アル締切郵便車ノ場合  
行囊數 =  $\frac{1}{0.014} \times \left\{ \frac{\text{容積}(m^3)}{6.24} - 1 \right\}$

行囊數 =  $\frac{1}{0.014} \times \left\{ \frac{\text{容積}(m^3)}{6.24} - 0.25 \right\}$   
(容積 24.0<sup>3</sup>以上ノボギー車)

行囊數 =  $\frac{1}{0.014} \times \left\{ \frac{\text{容積}(m^3)}{6.24} - 0.25 \right\}$   
(容積 24.0<sup>3</sup>未満ノボギー車又ハ二輪車)

(註) 行囊一箇ノ重量ハ十四斤トシテ算定セリ

第二十七條 貨車(準貨車及瓦斯用タンク車ヲ除ク)ノ大ナル荷重トハ積載シ得ヘキ貨物ノ制限重量ヲ謂ヒ此未滿ノ端數ハ之ヲ附セサルモノトス

(註) 單ニ貨車ノ荷重ト稱スルトキハ本條ノ大ナル荷重ヲ指スモノトス

第二十八條 貨車(タンク貨車、石炭車、大物車及準貨車ヲ除ク)ノ小ナル荷重トハ左記算式ニ依リ算出シタ

ルモノヲ謂フ但シ此未滿ハ〇・七五噸以上ハ一噸ニ切上ケ他ハ之ヲ切捨ツルモノトス

小ナル荷重 (t) =  $\frac{\text{床面積}(m^2) \times \text{車室内側ノ高}(m)}{\text{又ハ貨物積載高}(m)}$   
2.83

前項ニ依リテ算出シタル噸數カ大ナル荷重噸數ト同一ナル場合ハ本條ノ小ナル荷重噸數ハ之ヲ認メサルモノトス

特殊ノ用途又ハ構造ヲ有スル貨車ニシテ特ニ指定スルモノニ在リテハ第一項ノ算出方ニ依ラサルコトヲ得

第二十九條 石炭車ノ荷重並ニ無蓋車及無蓋緩急車ノ石炭荷重トハ之ニ積載シ得ル石炭ノ重量ヲ謂ヒ左記算式ニ依リ算出ス但シ此未滿ハ〇・七五噸以上ハ一噸ニ切上ケ他ハ之ヲ切捨ツルモノトス

石炭車ノ荷重 (t) =  $\frac{\text{床面積}(m^2) \times (\text{側ノ高}(m) + 0.15)}{\text{又ハ貨物積載高}(m)}$   
1.18

前項ニ依リ算出シタル噸數ハ第二十七條ノ大ナル荷重ヲ超エサルコトヲ要ス

第三十條 貨物積載高ハ無蓋車、無蓋緩急車、土運車(車體ノ轉倒スルモノヲ除ク)及長物車ニ積載シ得ヘ

キ床板上面ノ制限高ヲ謂ヒ左ノ通トス

床板上面ヨリ側板上面迄ノ高六〇〇耗以下ノ貨車及側板ナキ貨車(柵柱ヲ有スルボギー長物車ヲ除ク)  
一・八米

床板上面ヨリ側板上面マテノ高六〇〇耗ヲ超エ一〇〇〇耗未満ノ貨車及柵柱ヲ有スルボギー長物車  
一・一米

床板上面ヨリ側板上面マテノ高一〇〇〇耗以上ノ貨車  
一・四米  
一・五米

七六二耗軌間用貨車

第三十一條 タンク貨車ノ容積ハ第二十条第二項ニ依ルモノヲ立方米ニテ表シ小數點以下第一位ニ止メ二位以下ハ之ヲ切捨ツルモノトス但シ一定ノ貨物ニ専用スルタンク貨車ニ在リテハ右ノ容積ニ滿載シタル場合ニ於ケル貨物ノ重量(此未滿ハ〇・七五噸以上ハ一噸ニ切上ケ他ハ之ヲ切捨ツ)ハ第二十七條ノ荷重噸數ニ相當スヘキモノトス

第三十二條 落成年月日ハ試運轉終了ノ年月日トス  
第三十三條 客貨車ノ標記竝ニ形式圖、台帳、整理簿及報告書類ニ記入スヘキ寸法及重量等ハ前各條ノ規程ニ依ルモノトス

附 則

左記諸達類ハ之ヲ廢止ス  
明治四十三年十月達第八九八號 荷物室及郵便室積載荷重ニ關スル件。大正元年九月達第一四五號 客貨車寸法測定並臺帳記入法。大正二年六月達第四四號 二呎六吋軌間用貨車寸法測定並臺帳記入法。大正五年七月達第七六八號 貨車ノ標記荷重並其ノ整理手續。大正七年六月達第五七〇號 土運車ノ容積荷重整理手續。大正七年十二月達第一四六八號 無蓋貨車、同手用制動機附及無蓋緩急車ニ石炭ヲ積載スル場合ノ荷重(噸)標記方ノ件。昭和四年三月達第一五三號 無蓋貨車ニ標記スヘキ貨物積載高ニ關スル件。大正五年三月公報注意郵便車ノ荷重及行囊數算出方ノ件

# 一四、車輛換算法(拔萃)

(昭和七、七、三〇)  
(達第四、二、三號)

車輛換算法左ノ通定ム

## 車輛換算法

### 第一章 總 則

- 第一條 車輛ノ換算輻數ハ本達ノ定ムル處ニ依リ別表ノ通り之ヲ指定ス但シ七六二耗軌間用車輛ノ換算輻數ハ本達ニ準ジ鐵道局長ニ於テ之ヲ指定スベシ
- 第二條 車輛ノ換算輻數ハ自重、總重量及構造ニ依リ之ヲ定ム
- 換算輻數ヲ分チテ空車換算及積車換算トス
- 第三條 自重又ハ總重量ハ重量十噸ヲ以テ換算輻數一輛トス
- 第四條 換算輻數ハ積空何レノ場合ニ於テモ小數點以下一位迄ニ止ムルモノトス
- 第五條 車輛(宮廷用客車ヲ除ク)ニハ換算輻數ヲ標記スベシ

### 第二章 客 車

- 第六條 客車ノ空車換算ハ標記自重及構造ニ依リ之ヲ定ム但シボギー客車ニ在リテハ發電機及蓄電池取付ノ有無ニ關セズ自重ニ一噸ヲ加算スルモノトス

第七條 客車ノ積車換算ハ總重量及構造ニ依リ之ヲ定ム

但シボギー客車及電車中職用車、試驗車、教習車、展望車、食堂車及ソノ合造車ニハ積空ノ別ヲ設ケズ總テ積車ノ換算輻數ニ依ル

第八條 客車ノ總重量算出ノ方法ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 客車ノ標記自重(氣動車及暖房車ニ在リテハ運轉整備重量)ニ標記定員、標記荷重並ニ發電機及蓄電池ノ重量ヲ加算シタルモノヲ以テ總重量トス但シ食堂、喫煙室及展望室ノ定員並ニ電車、氣動車及暖房車ノ發電機及蓄電池ニ對スル重量ハ之ヲ算入セズ
- 二 標記定員二十人ノ重量ヲ以テ一噸ト看做ス
- 三 發電機及蓄電池一組ノ重量ヲ一噸ト看做ス

### 第三章 貨 車

- 第九條 貨車ノ空車換算ハ標記自重ニ依リ之ヲ定ム
- 第十條 貨車ノ積車換算ハ重量換算、普通換算及輕量換算ノ三種トシ貨車ノ總重量ニ依リ之ヲ定ム
- 貨車ノ總重量ハ標記自重ニ貨物ノ重量ヲ加算シタルモノトス但シ算入スベキ貨物ノ重量ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

一 重量換算 標記荷重ニ對スル貨物重量ノ割合

二 普通換算 同 一、〇、七

三 輕量換算 同 〇、四

但シ石炭車ハ〇、七トス

第十一條 有蓋緩急車、車掌車、控車、檢重車、操重車(ソ三〇形式ヲ除ク)及雪搔車(回轉雪搔車ヲ除ク)

ニハ積空ノ別ヲ設ケズ有蓋緩急車ニ在リテハ積車換算輻數、其他ノ貨車ニ在リテハ空車換算輻數ニ依ル

特ニ指定シタル軍需品積貨車ニ對スル換算輻數ハ別ニ之ヲ定ム

參考 軍需品積貨車ノ特殊換算輻數ニ付テハ昭和一五、五、一

四達第三三三號ヲ以テ次ノ通り定メテアル

第一條 軍需品積載貨車中特殊ノ換算輻數(以下特殊換算輻數ト稱ス)ヲ適用スヘキモノヲ別表ノ通定ム但シ特ニ重量大ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 特殊換算輻數ハ軍用ニ專用スル列車ニ連結スルモノニ之ヲ適用ス但シ右以外ノ列車ニ在リテモ特殊換算輻數ヲ適用シ得ル軍需品積貨車ヲ現車五輛以上連結スルトキハ鐵道局長ニ於テ特ニ指示シテ本換算輻數ヲ適用スルコトヲ得前項但書ノ適用力他ノ鐵道局ニモ關係ヲ及ホストキハ關係

鐵道局相互間打合ノ上之ヲ施行スヘシ

第三條 特殊換算輻數ハ必要ニ應ジ之ヲ貨車車票記事欄ニ記入スルコトヲ得

(註) 一、軍用ニ專用スル列車ニシテ貨車車票ノ使用ヲ省略スル場合ハ必要ニ應ジ古車票ヲ三角形ニ半裁セルモノヲ裏返シテ挿入シ本換算輻數ヲ記入スルコトヲ得

二、貨車車體ニハ本換算輻數ヲ標記セサルコト

(別表省略)

第十二條 重量換算及輕量換算ハ左ニ依ル

一 重量換算

二軸及三軸貨車 普通換算ニ 〇、四輛ヲ加フ

ボギー貨車 同 一、〇輛ヲ加フ

二 輕量換算

二軸及三軸貨車 普通換算ヨリ 〇、四輛ヲ減ズ

ボギー貨車 同 一、〇輛ヲ減ズ

第十三條 貨車ノ積車換算ノ適用方ハ左ノ各號ニ依ル但シ有蓋緩急車及タンク貨車ニ貨物ヲ積載セル場合並ニ

無蓋車ト一及ト二〇〇〇形式ニ石炭ヲ積載セル場合ハ普通換算ニ依ルモノトシ又石炭車ニ限リ第一號ニ該當スル貨物ヲ積載セル場合ハ普通換算、其他ノ貨物ヲ積載セル場合ハ輕量換算ニ依ルモノトス

一 重量換算 車扱ニシテ第十四條第一號ニ掲グル貨

物ノミ積載シタルモノ

二 輕量換算 車扱ニシテ第十四條第二號ニ掲グル貨物ノミ積載シタルモノ及同條第三號ニ該當スル貨車

三 普通換算 前各號以外ノ貨物積載貨車

第十四條 前條ニ依リ重量換算又ハ輕量換算ヲ適用スベキ場合ノ貨物及貨車ハ左ノ通トス

一 重量換算ヲ適用スベキ貨物  
石炭、石及石材、碎石、砂利、砂、鑛石類、銑鐵、鐵合金、鐵鋼材、銅、米、大麥、小麥、大豆、甜茶（建簣ヲ使用スルモノ）、混合飼料、鹽類、化學肥料、配合肥料、瓦、煉瓦、セメント、小麥粉、砂糖、バルブ

二 輕量換算ヲ適用スベキ貨物

竹製品、落花生（去殼ノモノヲ除ク）、藁、麥稈、麻莖、葉煙草、木ノ皮、藤杞柳、草類製品、藤杞柳製品、牧草（動力機械縮ノモノヲ除ク）、動物、航空機、航空機部分品、車輛類（車輛部分品ヲ除ク）、寒天、纖維類（機械縮ノモノヲ除ク）、養蠶用具類、荷造用品、引越荷物

三 輕量換算ヲ適用スベキ貨車  
積合車、代用車

（註） 第一號及第二號ノ貨物積載車ニ對シテハ別ニ車票ノ表示方ヲ定メ又第三號ノ貨車ニ對シテハ當該車票ニヨリ適用スベキ換算輛數ヲ區分スルモノトス

第十五條 貨車ニハ左ノ各號ニ依リ換算輛數ヲ標記スルモノトス

一 有蓋緩急車 積車普通換算輛數

二 車掌車、控車、檢重車、操重車（ソノ形式ヲ除ク）及雪掻車（回轉雪掻車ヲ除ク）空車換算輛數

三 前各號以外ノ貨車 積車普通換算輛數及空車換算輛數

第四章 機關車

第十六條 機關車ノ空車換算ハ自重及構造ニ依リ之ヲ定ム

第十七條 機關車ノ積車換算ハ運轉整備重量及構造ニ依リ之ヲ定ム但シ電氣機關車ニ在リテハ蒸氣罐ヲ有スルモノヲ除キ積空ノ別ヲ設ケズ積車ノ換算輛數ニ依ル

第五章 甲種ノ鐵道車輛

第十八條 自己ノ車輪ニ依リ運轉シ得ル鐵道車輛ヲ運送スル場合其ノ換算輛數ハ前各條ニ準ジ鐵道局長ニ於テ之ヲ指定スベシ

附 則

本達ハ昭和十七年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年一月達第四六號客貨車換算法及大正元年十二月達第四四九號機關車換算輛數ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

別 表

客 車

稱號、記號又ハ形式	換算輛數	記 事
宮 延 用 木製二軸ボギー御料車	2.5 2.5	
木製三軸ボギー御料車	4.0 4.0	
鋼製三軸ボギー御料車	4.5 4.5	
鋼製三軸ボギー供奉車	4.5 4.0	
二		
ハ、ハ7、ハニ（除5000）、ヒ、 ニ、ニ、ニ、ナ（除5010）	1.0 0.8	2292、2293、 2294號ヲ除ク
ハ2280	1.2 1.0	
ナ5010	1.8 1.2	
軸		
ヌ	1.5 1.3	
ハニ=5000	1.8 1.4	
三軸		
ナ（試驗車）	1.4 1.4	
コハ、コハニ	2.0 1.8	總重量22.5吨未滿ノモノ
コナ（職用車）	2.0 2.0	
ホニ、ホニニ、ホニ	2.5 1.8	

稱號	換算輛數	記 事
ホロハ、ホロハ7、ホロハニ、 ハ、ハ7、ハニ、ハニニ（配給車）	2.5 2.5	總重量22.5吨未滿ノモノ
ホナニ、ホナニ、ホナニニ	2.5 2.5	
ナニ、ナニニ、ナニニニ	3.0 2.0	總重量27.5吨未滿ノモノ
ナイロ、ナイロ7、ナイロニ、 ナロハ、ナロハ7、ナロハニ、 ナロ7、ナロ7ハ、ナロ7ハニ、 ナハニ、ナハニ7、ナハニニニ（配給車、救 援車）	3.0 3.0	
ナナ（職用車、救習車）	3.0 3.0	
オニ、オニニ、オニニニ	3.5 2.5	
オイ、オイ7、オイニ、オイハ7 オハニ、オハニ7、オハニニ（救 習車）	3.5 3.0	總重量32.5吨未 滿ノモノ
オイテ、オイ7、オイニ（職用車、 救習車）	3.5 3.5	
ヌ、ヌニ、ヌニニ、ヌ	4.0 3.0	
スイ7、スイ77、スロ、スロ 7、スロハ、スロハ7、スハ、スハ 7、スハ7、スハニ、スハニニ、 スハ、スハ7、スナ（救習車）	4.0 3.5	總重量37.5吨未 滿ノモノ
スイチ、スイチ	4.0 4.0	
鋼製ナニ、ナニニ、ナニニニ	4.5 3.0	
木製ナニ、ナニニ、ナニニニ	4.5 3.5	
ナイホ、ナイホ7、ナイホ77、 ナイホ77、ナイホ777、ナイホ777	4.5 4.0	總重量42.5吨未 滿

ネ、ワロネフ、ワロネロ、ワハ ユニ、ワナ(救援車)	4.5	4.5	満ノモノ 總重量47.5噸 以上52.5噸未 滿ノモノ
ワイテ、ワロシ、ワナ(試驗車)	5.0	3.5	
カニ			

氣動車

形	式	換算輛數 積車空車	記	事
キサハ40050		1.8	1.4	
キハ40300, 40320		2.0	1.8	
キハニ40800(40800)				
キハ40000, 40330, 40340, 41000, 41500		2.5	2.0	
キハニ40900				
キサハ16800				
キハ6410, 42000, 42500		3.0	2.5	
キハニ6400, 6450, 40800 (40801)				
キハニ40920				
キサハ43500		3.5	3.0	
キハ43000		4.5	4.0	
キハニ36450		5.5	5.0	

備考 形式欄ノ括弧内ハ番號ヲ示ス

ワ1300, 2200, 2300	2.4	2.0	1.6	1.2
トヲ1, 4000, 5000, 6000	2.6	2.2	1.8	1.0
ワ2500, 2900, 5000, ナ1, 10	2.6	2.2	1.8	1.4
セ50, セヲ20		1.6	1.2	0.6
セ△1, 3140, セ△ヲ1, 700		2.2	1.8	0.8
セ△4000, 4500, 6000, セ△ヲ1000		2.4	2.0	1.0
ヒ1, 100, 150, 180, 200		0.6		0.6
ヨ1, 1500, ナ1550		0.8		0.8
ワヲ1, 400, 501, 600, 7500, 7800, 21000, ≒2000		1.0		1.0
ワヲ2900, 3300, 6500, 7700, 7900, 12500, 15500, 25000		1.2		1.2
ナ1, 350, ≒1		1.4		0.6
ナ1300, ≒350, 600		1.6		0.6
ナ400		1.6		0.8
ナ600, 1100, ≒200		1.8		0.8
ナ1000, ≒10, 500		2.0		0.8
ナ900, 1600, 2000		2.0		1.0
ナ△1		2.2		0.8
ナ137/0, 1500, 1900		2.2		1.0
ナ△300		2.4		0.8
ナ1400, 1450, ナ△40, 100, 400		2.4		1.0
ナ1200		2.4		1.2
ナ△200, 600, 700, 4000, 5000		2.6		1.0
ナ△500, 800, 900		2.6		1.2

貨車

形	式	換算輛數		
		積	普通	輕量 空車
ワ1(1-3), ト85, 90, ヲ1, 390, 400		1.4	1.0	0.6
ワ10				
ト1, 251, 3300, 3600, 3750, 4000, 4300, 4500, 4700, 4900, 6000, 9900, 10000, 10200, 10300, 10800, 11000, 11400, 11450, 11500, 13600, 14300, 14500, 20000,		1.6	1.2	0.8
トヲ1, 100, ナ1, 101, ヲ1800				
ワ1(除1-3), 21, 17000, 20000, 20300, 20400, 20500, 21000 ナ1, 500, 1500		1.8	1.4	1.0
ワ1900				
ワ22000, ナ1, 100, 200, ナ1, 100		1.8	1.4	1.0
ナ1, 50, ヲ2000				
ナ1, 600, 900		2.0	1.6	1.2
ナ1, 400, 1000, 1300, 1400, 2000		2.0	1.6	1.2
ワ1, 200, 900, 1000, ナ2500		2.0	1.6	1.2
ワ21100, 21300, 21400		2.2	1.8	1.4
ト△1, 5000, 11000, 16000, 18000, 18100, 18200, 19000, 50000		2.4	2.0	1.6
ワ△1, 3500, 20000, 21000, 23000, 50000		2.4	2.0	1.6
ナ△1, ナ△1				

チサ100	2.8	2.4	2.0	1.0
ナ500		1.8		0.8
≒170		2.0		1.0
≒250, 300		2.2		1.0
ナ1700, 1800		2.6		1.4
ナ△5500		2.8		1.2
ナ550, 550, 551)		2.8		1.8
ナ550(除550, 551)		3.5		2.6
ナサ1, ナヲ100		3.0		1.0
ナヲ300		3.0		1.4
ニ10		3.0		3.0
ナサ1200		3.5		1.2
ナヲ1, ナサ400, 500, 600, 1100, 1300		3.5		1.4
ナキ2500		4.0		1.4
ナ1, 10	3.0	2.0	1.0	1.0
ナヲ1, 30	3.0	2.0	1.0	0.8
チサ1	3.4	2.4	1.4	1.0
シ△1	3.4	2.4	1.4	1.2
ワ50000	4.5	3.5	2.5	2.2
トキ1	3.8	2.8	1.8	1.2
チキ1, 300	4.0	3.0	2.0	1.2
チキ1, チキ800	4.0	3.0	2.0	1.4
シキ5, 30, 40, 80	4.5	3.5	2.5	1.6
チキ1000, 1500	5.0	4.0	3.0	1.6

備考 形式欄ノ括弧内ハ番號ヲ示ス

ワキ1	5.0	4.0	3.0	2.0
シキ20	7.0	6.0	5.0	2.4
シキ150	8.0	7.0	6.0	2.8
シキ60	8.0	7.0	6.0	4.0
シキ100	13.0	12.0	11.0	5.0
セキ1	3.5	2.5	1.2	
セキ1, 600, 1000	4.5	3.5	1.6	
キ1, 500, 800, 900	2.0		2.0	
ミキ1	2.6		1.2	
ワヲ20000, ワヲ71	2.6		2.6	
ミヲ10	3.0		1.4	
キキ3000	3.0		1.6	
キ100, 550	3.0		3.0	
キキ2500, 2600	3.5		1.4	
キキ1400	3.5		1.6	
キキ700, 1000, 2100, 3000	3.5		1.8	
キキ580	3.5		2.6	
キキ700	3.5		3.5	
キキ300	4.5		1.6	
キキ400	4.5		1.8	
キキ1900	4.5		2.2	
キキ4000	5.0		1.6	
ミキ20, キキ1, 100	5.0		2.0	
ミキ1	5.0		5.0	
キキ50, ミキ1	5.5		2.4	

ワ1	7.0	7.0
ワ20	8.5	8.5
キ600	10.0	7.0
ワ30	11.0	9.5

### 第三編 檢 査

#### 一五、客貨車検査規程 (昭和四、一〇、三 達第七八〇號)

客貨車検査規程左ノ通定メ昭和四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年五月達第四七一號客貨車検査規程ハ之ヲ廢止ス

#### 客貨車検査規程

##### 第一章 總 則

第一條 客貨車(電車及氣動車ヲ除ク以下同シ)ノ検査ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外本規程ニ依ルヘシ

(註) 客貨車ノ検査取扱等ニ付テハ左記規程參照

客貨車検査取扱心得

空氣制動機検査心得

檢重車ノ機關部検査心得

雪振車、氣動車、暖房車、操重車ノ検査、修繕其ノ他取扱方

ノ件(以上法規運轉第三章)

列車電燈用發電機及蓄電池取扱心得(法規電氣第二章)

第二條 客貨車ノ検査ノ種類及検査擔當箇所ハ左ノ通トス

一 列車検査 檢車區(機關區、車電區、檢車區)ノ支區、機關區ノ支區、車電區助役詰所、檢車區派出所、機關區檢車掛派出所及車電掛詰所ヲ含ム以下同シ)

二 仕立検査 檢車區又ハ工場

三 局部検査 檢車區又ハ工場

四 一般検査 工 場

五 臨時検査 檢車區又ハ工場

第三條 列車検査トハ發着又ハ滯留中ノ客貨車要部ノ状態及作用ニ就キ外部ヨリ行フ検査ヲ謂フ

第四條 仕立検査トハ客貨車ノ使用状況ニ應シ一定ノ期間以内毎ニ各部分ノ状態及作用ニ就キ行フ検査ヲ謂フ

第五條 局部検査トハ客貨車ノ使用状況ニ應シ一定ノ期間以内毎ニ特殊部分ノ状態及作用ニ就キ行フ検査ヲ謂フ

第六條 一般検査トハ客貨車ノ使用状況ニ應シ一定ノ期間以内毎ニ各部(列車用蓄電池、發電機、同附屬品及



電氣扇ヲ除ク)ニ亙リ各機構ノ状態及作用ニ就キ行フ  
検査ヲ謂フ

(註) 發電機附屬品トハチェンジオーバースキツチ、自動スキ  
ツチ、電燈抵抗器ヲ謂フ以下同シ

第七條 臨時検査トハ客貨車ノ一部分又ハ各部分ニ亙リ  
臨時ニ行フ検査ヲ謂フ

第八條 列車検査ヲ行フヘキ驛又ハ操車場(以下單ニ驛  
ト稱ス)及列車ハ鐵道局長之ヲ指定スヘシ但シ列車又  
ハ驛ニ依リ本検査ヲ行フヘキ検査部分ヲ限定スルコト  
ヲ得

第九條 仕立検査及局部検査ヲ行フヘキ驛ハ鐵道局長之  
ヲ指定ス

第十條 第十八條第二項、第二十二條第二項及第二十六  
條第三項ニ於ケル特殊車ハ鐵道局長之ヲ指定ス

第十一條 客貨車ノ検査ハ當該検査ノ種別ニ應シ左記ニ  
依リ之ヲ行フヘシ

一 列車検査ニ在リテハ終着驛迄ノ運轉ニ支障ナキヲ  
確認スルコト但シ已ムコトヲ得サル場合ニ限り次ノ  
列車検査驛迄ノ安全ヲ確認シ得ル程度ニ手當ヲ施シ  
之ヲ運轉セシムルコトヲ得

二 前條以外ノ検査(臨時検査ヲ除ク)ニ在リテハ當  
該検査期間ノ使用ニ支障ナキヲ確認スルコト但シ一

之ヲ行ヒ左ノ各號ヲ検査スヘシ但シ途中検査驛ニ在リ  
テハ第四號ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

- 一 連結装置、制動装置及暖房装置等ノ良否
  - 二 車軸ニ於ケル發熱ノ有無
  - 三 電氣裝置ノ良否
  - 四 水揚裝置及客車室内設備ノ良否
- 前項各號ノ外時間ノ許ス限リ容易ニ點檢シ得ヘキ部分  
ヲ検査シ尙次回検査期ノ到達セルモノナキヤニ留意ス  
ヘシ

### 第二節 仕立検査

第十七條 仕立検査ハ第九條ニ依リ指定シタル驛ニ於テ  
發送スヘキ客貨車又ハ工場ニ於テ入場中ノ客貨車ニ就  
キ之ヲ行ヒ左ノ各號ヲ検査スヘシ

- 一 連結装置ノ良否
- 二 制動装置ノ良否
- 三 輪軸及軸箱ノ良否
- 四 給油裝置ノ良否
- 五 パネ裝置ノ良否
- 六 暖房裝置ノ良否
- 七 水揚裝置ノ良否
- 八 戸、窓及其ノ他室内設備ノ良否

般検査ニ在リテハ他ノ検査ニ於テ特ニ指定シアル檢  
査部分ニシテ本號ニ依リ難キモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 検査施行ノ結果手當又ハ修理ヲ必要トスル箇  
所ヲ發見シタルトキハ前條ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十三條 客貨車ニシテ一般検査ヲ行ヒタルトキ若ハ輪  
軸、車軸受金ノ取替(前後左右ノ振替ヲ含ム)又ハ修  
理ヲ爲シタルトキハ試運轉ヲ行フヘシ

第十四條 新製客貨車ハ試運轉完了ノ日ニ於テ一般検査  
ヲ、又一般検査ヲ行ヒタル客貨車ハ仕立検査及局部檢  
査(列車用蓄電池及發電機竝ニ其ノ附屬品ヲ除ク)ヲ  
同時ニ行ヒタルモノトス

第十五條 仕立検査、局部検査又ハ一般検査ノ期限ヲ經  
過シタル客貨車(第二十六條第三項ノ客貨車ヲ除ク)

ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ一般検査期限ヲ經過シ  
タル客貨車ハ已ムコトヲ得サル場合ニ限り特ニ仕立檢  
査ヲ行ヒ青票ヲ挿入シ客車ニ在リテハ一年六箇月、貨  
車ニ在リテハ三箇年ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ之ヲ使用  
スルコトヲ得

### 第二章 検査

#### 第一節 列車検査

第十六條 列車検査ハ第八條ニ依リ指定シタル驛ニ於テ

九 電氣裝置ノ良否

十 車體及臺車ノ良否

十一 其ノ他外部ヨリ點檢シ得ヘキ部分ノ良否

第十八條 仕立検査ハ左ノ期限以内毎ニ之ヲ行フヘシ

- 一 客車 三十日
- 二 貨車(第三號ノ貨車ヲ除ク) 四十日
- 三 ワキ一形式、ワフ二〇〇〇〇形式有蓋車、ワム  
ワフ一形式、ワフ二〇〇〇〇形式有蓋緩急車 三十日

稀ニ使用スル特殊車竝ニ永ク構内ニ滞留スヘキ客貨車  
ニ對シテハ前項所定期限ニ依ラサルコトヲ得但シ其ノ  
使用ニ先チ前條ノ検査ヲ行フヘシ

第十九條 走り裝置、連結裝置及制動裝置ノ主要部分ヲ  
取替若ハ取外シ該部分ノ修理ヲナシタル客貨車又ハ列  
車用蓄電池、發電機竝ニ同附屬品ヲ新ニ裝置シタル客  
車ハ其ノ都度仕立検査ヲ行フヘシ但シ客車ニシテ檢車  
區ニ於テ取替又ハ取外シ該部分ノ修理ヲ爲シタル場合  
ハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合仕立検査受持檢車區  
以外ノ檢車區ナルトキハ其旨仕立検査受持檢車區ニ通  
知スヘシ

(註) 主要部分トハ左記ノモノヲ謂フ  
走り裝置關係、輪軸、軸箱、車軸受金、軸箱守及パネ

連結裝置關係、器體、肘、鎖錠裝置及伴板守  
制動裝置關係制動筒、ピストン、詰革及制動管

第二十條 運用中ノ客車及輸送途中ニアル荷積ノ貨車ニシテ第十八條ノ仕立検査期限ニ到達セルモノ、前條又ハ第三十二條ニ該當スルモノハ運轉ニ支障ナキコトヲ確認ノ上白票ヲ附シ客車ニ在リテハ仕立検査受持検査區所在驛ニ歸着スル迄、貨車ニ在リテハ到着驛迄運轉セシメタル後仕立検査ヲ行フコトヲ得

第三節 局部検査

第二十一條 局部検査ハ第九條ニ依リ指定シタル驛ニ於テ滞留中ノ客貨車ニ就キ之ヲ行ヒ左ノ各號ヲ検査スヘシ但シ第一號ニ限り工場ニ於テモ之ヲ行フモノトス  
一 空氣制動裝置及水揚裝置ノ良否  
二 列車用蓄電池ノ良否  
三 列車用發電機竝ニ其ノ附屬品ノ良否  
第二十二條 局部検査ハ左ノ期限以内毎ニ之ヲ行フヘシ  
一 空氣制動裝置及水揚裝置 八ヶ月  
二 列車用蓄電池 T 形 九ヶ月  
三 同 I 形 一ヶ年  
四 列車用發電機竝ニ同附屬品 一ヶ年  
稀ニ使用スル特殊車竝ニ永ク構内ニ滞留スヘキ客貨車

ニ對シテハ第一項所定ノ期限ニ依ラサルコトヲ得但シ使用ニ先テ前條ノ検査ヲ行フヘシ  
第二十三條 局部検査ヲ行フ際ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外同時ニ仕立検査ヲ行フヘシ但シ列車用蓄電池、發電機竝ニ其ノ附屬品ノ局部検査ニ在リテハ豫メ検査済ノモノト取替フルモノトス  
第二十三條ノ二 列車用蓄電池、發電機竝ニ同附屬品ニシテ改造又ハ大修理ヲ要スルモノハ同時ニ局部検査ヲ行フヘシ  
第二十四條 空氣制動裝置ノ三動弁又ハ動作弁ヲ取替ヘタル客貨車ハ其ノ都度局部検査ヲ行フヘシ但シ客車ニシテ検査區ニ於テ取替ヘタル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合仕立検査受持検査區以外ノ検査區ナルトキハ其ノ旨仕立検査受持検査區ニ通知スヘシ

第四節 一般検査

第二十五條 一般検査ハ輪軸、連結裝置、バネ裝置、制動裝置等ノ重要部分ヲ取外シ尙必要ニ應ジ各部分ヲ分解シ車輛全體ニ亙リ細密ニ検査ヲ行フヘシ  
第二十六條 一般検査ハ左ノ期限以内毎ニ之ヲ行フヘシ  
一 客車(第二號ノ客車ヲ除ク) 一年三箇月  
二 暖房車 一箇年

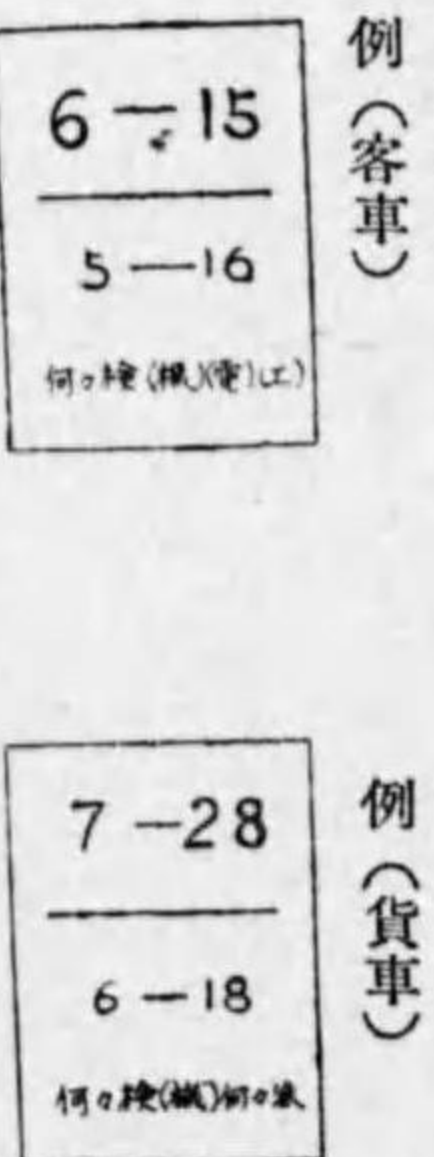
以上ニ對シ各半數以上取替ヲ要スルモノ

第五節 臨時検査

第二十八條 臨時検査ハ左ノ場合ニ之ヲ行フヘシ  
一 衝突、脱線等ノ事故ヲ生シタルトキ  
二 使用上特ニ検査ヲ必要トスルトキ  
三 營業線ト建設線又ハ省外トノ間ニ於テ客貨車ノ受授(連帶運輸契約ニ依リ直通スル場合ヲ除ク)ヲ爲ストキ

第三章 検査標

第二十九條 仕立検査(電氣裝置ヲ除ク)空氣制動裝置及水揚裝置ノ局部検査又ハ一般検査ヲ行ヒタル客貨車ニハ夫々左ノ検査標ヲ車體兩側所定ノ箇所ニ表示スヘシ但シ第二十六條第三項ニ依リ一般検査ヲ行フヘキ客貨車ニ在リテハ各種検査標ヲ省略スルコトヲ得  
一 仕立検査標



(一) 長サ六八耗、幅四八耗ノ白色厚紙ニ墨汁ヲ以テ

三 貨車(第四號及第五號ノ貨車ヲ除ク)

二年九箇月  
一箇年  
四 雪掻車及活魚車  
五 ワキ一形式及ワ五〇〇〇形式有蓋車、有蓋及無蓋緩急車、車掌車、冷蔵車、家畜車及豚積車二箇年  
鋼製客車ニシテ新製後三箇年以内ノモノハ塗粧其ノ他ノ状態良好ナルモノニ限り前項所定ノ期限ヲ一年五箇月迄延長スルコトヲ得此ノ場合次回検査期ヲ書替フヘシ  
稀ニ使用スル特殊車ハ走行二萬軒ニ達スル迄ハ客車ニ在リテハ三箇年迄、貨車ニ在リテハ五箇年迄第一項所定ノ期限ヲ延長スルコトヲ得  
第二十七條 工場ニ於テ改造又ハ修繕ヲ要スル客貨車ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ同時ニ一般検査ヲ行フヘシ  
一 要部ノ改良又ハ大修繕ヲ要スル客貨車  
二 六箇月以内ニ次回一般検査期ノ到達スル貨車  
(註) 貨車ニシテ本條第一號ニ該當スルモノハ左ノ各號ノ一以上ノ修繕ヲ要スルモノヲ謂フ  
一 側梁ノ取替又ハ位置變更ヲ要スルモノ  
二 台枠半分以上解體ヲ要スルモノ  
三 屋根、側板、妻板、床板、隅柱、側柱及長土台ノ内二種

標記スルモノトス但シ客車ニ在リテハ黑色ノ鐵製標札ヲ使用シ白ベイントヲ以テ標記スルコトヲ得

(一) 表面上半分ニ次回検査月日ヲ大形數字ノ印刷又ハ活字ニテ押捺シ中央部ニ横線一條ヲ劃シ下部ニ検査終了月日ヲ小形數字ノ印刷又ハ活字ニテ押捺シ最下部ニ検査施行場所ヲ印刷又ハ記載スルモノトス

(二) 裏面ニハ當該車ノ記號番號ヲ墨書スルモノトス

二 局部検査標  
例 (客貨車空氣制動裝置及水揚裝置)

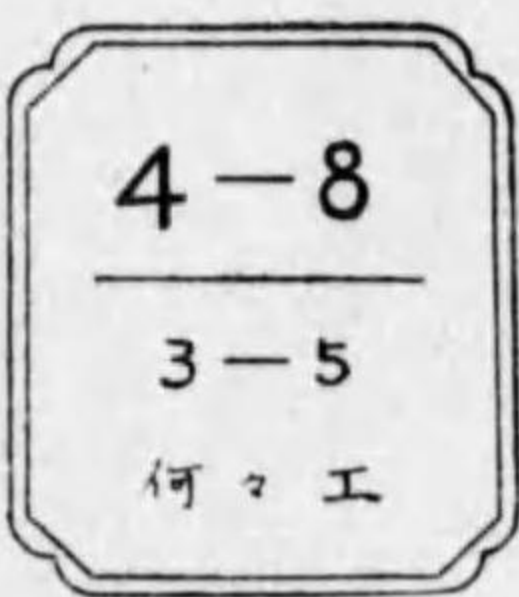


(一) 客車ニ對シテハ長サ九六耗、幅六八耗ノ鐵製標札ヲ使用シ黑色ノ地ニ白ベイントヲ以テ標記シ貨車ニ對シテハ外法長サ九六耗、外法幅六八耗ノ輪廓(線ノ太サ六耗)ヲ劃シ白ベイント(灰白色塗粧ノ車體ニ對シテハ黒ベイント以下同シ)ヲ以テ車體ニ標記スルモノトス

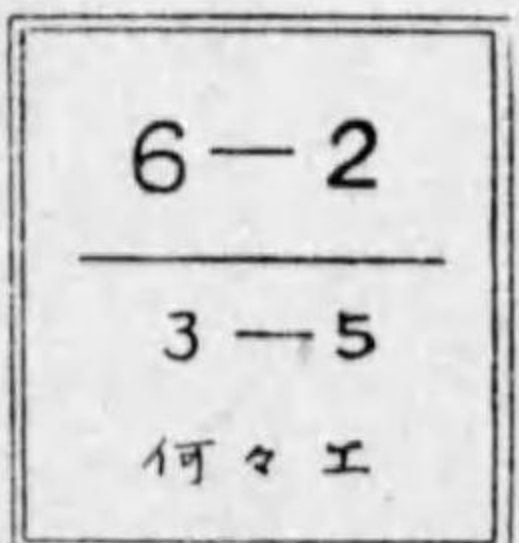
(二) 上半部ニ次回検査月日ヲ大形數字ニテ記載シ中央部ニ横線一條ヲ劃シ下部ニ検査終了ノ年月ヲ小形數字

字ニテ記載シ最下部ニ検査施行場所ヲ記載スルモノトス

三 一般検査標  
例 (客車)



例 (貨車)



(一) 外法長サ一八〇耗方形ノ輪廓(線ノ太サ九耗)ヲ劃シ白ベイントヲ以テ車體ニ標記スルモノトス但シ木製客車ニ限リ一七八耗方形ノ木製又ハ鑄鐵製ノ標札ヲ附シ之ニ記載スルコトヲ得

(二) 上半部ニ次回検査年月日ヲ大形數字ニテ記載シ中央部ニ横線一條ヲ劃シ其ノ下部ニ検査終了年月ヲ小形數字ニテ記載シ最下部ニ検査施行場所ヲ記載スルモノトス

(三) 車體ノ構造上本標寸法ニ依リ難キモノハ其ノ太サヲ縮小スルコトヲ得

電氣裝置ノ仕立検査ヲ行ヒタルモノハ蓄電池納入箱前蓋、局部検査ヲ行ヒタルモノハ列車用蓄電池ニアリテ

第三十條 各種検査標ニ表示スヘキ検査施行場所名ハ左

記ニ依リ記載スヘシ

- 一 工場ハ「工」、工場本場ト所在地ヲ異ニセル貨車職場ハ「職場」、檢車區ハ「檢」、機關區ハ「機」、車電區ハ「電」、檢車區ノ支區及機關區ノ支區ハ「支」、車電區助役詰所ハ「助」、檢車區派出所及機關區檢車掛派出所ハ「派」、車電掛詰所ハ「詰」ト略記スヘシ
- 二 検査施行場所名ハ略記スヘカラス

第三十一條 検査標ニ記載スヘキ次回検査期日ハ仕立検査ニ在リテハ検査終了ノ翌日ヨリ局部検査及一般検査ニ在リテハ検査終了ノ翌月ヨリ之ヲ起算スルモノトス

第四 章 雜 則

第三十三條 仕立検査、局部検査又ハ一般検査ヲ行ヒタルトキハ検査ノ概要ヲ記録シ置クヘシ

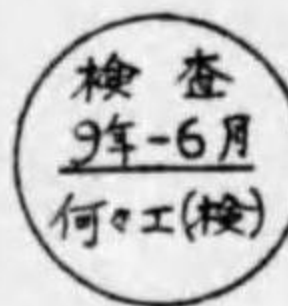
ハ電槽及蓄電池納入箱前蓋、發電機竝ニ同附屬品ニ在リテハ發電機ノ所定ノ箇所ニ夫々左記ニ依リ検査標ヲ表示スヘシ但シ列車用蓄電池十二箇又ハ二十四箇ヲ一組トシテ整理番號ヲ附シ使用スル場合ハ電槽ニ表示スル検査標ハ省略スルコトヲ得

一 仕立検査標ハ第一項第一號、蓄電池納入箱前蓋ノ局部検査標ハ第一項第二號ニ依リ表示スヘシ

二 電槽及發電機ノ局部検査標ハ所定ノ所屬標右半部ヲ代用シタル検査標ニ第一項第二號ニ準シ標記スヘシ

圧力計ノ検査ヲ行ヒタルトキハ左ノ検査標ヲ圧力計硝子内面適當ノ箇所ニ貼附スヘシ

一 圧力計検査標



(一) 徑二〇耗ノ圓形白紙ニ黑色ヲ以テ標記スルモノトス

(二) 上半部ニ検査年月ヲ記載シ中央部ニ横線一條ヲ劃シ下部ニ検査施行場所ヲ印刷又ハ記載スルモノトス

ル  
 (註) 摩耗限度、検査標準ニ付テハ左記規程及通牒参照  
 車輛用外輪ノ基本寸法、外周形状、取付装置、摩耗限度  
 客貨車用車軸ノ種類、稱號、寸法及負擔力  
 客貨車用輪軸使用手續  
 客貨車用軸箱ノ基本  
 自動連結器ノ取付位置ノ基本  
 (以上法規工作第一章)

貨車用擔バネノ基本負擔力並ニ使用手續(法規工作第四章)  
 國有鐵道建設規程第五十六條、第六十六條及第六十七條(法  
 規總則第三章)  
 貨車部分品修繕限度(昭和四年三月二十七日通牒、工作局長  
 指定)  
 自動連結器ノ摩耗限度及修繕基準(昭和七年三月十八日通牒  
 工作局長指定)

一六、客貨車検査規程及電車検査規程所定ノ検査期限ニ依ラサル  
 客貨車及電車指定ノ件 (昭和六、一〇、三) (公報通報)

建設局、工務局及官房研究所所屬ノ客貨車及電車ニシテ  
 客貨車検査規程及電車検査規程所定ノ検査期限ニ依ラサ  
 ルコトヲ得ル特種車ヲ左ノ通指定ス  
 一、客貨車検査規程第十八條第二項、第二十二條第二項  
 及第二十六條第三項ニ依リ取扱ヒ得ルモノ左ノ通トス  
 但シ二軸ボギー試験車及三軸檢重車(橋梁試驗用)ノ  
 局部検査ニ在リテハ一箇年、又二軸ボギー試験車ノ一  
 般検査ニ在リテハ二箇年ヲ以テ最大期限トス  
 客 車  
 三軸及三軸ボギー試験車(工務局所屬)  
 二軸ボギー試験車(官房研究所所屬)

貨 車  
 四軸ボギー操重車(建設局及工務局所屬)  
 三軸檢重車(橋梁試驗用)(官房研究所所屬)  
 二、電車検査規程第二十一條第二項、第二十四條第二項  
 及第二十七條第二項ニ依リ取扱ヒ得ルモノ左ノ通トス  
 但シ局部検査ニ在リテハ一箇年ヲ以テ最大期限トス  
 二軸ボギー試験制御車(官房研究所所屬)

一七、客貨車検査取扱心得 (昭和四、一〇、三) (達第七八二號)

客貨車検査取扱心得左ノ通定メ昭和四年十月十五日ヨリ  
 之ヲ施行ス  
 大正六年五月達第四七二號客貨車検査取扱心得ハ之ヲ廢  
 止ス

客貨車検査取扱心得

第一編 總 則

第一章 通 則

第一條 列車検査ハ停止中ノ客貨車(電車及氣動車ヲ除  
 ク以下同シ)ニ就キ之ヲ爲スノ外列車發着ノ際走行部  
 運轉ノ狀況ニ留意スヘシ  
 第二條 仕立検査ハ晝間ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ特別ノ  
 事情アル場合ハ此ノ限りニ在ラス  
 第三條 仕立検査ハ空車ヲ適當ナル線路ニ收容シ之ヲ行  
 フヘシ但シ貨車ニシテ貨物積載ノ儘検査シ得ルモノハ  
 此ノ限りニ在ラス  
 第四條 客車ノ仕立検査及局部検査ハ當該客車ノ屬スル  
 鐵道局ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ  
 此ノ限りニ在ラス

第二章 通 知

第五條 仕立検査施行ノ際ハ一般検査又ハ改造等ノ爲メ  
 入場所要車ナルヤ否ヤニ留意スヘシ  
 第六條 仕立検査ヲ完了シタルモノニ對シテハ青票ヲ使  
 用スルコトヲ得ス但シ客貨車検査規程第十五條ノ場合  
 ハ此ノ限りニ在ラス  
 第七條 (削除)

第八條 車軸ノ發熱シタル客貨車ヲ手當ノ上發送シタル  
 トキハ其ノ記號、番號、連結位置、發熱軸位及其ノ程  
 度ヲ機關士(電氣機關士ヲ含ム以下同シ)及車掌ニ通  
 告シ且ツ左ノ關係箇所ニ列車番號ト共ニ即時電話又ハ  
 電報スヘシ  
 一 重要旅客列車ニ在リテハ關係隣接檢車區(機關  
 區、車電區、檢車區支區、機關區支區、車電區助役  
 詰所、檢車區派出所、機關區檢車掛派出所及車電掛  
 詰所ヲ含ム以下同シ)仕立検査受持檢車區及終着驛  
 所在ノ檢車區、關係運輸事務所(鐵道局出張所ヲ含  
 ム以下同シ)並鐵道局運轉部

第二編 客貨車 (列車電燈裝置並ニ電氣暖房裝置ヲ除ク)

第三章 檢査

第一節 列車檢査

第十三條 車軸發熱ノ有無ヲ檢査スルニハ軸箱ニ手ヲ觸レテ之ヲ爲スヘシ

第十四條 連結裝置ヲ檢査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 解放挺ノ定位ニ保持セラレサルモノ

二 解放鎖又ハ鈎ノ纏レタルモノ

三 不完全連結ノ状態ニアルモノ

四 棧板カ解放鎖又ハ鈎ヲ衝ク虞アルモノ

第十五條 制動裝置ヲ檢査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ但シ途中停車驛ニ在リテハ第三號ノ檢査ヲ省略スルコトヲ得

- 一 ホース、管等カ他ノ部分ト接觸シ毀損スル虞アルモノ
- 二 制輪子ノ厚サカ使用限度ヲ超エルモノ
- 三 手ブレーキノ作用不良ナルモノ

(註) 第二號ニ付イテハ昭和八年七月十七日通牒、工作局長指

二 前號以外ノ客車ニ在リテハ關係隣接檢車區、關係運輸事務所、終着驛所在檢車區並ニ仕立檢査受持檢車區

三 貨車ニ在リテハ必要ニ應シ關係檢車區

第九條 運轉途中ニ於テ連結裝置、制動裝置、暖房裝置、電氣裝置、水揚裝置、其ノ他ノ部分ニ故障ヲ生シタル客貨車ヲ手當ノ上發送シ更ニ手當又ハ修理ノ要アル場合ハ其ノ記號、番號、連結位置及故障箇所ヲ隣接檢車區及終着驛所在ノ檢車區並ニ仕立檢査受持檢車區ニ列車番號ト共ニ即時電話又ハ電報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ必要ニ應シ當該列車ノ關係乘務員ニ通知スヘシ

第十條 前二條ニ依リ通知ヲ受ケタル隣接檢車區及終着驛所在檢車區ハ直ニ手當又ハ修理ヲ爲シ得ル様準備シ置クヘシ

第十一條 故障ノ爲客車ヲ解放シ又ハ組替ヲナシタルトキハ當該檢車區ハ其ノ記號、番號並其ノ事由ヲ始發及終着驛所在ノ檢車區、仕立檢査受持檢車區、關係運輸事務所並ニ關係鐵道局運轉部ニ列車番號ト共ニ即時電話又ハ電報スヘシ

第十二條 他局所屬客車ニ關スル重大事故發生シタルトキハ當該鐵道局運轉部ハ其ノ都度當該車所屬鐵道局運轉部ニ電報スヘシ

定ノ客貨車制輪子摩耗限度參照

參照スヘキ限度ハ左ノ通ニシテ何レモ最モ薄キ部分ニテ測定スルモノトス

一 客車 (除電車)

使用 限度 甲型 七五 乙型 七五

二 貨車 (ワキ一、ワフ二〇〇〇、ワ五〇〇〇形式ニ限ル)

使用 限度 甲型 七五 乙型 七五

第十六條 水揚裝置ヲ檢査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 管、接手、コック、弁ヨリノ漏洩

二 作用不良ナルモノ

三 コック及弁取手位置ノ不良ナルモノ

第十七條 蒸氣暖房裝置 (以下暖房裝置ト稱ス) ヲ檢査スルニハ暖房管接手、弁又ハコックヨリ漏氣ノ有無並ニ暖房ホースノ連結及蒸氣トラップ、加減器ノ作用ノ良否ニ留意スヘシ

第十七條ノ二 客車内設備ヲ檢査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 室内設備ノ破損又ハ不具合ナルモノ

二 化粧室及便所設備ノ破損又ハ不具合ナルモノ

三 戸、窓ノ破損又ハ不具合ナルモノ

第十八條 第三條乃至第十七條ノ二ニ規定シアルノ外容

易ニ發見シ得ヘキタイヤ、ボス及車軸ノ毀損、弛緩又ハ脫出ノ有無、バネ裝置、連結裝置、制動裝置各部ノ毀損、脫落ノ有無並ニ積荷状態ノ適否其ノ他ニ就キ時間ノ許ス範圍内ニ於テ檢査スヘシ

第二節 仕立檢査

第十九條 輪軸ヲ檢査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 タイヤ内面距離カ所定ノ限度ニ適合セサルモノ

二 タイヤ、ボス、車軸等ニ瑕疵、弛緩又ハ其ノ兆候アルモノ

三 止ネヂ、ボルト、止輪等ノ弛緩、脫落又ハ破損シタルモノ

四 タイヤ及フランジ摩耗シテ所定ノ限度ヲ超ユル虞アルモノ、特ニ偏摩耗セルモノ

五 タイヤノ踏面ニ於ケル擦傷面ノ長サニシテ所定ノ限度ヲ超ユルモノ

(註一) 第一號ニ付テハ國有鐵道建設規程第六十六條參照

タイヤ (タイヤナキ場合ハリム) 一對内面距離

九八八耗以上九九四耗以下、標準九九〇耗

(註二) 第四號及第五號ニ付テハ大正十四年十二月十二日達第六四號參照

一 タイヤ厚サ及輪緣厚サノ使用限度

七九

制輪子作用の有無	タイヤ取付装置		使用限度
	基本形、ギブソン式	セツトスクルー式	
作用スルモノ但シ車側制動機ノミ作用スルモノヲ除ク	マンセル式	マンセル式	二二耗
作用セザルモノ若ハ車側制動機ノミ作用スルモノ	ストラウドレー式	基本形、ギブソン式、セツトスクルー式	二五
厚ノヤイタ	ストラウドレー式	マンセル式	二二
サ	ストラウドレー式	マンセル式	二五
車輪一對ノ中心線ヨリ輪縁外側面ニ至ル距離	ストラウドレー式	マンセル式	二八
			五一六



第二十條 軸箱ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 破損シタルモノ
- 二 軸箱蓋、詰物、ボルト等ノ不良、弛緩又ハ落失シ

- 二 タイヤ踏面ニ於ケル擦傷面ノ長サノ使用限度
- 五〇耗以上ノモノニ箇以上又ハ七五耗以上ノモノ
- 三 輪縁直立摩耗ニ對スル使用限度

第二十二條 連結装置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 胴、器頭、肘、錠、錠揚、揚り止、肘ピン、解放挺、解放挺止、解放鎖及鈎、伴板、伴板守、胴受、連結器枠、バネ、摩擦子、バネ箱、滑り靴等ノ瑕疵、破損、脱落シタルモノ又ハ作用不良及異物介在ノモノ
  - 二 軌條面ヨリ連結器中心ニ至ル垂直高サニシテ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
  - 三 同一車輛ノ前後連結器中心ノ垂直高サ相互ノ差カ所定ノ限度内ニアラサルモノ
  - 四 連結器ノ各摩耗部カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
- (註) 昭和七年三月二十六日達第一七九號及昭和七年三月十八日通牒、工作局長指定ノ自動連結器ノ摩耗限度並ニ修繕基準參照
- 參照スヘキ限度左ノ通
- 一 連結器中心(連結器肘中心)ノ軌條面上高サノ限度

車輛ノ種類	車輛ノ状態		最高(耗)	最低(耗)
	空車	積車		
荷物車、郵便車及夫等ノ合造車	八九〇	八五五	八九〇	八五五
其ノ他ノ客車及貨車	八三〇	七九〇	八三〇	七九〇

八〇

- 三 給油装置及油量ノ適當ナラサルモノ及混水又ハ汚濁シタルモノ
  - 四 塵除ノ破損又ハ摩耗ノ甚キモノ
- 第二十一條 軸箱守ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ
- 一 屈曲又ハ瑕疵アルモノ
  - 二 錠、ボルト類ノ弛緩又ハ脱落シタルモノ
  - 三 軸箱控守ト軸箱下面トノ隙間カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
  - 四 軸箱守ト軸箱トノ前後方向ノ遊間カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
  - 五 軸箱守兩脚間ノ距離カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
- (註) 第三號、第四號及第五號ニ付テハ昭和四年三月二十七日通牒、工作局長指定ノ貨車部分品修繕限度參照
- 參照スヘキ貨車部分品修繕限度

件名	區修繕限度(耗)	記	事
軸箱下面ト軸箱守控上面トノ間隙	十三	空車ノ場合ノ最小限度	
軸箱守ト軸箱ノ前後遊間	八	三軸車及第六種擔バネヲ使用シタル貨車ヲ除ク	
軸箱守兩脚間ノ擴	八	(イ) 摩耗又ハ其ノ他ノタメノ擴リ(最大部ニ於テ側ル) (ロ) 第六種擔バネヲ使用シタル貨車ヲ含ム	

二 其ノ他ノ限度

件名	區修繕限度(耗)	使用限度(耗)
空車ノ場合ノ同一車輛前後連結器中心高サ相互ノ差		三〇〇
肘ト守腕内面トノ隔リ		一三〇〇
錠掛位置ニ於ケル場合		二五〇〇
肘ピンノ直徑		三八〇
肘ピン穴ノ直徑		四八〇
肘ピント肘ピン穴トノ隙間		五〇
肘ピン穴ブシノ厚サ	三〇	
伴板ノ屈曲	五〇	
引張バネヲ伴板(又ハバネ座)ノ間ニ挿入シタ場合ノバネ圧縮量	〇	
第一種座付連結器取付ピンノ直徑		四八〇
第一種座付連結器取付ピント器體ノピン穴トノ隙間		七〇
第一種座付連結器々體ニ於ケル取付ピン穴ノ直徑		五八〇

第二十三條 制動装置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意シ且ツ其ノ作用ノ良好ナルコトヲ確認スヘシ

- 一 制輪子、制輪子鈎、制輪子鈎受、制動棒、制動挺、制動梁、制動軸、制動軸鈎、制動軸鈎受、ホー

八一

ス連結器、鎖、ナット、ピン等ノ弛緩、摩耗、毀損又ハ脱落セルモノ

二 制輪子ト車輪トノ隙間ノ適當ナラサルモノ

制輪子ト車輪トノ隙間ハ手ブレーキ及車側制動機ニ在リテハ一〇耗ヲ以テ標準トス

三 制輪子ノ厚サカ所定ノ限度ヲ超ユルモノ

四 手ブレーキノネヂ棒及ガツジョンノネヂノ甚シク摩耗セルモノ又ハ其ノ下端ニアル座金及ピン等ノ不良ナルモノ

五 車側制動機挺ノ歪曲セルモノ及運轉中挺止ヲ外レル虞アルモノ

六 車側制動機挺ガイドノ毀損又ハ變形セルモノ、ピンヲ挿入シ得サルモノ及挿入シ得ルモ脱出ノ虞レアルモノ

七 車側制動機挺カ同ガイドノ二分ノ一以下ニ降下スルモノ

(註) 第三號ニ付テハ昭和八年七月十七日通牒、工作局長指定ノ客貨車制輪子摩耗限度參照

參照スヘキ限度ハ左ノ通ニシテ何レモ最モ薄キ部分ニテ測定スルモノトス

貨車(ワキ一、ワフ二〇〇〇〇、ワ五〇〇〇〇形式ヲ除ク) 區修繕限度 甲型 八耗

第二十四條 バネ裝置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 バネニ瑕疵アルモノ又ハ著シク變形セルモノ

二 胴縮、バネ釣、バネ釣受、ピン及バネ靴ノ破損、弛緩又ハ脱出其ノ他附屬品ノ毀損、脱落セルモノ又ハ不具合ノモノ

三 貨車組立狀態ニ於ケル擔バネ反リノ差カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ

(註) 第三號ニ付テハ昭和四年三月二十七日通牒、工作局長指定ノ貨車部分品修繕限度參照

參照スヘキ貨車部分品修繕限度ハ左ノ通

件名	區修繕限度(耗)	記	事
貨車組立狀態ニ於ケル左	一〇	平坦線ニ於テ左右擔バネカ同時ニ荷重ヲ受ケル如ク組立テタル狀態ニ於テ測定ス	
貨車組立狀態ニ於ケル前後及筋違擔バネ反リノ差	一五	同上	

第二十四條ノ二 軸箱守、連結裝置、制動裝置及バネ裝置ノ検査ヲ行ヒタルトキハ左ノ各號ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 貨車軸箱守摺動部ニ對シテハ廢油又ハ古グリースヲ塗布スヘシ

二 貨車連結器頭内部、錠揚、錠、肘開ケ、肘ピン、

肘ノ上下及錠トノ接觸面ニ對シテハ廢油ヲ濕リ氣アル程度トシタル糸屑又ハボロニテ油拭ヲ爲シ又滑リ靴ニ對シテハ廢油ヲ注入スヘシ

三 貨車制動機水平挺摺動部、水平挺ピン及各部ネヂ部ニ對シテハ廢油ヲ注入スヘシ

四 貨車擔バネニシテ眼孔付ノモノハバネ釣ピンニ對シテ廢油ヲ注入スヘシ

五 客車ニ在リテハ必要ニ應シ前各號ニ依リ給油又ハ油拭ヲ爲スヘシ

第二十五條 臺枠及臺車ヲ検査スルニハ各梁、隅金、トラス棒、臺車棒、釣合梁、搖枕釣、菱棒及ターインバツタル等ノ弛緩、不具合又ハ破損シタルモノノ有無ニ留意スヘシ

第二十六條 同一車輛ニ於テ空車ノ際軌條ノ上面ヨリ端梁下面迄ノ垂直高サ相互ノ差カ左右ニ於テ一五耗、前後及筋違ニ於テ二五耗ヲ超ユルモノナキヤニ留意スヘシ

第二十七條 暖房裝置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 管、ホース等ノ各接手又ハ詰物其ノ他各コツク、弁等ヨリ蒸氣ノ漏洩スルモノ

二 蒸氣トラップ、弁及加減器ノ作用不良ナルモノ

三 其ノ他各部分ニ亙リ破損又ハ脱落シタルモノ若ハ瑕疵又ハ不具合ナル箇所アルモノ

第二十八條 水揚裝置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當ナキヤニ留意スヘシ

一 各部取付狀態ノ不良ノモノ

二 管及水揚用空氣溜ノ漏洩セルモノ

三 減圧弁及空氣逆止弁調整不良ノモノ

四 縮切コツク、檢水弁、三ツ道弁及五ツ道コツク其ノ他ノ附屬品ノ不良ノモノ

第二十九條 便所及化粧室ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 排水管及排便管ノ破損、脱落又ハ閉塞シタルモノ

二 水槽及給水管、接手、コツク及弁ノ漏洩スルモノ又ハ不具合ナルモノ

第三十條 第十九條乃至第二十九條ニ規定シアル外尙左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

一 各種窓戸及戸閉金具、寢臺金具、戸止め、戸蝶番、腰掛、網棚及區分棚等ノ破損シタルモノ又ハ不具合ナルモノ

二 窓掛、蒲團、敷物類ノ破損又ハ甚シク汚損セルモノ

- 三 羽目板、床板、柱、各種梁、雨除板及屋根其ノ他車體各部ノ弛緩、破損、腐朽シタルモノ又ハ雨水ノ浸入スル虞アルモノ
- 四 幌、棧板及階段ノ破損シタルモノ又ハ不具合ナルモノ
- 五 通風装置ノ不良ナルモノ
- 六 暖爐及其ノ附屬品ノ不良ナルモノ
- 七 食堂車ノ料理用暖爐及煙突ノ状態不良ナルモノ
- 八 鋸、ボルト、ネジ類ノ弛緩、脱落セルモノ、ピン類ノ破損又ハ脱落セルモノ
- 九 車體塗粧ノ甚シク不良又ハ汚損セルモノ若ハ車體鋼製部塗粧ノ剝離セルモノ
- 十 標記ノ誤記サレタルモノ又ハ著シク汚損シテ明瞭ナラサルモノ

第三節 局部検査

第三十一條 水揚装置ノ空氣逆止弁、水揚減圧弁及逆止弁ハ之ヲ分解シテ掃除ヲ行ヒ組立テタル後其ノ作用ヲ試験スヘシ

第四節 一般検査

第三十二條 一般検査ニ在リテハ第二節及第三節ニ依ルノ外本節各條ニ依リ精細ナル検査ヲ行フヘシ

基本車軸種類	工場修繕限度(耗)	使用限度(耗)
七吨軸及七吨長軸(甲)	八四	八二

- 一 同一輪軸ニ於ケル車輪ノ直径ノ差ノ使用限度 三耗
- 同一車輛ニ用フル車輪ノ直径ノ差ノ使用限度 一三耗
- 但シ三軸車及ボギーニ用フルモノニ限リ其ノ差六耗以内
- 二 軸頭摩耗限度

第三十二條ノ二 一般検査施行ノ際ハ指定改造工事ニシテ未済ノ部分ナキヤニ留意スヘシ

第三十三條 輪軸ヲ検査スルニハ之ヲ車體ヨリ取外シ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 各車輪ノ直径ノ差カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
- 二 軸頭摩耗シテ所定ノ限度ヲ超ユルモノ又ハ各部摩耗程度ノ不同ナルモノ
- 三 軸頭ニ瑕疵アルモノ
- 四 軸頸ツバノ周邊カ摩耗シテ尖鋭トナレルモノ
- 五 車軸ノ彎曲セルモノ
- 六 車軸ノ使用方ノ適當ナラサルモノ又ハ同一車輛ニ於テ異種ノ車軸ヲ使用セルモノ

(註一) 第一號及第六號ニ付テハ昭和四年六月一日達第四四三號參照

(註二) 第二號ニ付テハ昭和四年六月一日達第四四二號參照

參照スヘキ限度ハ左ノ通

七吨長軸(乙)十吨軸及十吨長軸	九六	九四
十二吨長軸	一〇八	一〇六
準基本車軸種類	工場修繕限度(耗)	使用限度(耗)
三號軸、四號軸、五號軸、六號軸	八四	八二
七號軸	九〇	八八
八號軸	九六	九四

參考 同一車輛ニ於テ異種ノ車軸ヲ使用方ニ付昭和一〇、九、一九公報通報ニテ左ノ通特認アリタリ

一 九公報通報ニテ左ノ通特認アリタリ

本日達第八一六號ヲ以テ客貨車検査取扱心得改正セラレ同一車輛ニ於テ異種ノ車軸ヲ使用スルコトヲ禁止セラレタルカ基本七吨軸ト準基本五號軸又準基本四號軸ト同五號軸ハ當分ノ間混用差支ナキコトニ特認アリタリ

第三十四條 車軸ノ受金ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 受金ノ厚サカ所定ノ限度ヲ超ユルモノ又ハ盛金ノ不良ナルモノ
- 二 軸頸トノ遊間カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
- 三 背面突起部ノ摩耗カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
- 四 受金カ摩耗シテ側縁ニ稜ヲ生シ油膜ヲ損スル虞アルモノ

五 疵アルモノ又ハ偏耗セルモノ

(註) 大正十五年十月七日達八四五號參照

參照スヘキ車軸受金ノ限度ハ左ノ通

厚(メタルライニングナキ場合)	工場修繕限度(耗)	使用限度(耗)
ジヤナルノ長ニ對スル隙間一般用	六	一〇
同 三軸ボギー中軸用	一〇	一三
背面突起部ノ直径(突起部上面ニ於ケル最小直径)	四四	四二

第三十四條ノ二 軸箱ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 軸箱ノ使用方ノ適當ナラサルモノ
- 二 軸受金背面突起部嵌入穴ノ甚シク摩耗セルモノ

(註) 第一號ニ付テハ大正十五年十月七日達第八四五號參照

軸箱ノ使用方左ノ通

第一種	ボギー客車	七吨長軸(甲)用
第二種	ボギー客車	七吨長軸(乙)用
第三種	二軸車	七吨長軸(甲)用
第四種	二軸車	七吨長軸(乙)用
第五種	ボギー貨車	七吨長軸(乙)用



- 第六種 二軸車 十二軸長軸用
- 第七種 ボギーカー車 十二軸長軸用
- 第八種 二軸車 十二軸長軸用擔バネノ幅一〇二耗ノ場合

第三十五條 輪軸及軸箱ハ之ヲ清掃ノ上給油具ノ取替ヲ行ヒ尙塵除板ノ隙間アルモノハ取替フヘシ

第三十六條 軸箱守ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 前後、左右又ハ筋違ノ距離ガ不同ナルモノ
- 二 兩脚ノ取付カ臺枠ニ對シ垂直ナラサルモノ
- 三 軸箱守脚部ノ厚サカ所定ノ限度ヲ超ユルモノ

(註) 第三號ニ付テハ昭和四年三月二十七日通牒、工作局長指定ノ貨車部分品修繕限度参照

參照スヘキ限度左ノ通

第三十七條 連結装置ヲ検査スルニハ之ヲ分解シ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 引張バネ、尻ピン、枠接手ピン、連結器枠、伴板、伴板守、摩擦子、輪バネ及バネ箱等ノ變形、瑕疵、毀損、腐蝕又ハ甚シク摩擦セルモノ
  - 二 滑リ靴カ甚シク變形又ハ摩擦セルモノ
- 連結装置ノ検査ヲ行ヒタルトキハ輪バネノ間ニ充分給油スヘシ

件名	工場修繕限度(耗)	使用限度(耗)
連結器肘中心ノ軌條面上ノ高サ	八六五〇〇	
荷物車、郵便車及夫等トノ場合	八四五〇〇	
其ノ他ノ客車及貨車空車ノ場合		三三〇〇〇
空車ノ場合ノ同一車輛前後連結器中心高サ相互ノ差	二〇〇〇	三三〇〇〇
ボギーカー車	一五〇〇	三三〇〇〇
肘ト守腕内面トノ隔リ	二四七〇〇	二一三〇〇〇
肘開位置ニ於ケル場合	二四七〇〇	二一三〇〇〇
肘頭部ノ引張接觸面ノ摩擦量	七五〇〇	
柴田及坂田式	三五〇〇	
アライアンス及シャロン式	三五〇〇	
最短掛位置ニ於ケル守腕内面トノ最短掛ニ於テ	三〇〇	
肘ト肘座トノ隙間	一〇〇	
肘尾端ト錠トノ接觸面摩擦量	三〇	
錠ノ肘尾端接觸面ノ摩擦量	二〇	
體內懷(錠接觸面)ノ摩擦量	三〇	
肘ピンノ直徑	四〇〇	三八〇
肘ピン穴ノ直徑	四五〇	四八〇

(註) 第一項第一號ニ付テハ昭和七年三月十八日通牒、工作局長指定ノ自動連結器ノ摩擦限度及修繕基準參照

參照スヘキ摩擦限度左ノ通

肘ピント肘ピン穴トノ隙間	三〇	五〇
肘ピン用ブシユ嵌入穴ノ内徑	五六〇	
肘ピン穴ブシユノ厚サ	四五	
連結器胴面ノ摩擦量	六〇	
胴受厚サノ摩擦量	三〇	
伴板ノ屈曲	三〇	
伴板下部ノ摩擦量	五〇	
伴板厚サノ摩擦量	二〇	
伴板受厚サノ摩擦量(片面ニ於テ)	三〇	
伴板ノ枠止ト枠止間ノ距離	一一七〇	
引張バネノ高サ(無荷重ノ場合)	一九六〇	
引張バネヲ伴板(又ハバネ座)ノ間ニ挿入シタ場合ノバネ圧縮量	二〇	
引張バネ枠厚サノ摩擦量(片面ニ於テ)	三〇	
枠ノ側面(伴板枠止又ハ伴板守接觸部)ノ摩擦量	三〇	
枠ノ底座ト胴尻間ノ距離	二八五〇	
伴板守ト前後伴板挿入部ノ距離	二八九〇	
伴板ト伴板守ノ隙間	七〇	
解放テコ平打部トテコ止トノ隙間	四〇	

第一種座付連結器取付ピンノ直徑	五〇〇	四八〇
第一種座付連結器取付ピント器體ノピン穴トノ隙間	四〇	七〇
第一種座付連結器々々體ニ於ケル取付ピン穴ノ直徑	五五〇	五八〇
第一種座付連結器座ニ於ケル取付ピン穴ノ直徑	五八〇	
第二種座付連結器々々體引張耳ノ摩擦量(片面ニテ)	六〇	
第二種座付連結器座引張耳穴ノ摩擦量	一〇〇	
座付連結器座胴受部ノ摩擦量	六〇	
引張摩擦裝置		
枠ノ厚サノ摩擦量	五三〇	
伴板ノ厚サノ摩擦量	五三〇	
枠ノ胴尻ト枠尻間ノ距離	三三〇	
前後伴板守間ノ距離	三〇	
伴板守ト伴板(又ハバネ箱)トノ隙間		
接手付枠		
ピンノ直徑	五五〇	
ピン穴ノ直徑	五三〇	
接手付ト枠トノ隙間(上下方向ニ於テ)	五〇	

第三十八條 制動裝置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當ス

- 一 棒、挺、梁、釣及ピン等ハ之ヲ車體ヨリ取外シ屈曲、瑕疵、毀損、腐蝕ノ爲使用ニ適セサルモノ又ハ摩擦ノ爲所定ノ限度ヲ超ユルモノ

- 二 制輪子カタイヤニ密着セサルモノ又ハタイヤヨリ喰出ス虞アルモノ
- 三 制輪子カ常ニタイヤニ接觸セルモノ
- 四 制輪子釣ノ傾キカ過大ニシテ制輪子カ捲上ル虞アルモノ

(註) 第一號ニ付テハ昭和四年三月二十七日通牒、工作局長指定ノ貨車部分品修繕限度參照  
參照スヘキ貨車部分品修繕限度左ノ通

件名	工場修繕限度(耗)
制動梁端(制輪子及同吊嵌入部)直徑ノ摩擦量	三
制動軸直徑ノ摩擦量	三
制動軸受穴ノ摩擦量	三
制動軸頸ト受トノ遊間	六
制輪子吊上部ピン穴ノ摩擦量	三
制輪子吊下部制動梁軸穴ノ摩擦量	四
基礎制動機各部ピン直徑ノ摩擦量	二
同上各部ピントピン穴ノ遊間	五
手用制動ネチ棒及ガジヨシネチ山厚サ	三

第三十九條 バネ装置ヲ檢查スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

擔バネ胴縮メトバネ座トノ間ニ挾ムライナーノ厚サ	一〇 使用シ得ル最大限度
擔バネ靴厚サノ摩擦量	五 摩擦ノタメ段ヲ生シタル場合ハ五耗以下ニテモ手當スルコト

第四十條 臺枠ヲ檢查スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 二軸及三軸貨車ノ臺枠ニシテ換レノ甚シキモノ
- 二 各梁及其ノ取付部ノ弛緩、腐蝕、破損又ハ變形セルモノ
- 三 トラス棒、束柱、鋸及ボルト類ノ弛緩、破損、腐蝕又ハ屈曲セルモノ

第四十一條 臺車ヲ檢查スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 心皿、側受、搖枕、バネ釣、釣合梁座、軸箱守及之等ニ附帶スルピン、ボルト並ニコツター類ノ摩擦、瑕疵又ハ毀損シタルモノ
- 二 臺車枠、菱枠及附屬鋸並ニボルト類ノ毀損、屈曲又ハ弛緩セルモノ
- 三 側受、中心ピン及搖枕止其ノ他各部ノ遊間適當ナラサルモノ

第四十二條 車體ヲ檢查スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 反リニシテ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
  - 二 使用方ノ適當ナラサルモノ
  - 三 取付方ノ偏倚又ハ傾斜セルモノ
  - 四 バネ板、バネ釣、バネ釣受、胴縮、バネ座、バネ靴、ピン等ノ腐蝕、瑕疵、毀損、弛緩、變形セル爲使用ニ適セスト認メラルルモノ又ハ摩擦ノ爲メ所定ノ限度ヲ超ユルモノ
- (註) 第一號、第二號及第四號ニ付テハ昭和五年十一月十八日達第九八七號及同日達第九八八號並ニ昭和四年三月二十七日通牒、工作局長指定ノ貨車部分品修繕限度參照  
參照スヘキ工場修繕限度左ノ通

件名	工場修繕限度(耗)	記事
反リ(荷重二種ノ時)	(十) 三 (六) 三	荷重ヲ増シツツアル場合ニ測定ス
胴縮ノ片寄	右左	
頂板トバネ靴ト接觸スル部分ノ摩擦	頂板ノ厚サノ半分	
目玉穴ノ摩擦(直徑ニ於テ)	二・五	
擔バネ胴縮トバネ座トノ遊間	六	
貨車組立狀態ニ於ケル左 右擔バネ反リノ差	八	平坦線ニ於テ左右擔バネカ同時ニ荷重ヲ受クル如ク組立タル狀態ニ於テ測定ス
貨車組立狀態ニ於ケル前後及筋違擔バネ反リノ差	一三	

- 一 屋根、羽目板、床板、柱、長土臺及根太等ノ腐朽、弛緩、破損又ハ甚シク變形セルモノ
- 二 屋根張防水布ノ龜裂又ハ剝離等ノ爲雨水浸入ノ虞アルモノ
- 三 室内、化粧室及便所等ノ諸設備ノ不具合ノモノ、汚損又ハ破損セルモノ
- 四 車體各部塗粧ノ汚損、褪色又ハ剝離セルモノ
- 五 窓、引戸、開戸及煽戸ノ開閉不具合ノモノ又ハ建付不良ノモノ
- 六 貨車羽目板、床板等ノ龜裂又ハ隙間ノ甚シキモノ
- 七 貨車車體各部ノ金具カ所定ノ限度ヲ超ユルモノ

(註一) 第一號、第二號、第五號及第六號ニ付テハ昭和九年三月十四日通牒、工作局長指定ノ貨車修繕基準參照  
(註二) 第四號ニ付テハ昭和十年三月十九日通牒、工作局長指定ノ鋼製客車外部塗粧修繕基準參照  
(註三) 第七號ニ付テハ昭和四年三月二十七日通牒、工作局長指定ノ貨車部分品修繕限度參照  
參照スヘキ貨車部分品修繕限度左ノ通

件名	工場修繕限度(耗)	記事
有蓋貨車引戸レールノ摩擦量	二	(イ) 戸ヲ閉メタル位置ニ於ケル戸車停止部 (ロ) 上部レールニ對シテハ上部レールニ對有スルモノニ限ル

引戸覆ノ被リノ深サ	二〇	戸ヲ閉メタル位置ニ於テ戸ヲ覆フ最小限
戸車心棒ト戸車穴ノ遊間	三	
戸車直徑ノ摩耗量	五	
引戸ラツチピントピン穴ノ遊間	五	
無蓋車煽戸及開戸ピン直徑ノ摩耗量	四	
同上	四	
無蓋車煽戸ピン止口ツクノ掛リ(十五輛車)	二〇	

第四十三條 暖房装置ヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當ス

ルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 ホース帶、管、肘接手及締付部ノ損傷又ハ腐蝕シタルモノ竝ニ管膨脹ノ餘地ナキモノ
  - 二 蒸氣トラツプ、加減器、加減コツク及弁内部ノ不具合ナルモノ
  - 三 管ノ保温装置ノ不良ナルモノ
  - 四 圧力計及寒暖計ノ正確ナラサルモノ
- 暖房装置ハ每平方米ニ付五・五瓦ノ蒸氣圧力ニ依リ之ヲ試験スヘシ
- 第四十四條 水揚装置ヲ検査スルニハコツク及弁ヲ分解シ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意シ且ツ組立テ

- タル後ハ其ノ作用ヲ試験スヘシ
- 一 弁及弁座ノ氣密不良ナルモノ
  - 二 バネ彈力ノ不適當ナルモノ
  - 三 ダイヤフラム其ノ他ノ部分ニシテ不良ナルモノ
  - 四 水槽キセ及管ノ保温装置ノ不良ナルモノ
- 第四十五條 各部ボルト及ピンヲ検査スルニハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ
- 一 挿入方違方ノモノ
  - 二 長サノ適當ナラサルモノ
  - 三 割ピン及割コツクノ開キ方適當ナラサルモノ

(註) ドアガイド及戸掛金取付ボルト以外ノ各部ボルト及ピンハ已ムコトヲ得サル場合ノ外内方ヨリ外方ニ向ヒ挿入スルヲ原則トス

- 第四十五條ノ二 雪掻車、活魚車、豚積車、冷蔵車ヲ検査スルニハ第十九條乃至第四十五條ニ依ルノ外左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ
- 一 翼、羽根車及フランジヤ等ノ破損、腐朽セルモノ又ハ不具合ナルモノ
  - 二 空氣筒、空氣管及同コツク類ノ不具合ナルモノ
  - 三 水槽、氷槽及魚槽ノ腐蝕セルモノ、漏洩ノ虞アルモノ又ハ汚損セルモノ
  - 四 排水管及蓋ノ腐蝕、破損又ハ脱落セルモノ

#### 第四章 注油及給油装置

- 五、水揚ポンプノ機能ノ完全ナラサルモノ
- 第四十五條ノ三 タンク車ノタンクヲ検査スルニハ胴板、鏡板等ニシテ甚シク腐蝕セルモノ又ハ漏洩ノ虞アルモノナキヤニ留意スヘシ
- 第四十五條ノ四 計器類ハ圧力計試験器其ノ他ニ依リ其ノ正否ヲ検査スヘシ
- 第四十六條 第十九條乃至第四十五條ノ四以外ノ部分ニ就テハ適當ノ検査ヲ行フヘシ

#### 第五節 臨時検査

- 第四十七條 臨時検査ニ在リテハ必要ニ應シ列車検査、仕立検査、局部検査又ハ一般検査ニ準據シタル検査ヲ行フヘシ
- (註) 大正十三年十二月二十日達第九一三號運轉取扱心得第二百二十七條參照
- 第二百二十七條 車輛脱線又ハ線路破損等ノ事故アリタル場合ハ左ノ係員ノ検査ヲ經ルニ非サレハ該車輛又ハ線路ハ列車ノ運轉ノ爲ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 車輛ニ在リテハ機關區長、電車區長、檢車區長又ハ區長ノ命シタル者
- 線路ニ在リテハ保線區長、電力區長、通信區長又ハ區長ノ命シタル者

- 第四十八條 仕立検査ヲ行ヒタル客貨車ノ軸箱ニ對シテハ給油装置ノ状態、油量及油ノ汚濁又ハ混水ノ有無ヲ検査シ必要ニ應シ其ノ補給又ハ取替ヲ爲スヘシ
- 第四十九條 列車検査ノ際ニ於テハ發熱手當ノ場合油量ノ著シク減少セルコトヲ發見シタル場合又ハ特別ノ場合ノ外注油スヘカラス
- 第五十條 給油装置ニ使用スル糸屑ハ其ノ使用ニ先チ純ヲ解キ塵埃ヲ取除キ充分之ヲ乾燥セシメタル後二十四時間以上油ニ浸シ置クヘシ
- 第五十一條 給油装置ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ軸箱ニ填充スヘシ
- 一 糸屑ノ含油量ハ糸屑一瓦ニ對シ約三・五瓦ノ程度トシ餘分ノ油ハ之ヲ取去ルヘシ
  - 二 糸屑ヲ軸箱後部ニ填充スルニハ緩キ繩狀ト爲シ密ニ填メ込ミ塵埃ノ浸入及油流出ヲ防クヘシ
  - 三 中央部ノ糸屑ハ之ヲ軸頸ノ中心線ヨリ低ク適度ニ填充スヘシ
  - 四 軸箱ノ前部ニハ小枕ヲ使用シ中央部糸屑ノ逸出ヲ防止シツバヨリ奥ニ押込ムヘカラス
  - 五 油ヲ含ミタル糸屑詰込量ノ標準ヲ左ノ通りトス

軸箱種別	使用車軸	詰込量
第一種	基本七軸、基本七軸長軸(甲)	二・二疋
第二種	基本十軸、基本十軸長軸、基本七軸長軸(乙)	二・九疋
第三種	基本十二軸長軸	三・一疋

**第五章 車軸發熱手當**

第五十二條 車軸發熱ヲ發見シタル場合ニハ第五十三條乃至第五十六條ニ依リ處理スヘシ但シ火藥類其ノ他引火シ易キ貨物ヲ搭載セル貨車ニ在リテハ發熱程度ノ如何ニ拘ラス之ヲ解放スヘシ

第五十三條 車軸發熱(軸箱ニ手ヲ觸レ得ル程度)ノ場合ニハ相當手當ノ上軸箱ノ見易キ箇所ニ白墨ヲ以テ×印ヲ附シ青票ヲ挿入シテ發車セシムヘシ

第五十四條 車軸強熱(軸箱ニ手ヲ觸レ得サル程度)ノ場合ニハ出來得ル限り徐々ニ冷却シタル後油及不良ノ給油装置ヲ取替ヘタル上前條ノ處置ヲ爲シテ發車セシムヘシ

第五十五條 車軸激熱(發煙又ハ發火)ノ場合ニハ之ヲ列車ヨリ解放スヘシ但シ其ノ狀態カ尙運轉ニ耐ユル見込アルモノニシテ特別ノ事情アルモノ又ハ終着驛近距離ナルモノ等ニ對シテハ此ノ限りニ在ラス

第五十六條 車軸ノ強熱又ハ激熱シタルモノヲ手當ノ上發車セシムルニ當リ途中手當ノ必要アリト認メタル場合ニハ檢車掛ヲシテ相當區間護送セシムヘシ

**第六章 (削 除)**

第五十七條乃至第六十六條(削除)

**第七章 暖房装置ノ検査及取扱**

第六十七條 暖房装置ハ其ノ使用開始ニ先チ檢車區又ハ工場ニ於テ受持車輛ニ對シ暖房ホースノ取付ケヲ完了シ所定圧力ノ通氣試験ヲ行ヒ各部ノ完全ナルコトヲ確認スヘシ

(註) 昭和四年十月三日達第七八三號參照

參照スヘキ條文左ノ通

第二條 暖房器ノ使用期間ハ左ノ通トス

北 海道 自十月一日 至翌年五月三十一日  
 東北線、奥羽線、陸羽線、羽越線、信越線、磐越線、北陸線、高山線、中央線、山陰線 自十月一日 至翌年五月二十日

九州線 自十月二十日 至翌年四月三十日

其ノ他ノ線 自十月二十日 至翌年五月十日

鐵道局長ハ氣温ノ高低ニ依リ前項ノ期間ヲ伸縮シ又ハ使用時間ヲ限定スルコトヲ得此ノ場合列車カ二鐵道局以上ニ跨リテ運轉スルトキハ關係鐵道局長ニ於テ協議ノ上施行スヘシ

第三條 機關車、暖房車又ハ暖房豫熱裝置ヨリ列車ニ供給スヘキ蒸氣ノ最高圧力ハ一平方糎ニ付五・五疋トス

第六十八條 始發驛ニ於テハ機關車又ハ暖房豫熱裝置ヨリ列車ニ送氣スルニ先チ各車輛ノ通風窓其ノ他ノ窓戶ヲ閉シ蒸氣主管附屬閉塞弁ヲ全開シ加減弁ハ閉鎖シ置クヘシ

蒸氣カ全列車ノ蒸氣主管ニ貫通シタル場合ニハ最後部ノ車輛ノ閉塞弁ヲ閉ツヘシ但凍結ノ虞アル場合ニ於テハ少量ノ蒸氣ヲ噴出セシムル程度ニ之ヲ開クコトヲ得次ニ其ノ最後部車輛ノ加減弁及大氣圧式暖房器(以下單ニ大氣圧式ト稱ス)ニ在リテハ加減コックヲ全開シテ車室内ヲ温メ漸次之ヲ前部車輛ニ及ホスヘシ但シ之ニ依リ難キ場合若ハ列車ノ後部ヨリ送氣スル場合ハ此ノ限りニ在ラス

蒸氣ヲ放熱管ニ供給シタル後高圧式暖房器(以下高圧式ト稱ス)ニ於テハ蒸氣トラツプ、大氣圧式ニ於テハ自動加減器ノ作用ニ就キ注意スヘシ

排水弁ハ蒸氣ヲ通シタル後列車ノ後部ヨリ之ヲ開キテ凝結水ヲ排出シ蒸氣噴出シタルトキ之ヲ閉ツヘシ但シ凍結ノ虞アル場合ニ於テハ少量ノ蒸氣ヲ噴出セシムル程度ニ之ヲ開クコトヲ得

第六十九條 高圧式ニ於テ蒸氣トラツプヨリ凝結水ヲ排出セサルモノ又ハ排出後蒸氣噴出シテ自動的ニ停止セサルモノアルトキハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ

- 一 加減ネヂノ加減不良ナルモノ
  - 二 ダイヤフラム故障ノタメ膨脹收縮不能ナルモノ
  - 三 弁座ト弁又ハダイヤフラムトノ適合不良ナルモノ
  - 四 バネノ作用不能ナルモノ
  - 五 塵コシカ湯垢、塵埃等ノタメ閉塞シ通氣不良ナルモノ
  - 六 凍結ノタメ通氣不良ナルモノ
- 第七十條 大氣圧式ニ於テ自動加減器ヨリ凝結水ヲ排出セサルモノハ左ノ各號ニ該當スルモノナキヤニ留意スヘシ
- 一 加減ネヂノ加減不良ナルモノ
  - 二 弁棒ノ詰物堅クシテ弁ノ昇降不完全ナルカ又ハ緩クシテ此ノ箇所ヨリ漏氣スルモノ
  - 三 弁棒屈曲セルタメ弁ノ開閉不具合ナルモノ
  - 四 ダイヤフラム故障ノ爲メ膨脹收縮不能ナルモノ

五 バネカ湯垢ノタメ固着シ其ノ作用不能ナルモノ  
六 塵コシ又ハ弁口カ湯垢、塵埃ノタメ閉塞シ通氣不良ナルモノ

七 自動弁ノ作用不良ナルモノ  
八 凍結ノタメ通氣不良ナルモノ

第七十一條 暖房ホースハ軌條面上空車ノ場合百十耗以下、積載ノ場合七十五耗以下（齒軌條區間ニ於テハ軌條面上空車ノ場合百五十耗、積車ノ場合百三十三耗以下）ニ垂下スルモノアルトキハ適宜之ヲ釣上クヘシ

第七十二條 列車終着驛ニ到着シタル場合ハ高圧式ニ在リテハ排水弁、加減弁及閉塞弁ヲ、大氣圧式ニ在リテハ加減コック、排水弁、閉塞弁ヲ全開シ酷寒ノ際ハ更ニ送氣シタル後充分排水シ尙必要ニ應ジ暖房ホースノ連結ヲ脱離シテ殘留セル蒸氣ト凝結水トヲ排出シ凍結ノ爲次回ノ使用ニ差支ヲ來スコトナキヲ期スヘシ  
第七十三條 暖房器ノ使用ヲ廢止シタル場合ニハ暖房ホースヲ取外シタル後管ノ兩端ネヂ部ニグリースノ類ヲ塗リキヤツブナツトヲ嵌メ置クヘシ

### 第八章 水揚装置ノ検査及取扱

第七十四條 調圧装置ハ空氣逆止弁四・五疋、水揚減圧弁一・〇疋ニ調整スヘシ但シ其ノ公差ハ〇・二疋トス

第七十五條 始發驛ニ於テハ水槽ニ水ヲ充分注入シコック及弁類ノ取手ハ使用ノ状態ニアルコトヲ確認スヘシ  
第七十六條 始發驛ニ於テ給水スルニハ先ツ檢水弁及排水コックヲ閉チ五ツ道コックノ取手ヲ垂直ニ爲シ水槽中ノ圧力空氣ヲ排出シ注水口ニホースヲ連結シ送水スヘシ

前項ノ場合五ツ道コックノ空氣逃路ヨリ溢水シ始ムルトキハ直ニ送水ヲ斷チ溢水已ミタル後五ツ道コック取手ヲ水平ト爲スヘシ

第七十七條 空氣管漏洩ノ有無ヲ檢査スルニハ水槽ニ注水ヲ爲シタル後水揚空氣溜ヲ四疋以上ニ込メ五ツ道コックヲ使用位置ト爲シ補助空氣溜寄締切コックヲ閉チ圧力降下無キコトヲ確認スヘシ

第七十八條 運轉中水槽ノ水缺乏シタル場合ハ化粧室及便所等ニ設備シアル止弁ヲ閉チ、五ツ道コックノ不具合ノ爲修繕ヲ要スル場合ハ空氣供給管締切コックヲ閉ツヘシ又空氣供給管、空氣逆止弁、水揚空氣溜及水揚減圧弁等ノ修繕ヲ行フトキハ補助空氣溜締切コックヲ閉ツヘシ

第七十九條 本装置ノ空氣部分ニシテ空氣漏洩カ一分間〇・二疋以上ノ場合ハ補助空氣溜ノ締切コックヲ閉ツヘシ

### 一八、雪搔車、暖房車及操重車（事故救援用）ノ保管方ノ件

（昭和四、八、二二  
達第五、六、四號）

- 一、雪搔車ハ檢車區長ニ於テ之ヲ保管スヘシ但シ地方ノ狀況ニ依リ鐵道局長ノ指定シタル場合ハ機關區長ニ於テ之ヲ保管スルコトヲ得
- 二、暖房車及操重車（事故救援用）ハ機關區長ニ於テ之ヲ保管スヘシ、但シ地方ノ狀況ニ依リ鐵道局長ノ指定シタル場合ハ檢車區長ニ於テ保管スルコトヲ得
- 三、廻轉雪搔車、暖房車及操重車（事故救援用）ノ汽罐部及機械部ニ對スル檢査、修繕、洗罐竝ニ之ニ關スル諸報告類ハ機關車ニ準シ取扱フヘシ
- 四、前號以外ノ檢査、修繕竝ニ之ニ關スル諸報告類ハ客貨車ニ準シ取扱フヘシ

附 則

昭和三年一月十六日達第二八號ハ之ヲ廢止ス

### 第四編 輪軸及軸箱

#### 一九、客貨車用車軸ノ種類、稱號、寸法及負擔力ニ關スル件

(昭和四、六、一)  
達第四四二號

客貨車用車軸(電動車、氣動車、雪撥車、操重車、水槽車及ノ七六二耗軌間用客貨車ニ使用ノモノヲ除ク)ノ種類、稱號、寸法及負擔力等左ノ通定ム

第一條 客貨車用車軸ノ基本ハ七軸軸、七軸長軸(甲、乙)十軸軸、十軸長軸及十二軸長軸ノ六種トシ其ノ形狀及寸法ハ別紙圖面ニ依ル

##### 圖面目錄

客貨車用基本七軸軸及基本十軸軸 V D 四六〇二 Z A  
客貨車用基本七軸長軸(甲、乙)及基本十軸長軸 V D 四六〇〇 Z A  
客貨車用基本十二軸長軸 V D 四六〇五 Z B

基本車軸種類	負擔力(噸)	
	標準	最大
七軸軸	七・〇	七・五
七軸長軸(甲、乙)	七・〇	八・〇
十軸軸	一〇・〇	一一・〇

十軸軸	十軸長軸	軸箱
一〇・〇	一一・〇	一〇・〇
一二・〇	一三・〇	一二・〇

第三條 基本車軸ジヤイナル摩托限度ハ左ノ通トス

基本車軸種類	ジヤイナル直徑	工場修繕限度	使用限度
七軸軸及七軸長軸(甲)	九六耗	八四耗	八二耗
七軸長軸(乙)十軸軸及十軸長軸	一〇八	九六	九四
十二軸長軸	一二〇	一〇八	一〇六

第四條 在來ノ客貨車用車軸ニシテ別表ニ掲クル寸法ヲ有スルモノハ之ヲ準基本車軸ト稱シ其種類、稱號、負擔力及摩托限度等ハ本表記載ノ通トス但シ稱號ハ負擔力ニ依リ「ア」何軸軸、「カ」何軸軸ト稱スルコトアルヘシ

第五條 第二條及前條ニ於ケル負擔力トハ特ニ指定スル場合ノ外各一軸ニ負擔セシムルコトヲ得ヘキ荷重(車輛靜止ノ狀態ニ於テ測ル)ヲ示スモノトス

第六條 一般検査以外ノ場合ニ於テモジヤイナルノ削正ヲ行フ場合ニハ削正仕上リ後ノジヤイナルノ直徑ニ對シテハ工場修繕限度ヲ準用スルモノトス

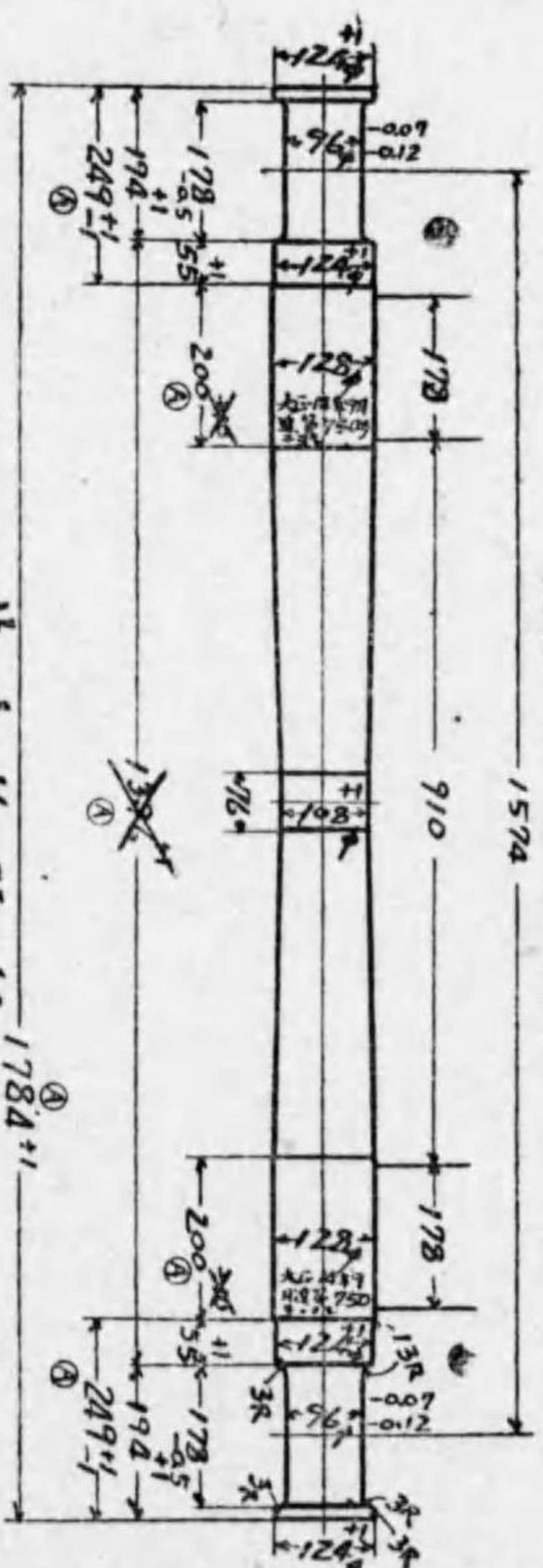
第七條 圖面番號 V D 四六〇六(舊圖面番號基第一圖)並圖面番號 V D 四六〇七(舊圖面番號基第九一五圖)ニ依リ製作シタル基本七軸軸及基本十軸軸並基本七軸長軸(甲、乙)及基本十軸長軸ハ各第一條ノ基本七軸軸及基本十軸軸並基本七軸長軸(甲、乙)及基本十軸長軸ト同様ノモノト看做ス

附則  
大正五年五月達第五三二號ハ之ヲ廢止ス

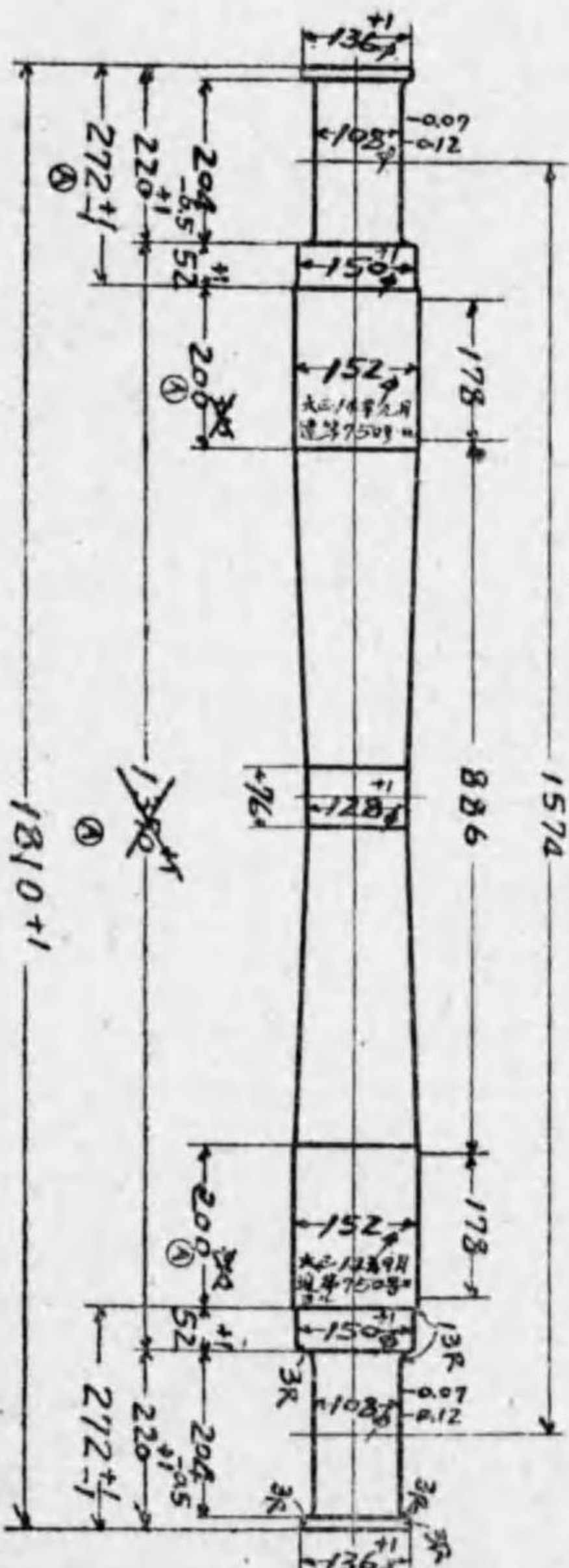
#### 準基本車軸

ジヤイナル中心距(耗)	ジヤイナル中心距(耗)	輪座直徑(耗)	種類	軸徑(耗)								
				3號	4號	5號	6號	7號	8號	9號	10號	
1676	204	190	イ類	最大寸法	96	96	96	96	102	108	108	108
				工場修繕限度	84	84	84	84	90	96	96	
1574	204	190	イ類	最大寸法	117	124	124	124	133	150	150	
				工場修繕限度	111	114	114	114	127	140	140	
1550	178	178	イ類	最大寸法	117	124	124	124	133	150	150	
				工場修繕限度	111	114	114	114	127	140	140	
1524	178	178	イ類	最大寸法	117	124	124	124	133	150	150	
				工場修繕限度	111	114	114	114	127	140	140	

### 基本七軸軸



### 基本拾題軸



圖第六號 客貨車用車軸基本 昭四、六、一連四四改正 昭五、一二連一〇六二  
客貨車用基本七軸軸及基本拾題軸

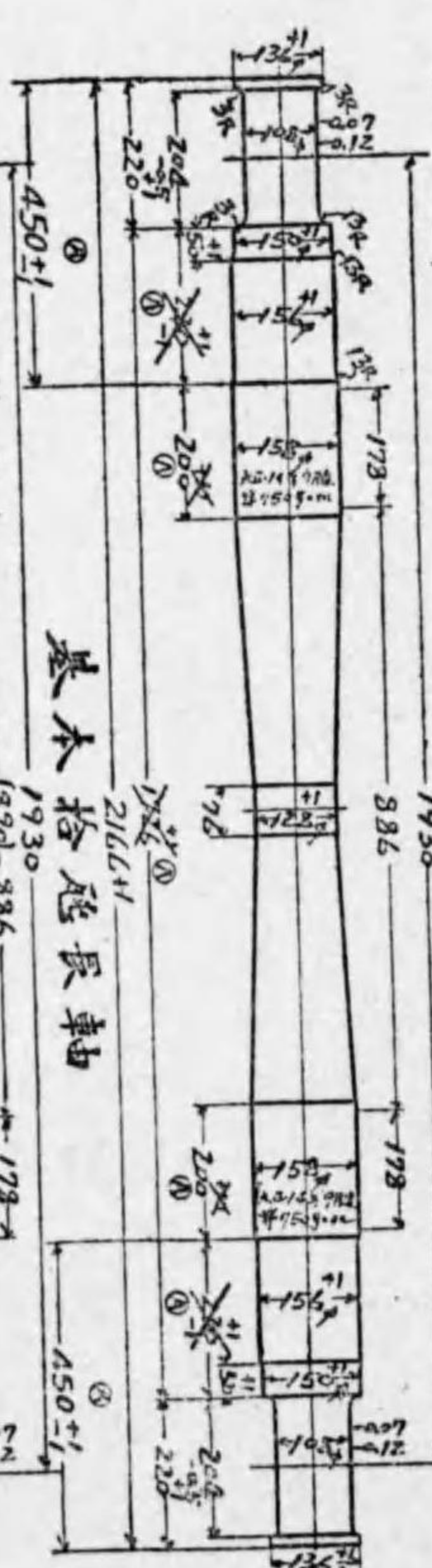
注意 十又ハ一ノ一方式ノ寸法差ヲ與ヘテアル  
攝所ノ一又ハ十ノ寸法差ハ〇デアル

VD 4602 ZA

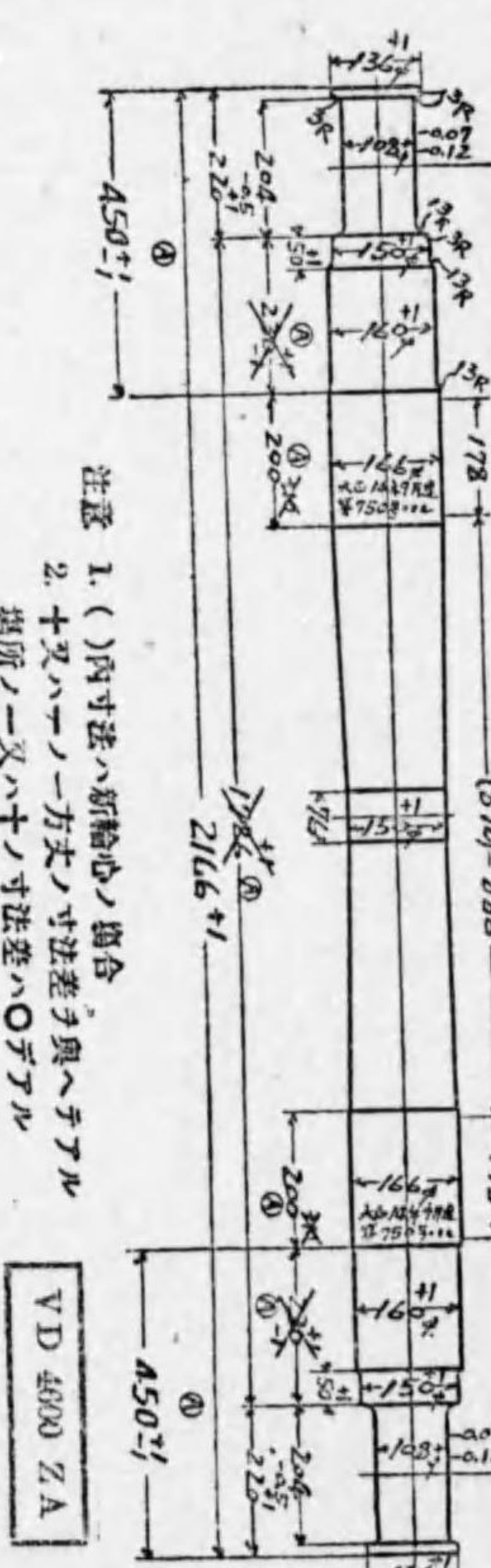
### 基本七軸長軸 甲



### 基本七軸長軸 乙



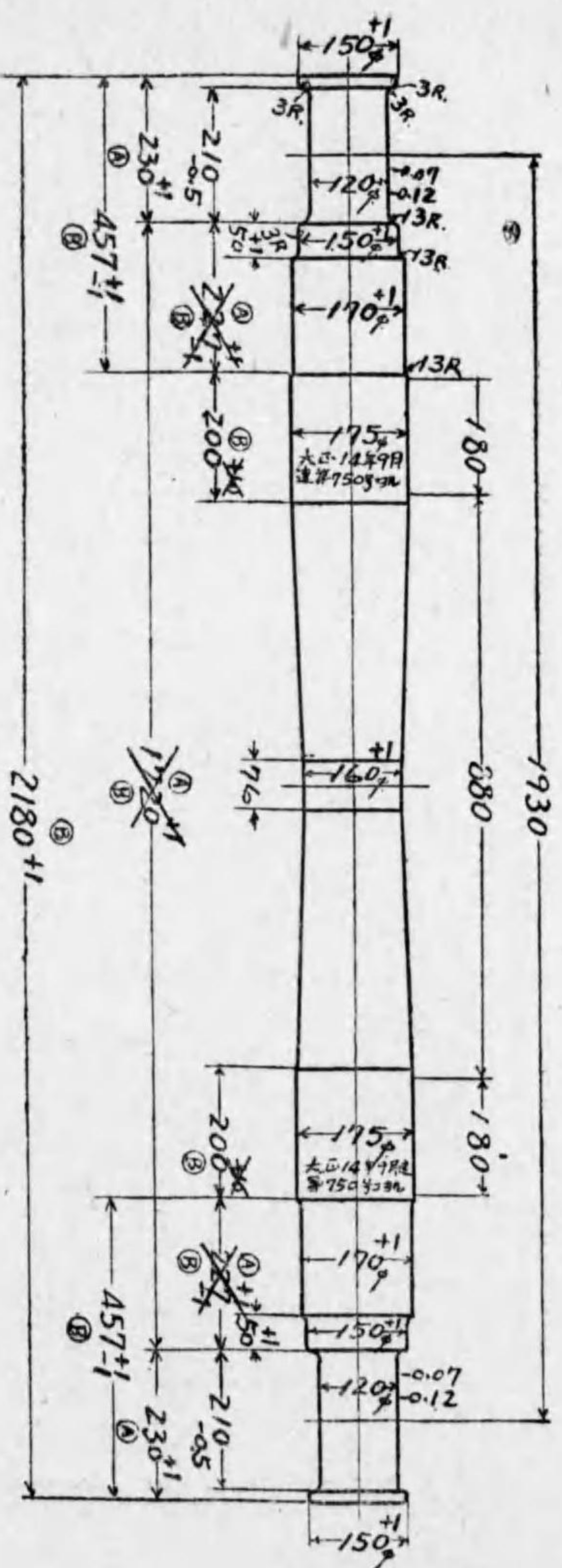
### 基本拾題長軸



注意 1. ( )内寸法ハ新軸心ノ攝合  
2. 十又ハ一ノ一方式ノ寸法差ヲ與ヘテアル  
攝所ノ一又ハ十ノ寸法差ハ〇デアル

VD 4600 ZA

圖第六號 客貨車用基本七軸長軸(甲、乙)及基本拾題長軸



圖第六號 客貨車用基本十二種長軸

注意 十又ハロー一又ハ十寸法差ヲ與ヘテアル  
場所ノ一又ハ十寸法差ハ〇デアル

VD 4605 ZB

### 二〇、車輛用車軸壓入ニ關スル件 (拔萃)

(大正一四、九、二二  
第七五〇號)

- 車輛用車軸、クランクピン圧入仕様書左ノ通定ム  
大正五年七月達第七七七號機關車車軸並クランクピン嵌  
入圧力ノ件ハ之ヲ廢止ス
- 一 車軸及クランクピン (以下單ニ軸ト稱ス) ハ輪心ニ  
對シ正シク直角ニ圧入スルコトヲ要ス
  - 二 適合部ニハ勾配ヲ附スヘカラス但シ圧入ヲ容易ナラ  
シムル爲輪心ヨリ外部ニ突出スル部分ニ對シテハ相當  
ノ丸味ヲ附スルコトヲ得
  - 三 適合部ハ精密ニ研磨又ハ仕上ヲナシ各部直徑ノ差ハ  
千分ノ三十五耗以内タラシムヘシ  
適合部ニハ盛金ヲ爲スヘカラス
  - 四 (削除)
  - 五 圧入ハ外輪ノ燒嵌後ニ行フヲ原則トシ 圧入力ハ次ノ  
表ニ依ル  
但シ圧入力カ規程最小圧力ニ達セサルトキハ其ノ九割  
以上ノモノニ限り規程最小圧力ノ一倍半ニテ反對ニ圧  
シ拔出ササルトキハ其ノ儘使用スルコトヲ得

客貨車車軸	直徑百耗ニ付圧入力(噸)		
	最	大	最 小
四五	外輪取付 ナキ場合	二五	外輪取付 アル場合
三〇			

- 六 圧入力カ第五項ニ規定スル範圍外ニアルトキハ三回  
迄繰返シ圧入スルコトヲ得
- 七 軸ノ圧入二十耗ニ達セサル内ニ圧入力上昇シ始ムル  
コトヲ要ス  
圧入力ハ圧入作業ノ終リニ至ル迄漸次上昇シ急激ニ上  
昇セサルコトヲ要ス  
圧入力ハ自動圧力記録器ニヨリ記録シ一ケ年之ヲ保存  
スルモノトス
- 八 圧入ニ使用スル滑劑ハ白ベイントトボイル油トヲ混  
合シタルモノトス



一一一、客貨車用輪軸使用手續 (昭和四、六、一 達第四四三號)

客貨車(電動車、氣動車、雪掻車、操重車、水)用輪軸使用手續左ノ通定ム

客貨車用輪軸使用手續

- 第一條 客貨車ニハ其ノ自重及荷重ニ應シ別表ニ依リ基本又ハ準基本車軸ヲ有スル輪軸ヲ使用スヘシ但シ已ムコトヲ得サル理由ニ因リ別表ニ依ルコトヲ得サル場合ハ工作局長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ニ抵觸スル輪軸ヲ有スル車輛入場ノ際ハ持合セノ基本又ハ準基本車軸ヲ有スル輪軸ト融通シ之カ交換ヲ行ヒ前條ニ依リ整理スヘシ
- 第三條 前條ニ依リ交換スヘキ適當ノ輪軸ナキ場合又ハ輪軸取替ノ爲特ニ重大ナル改造ヲ要スル場合ハ其ノ都度工作局長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第四條 同一車軸ニ於ケル車輪ノ直徑(外輪踏面ニ於テ測定ス以下同シ)ノ差三耗ヲ超ユルモノハ使用スルコトヲ得ス但シ三軸車及ボギーニ用フルモノニ限り其

客貨車用車軸使用表  
記事(本表記載ノ自重ハ新シキ外輪ヲ使  
用シタルトキニ於ケル自重ヲ謂フ)

自重	車 軸 種 類													
	ジャーナル中心距(耗)		1676			1574			1550		1524			
6 軸未満	ウ	四	ウ	五		ク	三	基	本	ス	四	又	三	
6 軸以上 7 軸未満	ウ	四	ウ	五		ク	三	基	本	ス	四	又	三	
7 軸以上 8 軸未満	ウ	四	ウ	五		ク	三	基	本	ス	四	又	三	
8 軸以上 9 軸未満	ウ	四	ウ	五	六	キ	五	ク	三	四	基	本	ス	四
9 軸以上 10 軸未満			ウ	六	キ	五			基	本	ス	四	又	四
10 軸以上 (三軸車ニ限ル)	ウ	四	ウ	五										

第二表 二軸ボギー客車(電車ヲ含ム)ノ場合

自重	車 軸 種 類																											
	ジャーナル中心距(耗)		1930			1676			1574			1550		1524														
20 軸未満			イ	五	ウ	四	ウ	五	ウ	六	ク	三	ク	四	キ	五	ク	五	基	本	ス	四	又	三	又	四		
20 軸以上 21 軸未満							ウ	六	ウ	七	ク	四	キ	五	ク	五	ク	六	カ	七	基	本	ス	四	又	三	又	四
21 軸以上 23 軸未満							ウ	六	ウ	七		キ	五	ク	五	ク	六	カ	七	基	本	ス	四	又	三	又	四	
23 軸以上 25 軸未満							ウ	七			ク	六	カ	七	基	本	ス	四	又	三	又	四						
25 軸以上 27 軸未満											ク	六	カ	七	基	本	ス	四	又	三	又	四						
27 軸以上 30 軸未満															基	本	ス	四	又	三	又	四						
30 軸以上 38 軸未満															基	本	ス	四	又	三	又	四						

- ノ差ハ六耗以内トス
- 第五條 車軸ニハ其ノ種類ヲ識別シ易カラシムル爲其ノ一端ニ左ノ刻印ヲ施スヘシ(刻印ノ位置及文字ニ就テハ大正五年二月達第五七號車軸及輪心ノ刻印ニ關スル件参照)
- 一 基本軸及基本長軸ニハ其ノ負擔力ヲ表示スル文字例、七軸軸ニハ7、十二軸軸ニハ12等
- 二 準基本軸ニハ其ノ類別ト負擔力トヲ表示スル文字例、ウ類軸ニシテ負擔力六軸ノモノハウ.6類軸ニシテ負擔力七軸ノモノハウ.7等

大正五年七月達第七六九號ハ之ヲ廢止ス

附 則

第三表 三軸ボギー客車ノ場合

自重	車			軸			種			類
	ボギーナル中心距(耗)	1930	1676	1574	1550					
19吨未満			1五〇四〇五 6.0 6.0 6.0	三 6.0		基 7.0	又 7.0			
19吨以上 23吨未満			1五〇四〇五 6.0 6.0 6.0	三 6.0 四 6.5	基 7.0	又 7.0	又 7.5	又 8.0	又 10.0	
23吨以上 27吨未満			1五〇四〇五 6.0 6.0 6.0	三 6.0 四 6.5	基 7.0	又 7.0	又 7.5	又 8.0	又 10.0	
27吨以上 31吨未満	車軸部強及標準負擔力(吨)	基本長 10.0	1五〇四〇五 6.0 6.0 6.0	三 6.0 四 6.5	基 7.0	又 7.0	又 7.5	又 8.0	又 10.0	
31吨以上 35吨未満		基本長 10.0		五 7.0	基 7.0	又 7.0	又 7.5	又 8.0	又 10.0	
35吨以上 40吨未満		基本長 10.0 基本長 12.0		五 7.0	基 7.0	又 7.0	又 7.5	又 8.0	又 10.0	
40吨以上 50吨未満		基本長 10.0 基本長 12.0		五 7.0	基 7.0	又 7.0	又 7.5	又 8.0	又 10.0	

第四表 二軸貨車ノ場合  
第四表ノ一 基本長軸(ボギーナル中心距1930耗)ヲ使用スル場合

自重(吨)	標 記							荷 重 (吨)							
	無	2	6	7	8	9	10	12	13	15	17				
6.5															
7.0															
7.5															
8.0															
8.5															
9.0															
9.5															
10.0															
10.5															
11.0															
11.5															
12.0															
12.5															
13.0															
13.5															
14.0															
14.5															
15.0															

第四表ノ二 ジヤーナール中心距1676耗ノモヲ使用スル場合

自 重 (噸)	標 記									
	6		7		8		9		10	
無	車 輛 標 記 及 標 準 負 擔 力 (噸)									
	無	6	7	7	8	8	9	9	10	10
4.5 超	四 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
4.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
5.0 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
5.0 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
5.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
6.0 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
6.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
7.0 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
7.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
8.0 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
8.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
9.0 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
9.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0
9.5 超		四 6.0	五 7.0	六 6.0	五 6.0	六 7.0	六 6.0	五 7.0	六 6.0	六 7.0

第四表ノ三 ジヤーナール中心距1574耗ノモヲ使用スル場合 (其ノ一)

自 重 (噸)	標 記									
	6		7		8		9		9	
無	車 輛 標 記 及 標 準 負 擔 力 (噸)									
	無	6	7	7	8	8	9	9	9	9
4.5 超	三 6.0	四 6.0	五 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	三 6.0
4.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
5.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
5.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
5.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
6.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
6.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
6.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
7.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
7.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
7.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
8.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
8.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
8.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
9.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
9.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
9.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
9.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
10.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
10.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
10.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
11.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
11.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
11.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
11.5 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0
12.0 超		三 6.0	四 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0	三 6.0	四 6.0	五 6.0	六 6.0

第四表ノ三 ジャーナル中心距1574耗ノモノヲ使用スル場合 (其ノ二)

自重 (噸)	標 記					車 軸 帶 號 及 標 準 負 擔 力 (噸)
	無	6	7	8	10	
4.5						本 7.0
4.5	三					本 7.0
5.0	四					本 7.0
5.0	四					本 7.0
5.5						本 7.0
5.5	四					本 7.0
6.0						本 7.0
6.0	五					本 7.0
6.5						本 7.0
6.5	五					本 7.0
7.0						本 7.0
7.0	六					本 7.0
7.5						本 7.0
7.5	六					本 7.0
8.0						本 7.0
8.0	六					本 7.0
8.5						本 7.0
8.5	六					本 7.0
9.0						本 7.0
9.0	六					本 7.0
9.5						本 7.0
9.5	六					本 7.0
10.0						本 7.0
10.0	六					本 7.0
10.5						本 7.0
10.5	六					本 7.0
10.5						本 7.0
10.5	六					本 7.0
11.0						本 7.0
11.0	六					本 7.0
11.5						本 7.0
11.5	六					本 7.0
12.0						本 7.0
12.0	六					本 7.0

備考 ※印ハ荷重12噸ノ場合ハ自重11.7噸ヲ限度トシ、荷重15噸ノ場合ハ8.7ヲ限度トス

第四表ノ四 ジャーナル中心距1550耗ノモノヲ使用スル場合

自重 (噸)	標 記 荷 重 (噸)					
	無	6	7	8	9	10
4.5						
4.5	四					
5.0						
5.0	四					
5.5						
5.5	四					
6.0						
6.0	四					
6.5						
6.5	四					
7.0						
7.0	四					
7.5						
7.5	四					
8.0						
8.0	四					
8.5						
8.5	四					
9.0						
9.0	四					

第四表ノ五 ジャーナル中心距1524耗ノモノヲ使用スル場合

自重 (噸)	標 記 荷 重 (噸)				
	無	6	7	8	10
4.5					
4.5	三				
5.0					
5.0	三				
5.5					
5.5	三				
6.0					
6.0	三				
6.5					
6.5	三				
7.0					
7.0	三				
7.5					
7.5	三				
8.0					
8.0	三				
8.5					
8.5	三				
9.0					
9.0	三				

第五表 三軸貨車ノ場合

標記荷重	ギヤール中心距	車 軸 種 類			
		1930 軸	1676 軸	1574 軸	1550 軸
10 噸以下			ウ 四ウ 五ウ 六	基本 7.0	基本 8.0
15 噸			6.0 6.0 7.0	基本 7.0	
20 噸				基本 7.0	
24 噸				基本 10.0	基本 10.0
				基本長 10.0	基本長 12.0

第六表 二軸ボギー貨車ノ場合

標記荷重	ギヤール中心距	車 軸 種 類			
		1930 軸	1676 軸	1574 軸	1550 軸
15乃至20 噸			ウ 四ウ 五ウ 六	少 四ウ 五 基本 6.5 7.0 7.0 10.0	基本 7.0 7.5 8.0
24 噸					基本 10.0
25 噸				八 9.5	基本 10.0
30 噸					基本 10.0
35 噸					基本 10.0
				基本長 10.0	基本長 12.0

二二、車輛用外輪ノ基本寸法、外周形狀、取付装置、磨耗限度

二關スル件 (大正一四、二、一二 達 第六四號)

車輛用外輪ノ基本寸法、外周形狀、取付装置、磨耗限度 其ノ他左ノ通定ム

- 第一條 車輛用外輪ノ基本寸法ハAD六八一五ノ通トス
- 第二條 外輪外周形狀ハAC六四六二ノ通トス
- 第三條 外輪取付装置ハAC六四六三ノ通トス
- 第四條 外輪厚サ及其ノ他ノ磨耗限度ハ左表ニ依ル但シ長キ勾配ヲ有スル線路ニ使用スル動輪外輪ノ磨耗限度ハ機關車ノ種類ニ應ジ鐵道局長ニ於テ左表ノモノヨリ大トスルコトヲ得(表ハ次頁)
- 第五條 一對ノ車輪ノ左右直徑ノ差ハ削正仕上リニ於テ一耗以下トス
- 第六條 輪縁ノ特ニ磨耗シタル車輪ヲ削正スルニ當リAC六四六二ノ通トスノ外周形狀ニ依ルヲ不得策ト認ムル場合ニハ圖面中鎖線ヲ以テ示ス形狀ニ則リ輪縁ヲ薄ク削正スルコトヲ得
- 第七條 外輪踏面ニ於ケル擦傷面長サ五十耗以上ノモノ二箇以上又ハ七十五耗以上ノモノアルトキハ削正スヘシ

シ

第八條 輪縁断面ノ對軌條部直線狀ニ磨耗シ該直線部ト

外周トノ交點ニ角ヲ生シ其ノ位置左ノ各號ノ一ニ該當スル車輪ハ其ノ儘使用スヘカラス

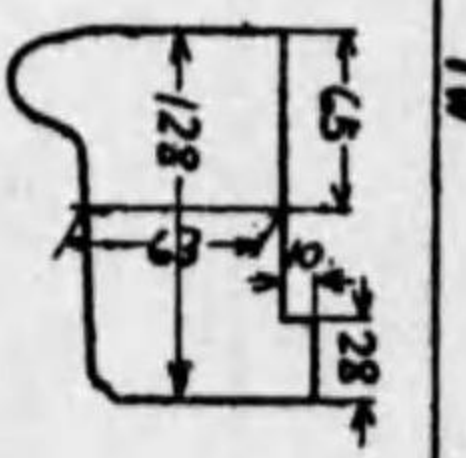
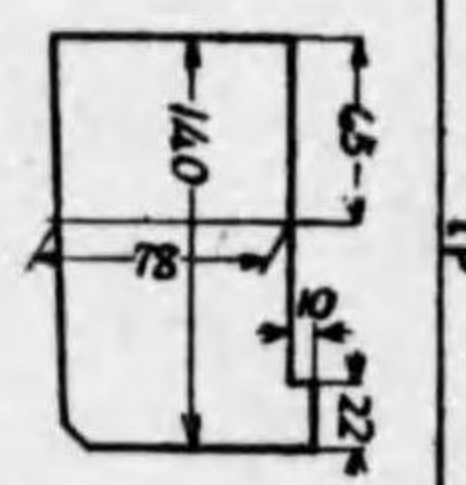
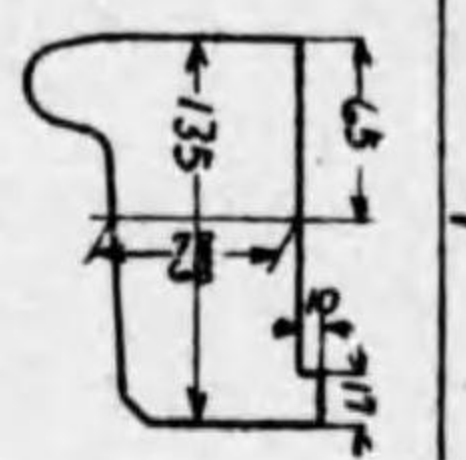
- 一 角點ヨリ輪縁ノ尖端ニ至ル距離(車輪直徑ノ方向ニ於テ度リ)一耗半以下ナル場合(第一圖參照)
  - 二 角點ヨリ輪縁ノ尖端ニ至ル距離(車輪直徑ノ方向ニ於テ度リ)三耗以下ニシテ且磨耗直線狀部ト車輪内面ノ平面ト爲ス角十七度以下ナル場合(第二圖參照)
- 前項ノモノヲ工場以外ニ於テ削正スルニ當リテハAC六四六二ノ通トスノ形狀ニ依ラサルコトヲ得但シ角點削正部仕上リノ半徑八十耗以上トナスヘシ



一一一

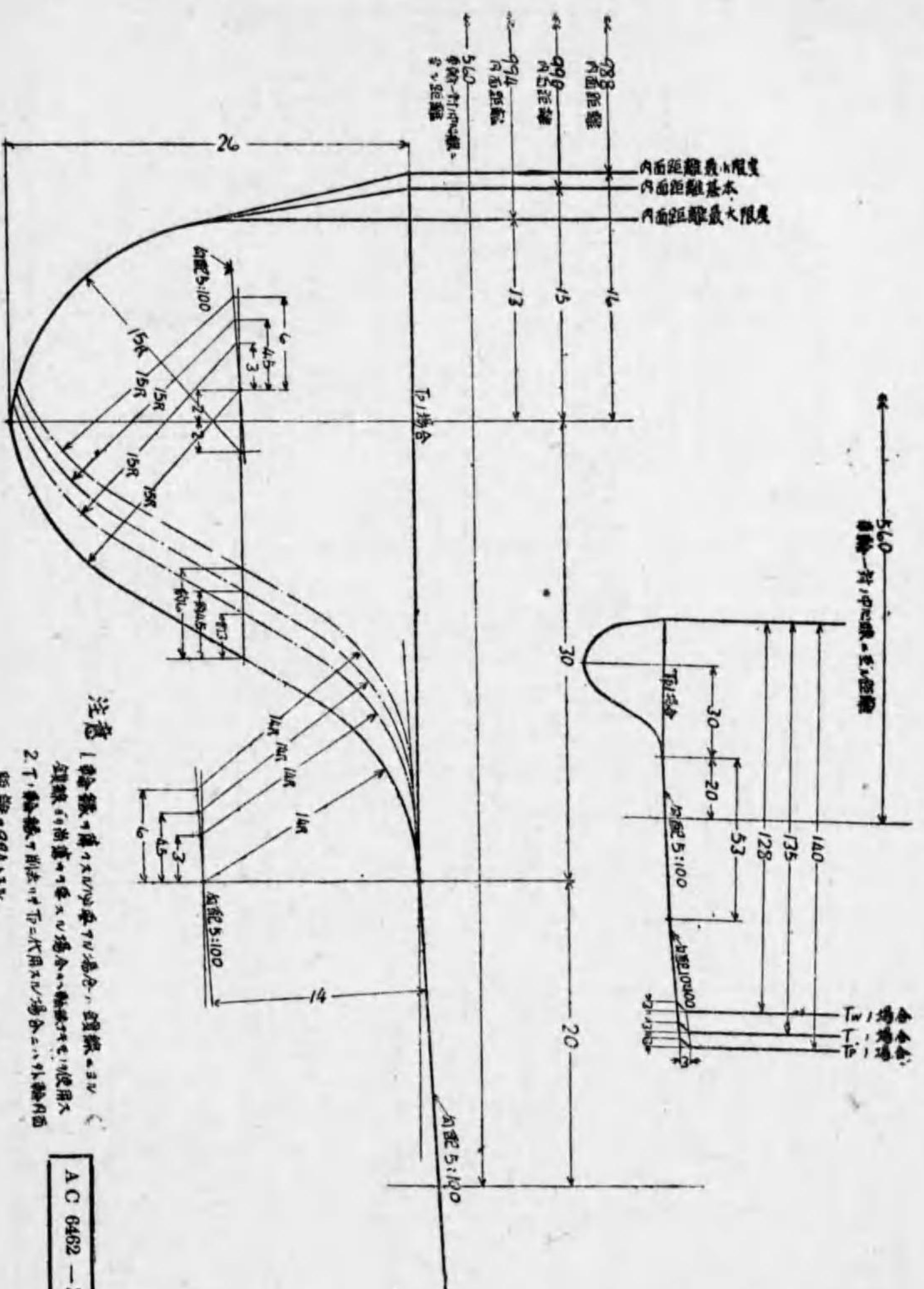
外輪符號	使用箇所	制輪子作用ノ有無	外輪取付装置	工場修繕限度	使用限度	
外ハハノ厚サ	T	機關車動輪	—	—	35耗 32耗	
		電動車動輪	—	—	33 30	
	TP	機關車先從輪及炭水車車輪	作用スルモノ	ストラウドレー式	35	32
			前記以外ノモノ	—	28	25
	TW	客貨車車輪	作用スルモノ 但シ車側制動機ノミ作用スルモノヲ除ク	基本形、ギブソン式、セットスクルー式	25	22
			マンセル式	28	25	
	TW	客貨車車輪	作用セサルモノ 若ハ車側制動機ノミ作用スルモノ	ストラウドレー式	32	29
				基本形、ギブソン式、セットスクルー式	24	22
	TW	客貨車車輪	作用セサルモノ 若ハ車側制動機ノミ作用スルモノ	マンセル式	27	25
				ストラウドレー式	30	28
TW	機關車先從輪及炭水車車輪	作用セルモノ	—	28	25	
		作用セサルモノ	—	27	25	
TW	氣動車車輪	—	—	28	25	
TW	特種小形機關車動輪	—	—	25	22	
車輪一對ノ中心線ヨリ輪縁外側面ニ至ル距離				521	516	
注意						
1. 一般検査以外ノ場合ニ於テモ外輪削正ヲ行フ際削正仕上リ後ノ外輪ノ厚サ及其ノ他ニ對シテハ工場修繕限度ヲ準用スルモノトス						
2. 外輪ノ厚サハ車輪一對ノ中心線ヨリ左右各 560 耗ノ距離ニ於ケル踏面ニ於テ度リ又車輪一對ノ中心線ヨリ輪縁外側面ニ至ル距離ハ該踏面ヨリ 10 耗ノ下位ニ於テ度ルモノトス						
3. 車輛ノ構造上本表ノ限度迄使用スヘカラサルモノニ在リテハ限度ヲ本表ノモノヨリ大トスルモノトス						

符號	外徑	内徑	厚	符號	外徑	内徑	厚	符號	外徑	内徑	厚
T 50	660	504	78	Tp	1400	1444	78	Tw	860	734	63
T 59	730	594	68								
T 60	760	604	78								
T 68	840	684	78								
T 75	910	754	78								
T 77	940	774	68								
T 78	940	784	78								
T 81	970	814	78								
T 91	1070	914	78								
T 96	1120	964	78								
T 106	1220	1064	78	Tp 106	1220	1064	78				
T 109	1250	1094	78					Tp 109	1250	1094	78
T 111	1270	1114	78								
T 119	1350	1194	78								
T 121	1370	1214	78								
T 124	1400	1244	78								
T 136	1520	1364	78								
T 144	1600	1444	78								
T 159	1750	1594	78								



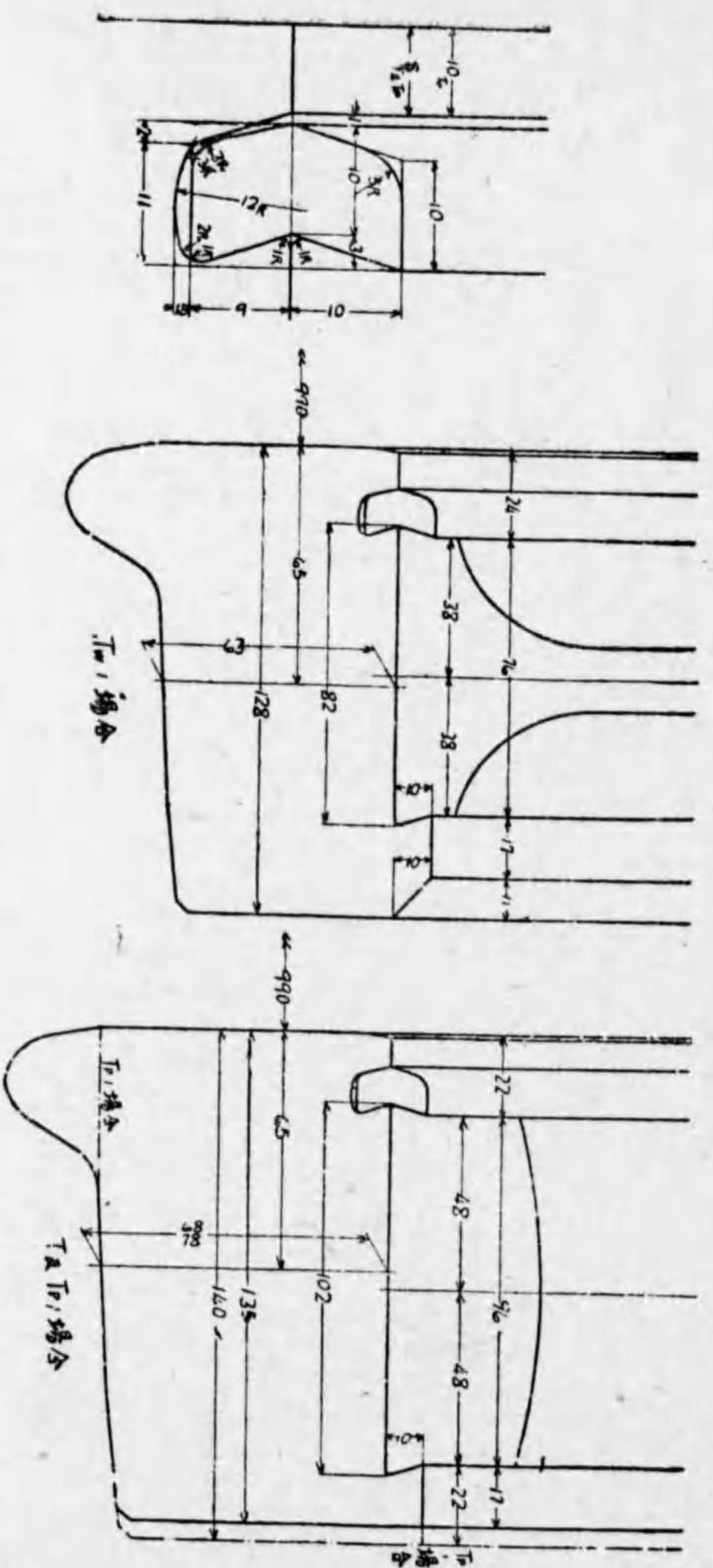
AD 6815 - Z

圖第五號 (一)  
車輛用外輪ノ基本寸法、外形形、取付位置、磨耗限度 大一四、二 達六四  
車輛用基本外輪 改正 昭五、九 達七九九



圖第五號 (二) 車輪外形

圖第五號 (三) 外輪取付裝置



外輪ノ適宜ナル種類ナキ場合ハ之ノ限リニ在ラス  
二 大正六年九月達第八八五號及同年十月達第一〇三四號ハ之ヲ廢止ス

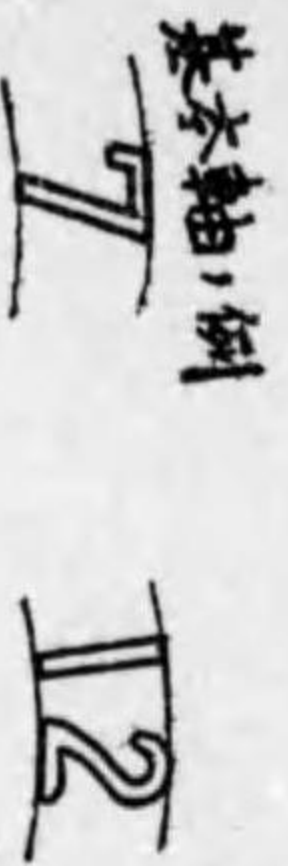
附 則  
一 基本ニ在ラサル在來ノ外輪取付装置ハ外輪取替ノ際之ヲ基本ニ改ムヘシ  
但シリムヲ基本形状ニ削正シ難キモノ又ハ採用スヘキ

一三三、車軸及輪心ノ刻印ニ關スル件

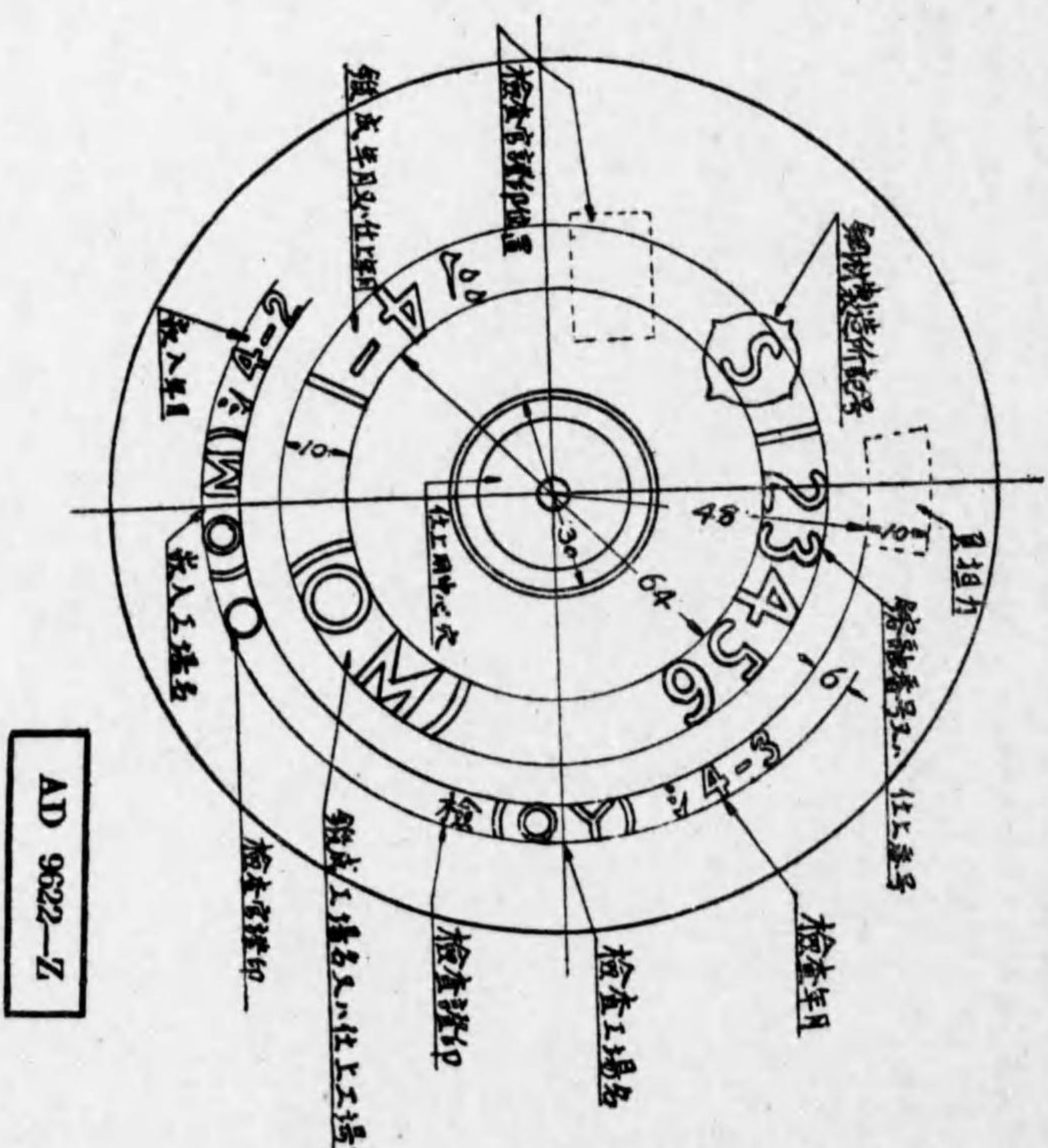
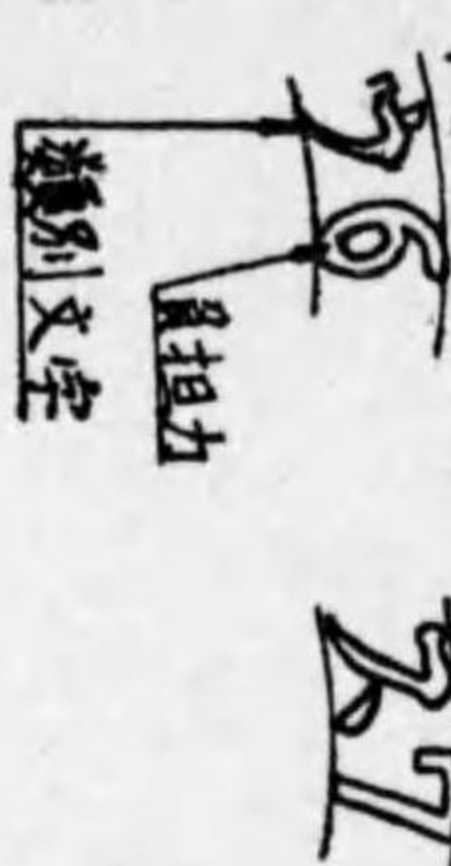
(昭和五、二、五) 達第五七號

- 一 客貨車輪心新製ノ場合ハ別紙圖面AD九六二二一Zノ通ボスノ内側面ニ鑄融番號、製造所記號、製造年月及検査官證印ヲ刻印スヘシ
- 二 機關車輪心及電車動輪其ノ他之ニ準スルモノノ輪心新製ノ場合ハスポークノ一箇ヲ選ヒ其ノ外側ニ別紙圖面AE九九〇八一Zノ通鑄融番號、製造所記號、製造年月及検査官證印ヲ刻印スヘシ
- 三 機關車及客貨車輪心ニ車軸ヲ嵌入シタル場合ハ別紙圖面AD九六二二一Zノ通當該車軸ノ一端面ニ嵌入工場名符號、嵌入年月及検査官證印ヲ刻印スヘシ
- 四 機關車及客貨車輪軸ノボスニ弛緩ヲ來シタル疑アルモノ又ハ車軸若ハボスノ嵌入部ニ瑕疵ヲ生シタル疑アルモノヲ検査ノ際は等ノ處ナキコトヲ確認シタル場合ハ別紙圖面AD九六二二一Z又ハAD九六二二一Zノ通當該車軸ノ一端面又ハボスノ内面(機關車、電車動輪其ノ他之ニ準スルモノハ外面)ニ検査證印、検査工場名符號及検査年月ヲ刻印スヘシ
- 五 機關車及電車動輪其ノ他之ニ準スルモノノ車軸新製ノ場合ハ仕上ヲ爲シタル工場ニ於テ別ニ帳簿ヲ設ケ鋼材製造所名、鑄融番號、鍛成工場名、鍛成年月及使用箇所ヲ記入シテ之ヲ保管シ車軸ノ一端面ニハ別紙圖面AD九六二二一Zノ通仕上工場名符號、仕上番號仕上年月及検査官證印ヲ刻印スヘシ
- 六 鋼材製造所記號、鑄融番號、鍛成工場名符號、鍛成年月、負擦力及検査官證印ヲ刻印スヘシ但シ鋼材製造所ト鍛成工場ト同一ナル場合ニハ鍛成工場名符號ヲ刻印スルヲ要セス

負擦力刻印例(現尺)



準基本車軸例

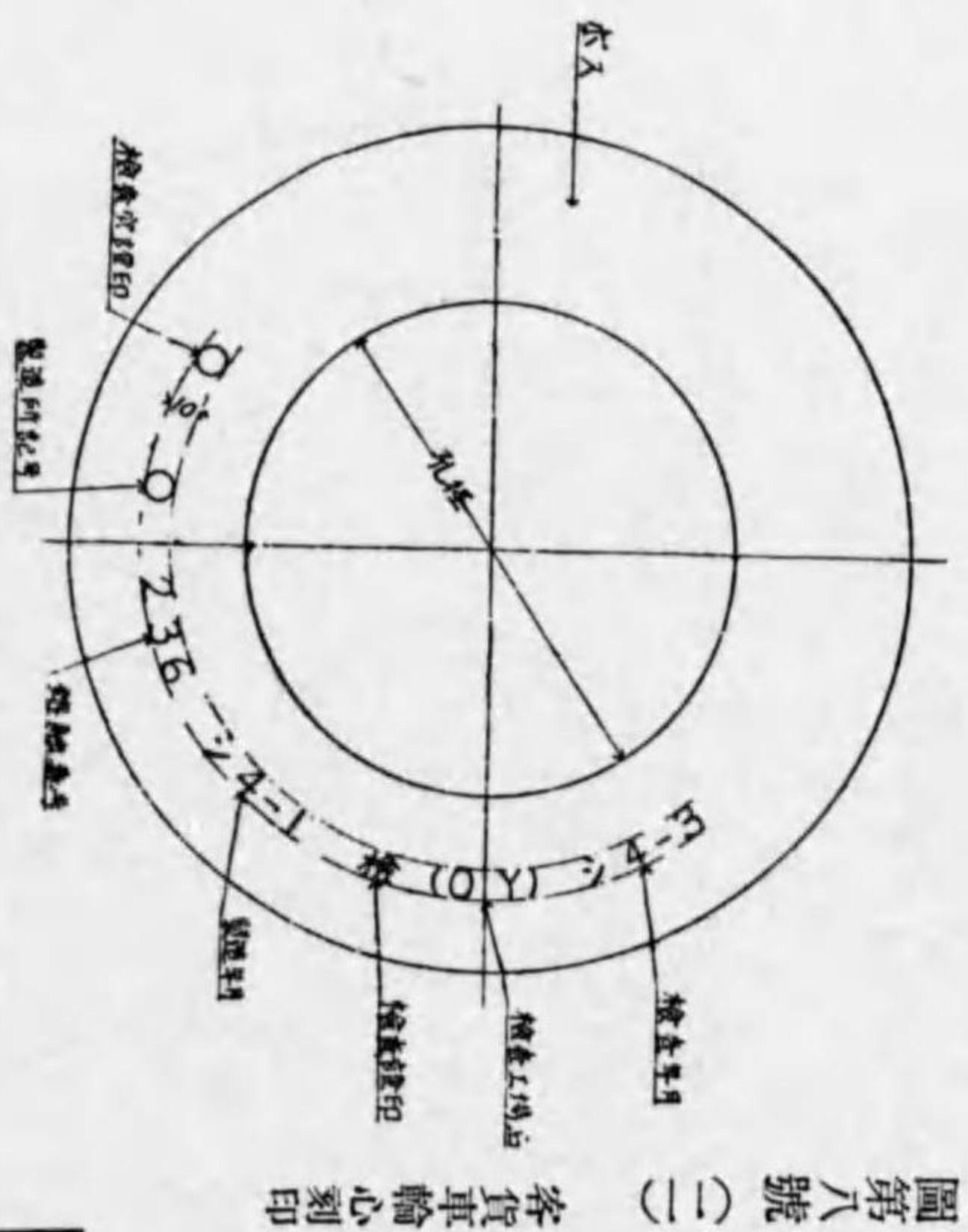


圖第八號 (一) 車軸及輪心ノ刻印ニ關スル件 昭和五、二 達五七 車軸刻印



注意

数字並記號刻印ノ深サハ2耗  
 負荷力ハ機關車車軸及電車動軸其ノ他之ニ準ズルモノヲ除ク  
 年號ノ箇所ニ銘記セル「シ」ハ昭和元號ノ略號ナリ  
 任上工場關係刻印ハ機關車車軸及電動軸其他之ニ準ズルモノニ限ル



圖第八號 (一) 客貨車動軸心刻印

注意

年號ノ箇所ニ銘記セル「シ」ハ昭和元號ノ略號ナリ  
 検査工場關係刻印ハ「ボス」ノ車軸嵌入部ニ瑕疵ヲ生ジタル疑アルモノ  
 ヲ検査ノ結果此ノ處ナキコトヲ確認シタル場合ニノミ刻印スルモノトス

二四、製作又ハ加工品ニ附スル工場名符號ノ件

(大正四、七、九 達第七四一號)

自今省内工場ニテ製作又ハ加工セル物件ニ附スル工場名ノ符號左ノ通定ム

工場名	符號	工場名	符號	工場名	符號
宮井岩屋松野任取	OM	田藤津生倉松鳥山	ST	岡崎總勝川路	MO
大新名濱長松慶	OY	吹後多崎小茶西郡	GT	盛土苗五地劍	TZ
小古	SK	度	TD	後	NH
	NG		HB		GK
	HM		KK		AK
	NN		WM		AK
	MT		NK		KR
	TT		KY		KR

二五、客貨車外輪弛緩ノ疑アルモノノ取扱方ノ件

(昭報九、六、二五 通報)

客貨車外輪弛緩ノ疑アルモノノ取扱方左ノ通定ム

一 検査區及機關區ニ於テ外輪弛緩ノ疑アル客貨車ヲ發見又ハ廻送アリタル場合之ヲ検査ノ結果弛緩ノ明カナラサルモノハ外輪ノ内面ニ白ペンキヲ以テ検査年月日及場所名ヲ標記シ尙輪心ト外輪ヲ通シテ幅二十耗ノ白線各一本ヲ内面及外面ニ夫々二箇所宛ニ(約百八十度ヲ隔テ)縦ニ記入シタル上使用スルコト

(註) 弛緩ノ明カナラサルモノトハ槌打試驗ノ結果濁音ノ程度甚シカラサルモノ又ハ輪心ト外輪ノ嵌入部ニ部分的ニ赤錆又ハペンキ切アル程度ノモノヲ謂フ

二 外輪弛緩ノタメ入場シタル客貨車ニ對シ工場ニ於テ検査ノ結果使用ニ差支ナシト認メタルトキハ前號ト同様ノ取扱ヲナシ出場セシムルコトヲ得

三 第一號ノ標示ヲナシタル客貨車ニシテ輪心ト外輪ヲ

通シテ記入シタル白線ニ喰違ヲ生シタルモノヲ發見シタルトキハ直ニ該車ノ締切コツクヲ閉チ客車ハ受持工場、貨車ハ最寄工場ニ入場手配ヲナスヘシ、但シ止ムヲ得サル場合ハ終着驛迄使用ノ上入場手配ヲナスコトヲ得

### 二六、客貨車用軸箱ノ基本

(大正一五、一〇、七) 達第八四五號

客貨車用軸箱ノ基本左ノ通定ム

大正九年五月達第四五七號ハ之ヲ廢止ス

- 軸箱 第一種(ボギ一客車 七 軸箱) 軸用) VC四三〇〇Z
- 第二種(ボギ一客車 七 軸箱) 軸用) VC四三二〇Z
- 第三種(二 軸 車 七 軸箱) 軸用) VC四三二一Z
- 第四種(二 軸 車 七 軸箱) 軸用) VC四三二二Z
- 第五種(ボギ一貨車 七 軸箱) 軸用) VC四三三〇Z

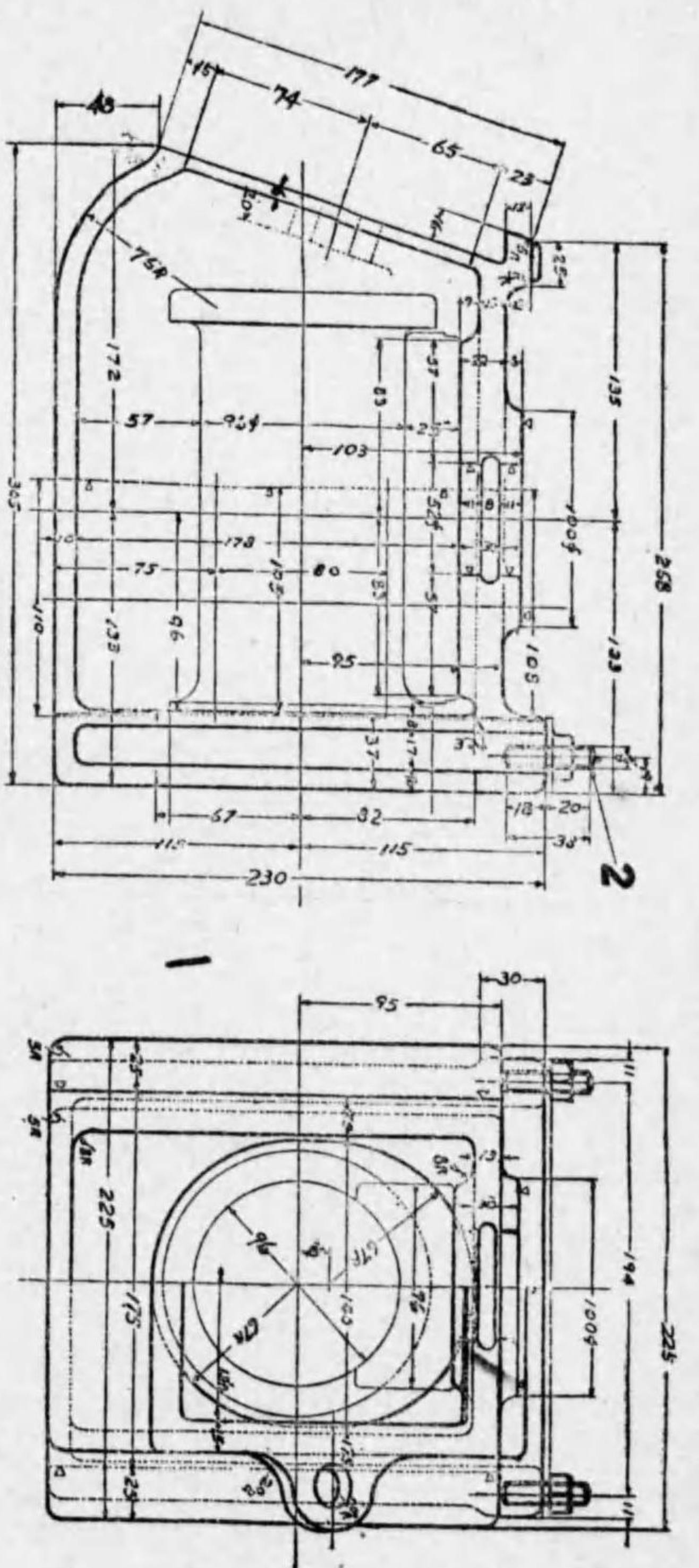
四 第一號ノ標示アル外輪ヲ締直シタルトキハ該標示ヲ抹消スヘシ  
附 昭和六年七月三日公報通報貨車外輪弛緩ノ疑アルモノノ取扱方ノ件ハ之ヲ廢止ス

- 第六種(二軸車十二軸長軸用) VC四三一三Z
- 第七種(ボギ一客車十二軸長軸用) VC四三二四Z
- 第八種(二軸車十二軸長軸用) 擔ベネノ巾一〇 二耗ノ場合) VC四三三三Z
- 軸箱前蓋及附屬品 VC四三三三BZ
- 車軸受金(軸箱第一種及第三種用) VC四三〇七Z
- (軸箱第二種及第四種用) VC四三〇八Z
- (軸箱第五種用) VC四三一〇Z
- (軸箱第六、七、八種用) VC四三一四AZ
- 軸箱ノ溝形狀 (第三種用) VB四一〇六Z
- (第四種及第六種用) VB四一〇七Z
- (第八種用) VB四一〇八Z

車軸受金押へ (軸箱第五種用) VC四三一一Z  
鈎合梁座 (ボギ一客車軸箱用) VC四三二五Z  
バネ座 (二軸車軸箱用) VC四三三二Z  
車軸受金ノ限度ハ左記ニ依ルヘシ

工場修繕限度	使用限度
厚(メタルライニングナキ場合)	一六耗 一三耗
ジャーナルノ長ニ對スル隙間一般用	六耗 一〇耗
同 三軸ボギ一車中軸用	一〇耗 一三耗
背面突起部ノ直徑(突起部上面ニ於ケル最小直徑)	四四耗 四二耗

圖第七號 (一) 客貨車用軸箱ノ基本 大一五、一〇 達八四五  
 軸箱第一種(ボキ一客車七座長軸(甲)用)

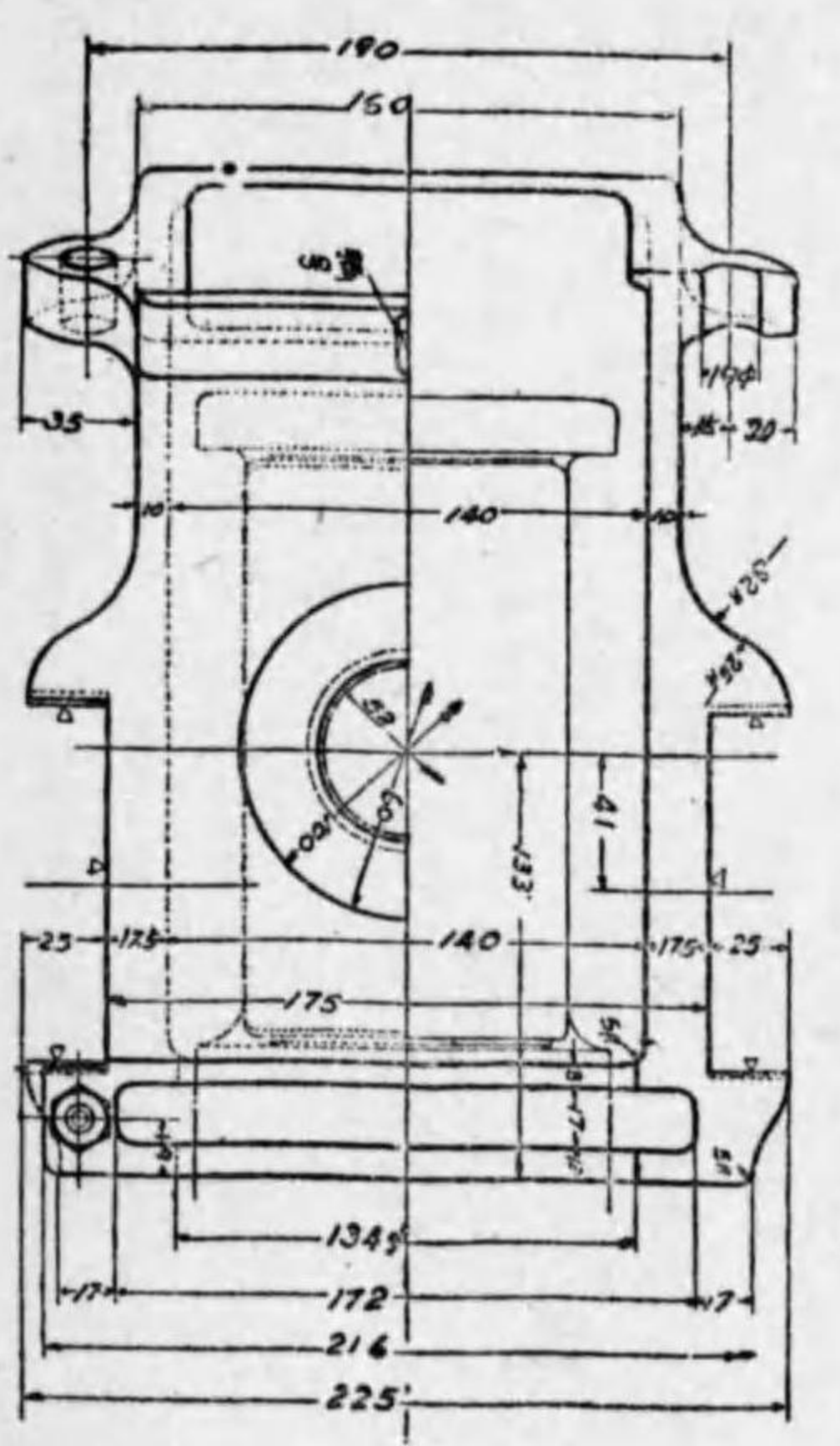


11111

順	名	鋼	材料	寸法	備	記	寸
1	軸箱體	中鋼	1				
2	蓋板(上下)	中鋼	2				

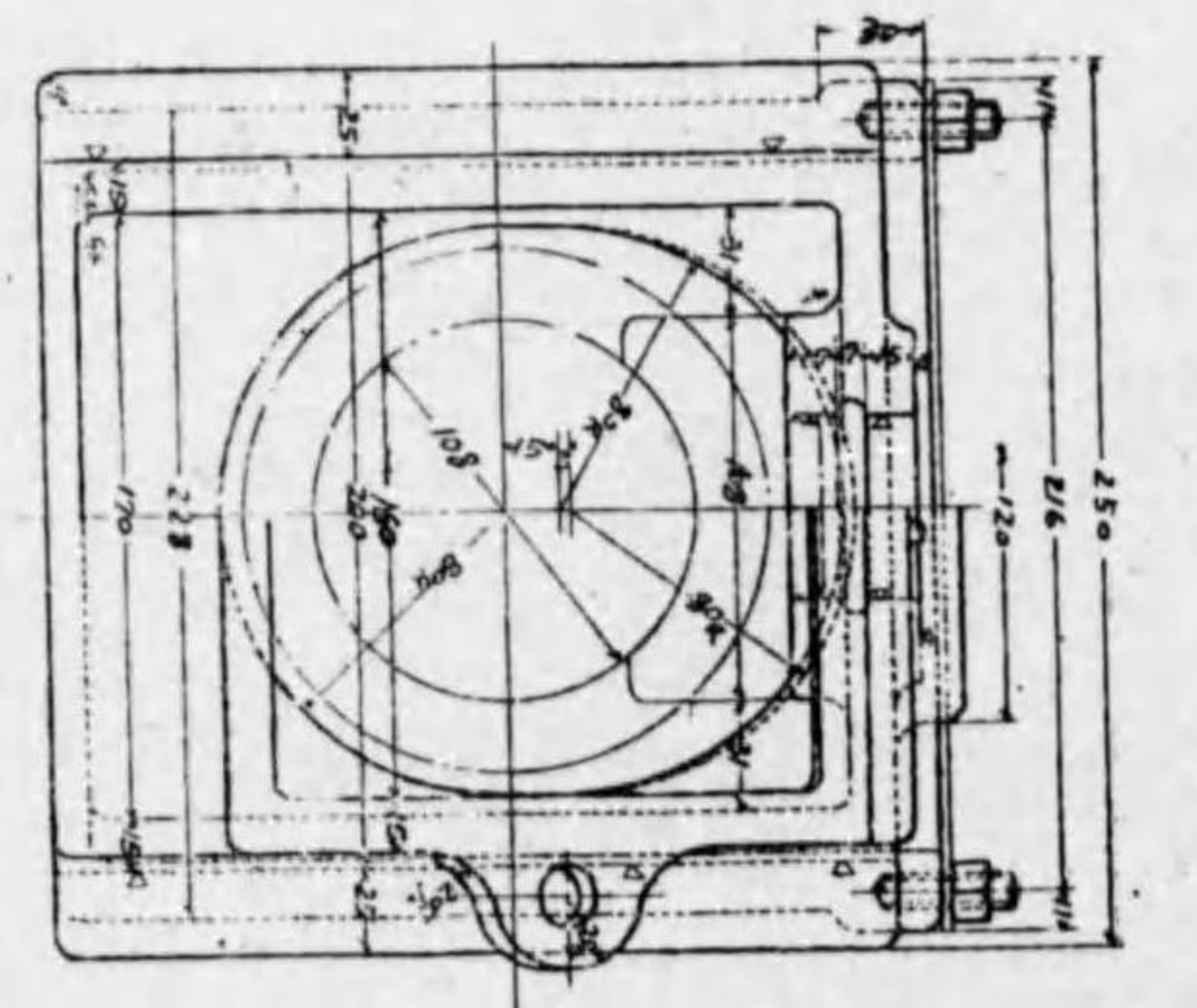


V C 4300 - Z

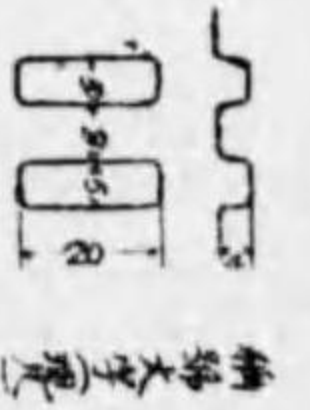


圖第七號 (二)

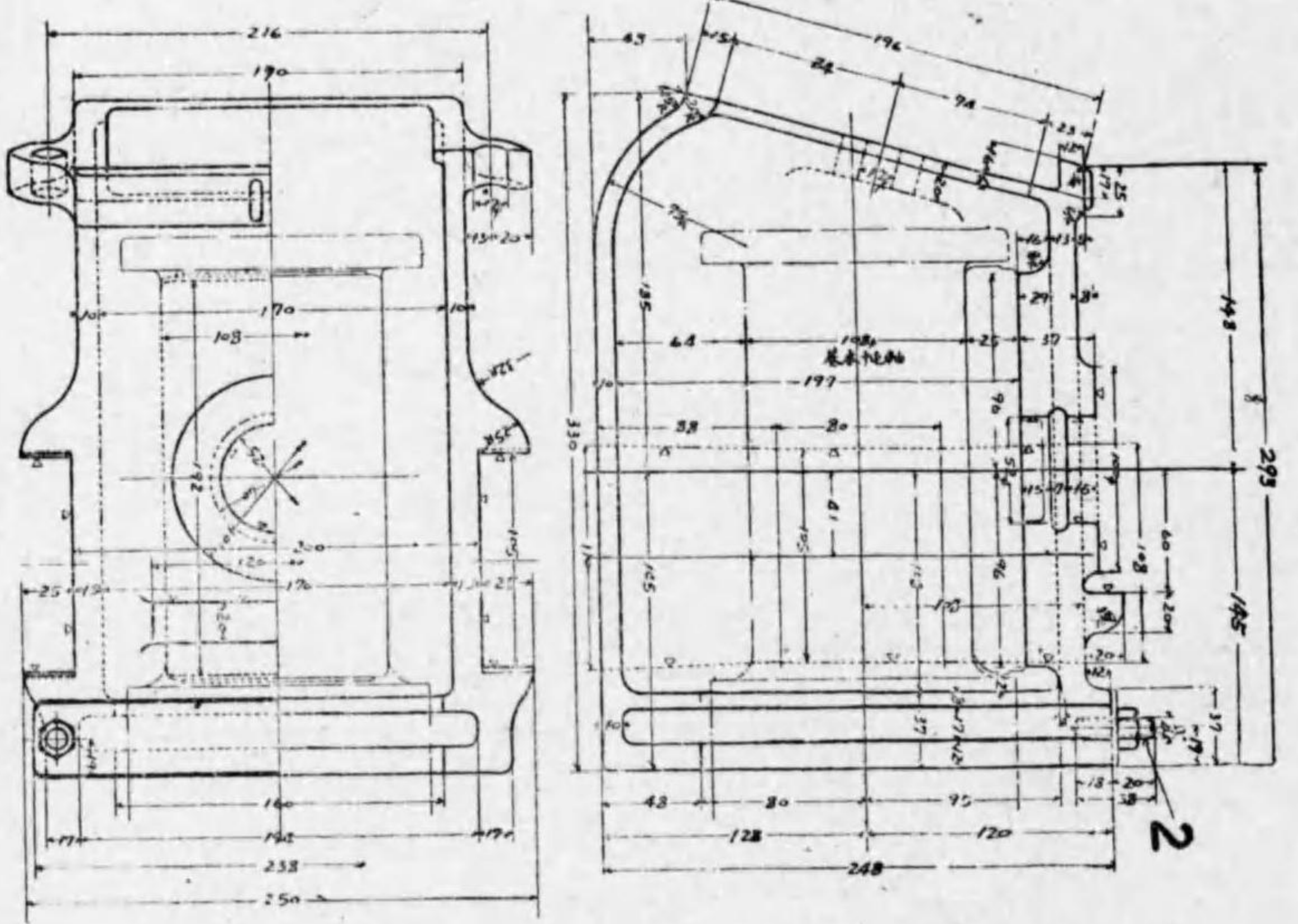
軸箱第二種(ボキ一客車七座長軸(乙)用)  
 十座長軸(乙)用



順	名	鋼	材料	寸法	備	記	寸
1	軸箱體	中鋼	1				
2	蓋板(上下)	中鋼	2				



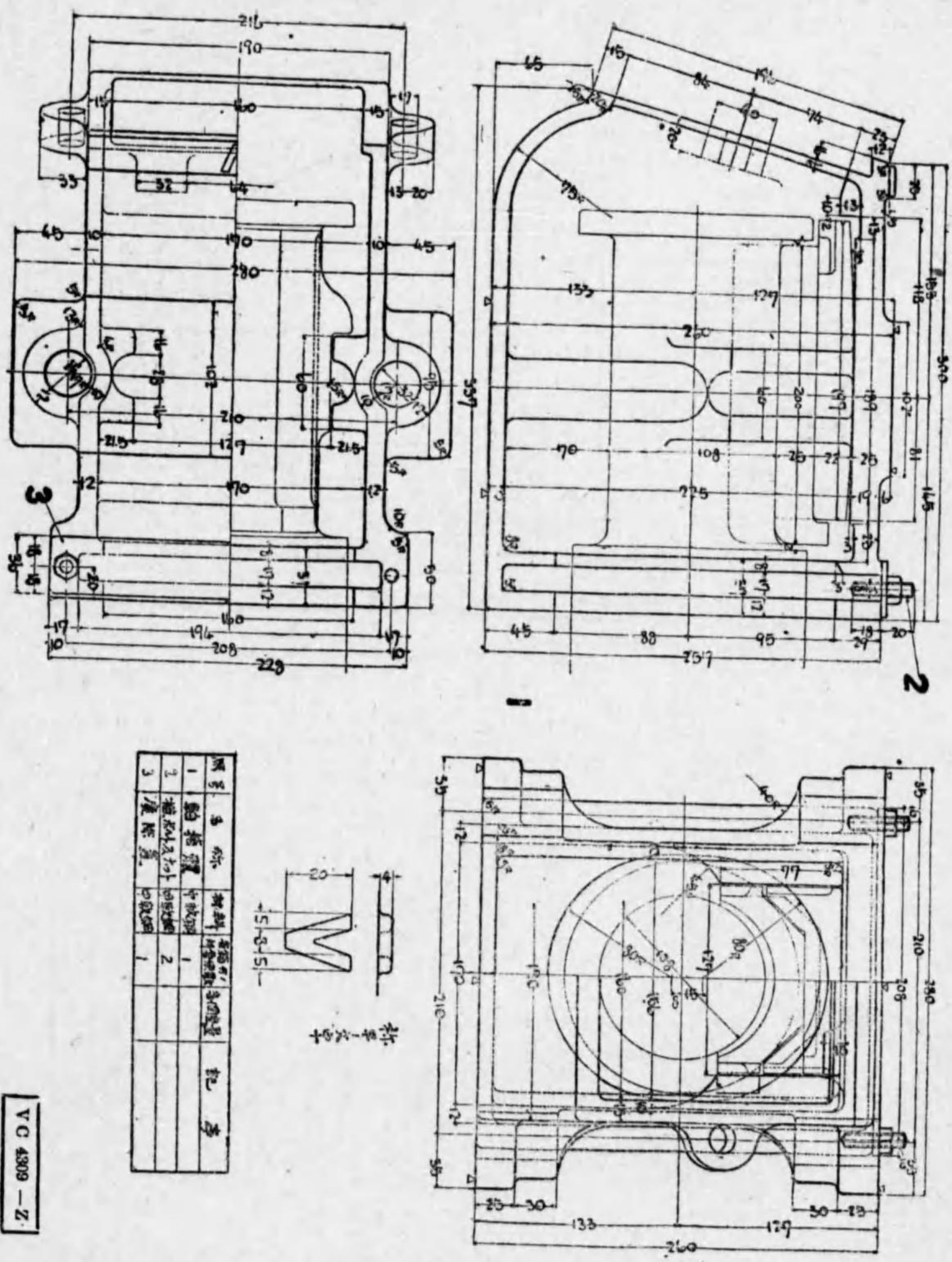
V C 4312 - Z



11111

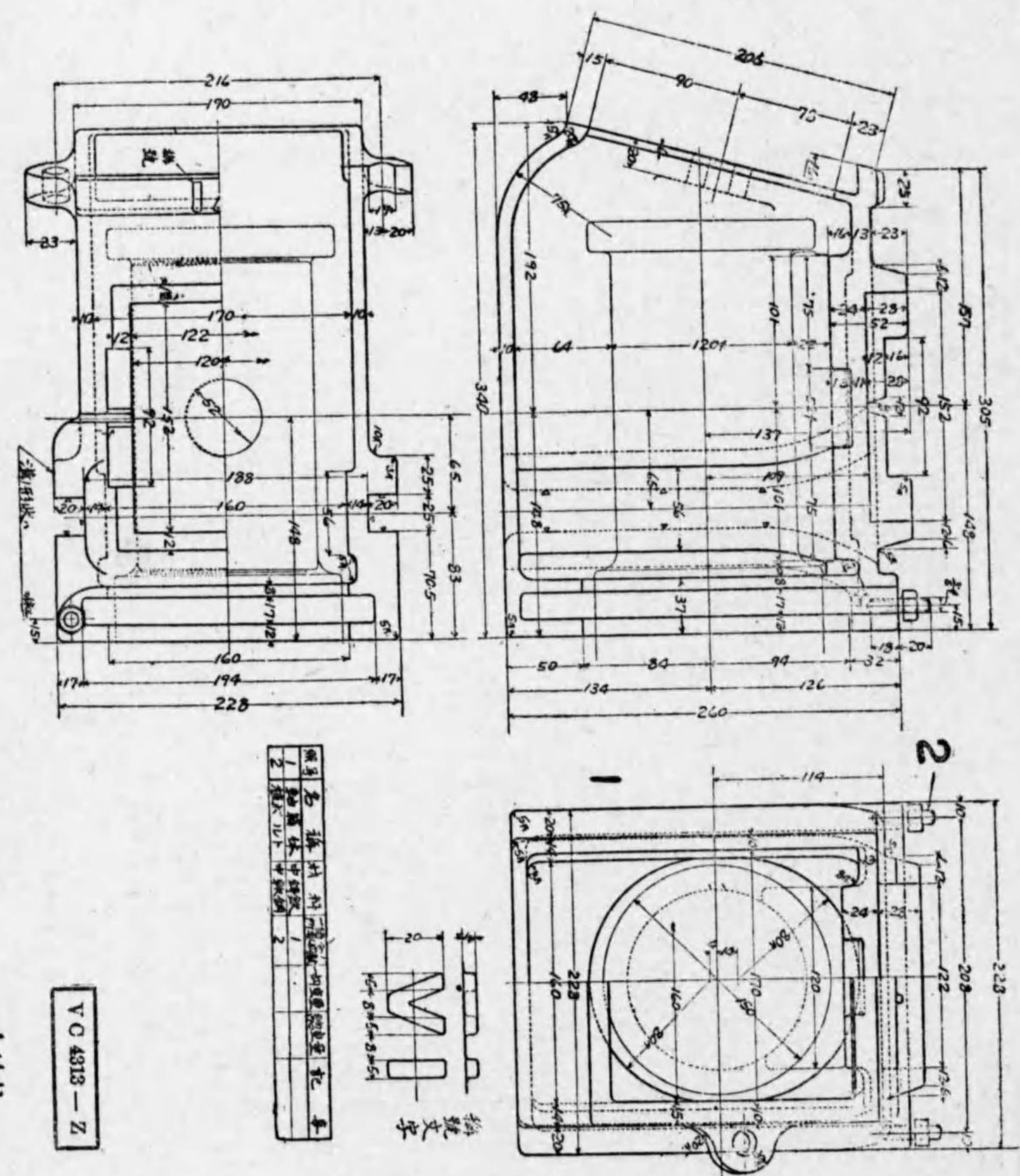


圖第七號 (五)  
 軸箱第五種 (平一貨車七軸長軸) (二)  
 軸箱第五種 (平一貨車十軸長軸) (用)



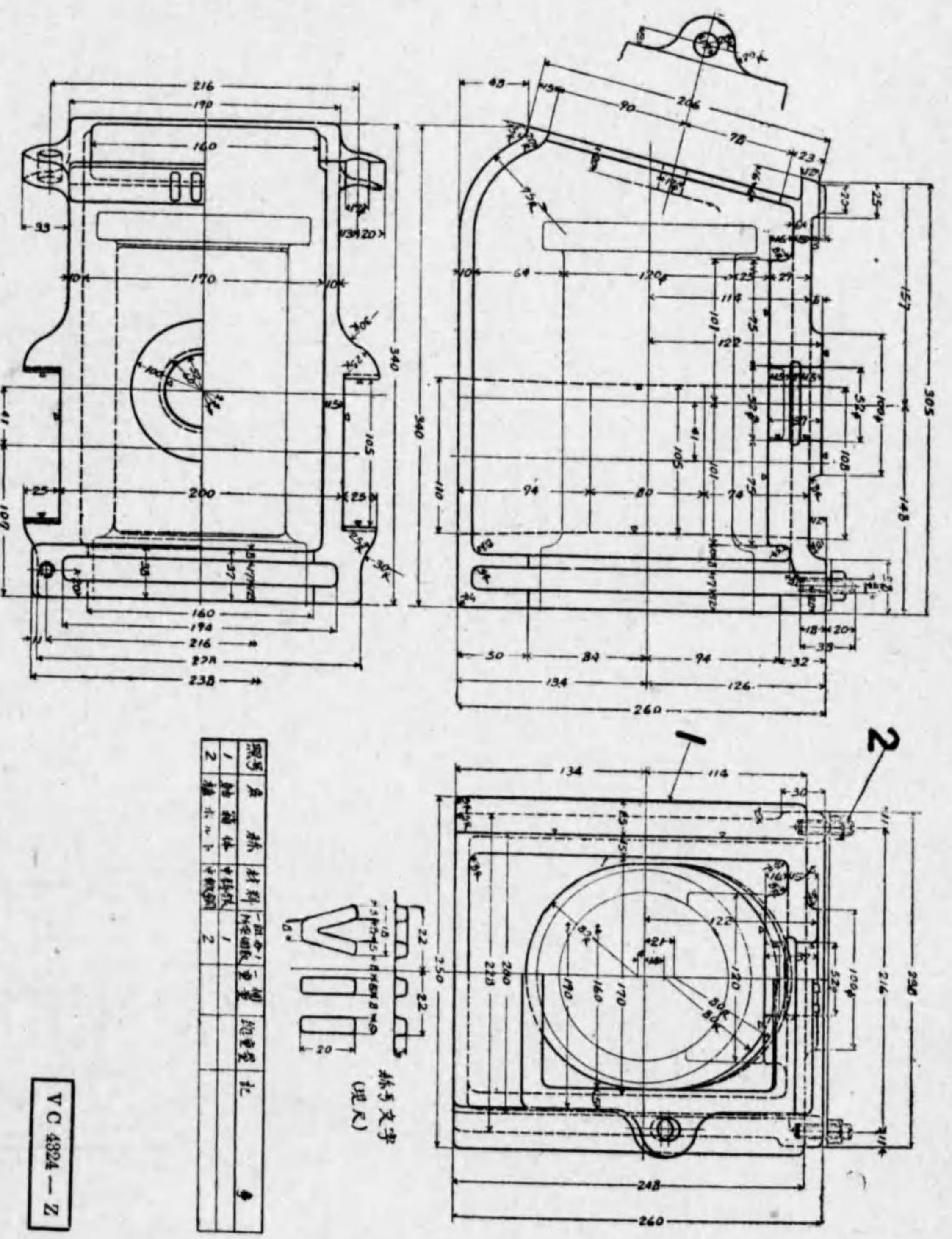
VC 4309-Z

圖第七號 (六)  
 軸箱第六種 (二軸車十二軸長軸用)



VC 4313-Z

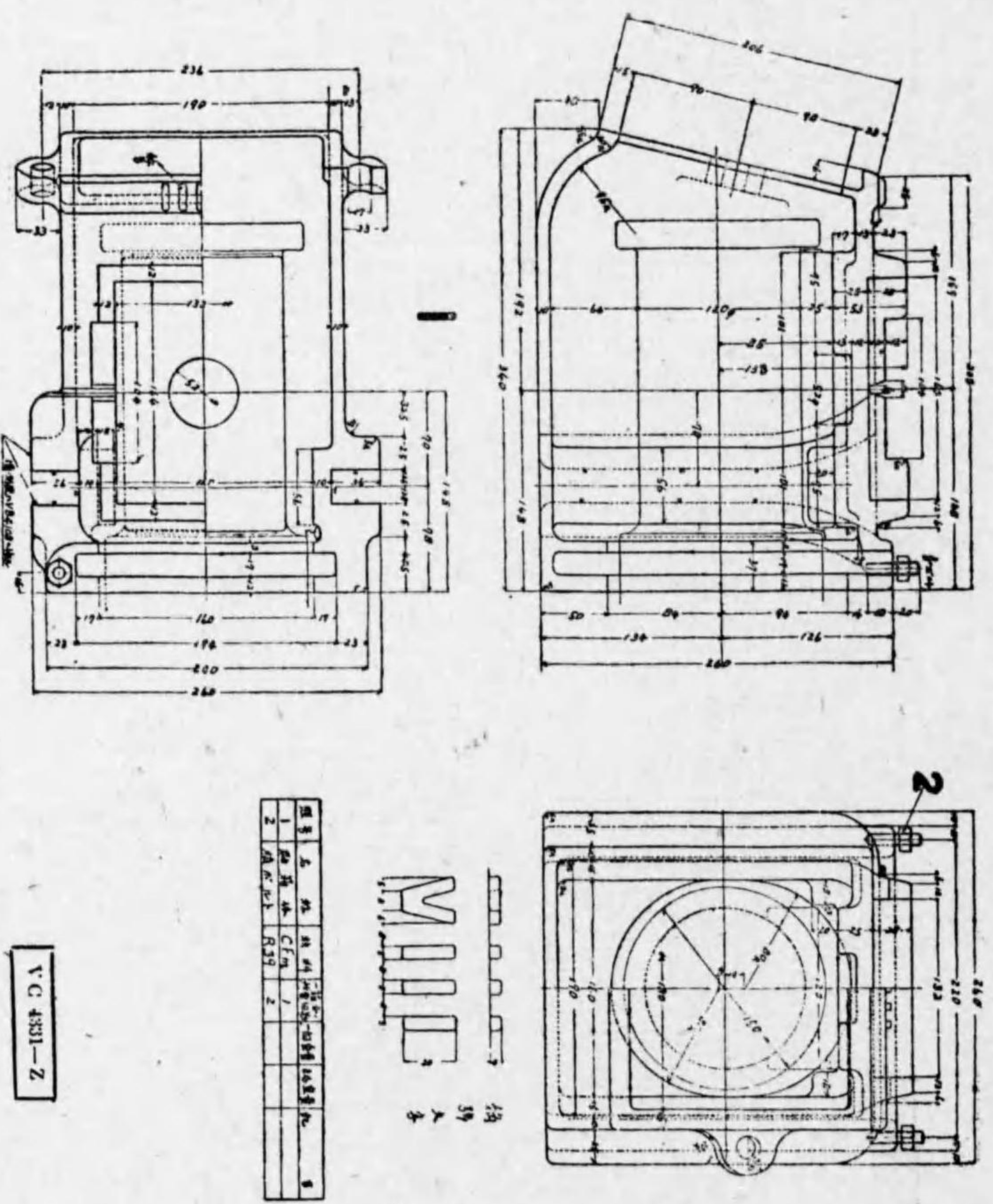
圖第七號 (七)  
軸箱第七種 (ボキ一客車十二距長軸用)



VC 4324-Z

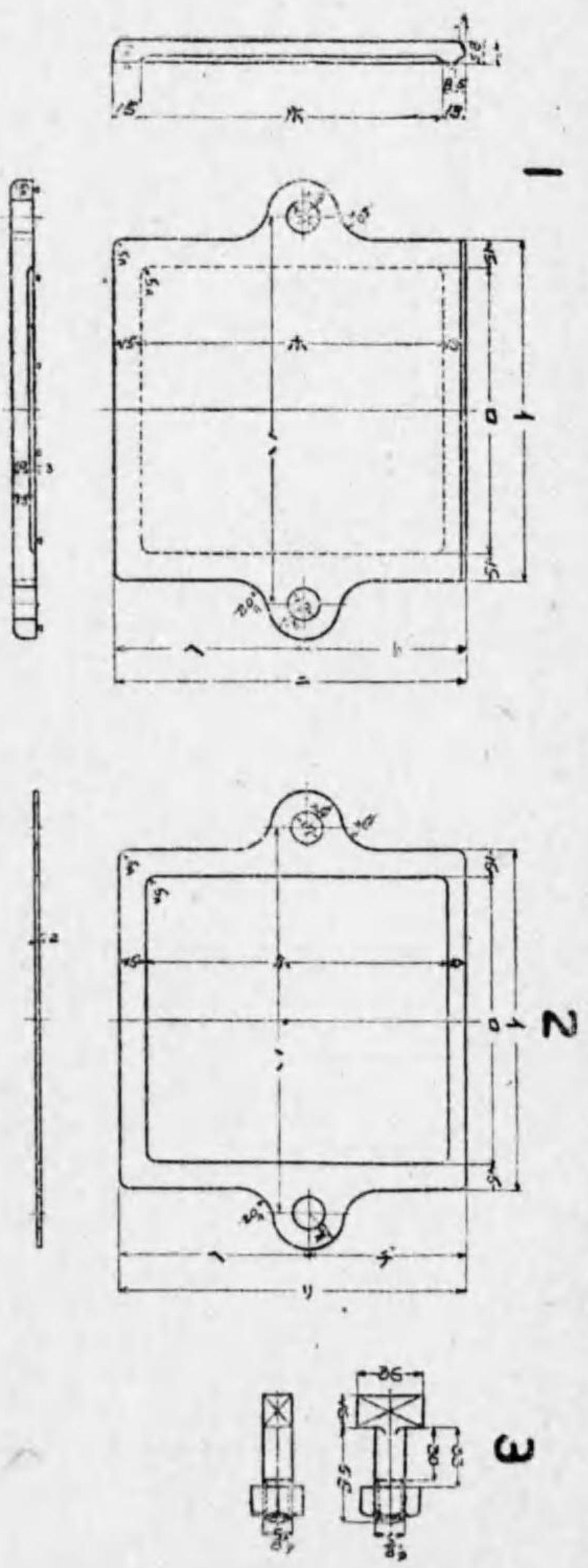
圖第七號 (七)

軸箱第八種 (二軸車十二距長軸用擔メノ巾一〇二程ノ場合)



VC 4331-Z

圖第七號(八)  
軸箱前蓋及附屬品



1 1110



照号	名称	材料	重量	備註
1	鋼板	C45	1	
2	鋼絲	鋼絲	2	
3	彈簧	鋼絲	1	

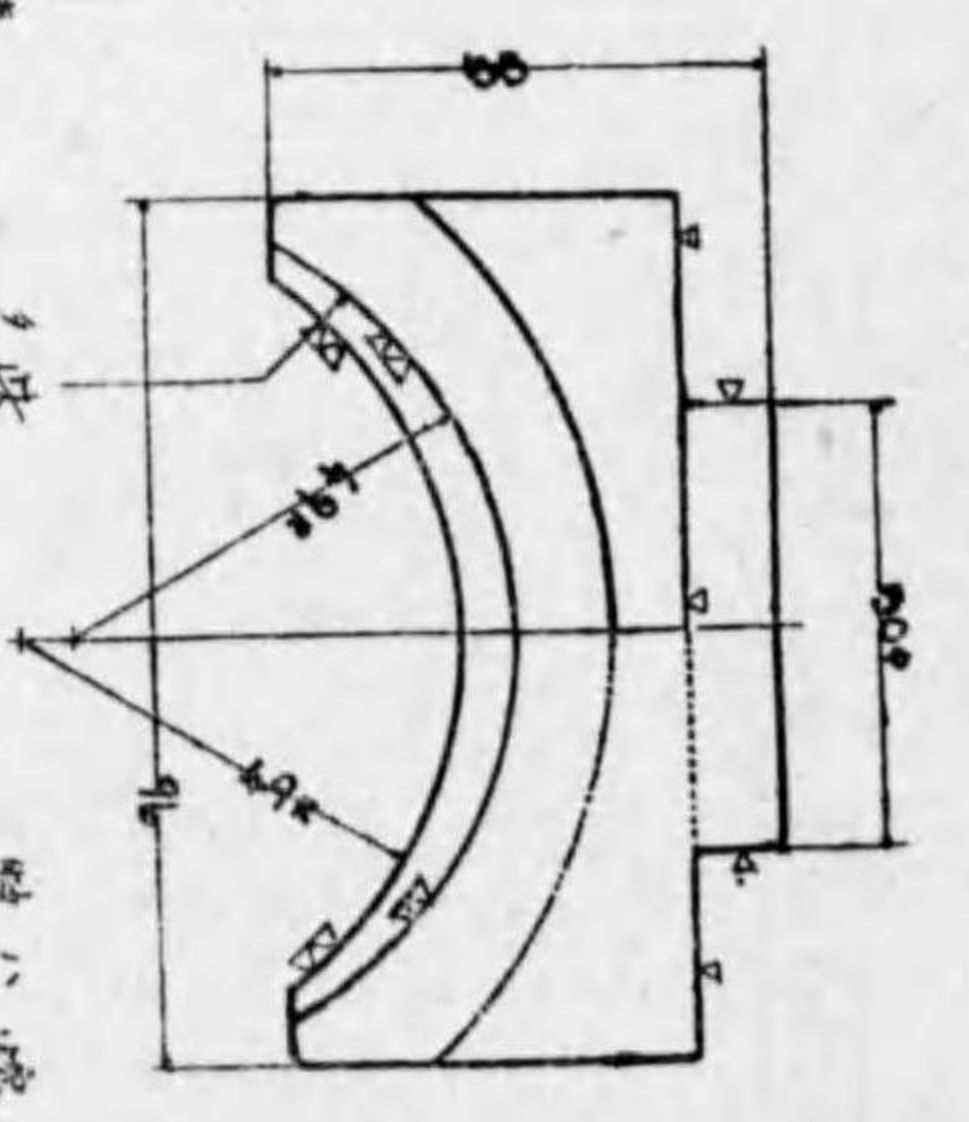
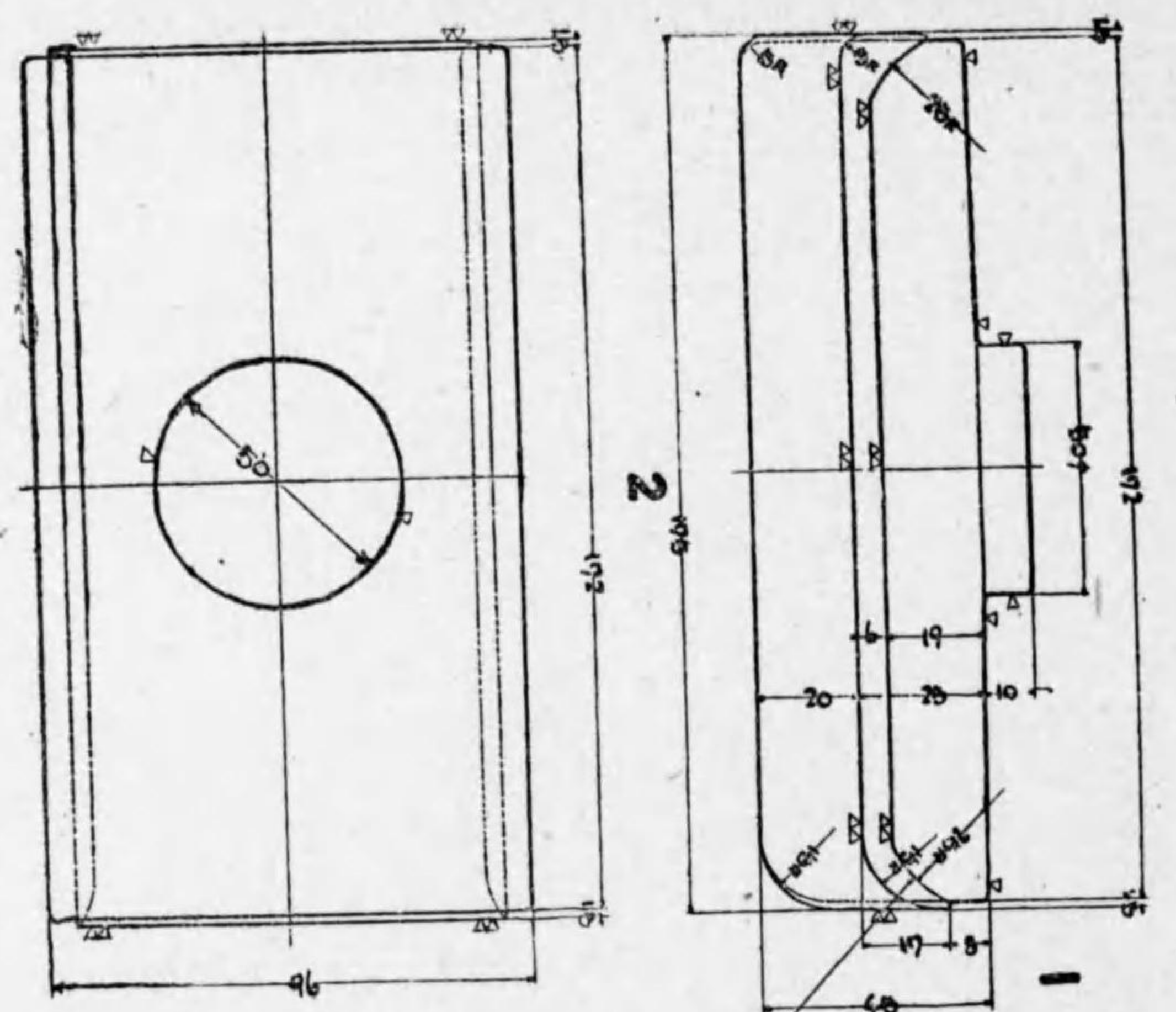
類別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
第一種	160	130	190	167	139	84	78	95	104	216	194			
第二種	140	150	216	165	158	84	84	84	84	238	216			
第三種	190	130	190	167	139	84	78	95	104	216	194			
第四種	160	160	216	186	158	94	84	84	84	238	216			
第五種	*	*	*	196	168	105	91	86	105	*	258	216		
第六種	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
第七種	210	120	236	*	*	*	*	*	*	240	220			

註：(1) 鋼板厚度及鋼絲線徑按表內規定。(2) 鋼絲線徑按表內規定。(3) 鋼絲線徑按表內規定。(4) 鋼絲線徑按表內規定。(5) 鋼絲線徑按表內規定。(6) 鋼絲線徑按表內規定。(7) 鋼絲線徑按表內規定。(8) 鋼絲線徑按表內規定。(9) 鋼絲線徑按表內規定。(10) 鋼絲線徑按表內規定。(11) 鋼絲線徑按表內規定。(12) 鋼絲線徑按表內規定。(13) 鋼絲線徑按表內規定。(14) 鋼絲線徑按表內規定。

V C 4323 B Z

圖第七號(九)

車軸安全 (軸箱第一種及第三種用)



注意：  
心口處盛隆八受金體ハセツト  
燻罫点より少シク高シ燻カセハセツト  
ハ漸其溶解長ク達シテ程度ニ  
然シテモ使用スレバ

吹抜面ヲ削正シ目鏡ヲ引キ  
後ハセツトトシテ燻カセト  
燻肌ニテ鑿仕テト

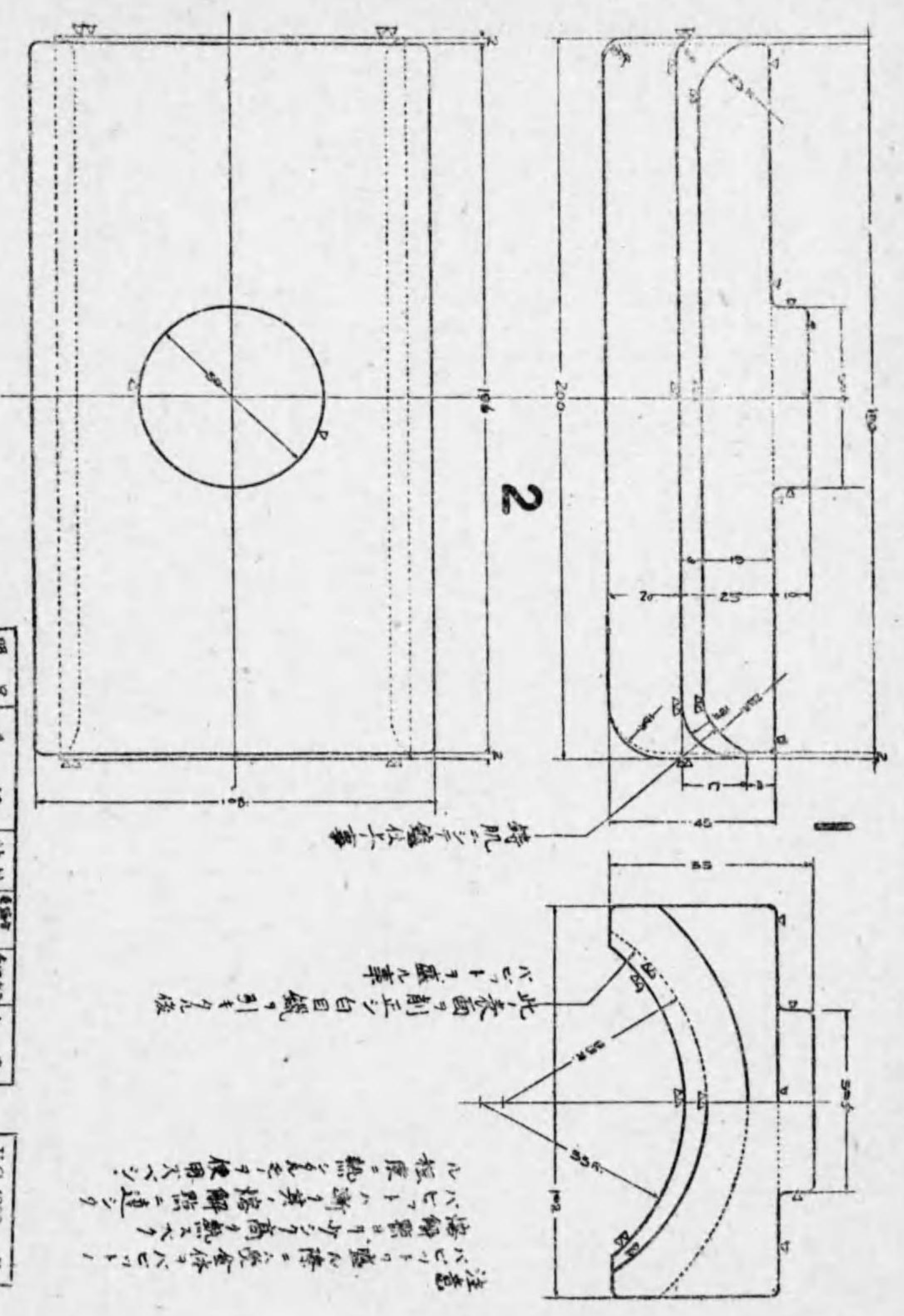
照号	名称	材料	数量	備註
1	受金體	砲金	1	
2	燻皮 19mm	ハセツト	1	

V C 4307 - Z

1 1111

圖第七號 (一〇)

車軸受金 (軸箱第三種及第四種用)



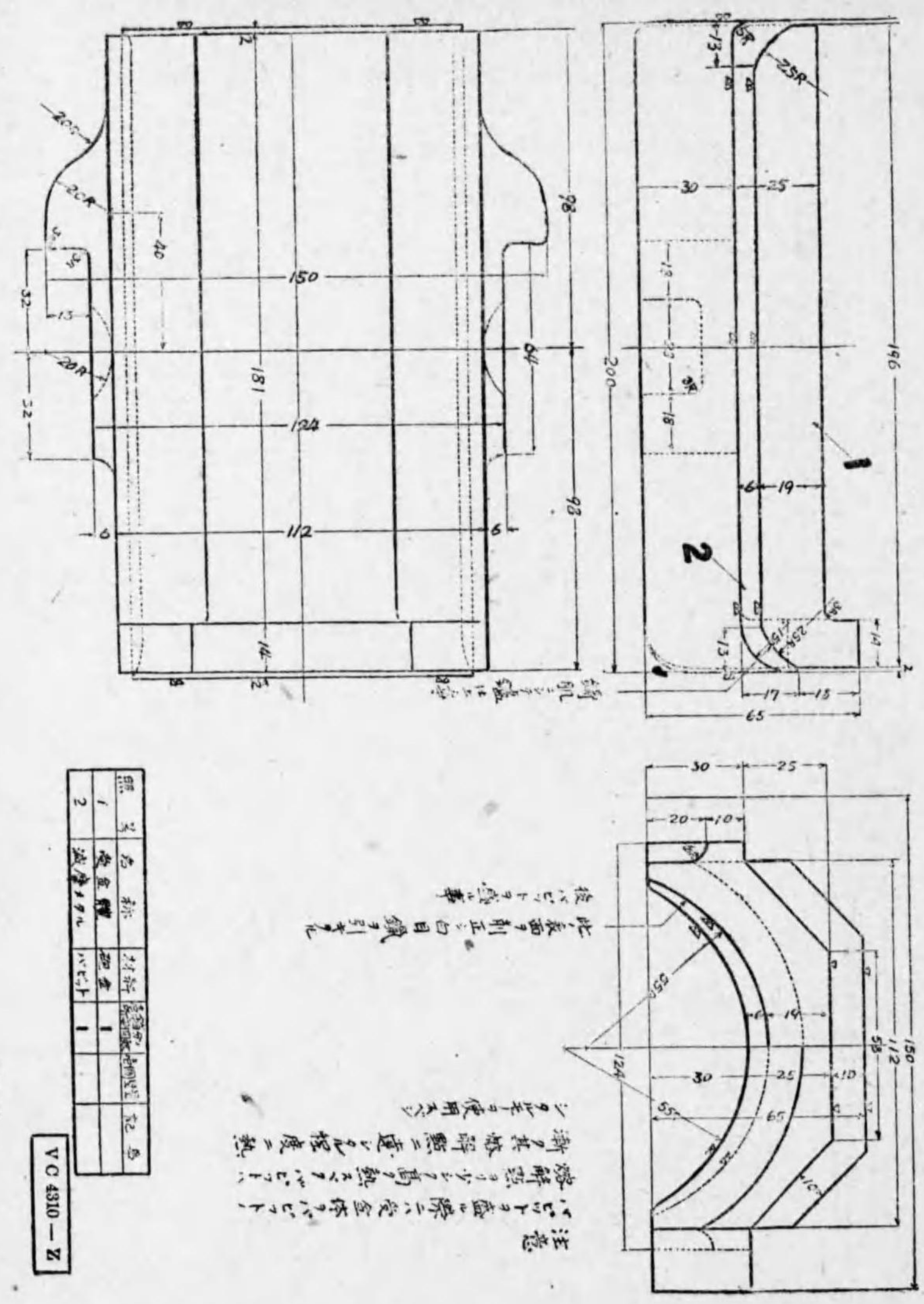
注意  
 パワトノ盛付時ニ受金体ノパワトノ  
 海解點ノ少ク高熱ニ成リ  
 パワトハ漸ク其ノ海解點ニ達シ  
 ル程度ニ熱クモ之ヲ使用ス  
 此表面ヲ削正シ白目鐵ヲ引キ九條  
 パワトノ盛付事

照	号	名	稱	材	質	備	註
照	1	受金體	加蓋	鋼	丸		
	2	海解點	ノ	鋼	丸		

VC 4306-Z

圖第七號 (一一)

車軸受金 (軸箱第五種用)



注意  
 パワトノ盛付時ニ受金体ノパワトノ  
 海解點ノ少ク高熱ニ成リ  
 パワトハ漸ク其ノ海解點ニ達シ  
 ル程度ニ熱クモ之ヲ使用ス  
 此表面ヲ削正シ白目鐵ヲ引キ九條  
 パワトノ盛付事

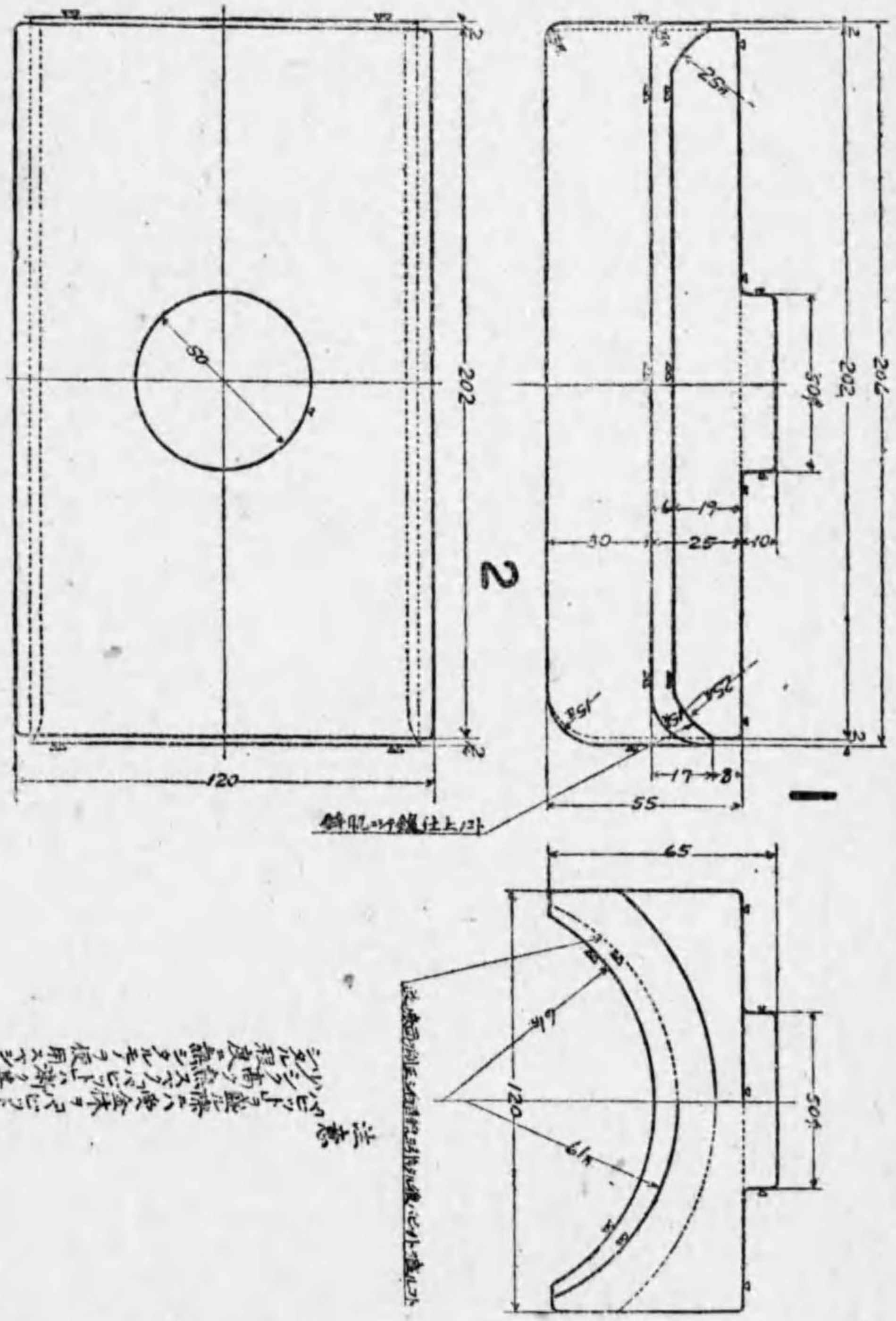
照	号	名	稱	材	質	備	註
照	1	受金體	加蓋	鋼	丸		
	2	海解點	ノ	鋼	丸		

VC 4310-Z



圖第七號(二)

車軸受金(軸箱第六、七、八種用)



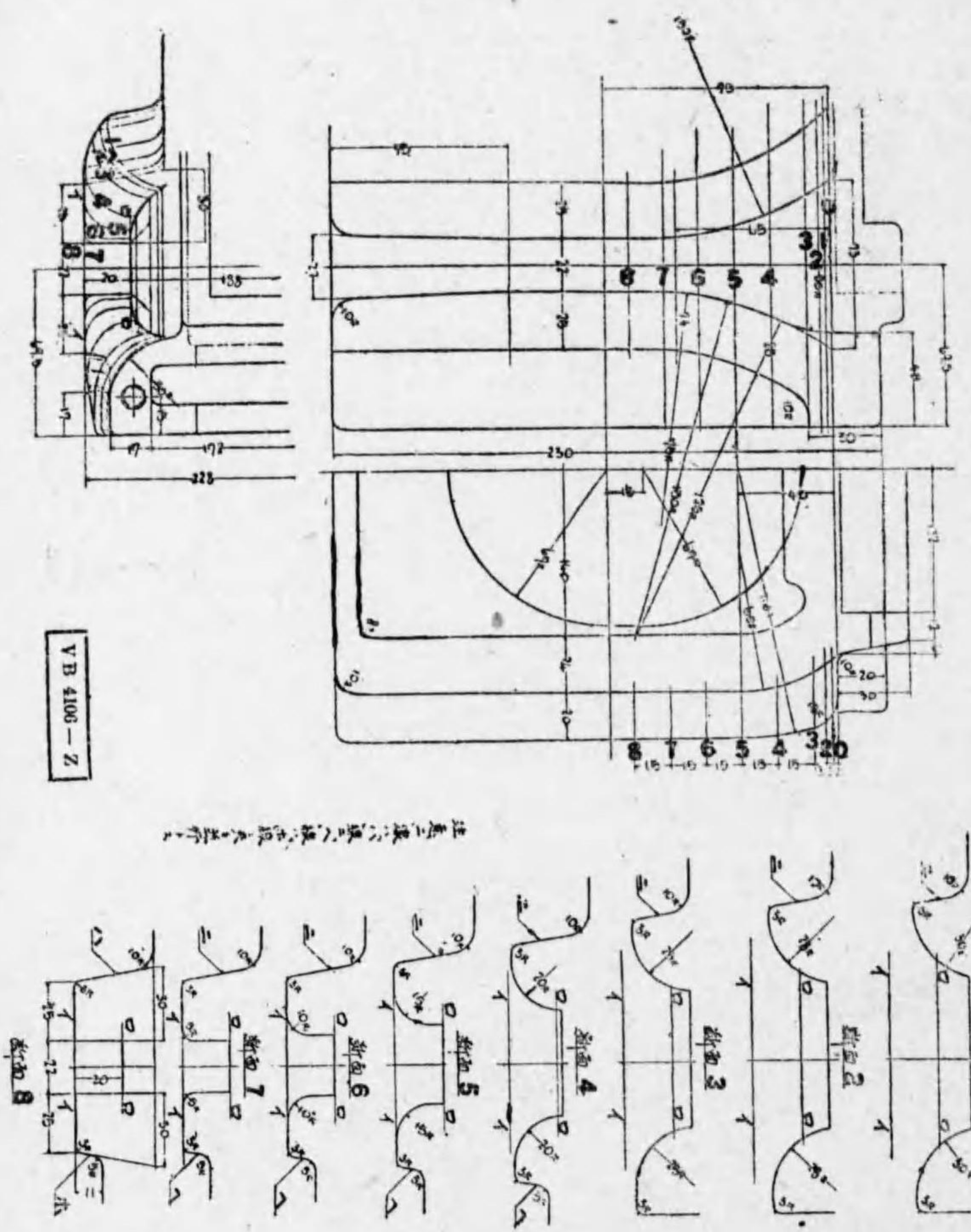
圖號	零件名稱	材料	備註
1	軸	鋼	
2	軸承	鋼	

VC 4314 AZ

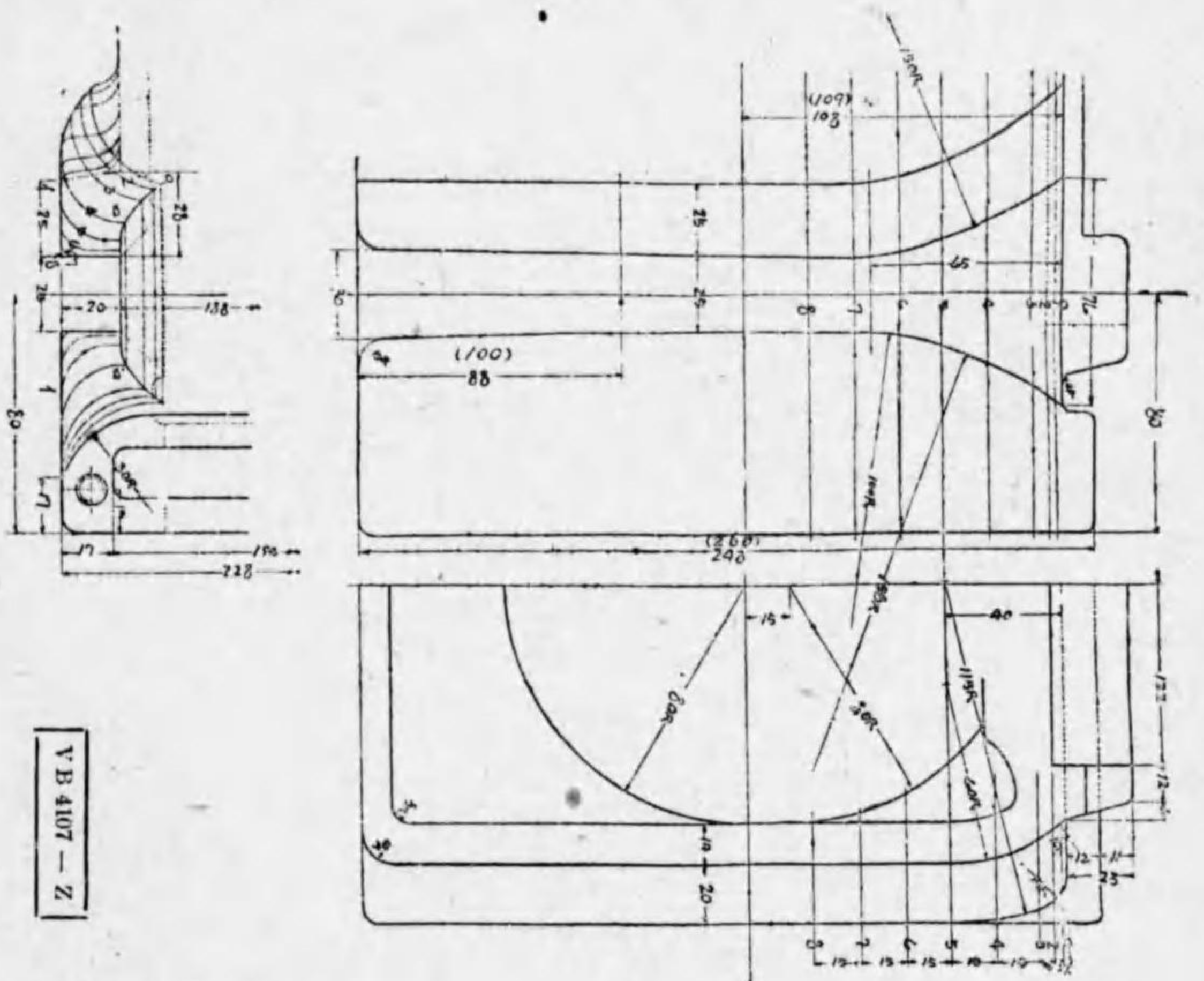
注意  
 此圖之車軸係供八種車用，其長度與重量均不相同，故在設計時，應根據各車之重量與速度，分別計算其所需之車軸，不可混用。

圖第七號(三)

軸箱游形狀(第三種用)

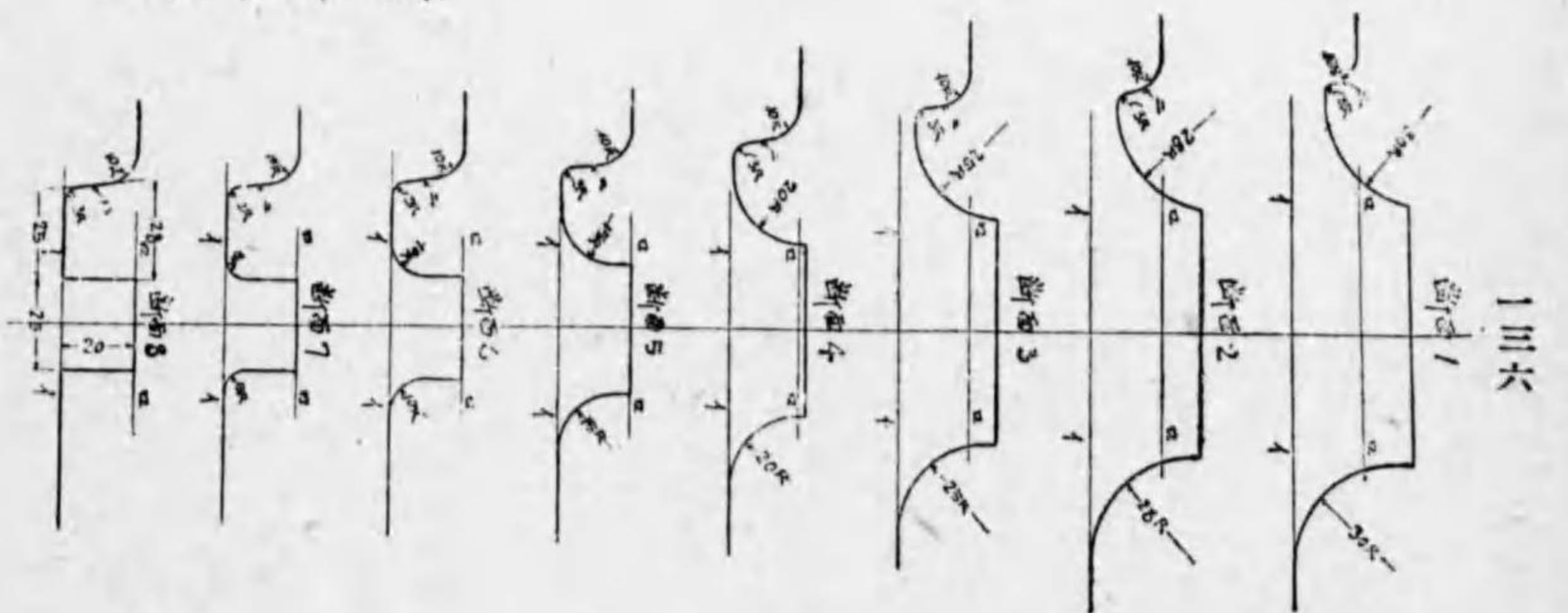


VB 4100-Z

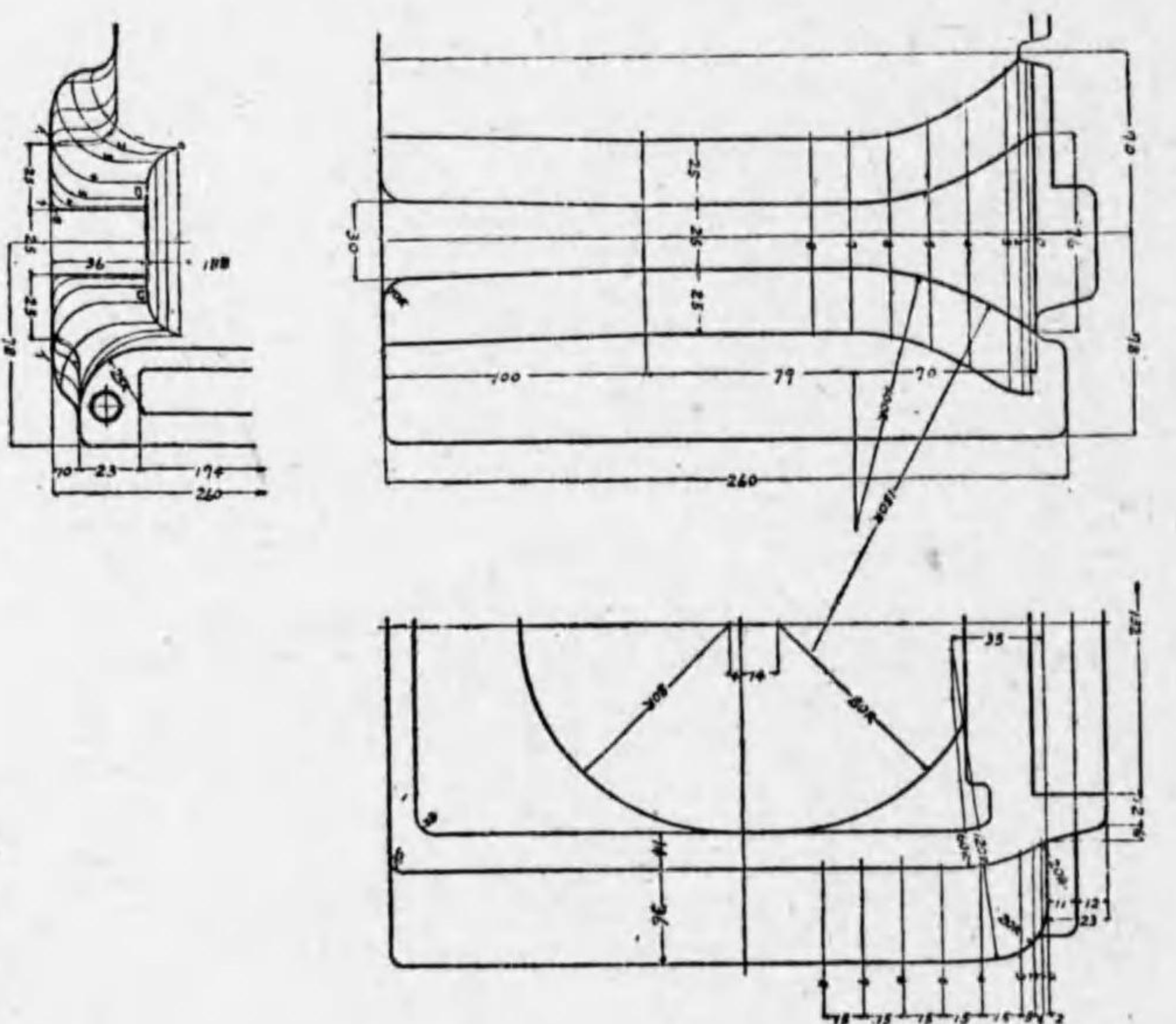


VB 4107-Z

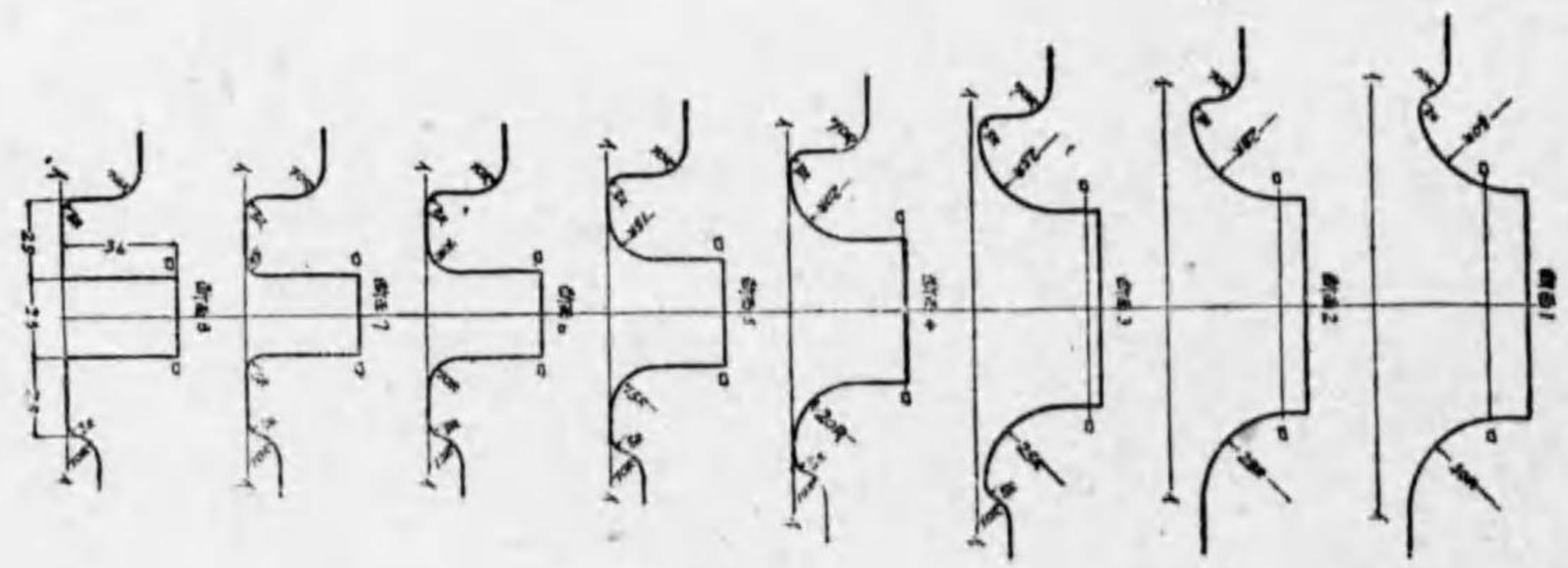
注意：各線均應進行加工  
（可參見本廠說明書）



圖第七號（二四）  
軸箱ノ溝形狀（第四種及第六種用）



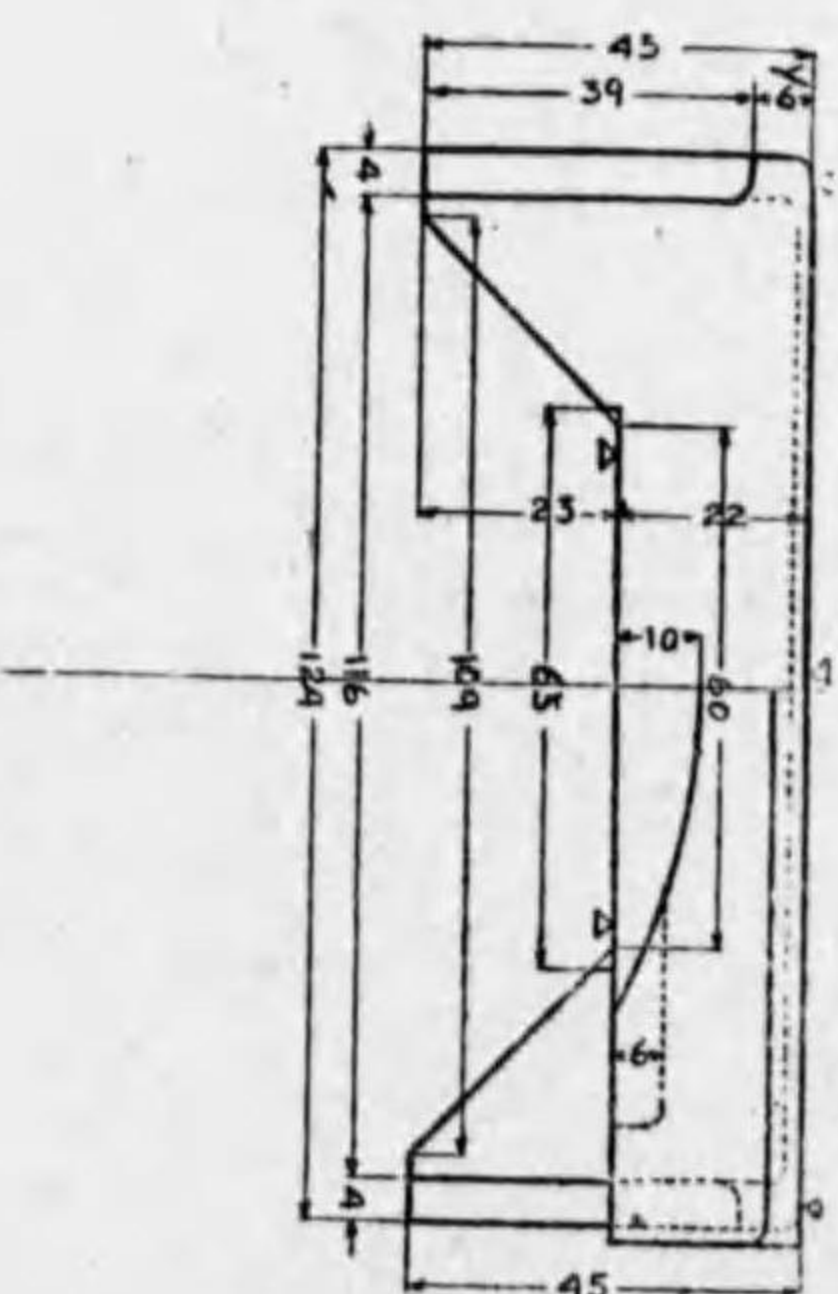
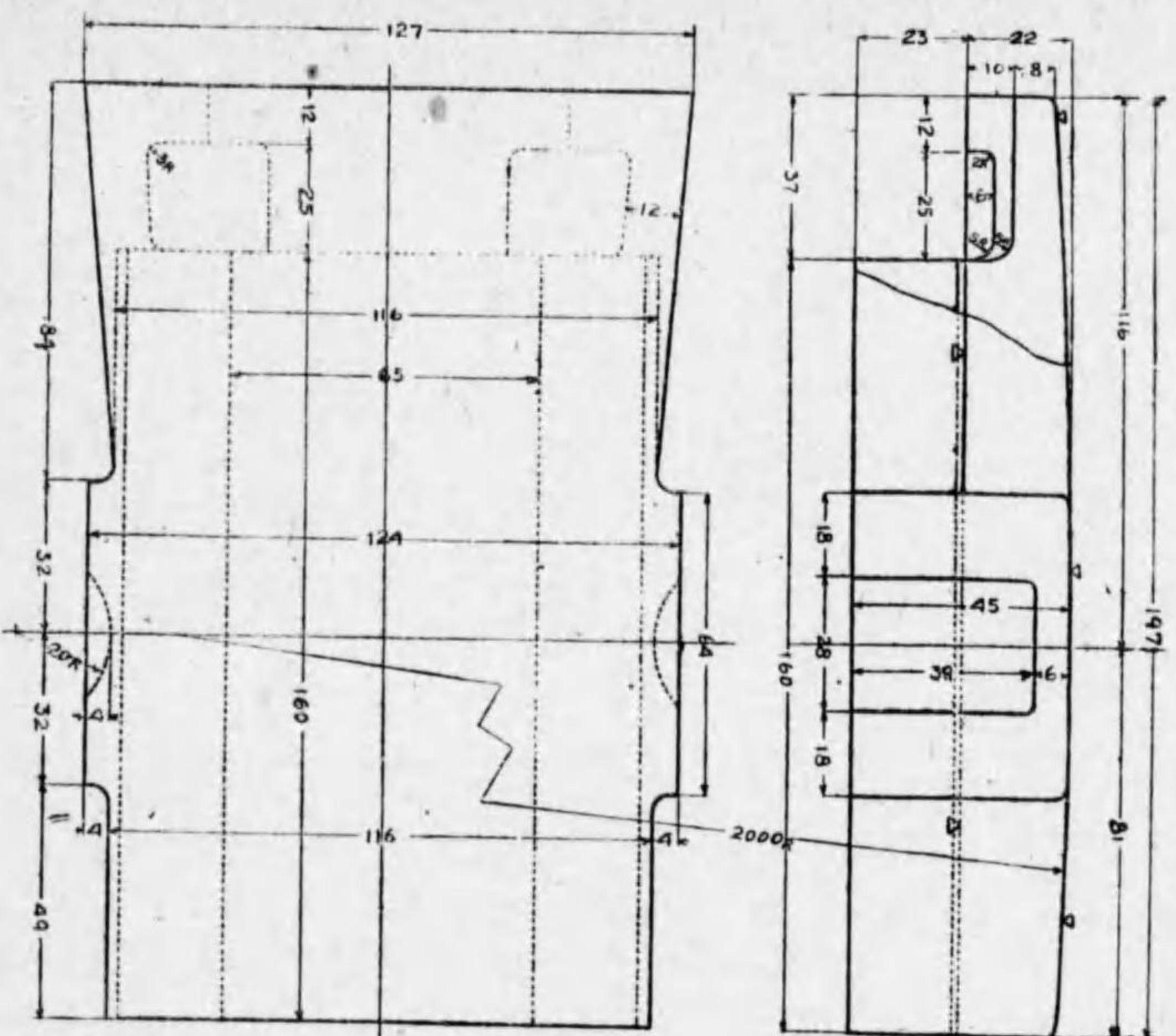
VB 4108-Z



圖第七號（二四）  
軸箱ノ溝形狀（第八種用）

圖第七號 (一五)

車軸受金押 (軸箱第五種用)

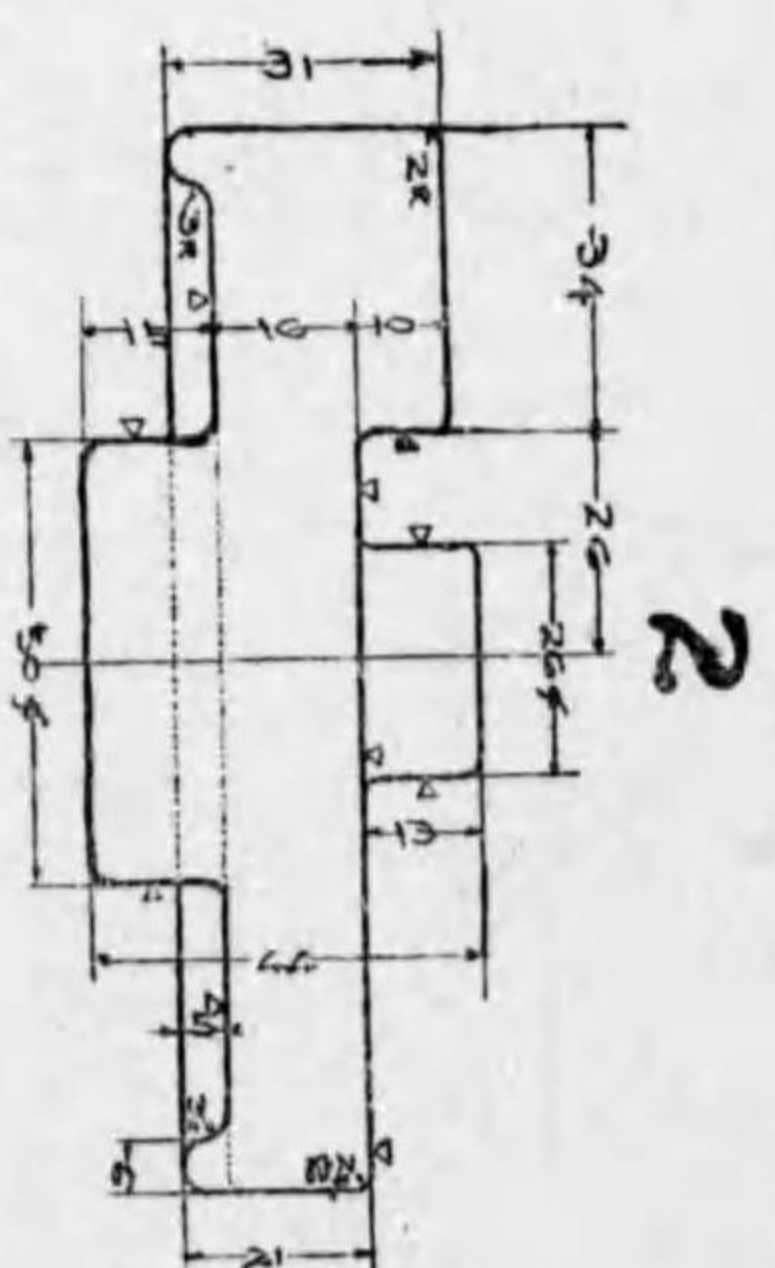
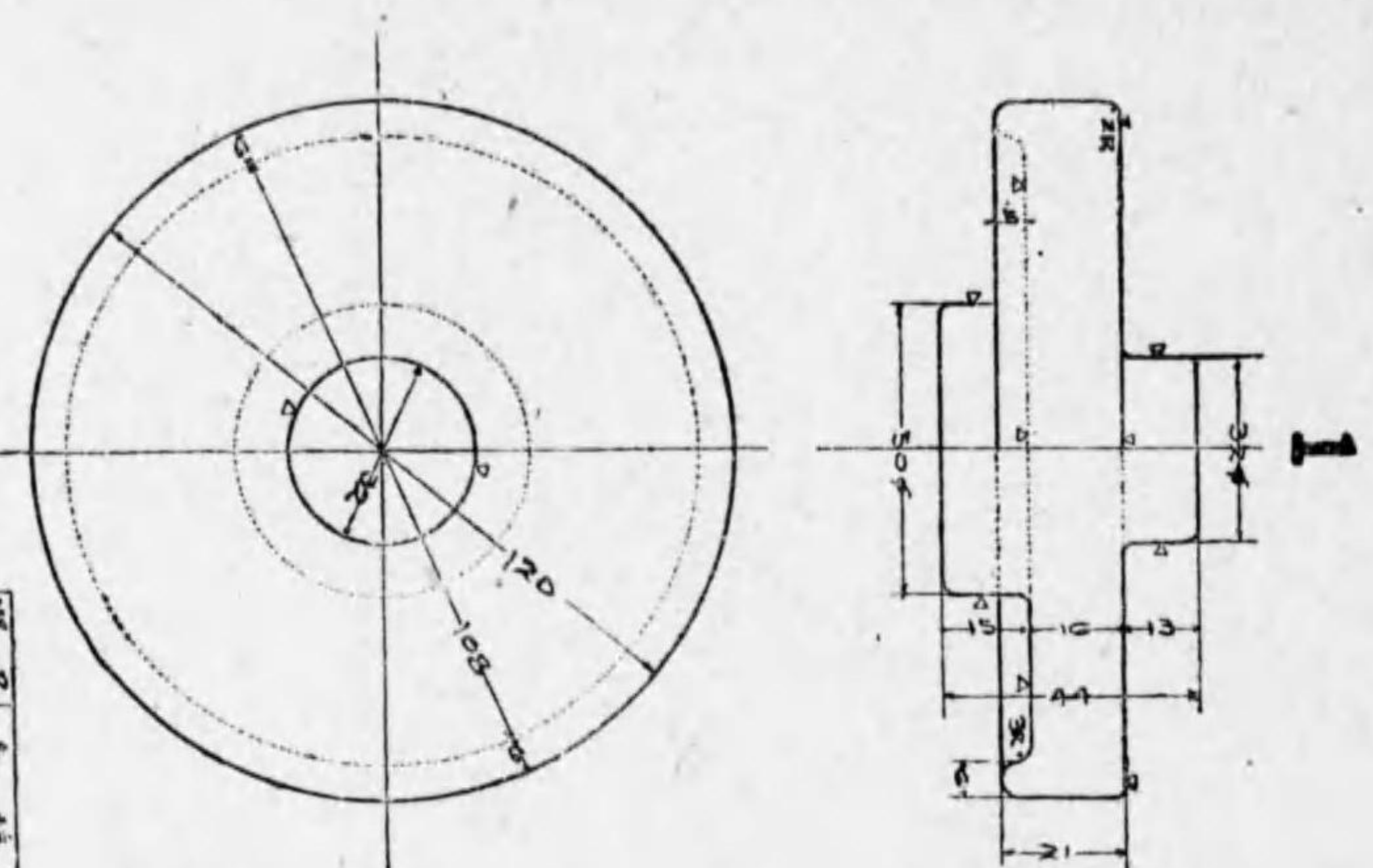


名稱	材料	處理	記号
受金押	中鋼材	1	

VO 4311 - Z

圖第七號 (一六)

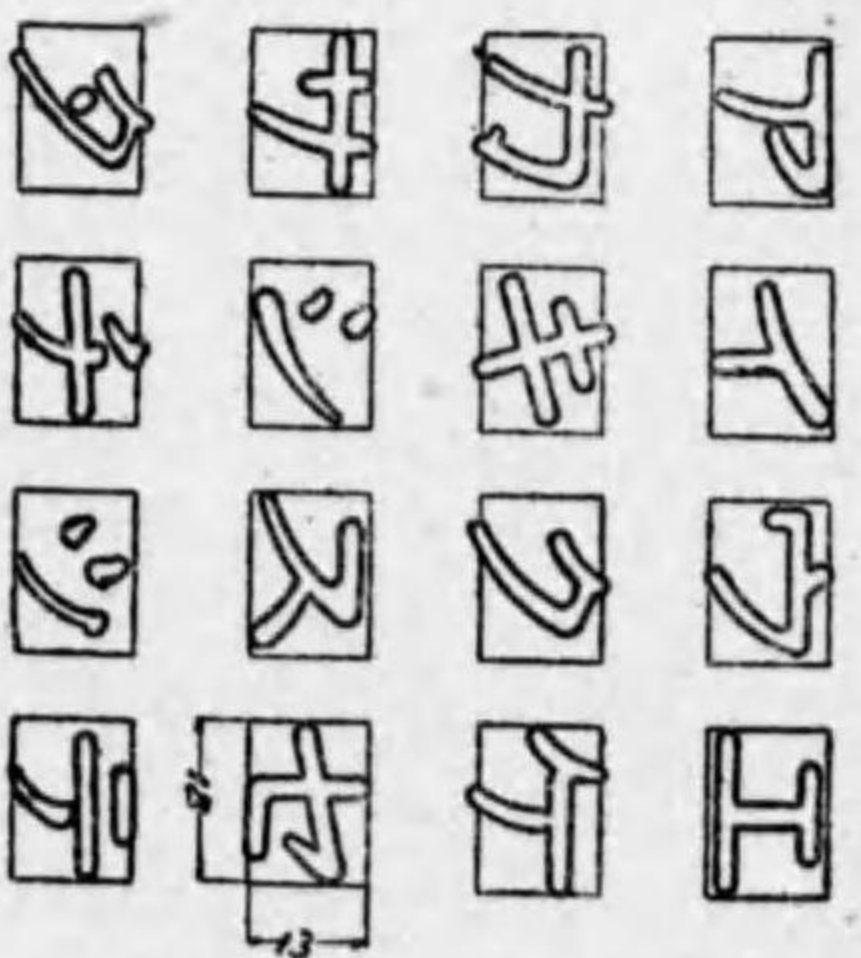
鈎合梁座 (ボキ一客車軸箱用)



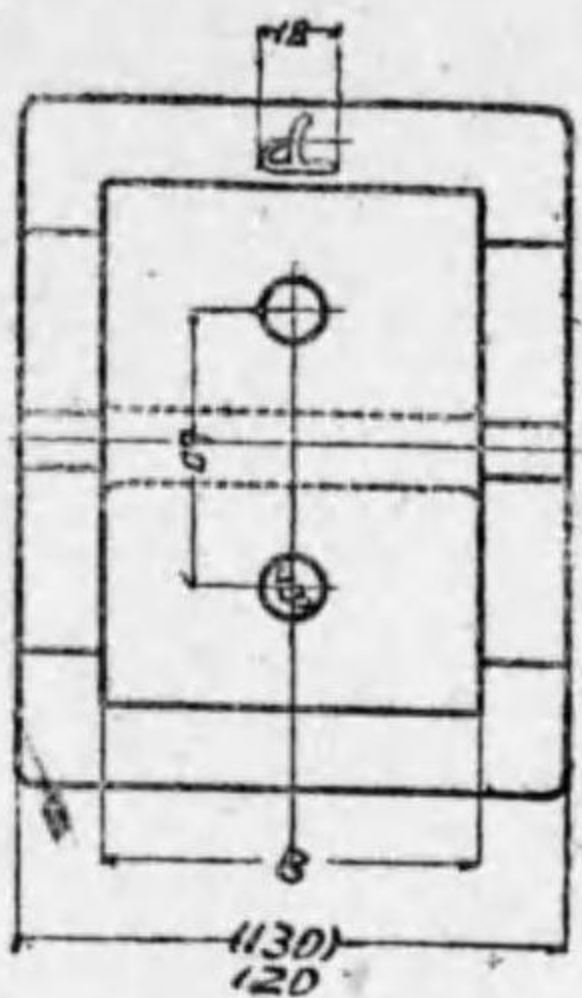
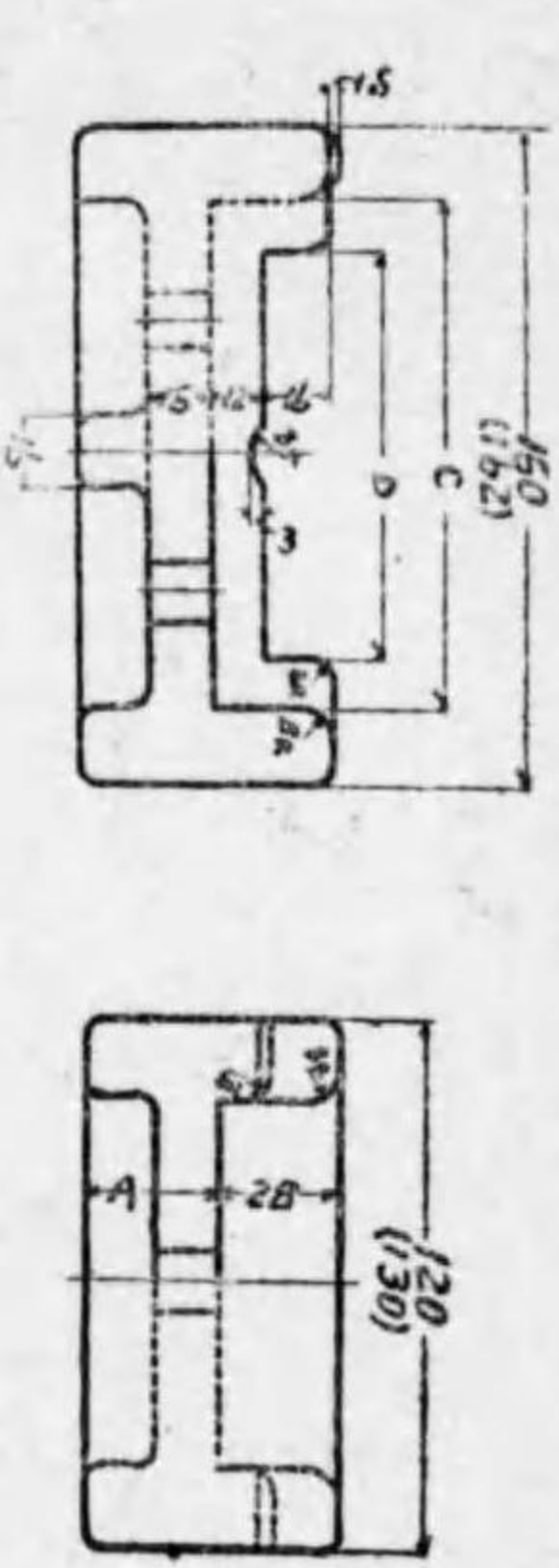
項目	材料	處理	記号
1	鈎合梁座	中鋼材	1
2	鈎合梁座	中鋼材	2

VO 4325 - Z

箱形文字



圖第七號 (一七)  
バネ座 (二軸車輪箱用)



箱形及寸法表

角 途	A				B	C	D	備 考
	0	15	30	45				
貨車用擔バネ座 又は第五種用	ナ	ナ	ナ	ナ	92	124	92	
貨車用擔バネ座 又は第六種用	ナ	ナ	ナ	ナ	66	104	98	
貨車用擔バネ座 又は第七種用	ナ	ナ	ナ	ナ	66	116	92	
貨車用擔バネ座 又は第八種用	ナ	ナ	ナ	ナ	104	136	104	
貨車用擔バネ座 又は第九種用	ナ	ナ	ナ	ナ	104	136	104	

② Aハ標準箱形中心線ノ高さニ係リ寸法(0.15 30×4.5)ヲ取ルベシ

TC 4382-Z

名 稱	材 質	荷 重	寸 法	備 考
バネ座	CF鋼	1	1	1

A=0の場合ハ中央線ノ可成り強軟  
中線ノ場合ハ其稱號文字ハ利便ニヨリコト  
括弧内ノ寸法ハ標準箱形ハ用

### 第五編 擔バネ

#### 二七、貨車用擔「バネ」ノ基本負擔力其ノ他ノ件 (昭五、一八、一七、達第九八七號)

貨車用擔バネノ基本負擔力其ノ他左ノ通定ム

第一條 貨車用擔バネノ基本ハ左ノ通トシ其ノ形狀及寸法ハ別紙圖面ニ依ル

種 類	圖 面 番 號
貨車用擔バネ基本 第一種	AC 三三九二
同 第二種	AC 三三九三
同 第三種	AC 三三九四
同 第四種	AC 三三九五
同 第五種	AC 三三九六
同 第六種	AC 三三九七
同 第七種	AC 三三九八
同 第八種	AC 三三九九
同 第九種	AC 三四〇〇

第二條 目玉付ニ非サル在來ノ貨車用擔バネニシテ其ノ形狀及寸法カ別紙圖面ニ相當スルモノヲ準基本擔バネト稱シ其ノ種類ハ左ノ通トス

種 類	圖 面 番 號
貨車用擔バネ基本 第五種	AC 三三九九
	Z

種 類	負 擔 力 (噸)
貨車用擔バネ基本 第七種	AC 三四〇〇
同 第八種	AC 三四〇一
同 第九種	AC 三四〇二
	Z Z Z

第三條 基本及準基本擔バネ負擔力ハ左ノ通トス

種 類	負 擔 力 (噸)
貨車用擔バネ基本 第一種	三・五
同 第二種	四・五
同 第三種	五・〇
同 第四種	五・〇
同 第五種	五・五
同 第六種	六・〇
同 第七種	五・五
同 第八種	四・五
同 第九種	三・五
貨車用擔バネ準基本 第十種	四・〇
同 第十一種	四・五
同 第十二種	四・〇
同 第十三種	四・〇

第四條 前條ニ於ケル負擔力トハ特ニ指定スル場合ヲ除

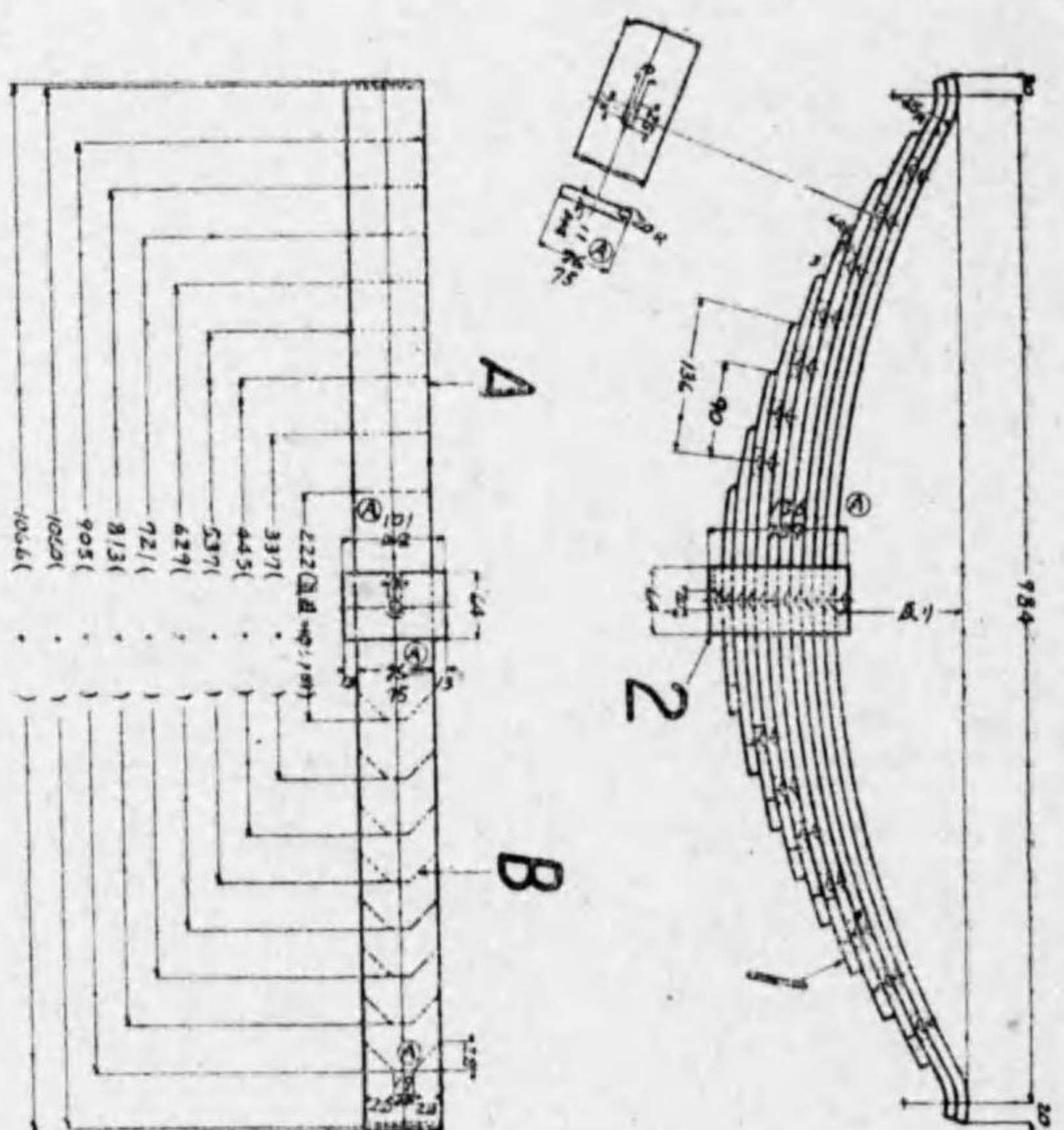
クノ外各一箇ノバネニ負擔セシムルコトヲ得ヘキ荷重  
 (車輛靜止ノ狀態ニ於テ測ル)ヲ示スモノトス  
 第五條 基本又ハ準基本擔バネヲ新造並改修スル場合ハ  
 其ノ寸法公差ハ左記第一號ノ通トシ第二號ノ荷重試驗  
 ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス  
 一、寸法公差

筒	所	公差(耗)	記 事		
反	リ (荷重2 兩ノ時)	十一 3	但シ荷重ヲ増シツツア ル場合ニ測定ス		
徑	リ (荷重2 兩ノ時)	新造ノ場合	十一 3		
		改修ノ場 合	基 本	十一 3	
			準基本	十一 6	
同 上					
胴	締 ノ サ	新造ノ場合	十一 1		
		改修ノ場合	十一 1.5		
胴	締	ノ	巾	十一 2	但シバネ座ト接觸スル 部分ニ於テ測定ス
胴	締	ノ	片 寄	左右 3	

二、荷重試驗  
 數回圧縮シテイニシアルセツトノ影響ヲ除キタル後  
 豫メ無荷重ノ狀態ニ於テ反リヲ測定シバネ試驗機ニ  
 依リ圖面ニ指定スル試驗荷重ニテ(又ハ圖面ニ指定  
 スル試驗荷重ニ相當スル反リマテ)圧縮シ然ル後再  
 ヒ無荷重ノ狀態ニ於テ反リヲ測定シ豫メ測定シタル  
 モノト差異ヲ認メサルコト  
 第六條 基本ニ非サル擔バネハ特ニ指定スル場合ヲ除ク  
 ノ外新造スルコトヲ得ス  
 第七條 從來左記圖面ニ依リ製作シタル貨車用擔バネハ  
 各第一條ノ基本擔バネト同様ノモノト看做ス  
 (圖面省略)

附 則

大正五年七月達第七七二號ハ之ヲ廢止ス



圖第四二號 (一)

貨車用擔バネノ基本負擔力其ノ他 昭五、一一 達九八七  
 貨車用擔バネ  
 基本第一種 (負擔力三・五兩)

圖一 荷重ニ應ジ場合ヲ示ス

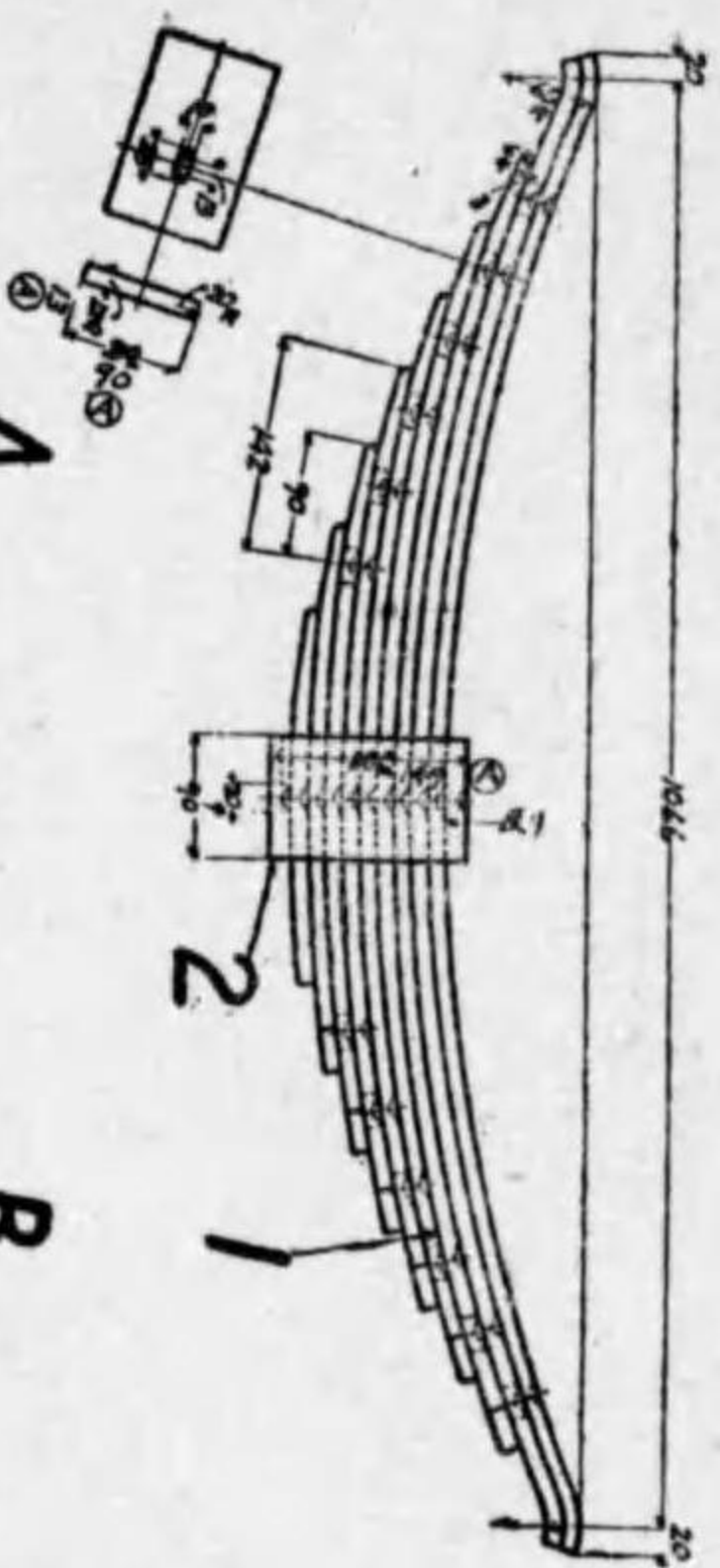
個 所	荷 重	寸 法	公 差	記 事
反	リ	2.2	± 0.05	
	リ	3.5	± 0.10	
徑	リ	2.2	± 0.05	但シ荷重ヲ増シツツアル場合ニ測定ス
	リ	3.5	± 0.10	
胴	締	ノ	巾	± 0.05
胴	締	ノ	片 寄	± 0.05

部 号	名 称	材 料	備 考
1	反	SPC	
2	徑	SPC	

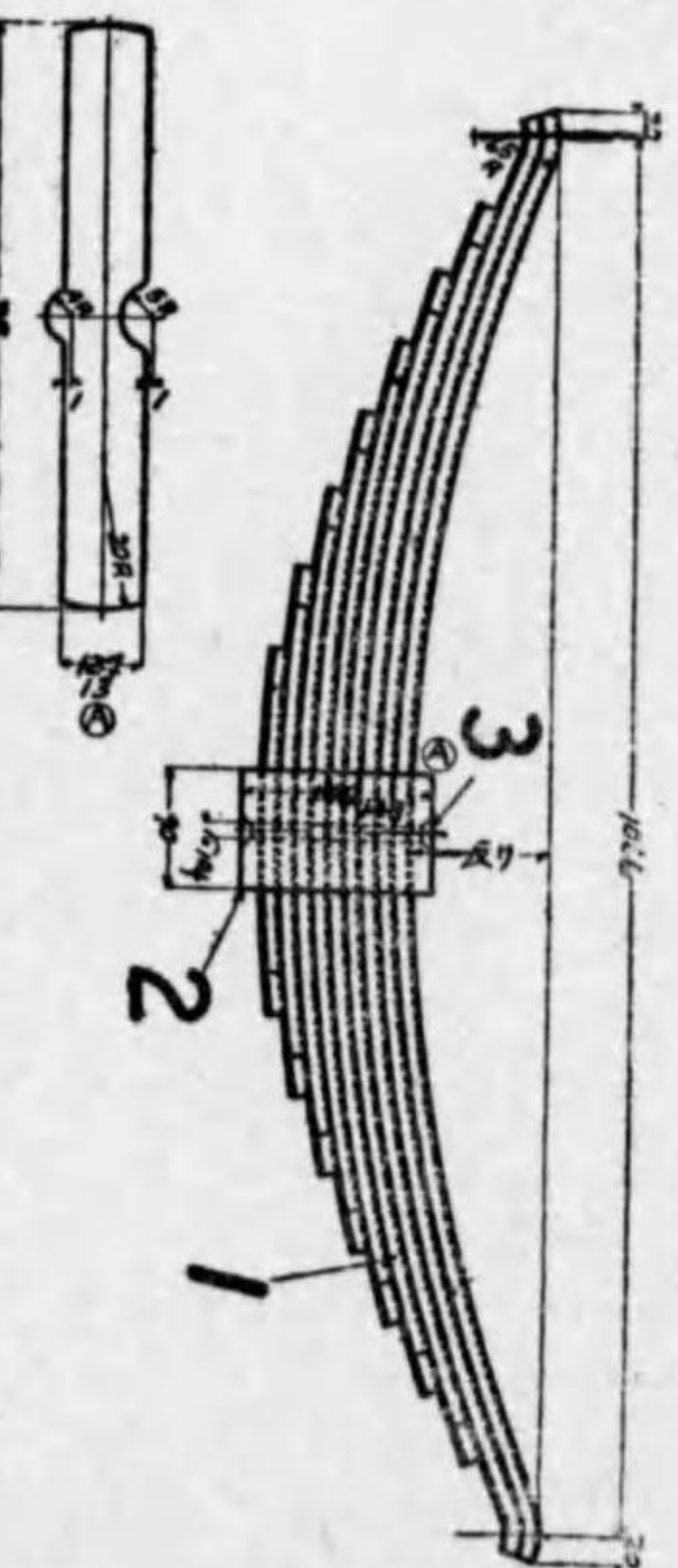
荷重試驗ノ荷重5兩(又ハ圖面ニ指定スル)ニ依リ測定ス

A C 3892 A Z

溝寸板/鋼金

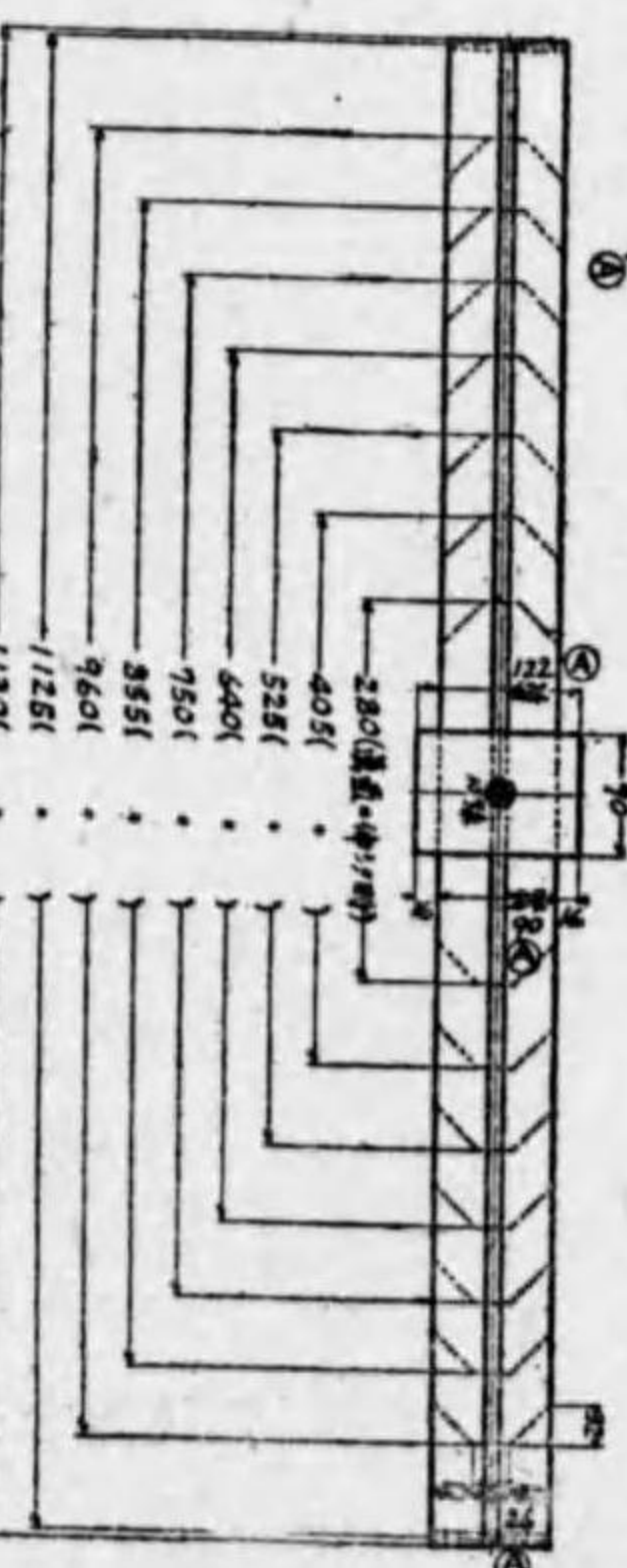
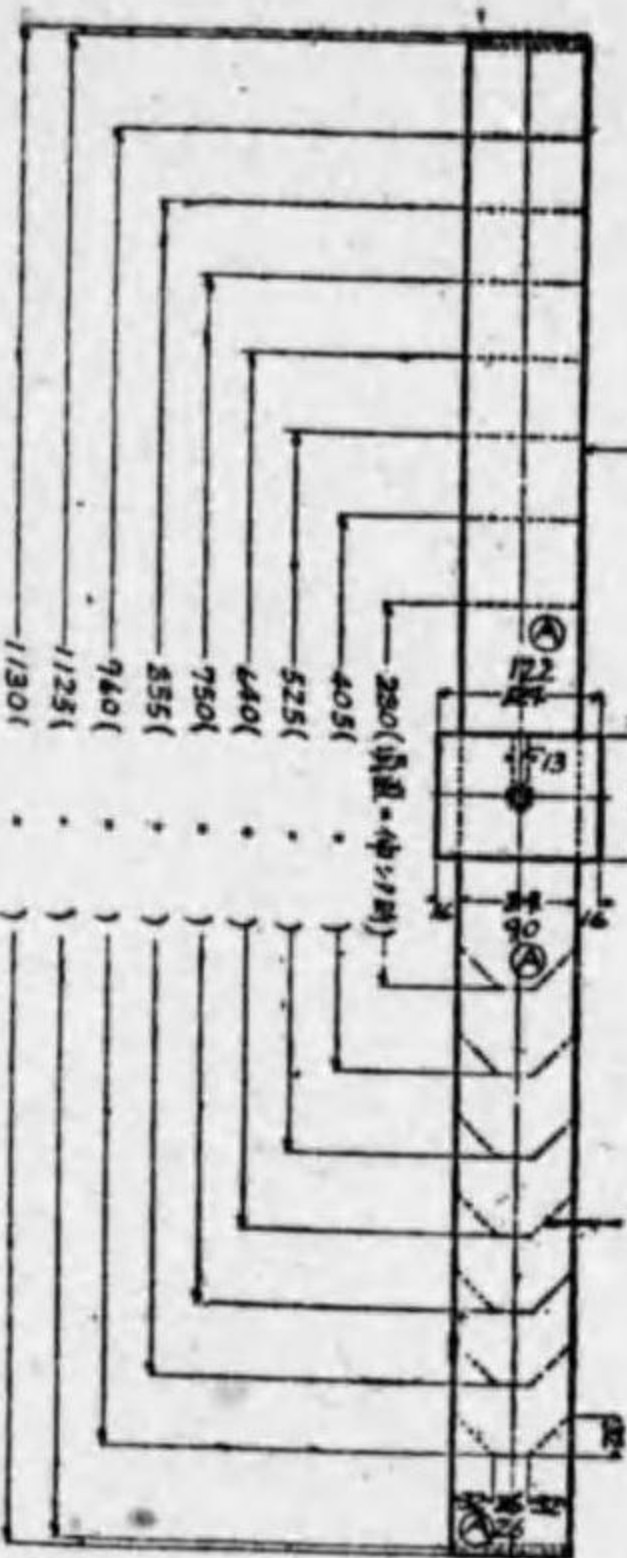


溝寸板/鋼金



1 四四

圖第四二號 (二)  
貨車用擔六\*  
基本第三種 (負擔力四・五噸)



注意 板端形狀A B 所ハ依リテ異ナル

圖一 荷重二種ノ場合ノ示ス

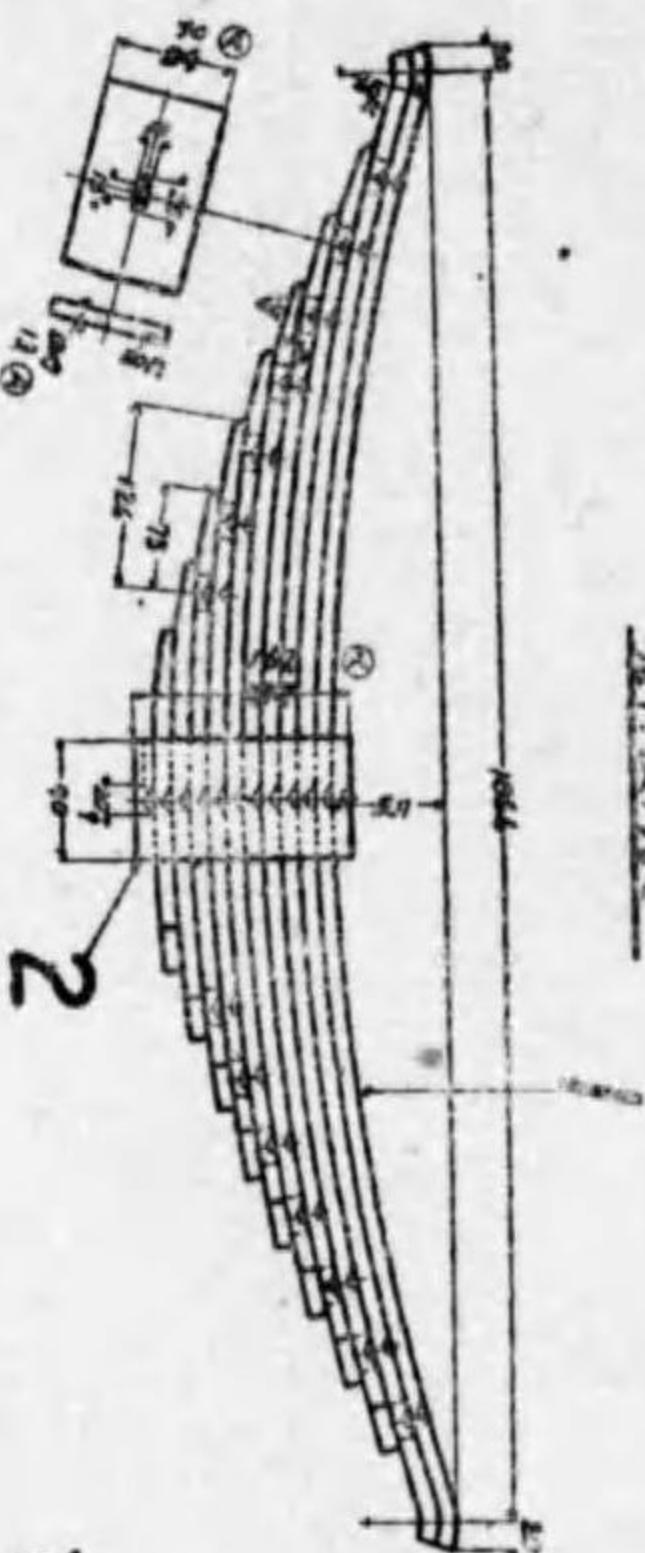
種別	荷重	寸法	公差	記
反り	1	約126	±3	
反り	2	約106	±3	
反り	3	約86	±3	
反り	4	約66	±3	
反り	5	約46	±3	

番号	名	材料	寸法	公差	記
1	鋼板	SPC45	R34		
2	鋼板	SPC45	R34		
3	鋼板	SPC45	R34		

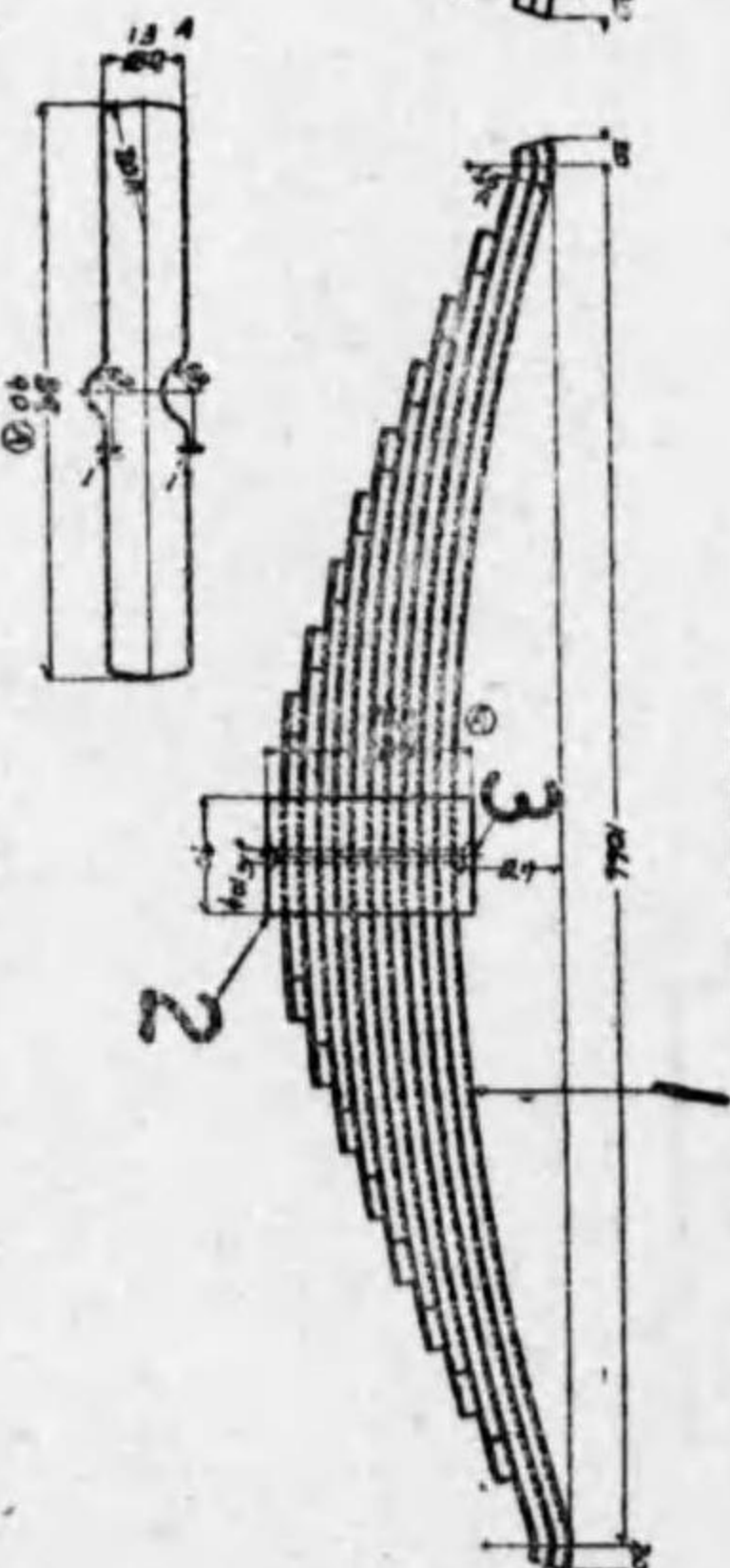
片重試驗ノ行方ニ依リテ(知及)鋼金(知及)片重試驗ノ行方ニ依リテ

AC 3393 AZ

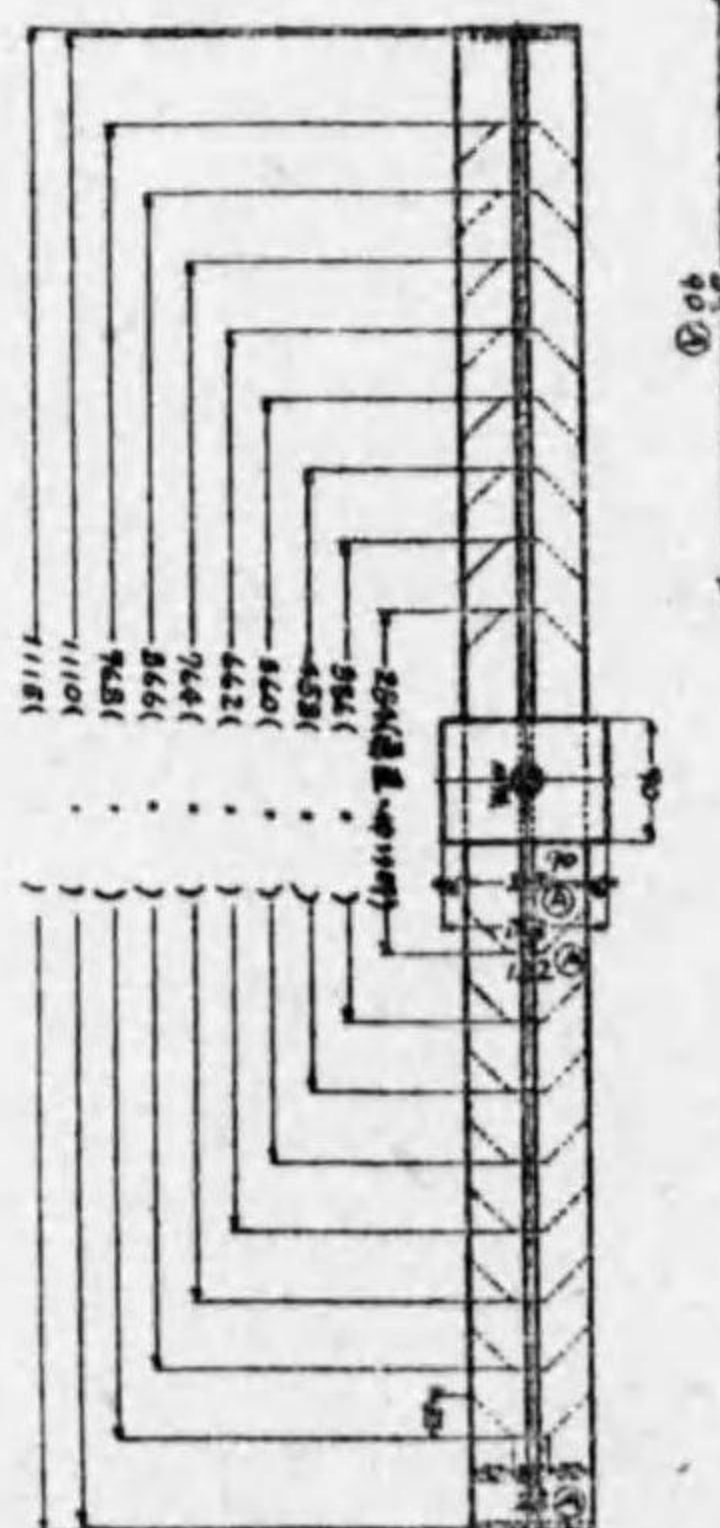
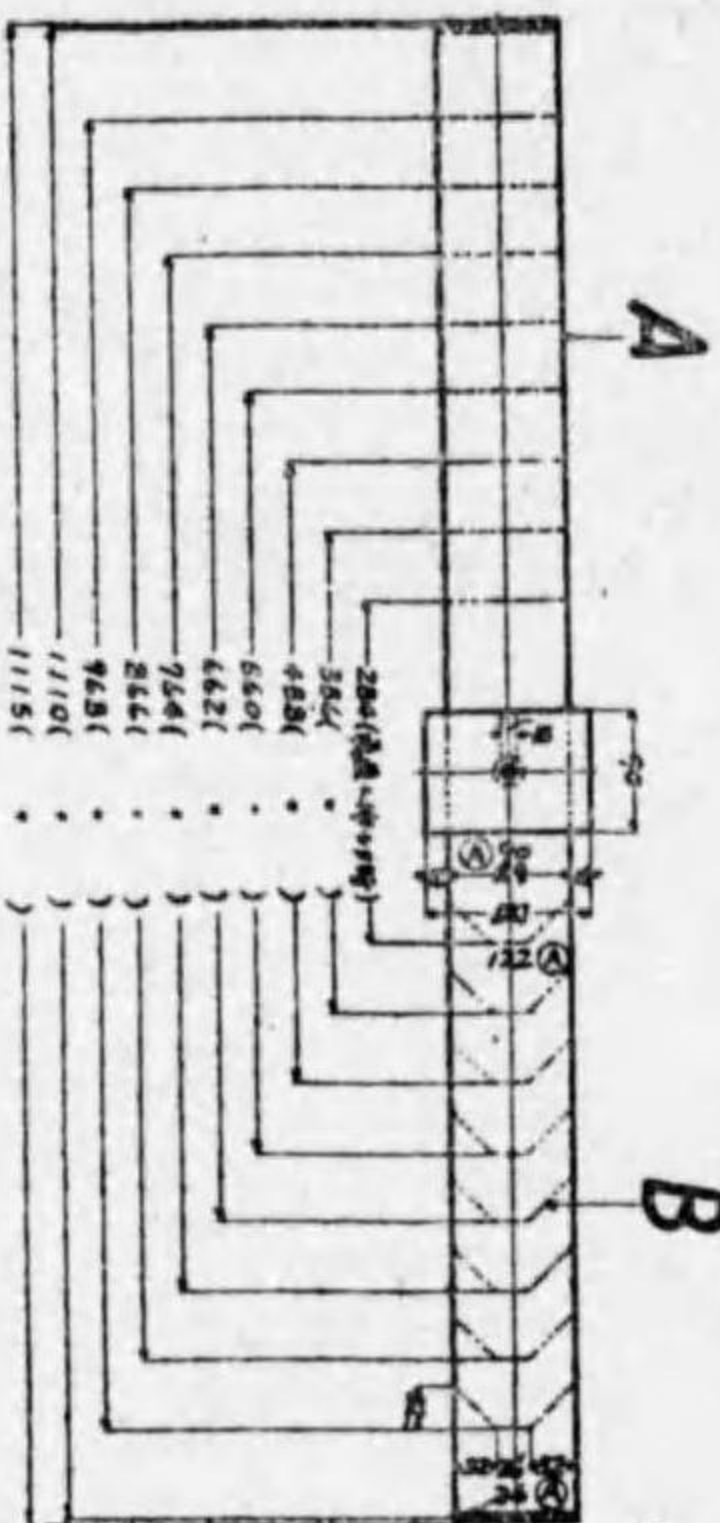
溝寸板/鋼金



溝寸板/鋼金



圖第四二號 (三)  
貨車用擔六\*  
基本第三種 (負擔力五・〇噸)



注意 板端形狀A B 所ハ依リテ異ナル

圖一 荷重二種ノ場合ノ示ス

種別	荷重	寸法	公差	記
反り	1	約126	±3	
反り	2	約106	±3	
反り	3	約86	±3	
反り	4	約66	±3	
反り	5	約46	±3	

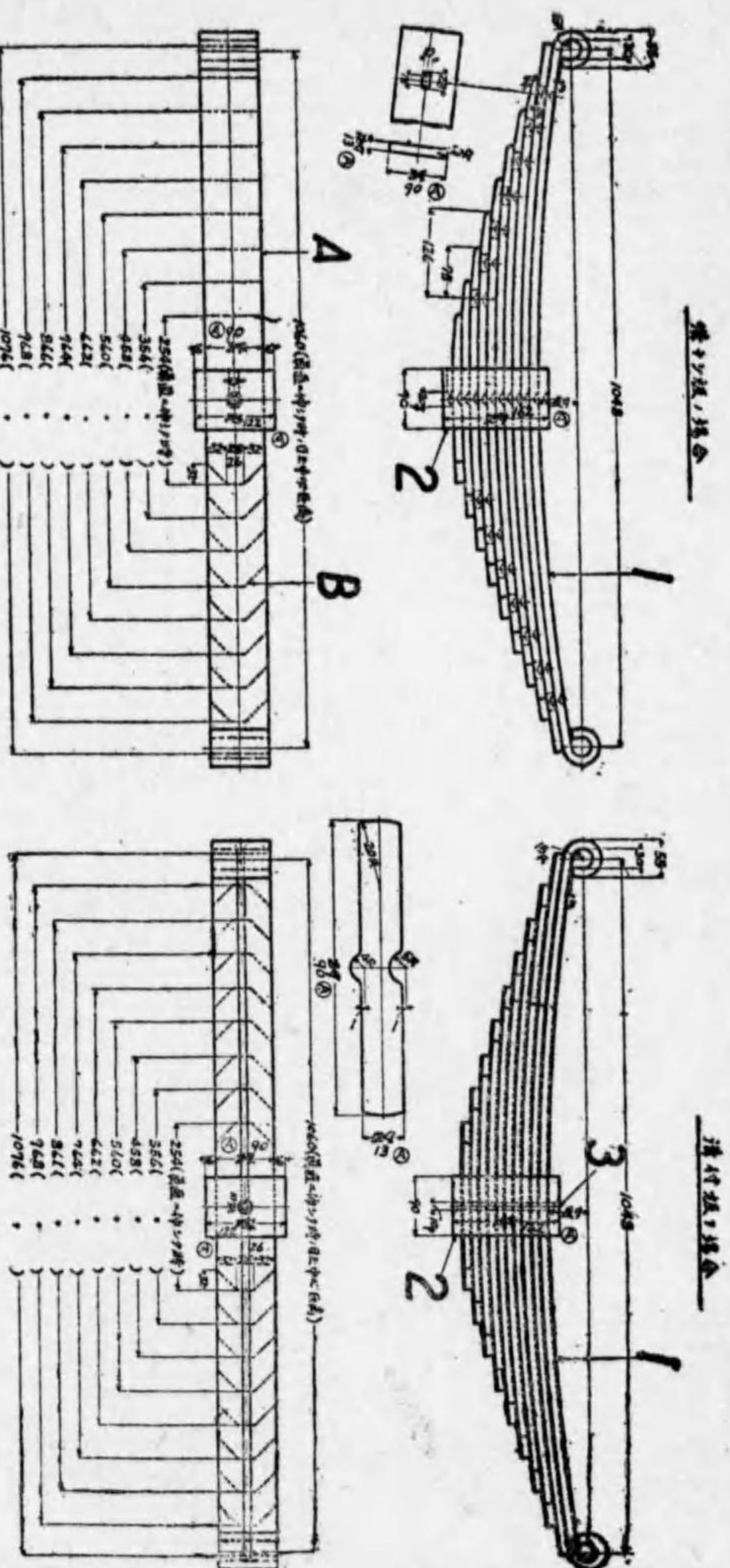
番号	名	材料	寸法	公差	記
1	鋼板	SPC45	R34		
2	鋼板	SPC45	R34		
3	鋼板	SPC45	R34		

片重試驗ノ行方ニ依リテ(知及)鋼金(知及)片重試驗ノ行方ニ依リテ

AC 3394 AZ

1 四四

圖第四二號(四)  
貨車用擔六\*



基本第四種(負擔力五、〇噸)

注意 板、橋、形狀、圖中A、B何、以、機、械、圖、樣、為、準。

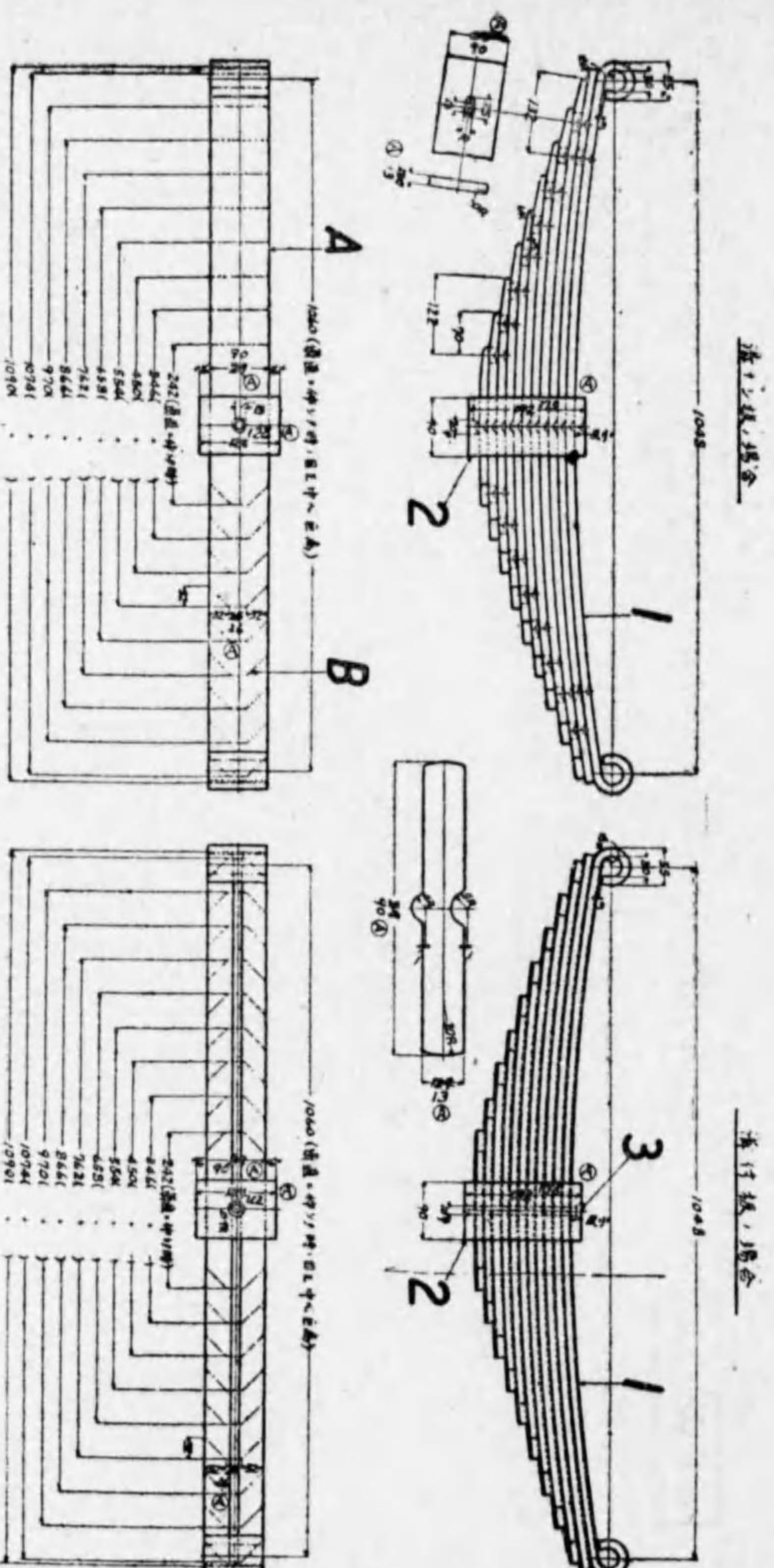
圖號	品名	材料	備註
1	鋼板	SP-205	
2	鋼板	R34	
3	鋼板	R39	

AC 3395 AZ

種類	荷重	寸法	公差	記號
反	1	2 1/2	±0.3	
	2	5 1/2	±0.3	
應	1	1048	±3	
	2	710	±2	
	3	517	±1	

荷重試驗、重量試驗、(以馬車用擔六) 應、機、械、圖、樣、為、準。

圖第四二號(五)  
貨車用擔六\*



注意 板、橋、形狀、圖中A、B何、以、機、械、圖、樣、為、準。

圖號	品名	材料	備註
1	鋼板	SP-205	
2	鋼板	R34	
3	鋼板	R39	

種類	荷重	寸法	公差	記號
反	1	2 1/2	±0.3	
	2	5 1/2	±0.3	
應	1	1048	±3	
	2	710	±2	
	3	517	±1	

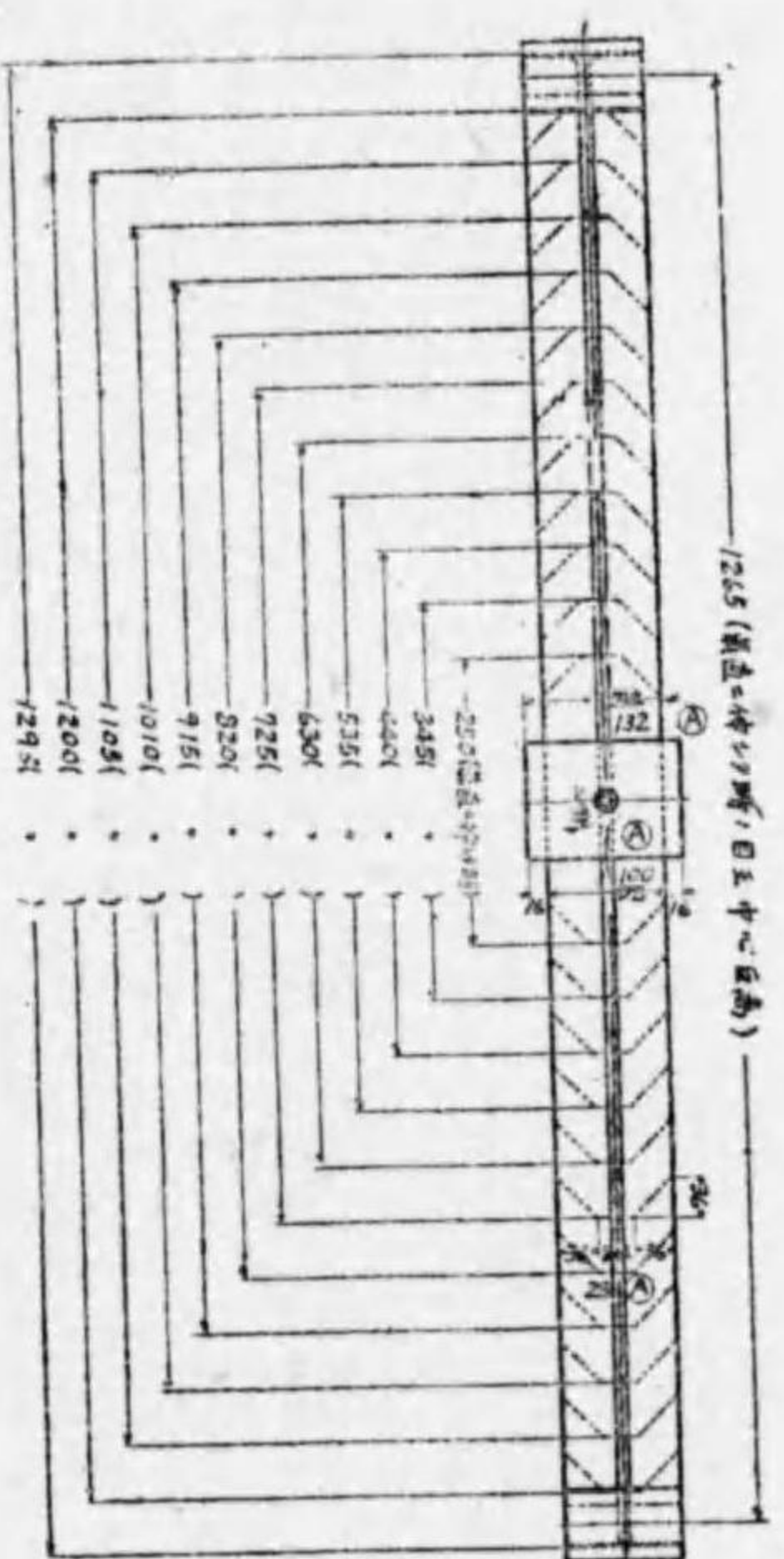
荷重試驗、重量試驗、(以馬車用擔六) 應、機、械、圖、樣、為、準。

AC 3396 AZ



圖第四二號(六)  
貨車用擔六\*

基本第六種(負擔力六·〇噸)



零件名	材料	規格	備註
1	鋼	SP-PC 120	調校力矩應為 5321
2	鋼	R 34	
3	鋼	R 37	

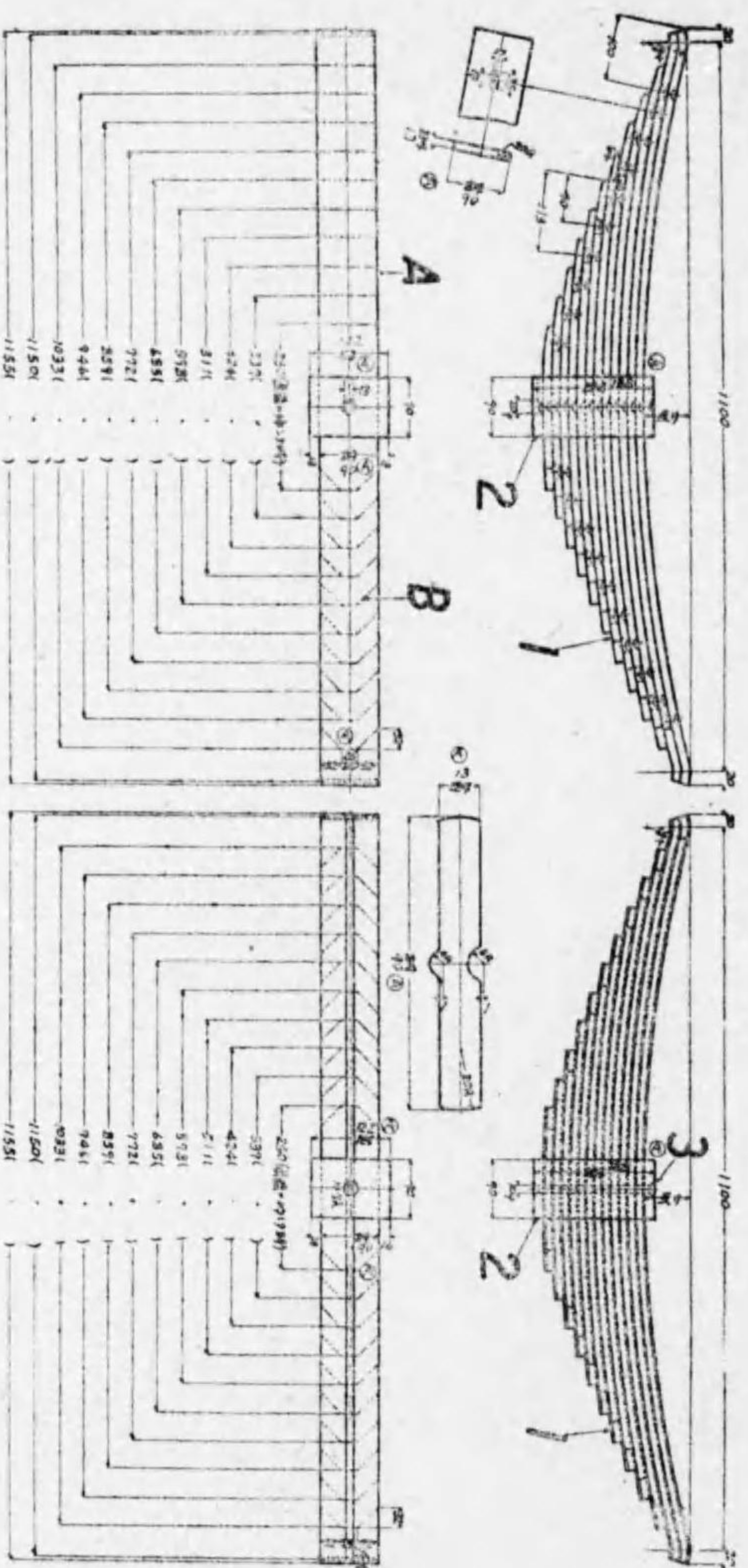
AO 3397 AZ

荷重試驗：荷重 2000kg (X、A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z) 在荷重 2000kg 時。

圖八荷重之總、與壽命、損失

種類	荷重	尺寸法	公差	記
底	2 級	44	±3	
底	6 級	126.0	±3	
鋼絲、索	100	17.0	±1	鋼絲索(鋼絲)應為 17.0
鋼絲、索	17.0	1.6	±0.1	鋼絲索(鋼絲)應為 1.6

基本第七種(負擔力五·五噸)



圖第四二號(七)  
貨車用擔六\*

基本第七種(負擔力五·五噸)

零件名	材料	規格	備註
1	鋼	SP-PC 120	
2	鋼	R 34	
3	鋼	R 37	

AO 3398 AZ

圖八荷重之總、與壽命、損失

種類	荷重	尺寸法	公差	記
底	2 級	44	±3	
底	6 級	126.0	±3	
鋼絲、索	100	17.0	±1	鋼絲索(鋼絲)應為 17.0
鋼絲、索	17.0	1.6	±0.1	鋼絲索(鋼絲)應為 1.6

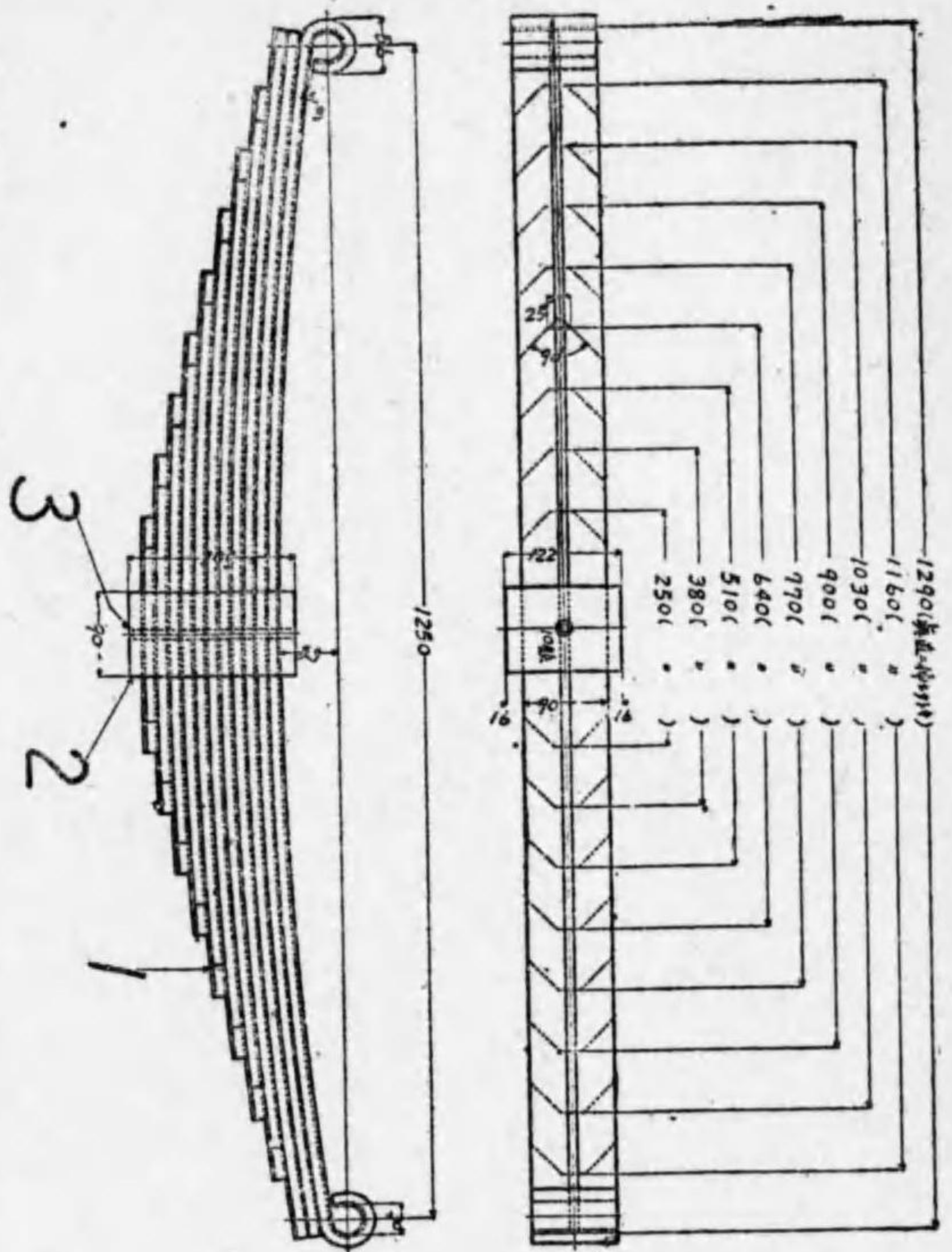
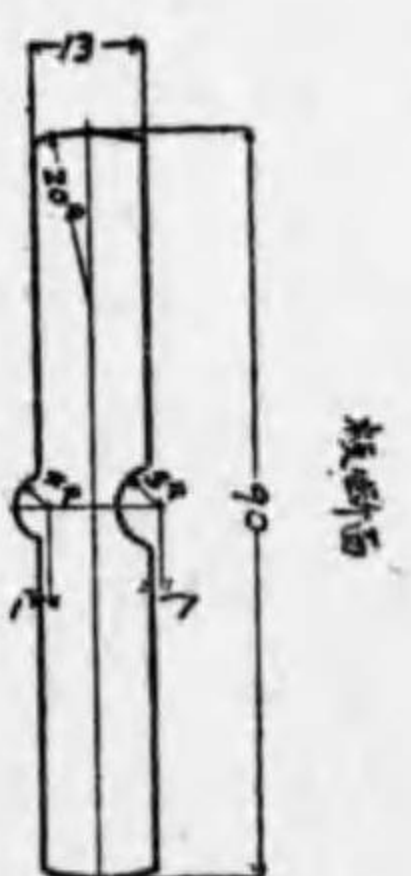
荷重試驗：荷重 2000kg (X、A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z) 在荷重 2000kg 時。



圖第四二號(七二)

貨車用擔六\*

基本第八種(負擔力四・五噸)



軸序	軸名	材料	量	備註
1	前軸	SP75	86.3"	
2	中軸	SR34	5.99"	與前軸同長
3	後軸	SR39	5.99"	

個所	荷重	寸法	公差	記章
反り	Z軸	約28	±3	
徑	Y	Z軸	1250	±3
距離/中			90	±2
距離/外			16	±1
距離/內			±3	

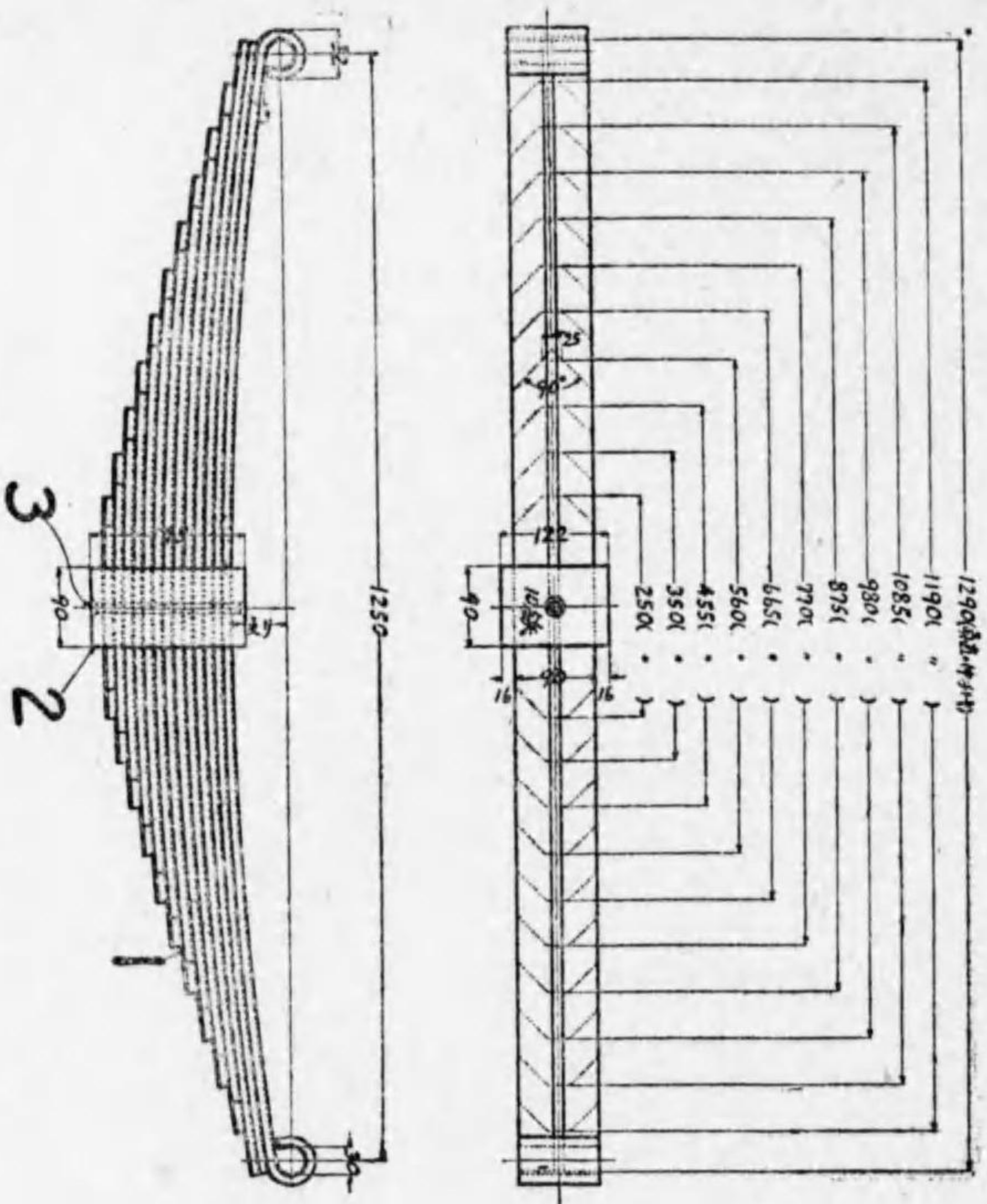
荷重試驗: 荷重7噸・行程400-500mm(距離200mm)

AC 3423 Z

圖第四二號(七二)

貨車用擔六\*

基本第九種(負擔力三・五噸)



張子	名	條	材料	一軸所需量	量	備註
1	前	條	SP75		84	
2	中	條	SR34		6	
3	後	條	SR39			

個所	荷重	寸法	公差	記章
反り	Z軸	約28	±3	
徑	Y	Z軸	1250	±3
距離/中			90	±2
距離/外			16	±1
距離/內			±3	

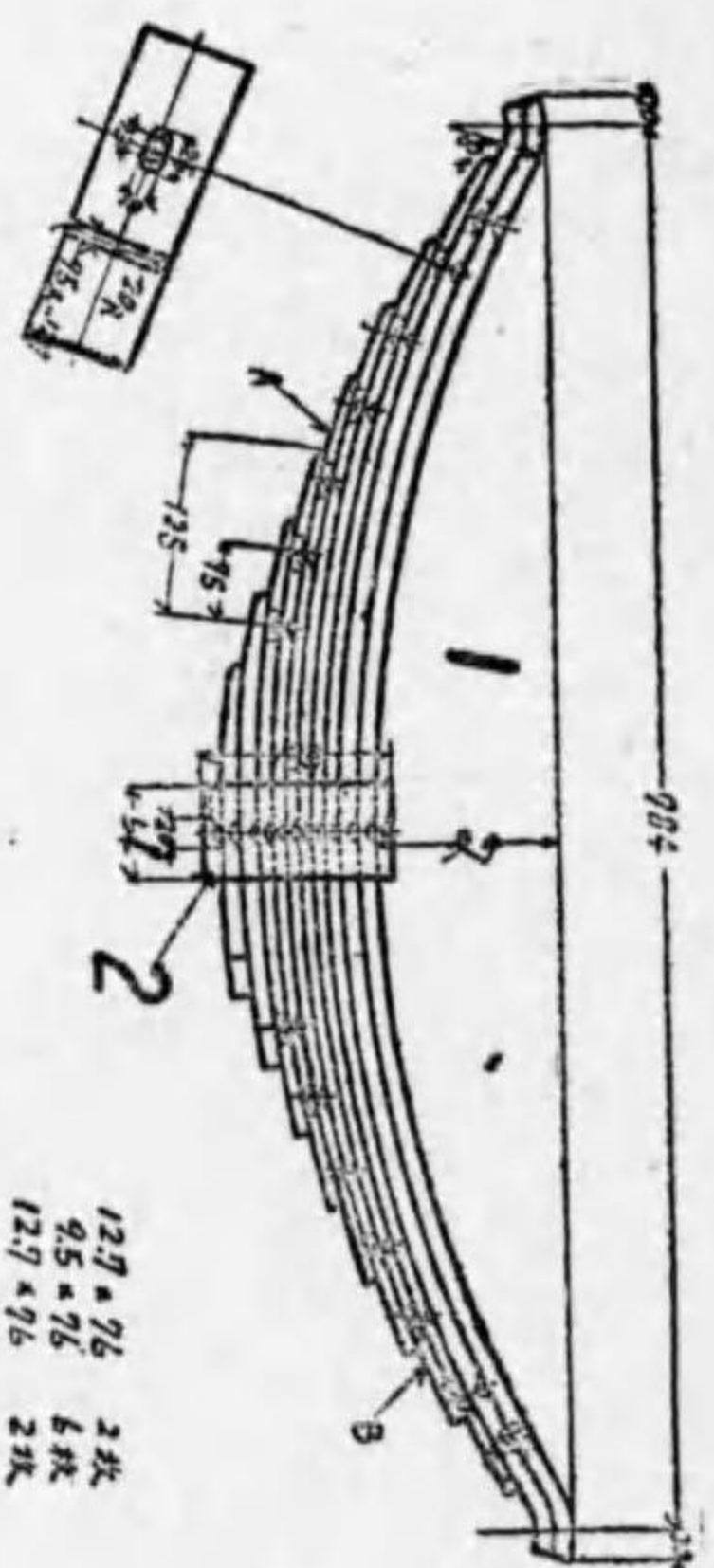
荷重試驗: 荷重6噸・行程400-500mm(距離200mm)

AC 3424 Z

圖第四二號(八)

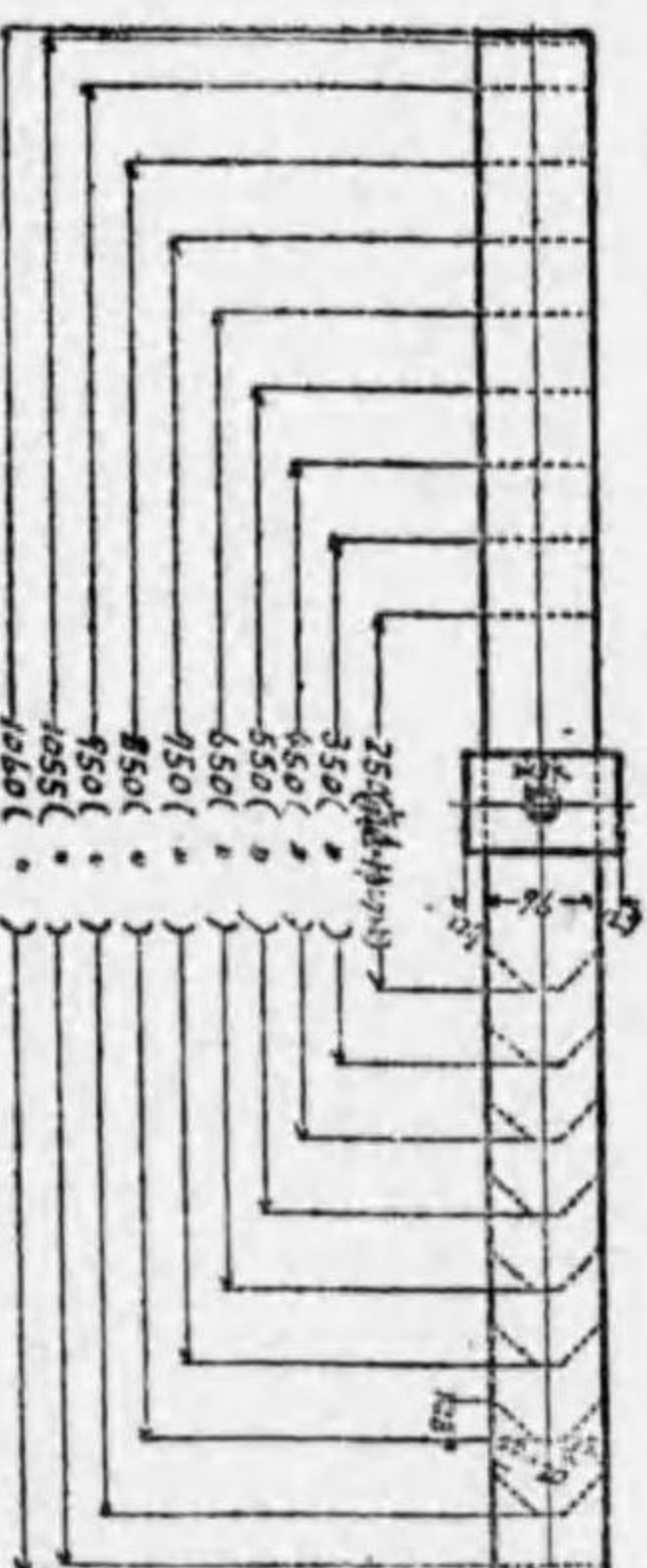
貨車用擔六\*

準基本第五種(負擔力三・五噸)



注意

1. 板端形狀以圖中A.B. 何種形狀之差工才。
2. 本圖板厚及板端形狀等以 大體以標準亦及可改修之 現品適合之材料亦及可 差及可



圖一荷重二噸場合六\*

照号	名 称	材料	荷重量	記 号
1	前 轴	SP70		
2	后 轴	R34		

個 所	荷 重	寸 法	公 差	記 号
前 轴	2 吨	φ150	± 3	
后 轴	3.5 吨	φ100	± 3	
鋼 絲 吊 钩	2 吨	φ14	± 2	
鋼 絲 吊 钩	1.27 吨	φ11	± 1	
鋼 絲 吊 钩			± 3	

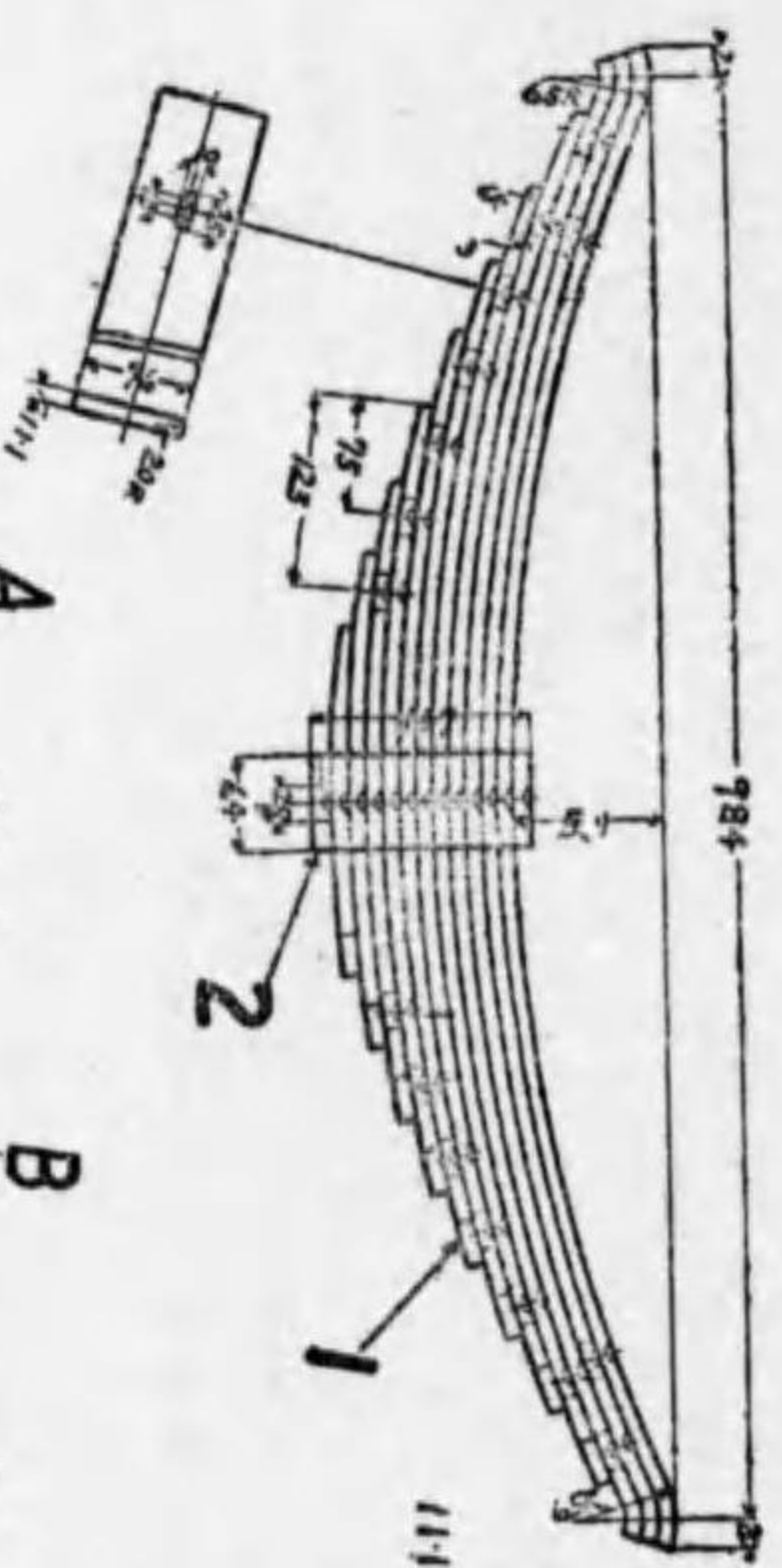
荷重試驗ハ荷重5吨ヲ以テ(ハ)202秒ヲ以テ行ハス

AC 3399—Z

圖第四二號(九)

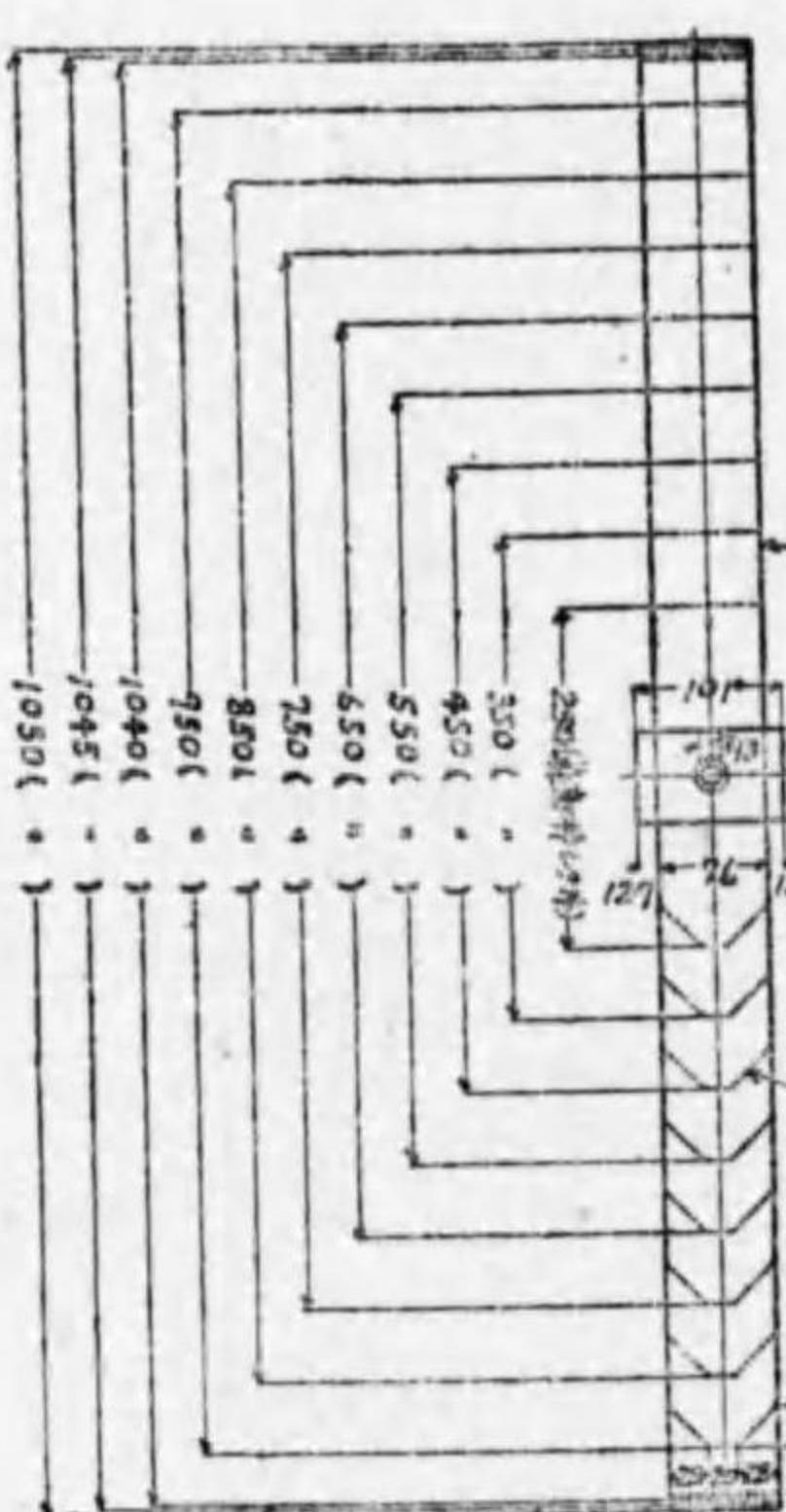
貨車用擔六\*

準基本第七種(負擔力四・〇噸)



注意

1. 板端形狀以圖中A.B. 何種形狀之差工才。
2. 本圖板厚及板端形狀等以 大體以標準亦及可改修之 現品適合之材料亦及可 差及可



圖一荷重二噸場合六\*

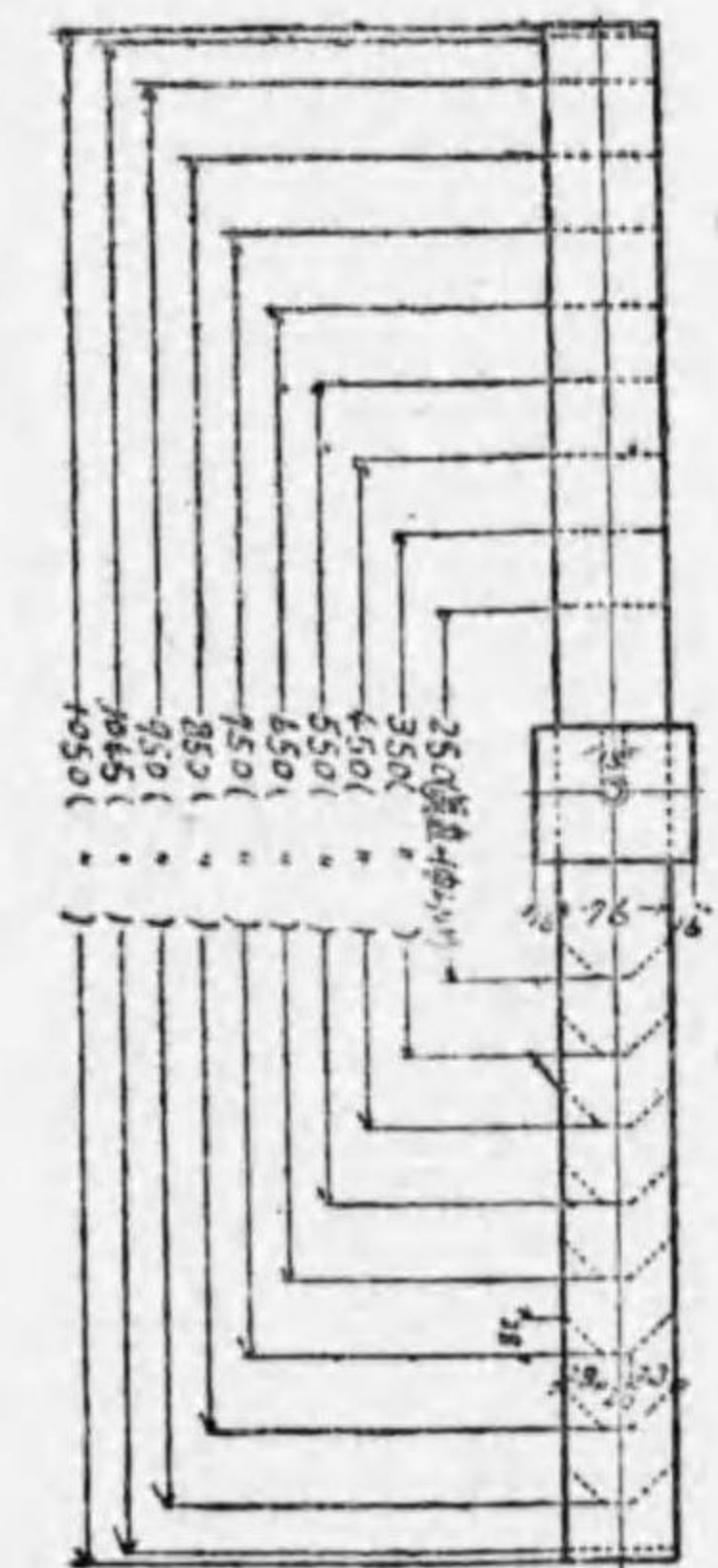
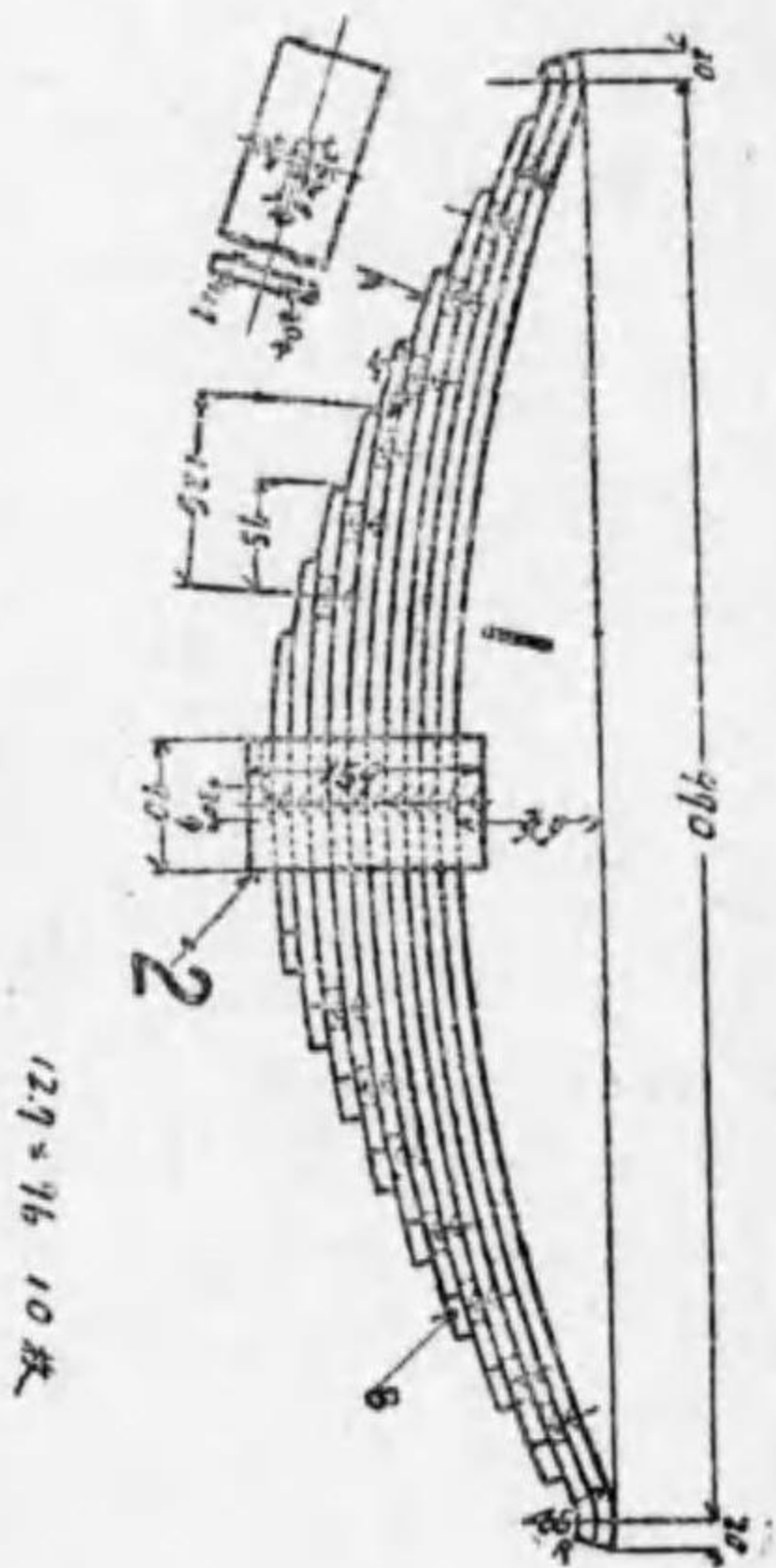
個 所	荷 重	寸 法	公 差	記 号
前 轴	2 吨	φ125	± 3	
后 轴	4 吨	φ100	± 3	
鋼 絲 吊 钩	2 吨	φ14	± 2	
鋼 絲 吊 钩	1.27 吨	φ11	± 1	
鋼 絲 吊 钩			± 3	

荷重試驗ハ荷重5.5吨ヲ以テ(ハ)202秒ヲ以テ行ハス

照号	名 称	材料	荷重量	總重量	記 号
1	前 轴	SP70			
2	后 轴	R34			

AC 3400—Z

1 用图



- 注意
1. 板端，形状以图中A、B、何二做此差支±5%。
  2. 本图，板、边、角及板端，形状等以大体标准，示及边、角、板端，形状等以现品，适合±10%板、角、差支±5%。

图第四二號 (一〇)  
貨車用擔六\*  
準基本第八種 (負擔力四・五吨)

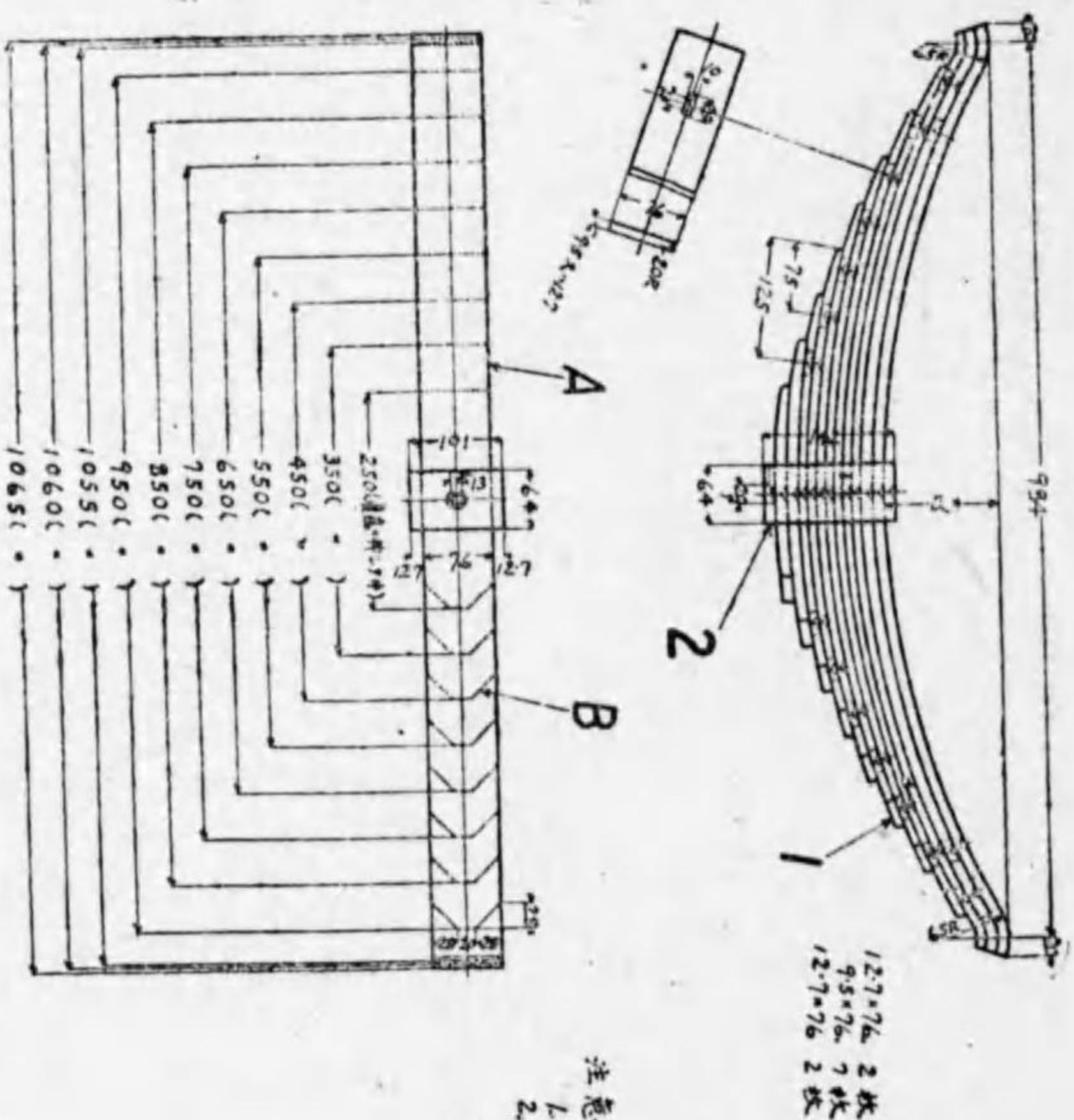
鋼种	板厚	寸法	公差	記	事
天9	2板	約112	±3		
	2板	約73	±3		
天9	2板	約90	±2		
天9	2板	約112	±1		
天9	2板	約73	±3		

照号	名称	材料	備註	記	事
1	板	SP70			
2	鋼	R34			

AC 3401—Z

高重量試驗，重量65板×(天9、天55板×)在端入用

图第四二號 (一一)  
貨車用擔六\*  
準基本第十三種 (負擔力四・〇吨)



- 注意
1. 板、端、形状以图中A、B何二做此差支±5%。
  2. 本图，板、边、角及板端，形状等以大体标准，示及边、角、板端，形状等以现品，适合±10%板、角、差支±5%。

照号	名称	材料	備註	記	事
1	板	SP70			
2	鋼	R34			

AC 3402—Z

1 用图

图八重量2板，場合示示。

鋼种	板厚	寸法	公差	記	事
天9	2板	約150	±3		
	2板	約124	±3		
天9	2板	約98	±3		
天9	2板	約98	±2		
天9	2板	約98	±1		
天9	2板	約98	±1		
天9	2板	約98	±1		

高重量試驗，重量55板×(天9、天55板×)在端入用。

二八、貨車用擔「バネ」使用手續

(昭和五、一一、一八) 達第九八八號

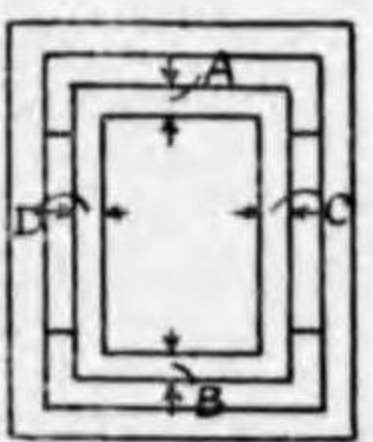
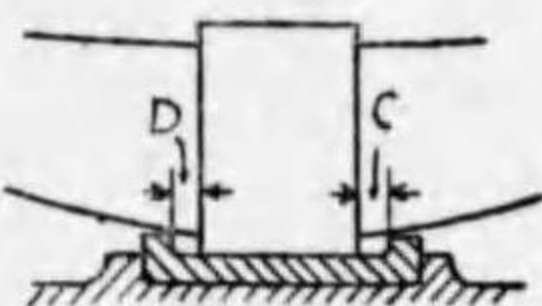
貨車用擔バネ(「ボギー」貨車、水槽車、準貨車及七六)ノ使用手續左ノ通定ム

貨車用擔バネ使用手續

第一條 貨車ニハ其ノ自重並標記荷重ニ應シ別表ニ依リ基本又ハ準基本擔バネヲ使用スヘシ但シ已ムル得サル理由ニ依リ別表ニ依ルコトヲ得サル場合ハ工作局長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二條 基本及準基本擔バネノ工場修繕限度ハ左ノ通トス

箇	所	修繕限度(耗)	記	事
反	り(荷重2吨ノ時)	+	3	但シ荷重ヲ替シツテ、 6ル場合ニ測定ス
胴	締ノ片	左	3	
		右		
	頂板トバネ靴ト接觸スル部分ノ摩耗			頂板ノ厚サノ半分
	目玉穴ノ摩耗(直徑ニ於テ)		2.5	
	擔バネ胴締トバネ座トノ遊間		6	



A+B 又は C+D が胴締とバネ座との遊間

参考 本限度ニ付テハ次ノ略圖参照

第三條 同一車輛ニ使用スル擔バネハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外同種ノモノタルコトヲ要ス

第四條 同一種類ノ擔バネ中反リノ寸法カ標準寸法ニ對シ+0 耗ヨリ+3 耗マテノ範圍ニアルモノヲ「+」、-0 耗ヨリ-3 耗マテノ範圍ニアルモノヲ「0」、-3ヲ超エ-6 耗マテノ範圍ニ在ルモノヲ「-」トシ「+」「0」「-」トハ同一車軸ノ左右(三軸車ニアリテハ孰レニモ)ニ混用スヘカラス

第五條 基本及準基本擔バネニハ別紙圖面AD九六二四Zニ依リ胴締外側面ニ其ノ種類並前條ノ反リノ公差ニ

依リ區別ヲ白ペイントヲ以テ標示スヘシ

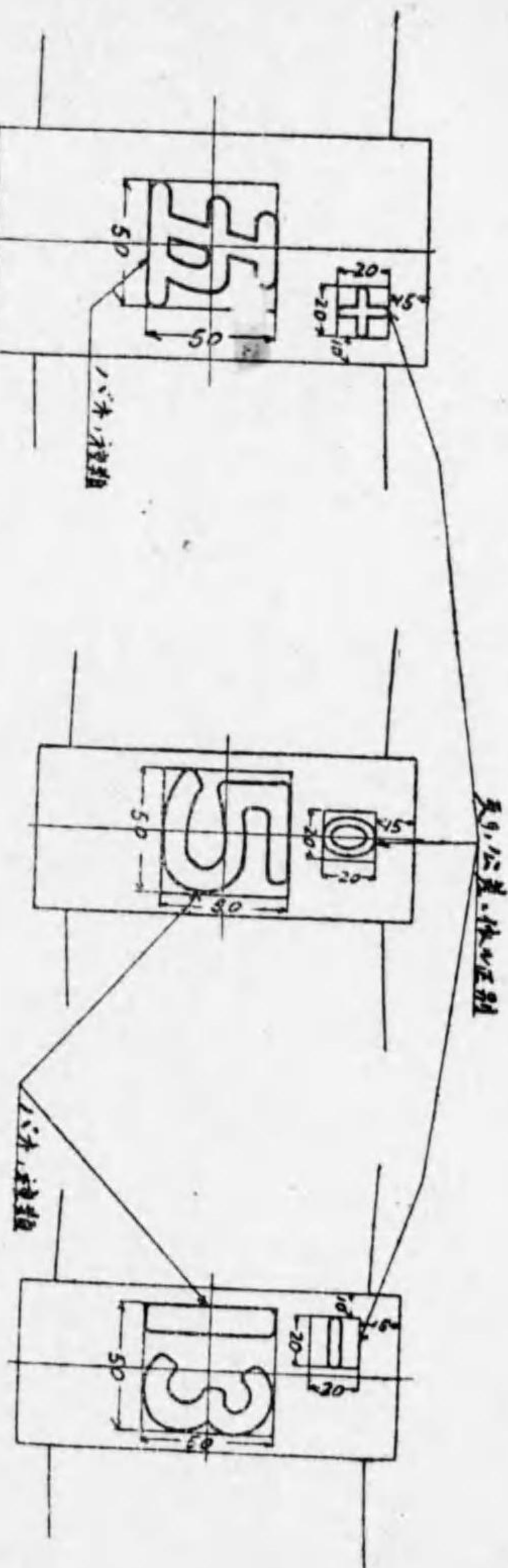
第六條 基本及準基本擔バネヲ新造又ハ改修シタル場合ハ別紙圖面AD九六二四Zニ依リ胴締ノ側面ニ製造又ハ修理工場名並年月ヲ刻印スヘシ

第七條 準基本擔バネニシテ取替ヲ要スル際適當ノ有合セ品ナキ場合ハ基本ノモノヲ使用スヘシ

第八條 現ニ使用中ノ基本又ハ準基本ニ非サル擔バネハ一般検査ノ際之ヲ基本又ハ準基本ノモノト取替フヘシ

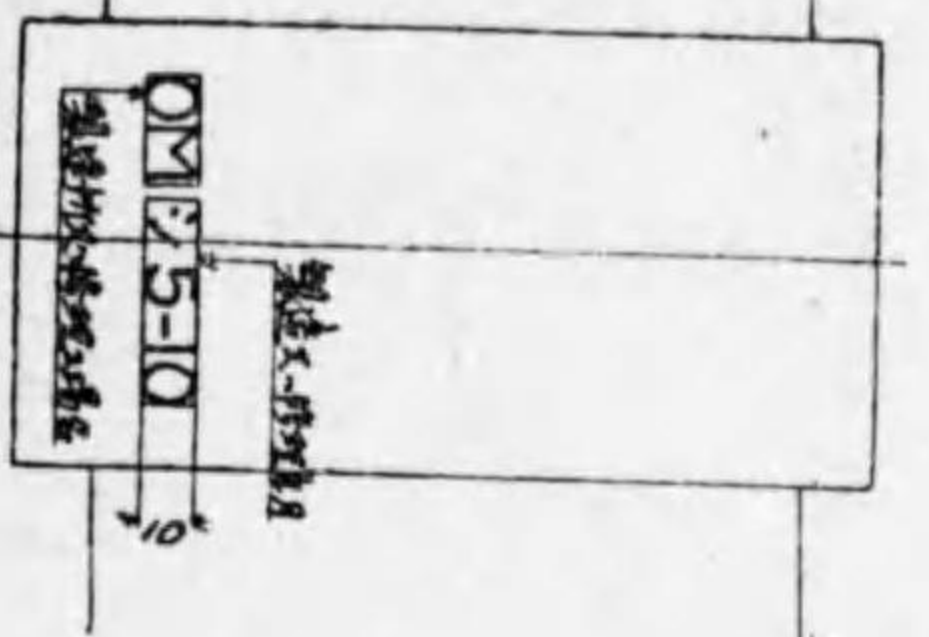
附 則

大正五年七月達第七七四號ハ之ヲ廢止ス



圖第四三號  
貨車用擔ハネ使用手續 昭五、一一 達九八八

- 注意
- 1 種類9枚×数字の基本の知数字  
単基本の洋数字以
  - 2 及引公差の距離別ハバの向一  
七方Dハ中央ハバ方標示以
  - 3 刻印ハ限9ハ1知以
  - 4 及引公差和、時示以



AD 9624-Z

(第一條別表)  
貨車用擔ハネ使用表 記事 (本表記載ノ自重ハ新シキマイヤヲ使  
用シタルキニ於ケル自重ヲ謂フ)  
第一表 二軸貨車ノ場合 (其ノ一)

自重 (越)	基本長軸ノ場合	標		記		荷		重		力			
		2	6	本	五	7	類	及	負	擔	力		
5 超	5.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
5.0 超	5.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
5.5 超	5.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
5.5 超	5.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
6.0 超	6.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
6.0 超	6.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
6.5 超	6.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
6.5 超	6.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
7.0 超	7.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
7.0 超	7.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
7.5 超	7.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
7.5 超	7.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
8.0 超	8.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
8.0 超	8.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
8.5 超	8.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
8.5 超	8.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
9.0 超	9.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
9.0 超	9.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
9.5 超	9.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
9.5 超	9.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
10.0 超	10.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
10.0 超	10.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
10.5 超	10.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
10.5 超	10.75 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5
11.0 超	11.25 超	基 3.5	準 3.5	基 3.5	準 3.5			基 3.5	準 3.5	七 準 4.0	準 13	基 4.5	準 4.5



第二表 三軸貨車ノ場合

自重 基本長軸 軸ノ基本 軸ノ基本	重(噸) 基本長軸 ノ場合	標					種	積	重	力
		15	19	20	24	25				
8.4	8.4	基一 3.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
8.5	8.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
8.5	8.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
9.0	9.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
9.0	9.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
9.5	9.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
9.5	9.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
10.0	10.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
10.0	10.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
10.5	10.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
10.5	10.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
11.0	11.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
11.0	11.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
11.5	11.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
11.5	11.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
12.0	12.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
12.0	12.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
12.5	12.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
12.5	12.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
13.0	13.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
13.0	13.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
13.5	13.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
13.5	13.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
14.0	14.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
14.0	14.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
14.5	14.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
14.5	14.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
14.5	14.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
15.0	15.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
15.0	15.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
15.5	15.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
15.5	15.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
16.0	16.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
16.0	16.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
16.5	16.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
16.5	16.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
16.5	16.9	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5
17.0	17.4	基二 4.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基四 5.0	基五 5.5	基五 5.5	基五 5.5

第六編 自動連結器及暖房装置

二一九、自動連結器ノ取付位置ノ基本

(昭和七、三、二六  
達第一七九號)

自動連結器ノ取付位置ノ基本左ノ通定ム  
 大正十四年一月達第三六號自動連結器肘ト 守腕内面トノ  
 隔リノ限度及大正十四年四月達第三一四號自動連結装置  
 ノ限度ハ之ヲ廢止ス

自動連結器ノ取付位置ノ基本其ノ他

第一條 本規程ニ依ル寸法ハ車輛停止中ニシテ引張装置  
 ノ自由ナル場合ニ對スルモノトス  
 第二條 連結器中心(連結器肘中心ヲ謂フ 以下同シ)ノ  
 軌條面上ノ高ハ左ノ通トス

車輛ノ種類	車輛ノ状態	最高	標準高	最低
		空車	八九〇耗	八六五耗 但シテ前部ノ 機關車ノ前部 ハ 八八〇耗
蒸氣機關車	運轉整備			七九〇耗
電氣機關車 及特殊機關車		八九〇耗	八八〇耗	七九〇耗

電氣、荷物 車、郵便車 及夫等トノ 合造車	積	空	積	電氣、荷物 車、郵便車 及夫等トノ 合造車	積
		車	車		
其ノ他ノ客 車及貨車	積	積	積	積	積
	車	車	車	車	車
		八九〇耗	八八〇耗	八八〇耗	八八〇耗
				八三五耗	八三五耗
				七九〇耗	七九〇耗

第三條 同一車輛前後連結器中心高ノ差ハ空車ノ場合ニ  
 於テハ最大三〇耗、積車ノ場合ニ於テハ最大三五耗ト  
 ス、但シテ前部ノ機關車ヲ除ク

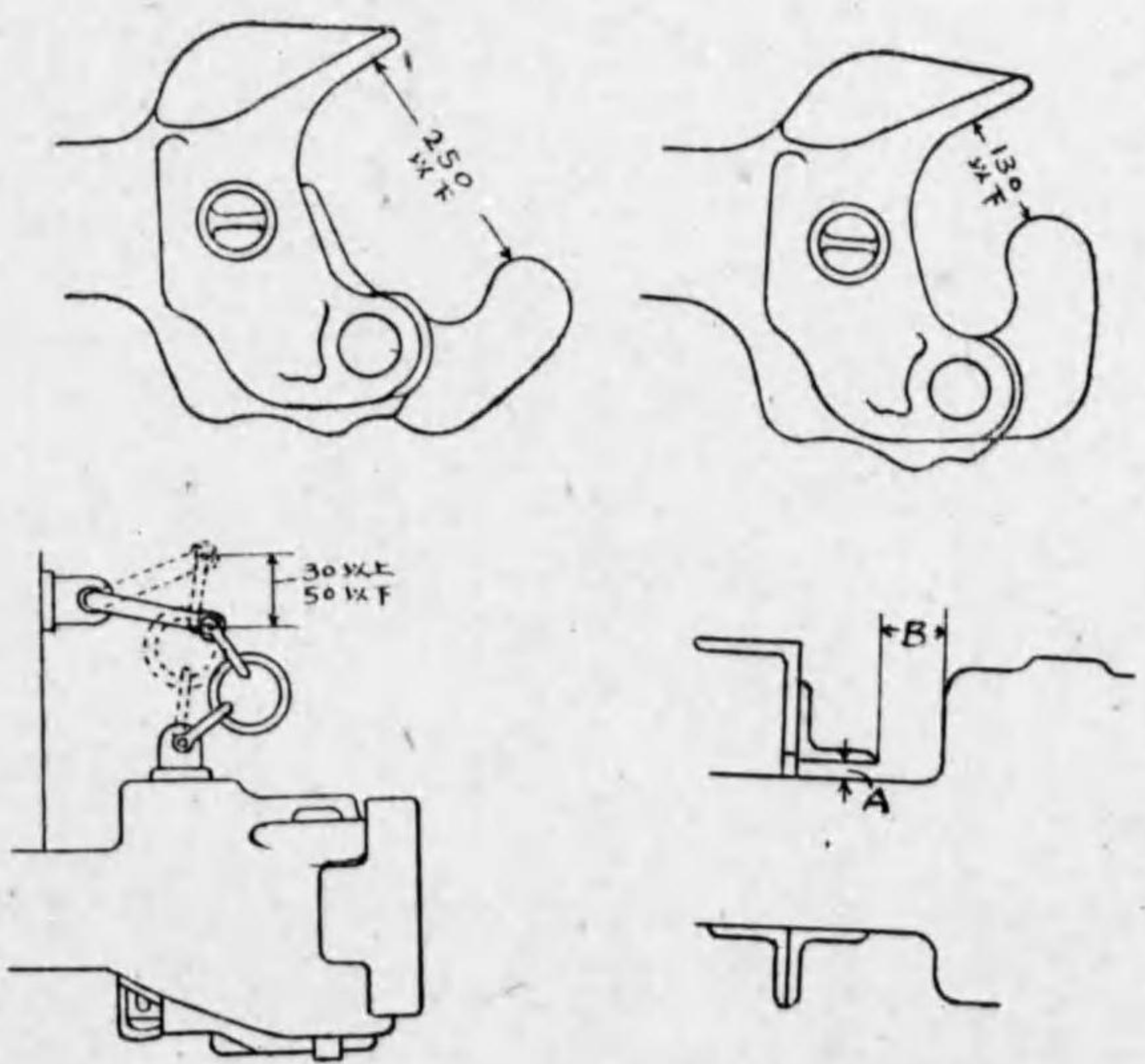
第四條 前二條ノ寸法ハ札幌鐵道局配屬車輛ノ一部ニ使  
 用セル時ノ高二八〇耗未滿ノ自動連結器ニ對シテハ別  
 ニ之ヲ定ム

第五條 連結器上面ト台樁端梁洞穴下面トノ隙間ハ二  
 耗以上トス

第六條 連結器ノ肩ト台樁端梁受座トノ隙間ハ左ノ通ト  
 ス

客車 六〇耗以上トシ九〇耗ヲ標準トス  
 電車 六〇耗以上トシ六五耗ヲ標準トス

先端カ連結面ノ内方二〇〇耗以上ニ在ルモノヲ除ク  
参考 本規程各條ニ付テハ次ノ略圖参照



貨車 五五耗以上トシ七七耗ヲ標準トス  
機關車 四五耗以上トシ五七耗ヲ標準トス

第七條 連結器肘ト守腕内面トノ隔ハ左ノ通トス

鉤掛位置ニ於ケル場合 一三〇耗以下

肘開位置ニ於ケル場合 二五〇耗以下

第八條 上作用連結器ノ場合ニ於テ解放テコヲ鉤掛位置ヨリ鉤揚ニ働キ始ムル位置マテ動カシタルトキ解放テコ腕ノ眼穴中心ノ移動スル垂直距離ハ三〇耗以上五〇耗以下トス

第九條 鉤掛位置ニ於テ上作用連結器ノ解放テコ腕ノ眼穴中心ノ上鉤揚中心ヨリノ車體軸線方向ニ於ケル水平距離ハ左ノ通トス

シヤロン式連結器 内方ニ一五耗以上四五耗以内

アライアンス式連結器

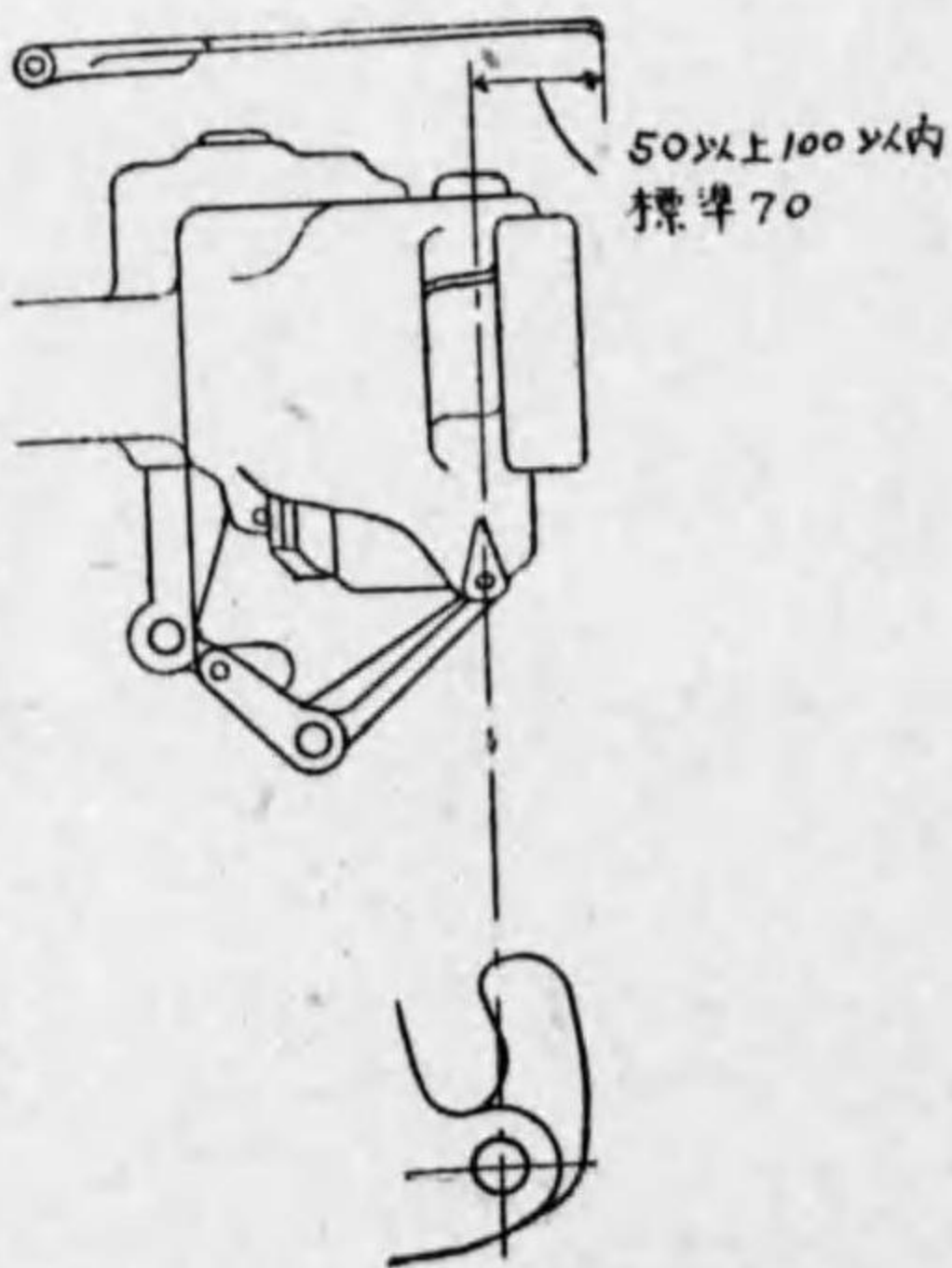
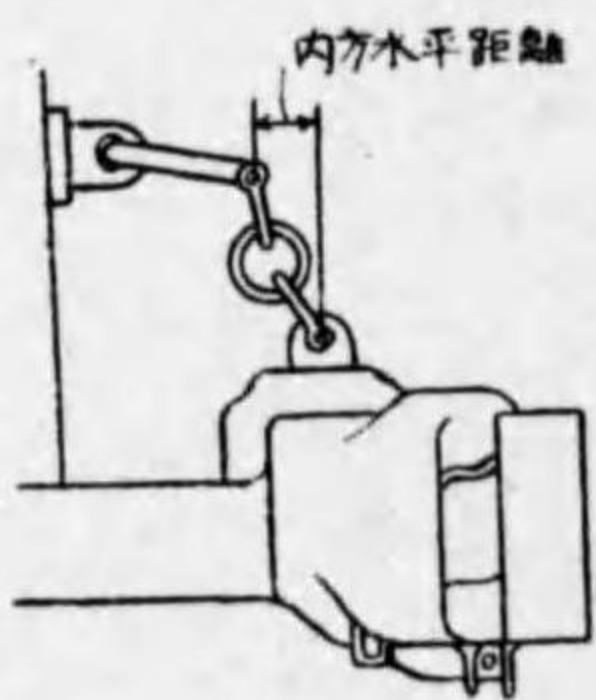
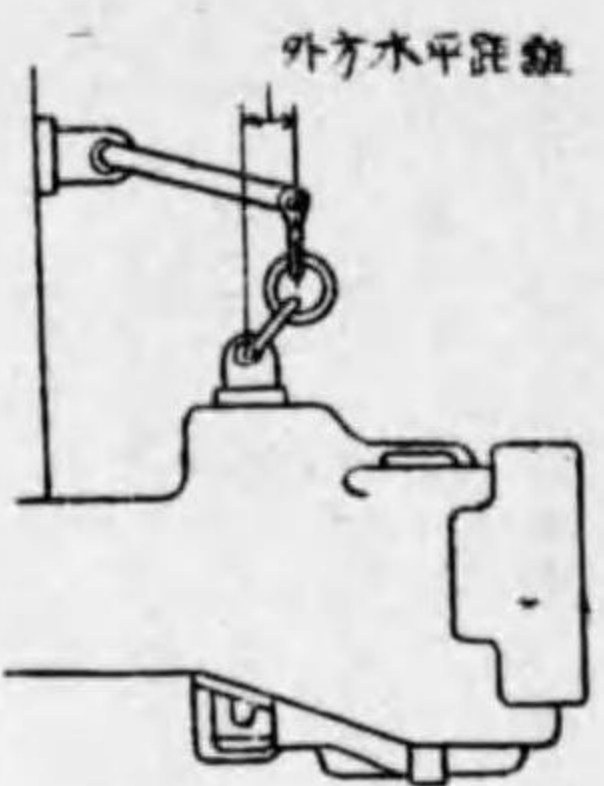
解放鎖ヲ用フル場合 外方ニ一〇耗以上四〇耗以内  
引上鈎ヲ用フル場合

内方ニ五耗以内、外方ニ二五耗以内

坂田式連結器内方ニ一五耗以内、外方ニ一五耗以内

柴田式連結器内方ニ三五耗以内、外方ニ二五耗以内

第十條 棧板先端ハ連結器連結面ノ外方五〇耗以上一〇〇耗以内ニ在ルコトヲ要シ七〇耗ヲ標準トス但シ棧板



### 三〇、有蓋緩急車（形式ワフ二二〇〇〇）ノ自動連結器高サ 其ノ他ノ件（昭九、四、二四 報通）

有蓋緩急車（形式ワフ二二〇〇〇）ハ一端ニ貨物室ヲ有スル關係上積車ノ場合ハ片積トナルヲ以テ空車ノ際ニ於ケル前後自動連結器ノ高サノ差ヲ一〇耗トシ又前後軸ノ制動力ヲ相違セシムル爲制動テコハ寸法ノ異ナルモノヲ使用セルニ付仕立検査ノ際ハ次ノ通取扱ヒ保守上遺憾ナキヲ期スヘシ

- 一 空車ノ際自動連結器ノ標準高サハ前部（貨物室寄）八八五耗、後部八七五耗ニシテ前部ハ後部ヨリ一〇

耗高キコトヲ標準トシ少クトモ幾分高クナル様調整スルコト

- 二 後部連結器ハ貨物積載時ニ於テ空車ノ場合ヨリモ約九耗高クナルニ付空車ノ際八八〇耗ヲ超エサル様注意スルコト

- 三 制動筒ノ前後ニアル水平ノ制動テコハ中央ピンノ位置寸法ノ異ナルモノヲ使用シアルニ付取替等ノ際ハ反對ニ取付ケサル様注意スルコト



三一、自動連結器ノ磨耗限度並修繕基準制定ノ件

(昭和十四、三、一  
東達甲第三六號)

自動連結器ノ磨耗限度並修繕基準別表ノ通定ム

自動連結器ノ磨耗限度

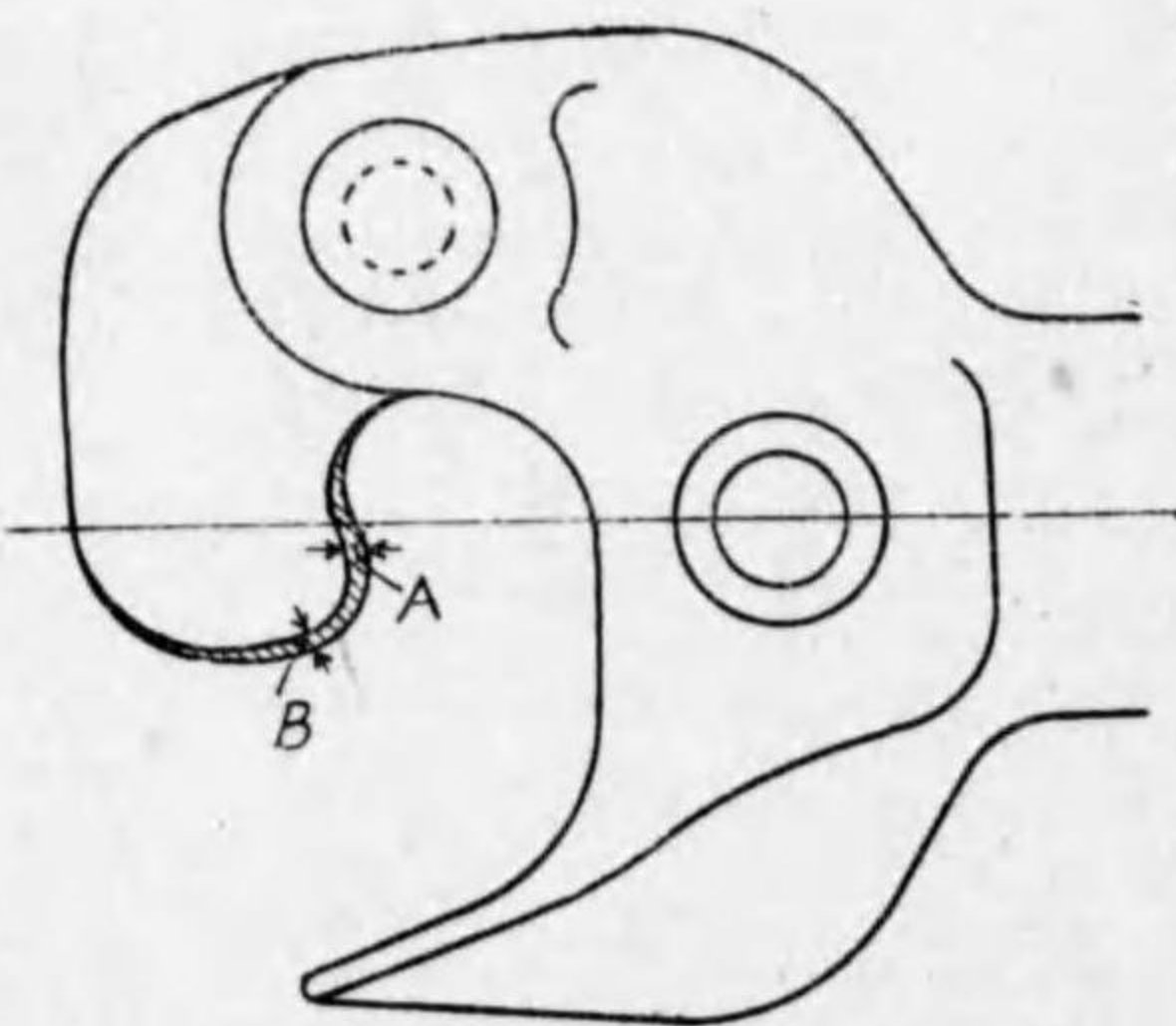
件名	工場修繕		使用限度
	限度(耗)	限度(耗)	
一 連結器肘中心ノ軌條面上ノ高サ	八二五・〇		
蒸氣機關車	八一〇・〇		
空車ノ場合	八〇〇・〇		
但シテシテシター機	八〇〇・〇		
運轉整備ノ場合	八〇〇・〇		
電氣機關車及特種機關車	八〇〇・〇		
荷物車、郵便車及夫等トノ合造車	八六五・〇		
空車ノ場合	八四五・〇		
其ノ他ノ客車及貨車			
空車ノ場合			
空車ノ場合同一車			
輛前後連結器中心高サ相互ノ差			
ボギー客車	二〇・〇		三〇・〇
其ノ他	一五・〇		三〇・〇
但シテシテシター機關車ヲ除ク			
肘ト守腕内面トノ隔			

件名	工場修繕		使用限度
	限度(耗)	限度(耗)	
三 鉸掛位置ニ於ケル場合	一二七・〇		一三〇・〇
肘開位置ニ於ケル場合	二四五・〇		二五〇・〇
肘頭部引張接觸面ノ摩耗軸線方向ニ於テ			
柴田及坂田式	五・〇		
アラリアンス及シヤロン式	七・〇		
鉸掛位置ニ於ケル守腕内面トノ最短距離ニ於テ	三・〇		
四 肘ト肘座トノ隙間			
五 肘ト肘座トノ隙間	一〇・〇		
六 肘尾端ノ鉸トノ接觸面ノ摩耗量	三・〇		
七 鉸ノ肘尾端接觸面ノ摩耗量	二・〇		
八 體内懷(鉸接觸面)ノ摩耗量	三・〇		
九 肘ピンノ直徑	四五・〇		四八・〇
一〇 肘ピン穴ノ直徑	四五・〇		四八・〇
一一 肘ピント肘ピン穴トノ隙間	三・〇		五・〇
一二 肘ピン用ブシュノ厚	五六・〇		
一三 肘ピン穴ブシュノ厚	四五・〇		三・〇

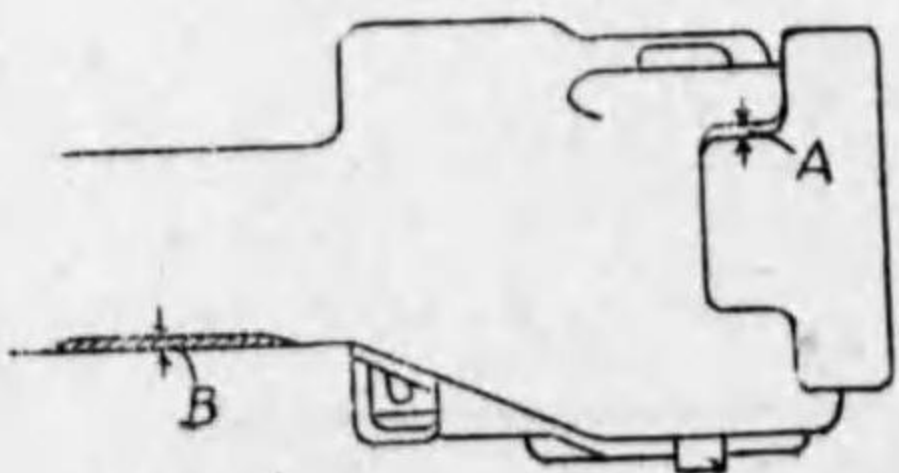
一四 連結器胴面ノ磨耗量	六・〇		
一五 胴受厚サノ磨耗量	三・〇		
一六 伴板ノ屈曲	三・〇	五・〇	
一七 伴板下部ノ磨耗量	五・〇		
一八 伴板厚サノ磨耗量	二・〇		
一九 伴板受厚サノ磨耗量(片ニ於テ)	三・〇		
二〇 伴板ノ停止ト停止間ノ距離	一一七・〇		
二一 引張バネノ高サ(無荷重ノ場合)	一九六・〇		
二二 引張バネヲ伴板(又ハバネ座)ノ間ニ挿入シタ場合ノバネ圧縮量	二・〇	〇	
二三 引張バネ厚サノ摩耗量(片ニ於テ)	三・〇		
二四 棒ノ側面(伴板停止又ハ伴板守接觸部)ノ摩耗量	三・〇		
二五 棒ノ底座ト胴尻間ノ距離	二八五・〇		
二六 伴板守ノ前後伴板挿入部ノ距離	二八九・〇		
二七 伴板ト伴板守ノ隙間	七・〇		
二八 コ止ト平打部トテ	四・〇		
二九 第一種座付連結器取付ピンノ直徑	五〇・〇		四八・〇

参考 本限度ニ付テハ次ノ略圖參照

三〇 第一種座付連結器取付ピンノ器體ノピン	四・〇	七・〇
三一 第一種座付連結器々々ノ直徑	五五・〇	五八・〇
三二 第一種座付連結器座ニ於ケル取付ピン穴ノ直徑	五八・〇	
三三 第二種座付連結器々々ノ直徑	六・〇	
三四 第二種座付連結器座ニ於ケル取付ピン穴ノ直徑	一〇・〇	
三五 座付連結器座胴受部ノ摩耗量	六・〇	



一六七

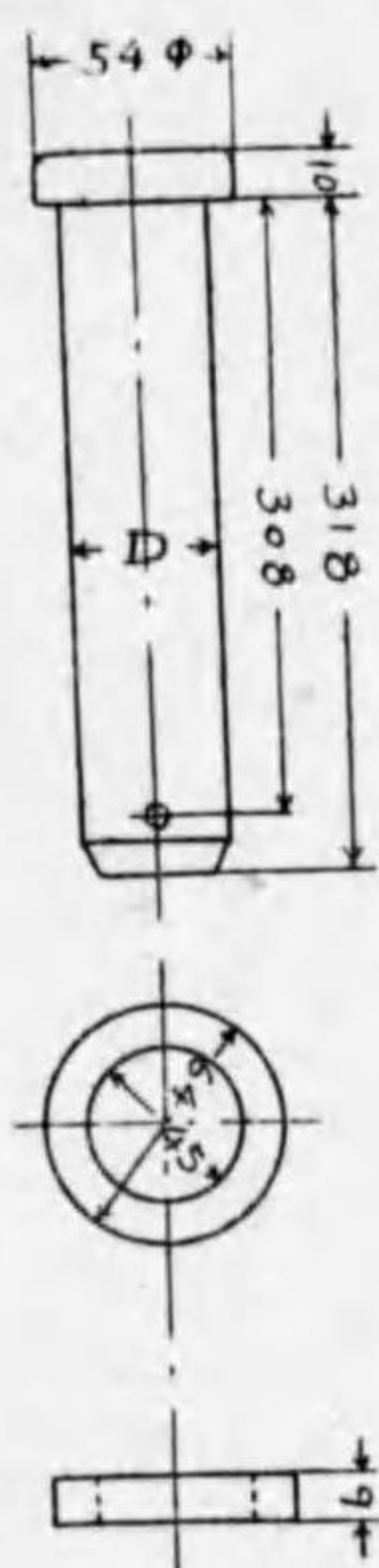


自動連結器ノ修繕基準

- 一 肘ト肘座トノ間ニハ已ムヲ得サル場合ニ限り座金ヲ挿入シテ其ノ隙間ヲ調整スルコトヲ得  
但シ座金ハナルヘク摩耗部分ニ熔接スヘシ
- 二 肘ピンニハ熔接又ハ盛金スヘカラス、熱加工ヲ施シタル場合ハ必ス焼鈍スヘシ
- 三 肘ピンノ直径ハ 四一〇耗(基本寸法) 四二〇耗、四三〇耗(増寸法)ノ三種トシピン上面ニ之等ノ直径ヲ表示スル記號ヲ左記ノ如ク刻印スヘシ

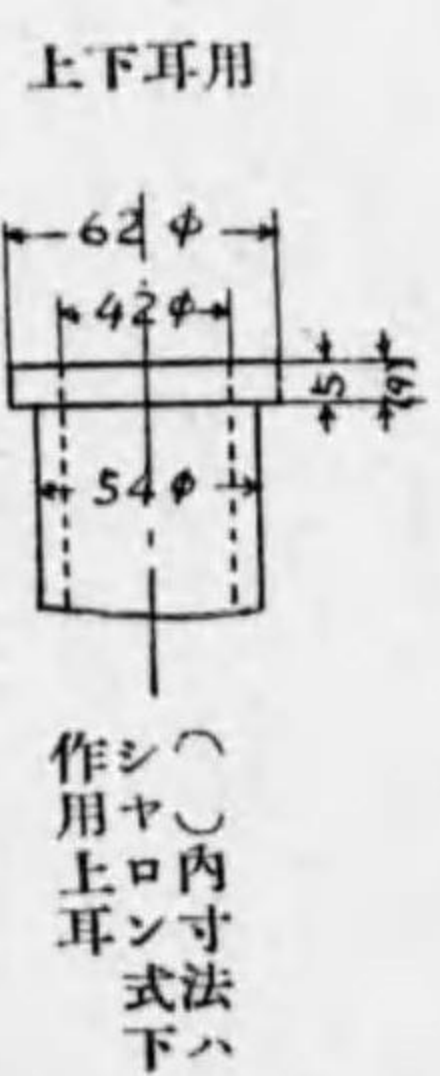
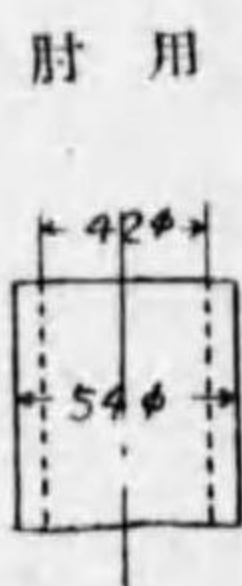
- 四一〇耗
- 四二〇耗
- 四三〇耗

四 肘ピン取替ノ際ハ左圖ノ共通ピンヲ用フルコトヲ得、但シシャロン式下作用ニシテブシユ入ナキモノニ用フル場合ハ肘ピン頸下ニ厚サ九〇耗ノ座金ヲ挿入スヘシ、尙座金ハ工場入場ノ都度本體ニ熔接スヘシ



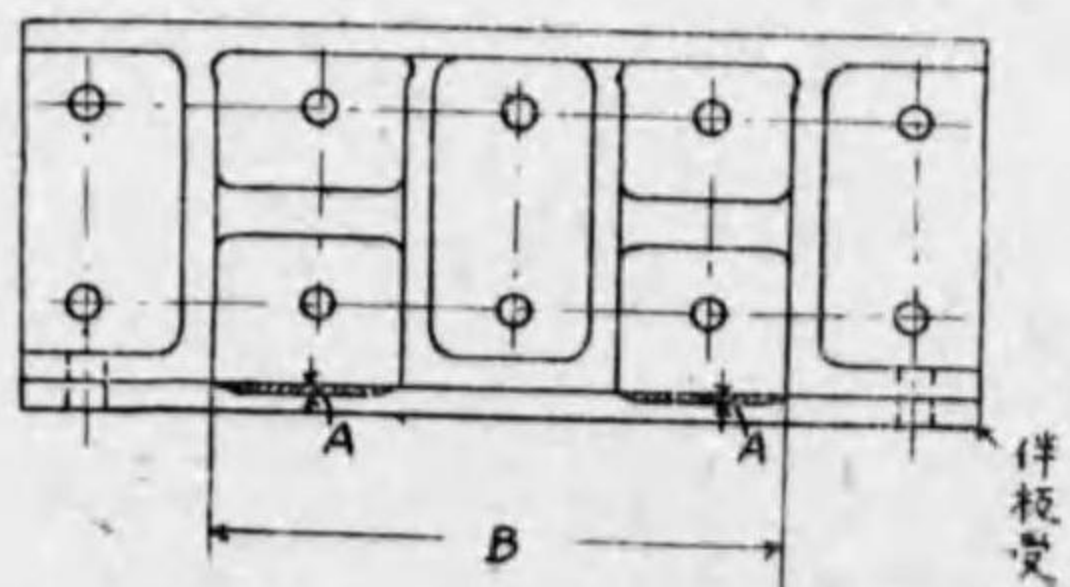
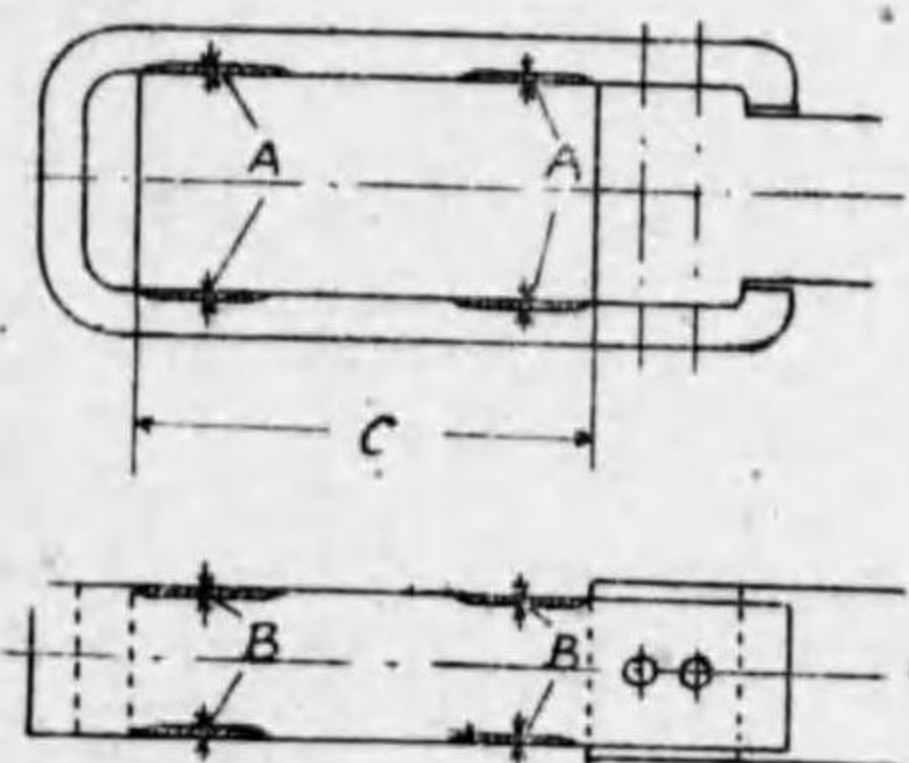
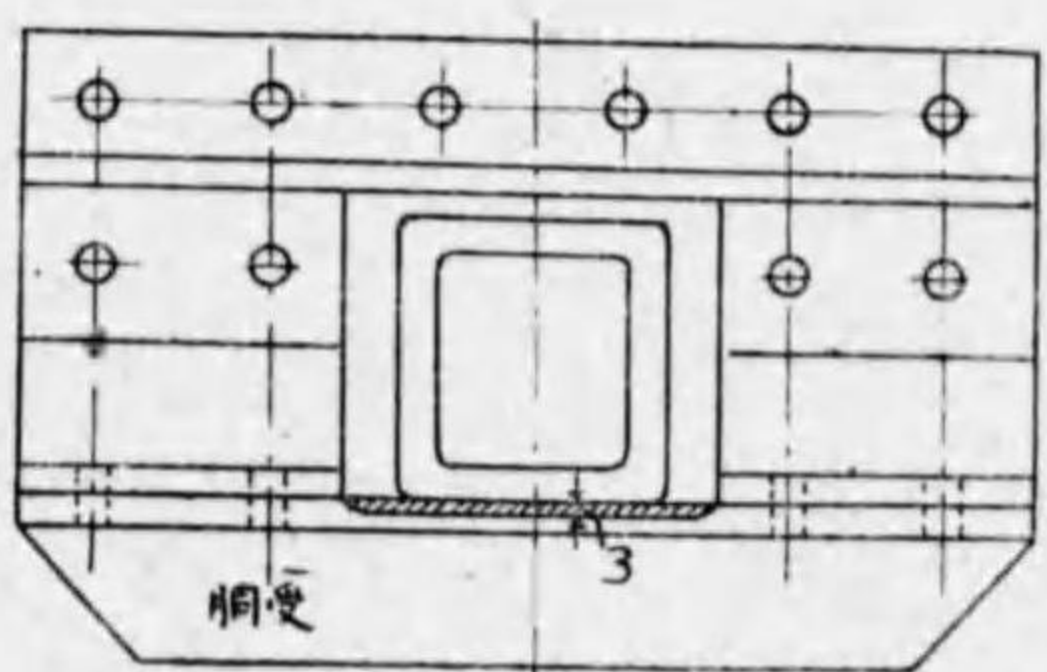
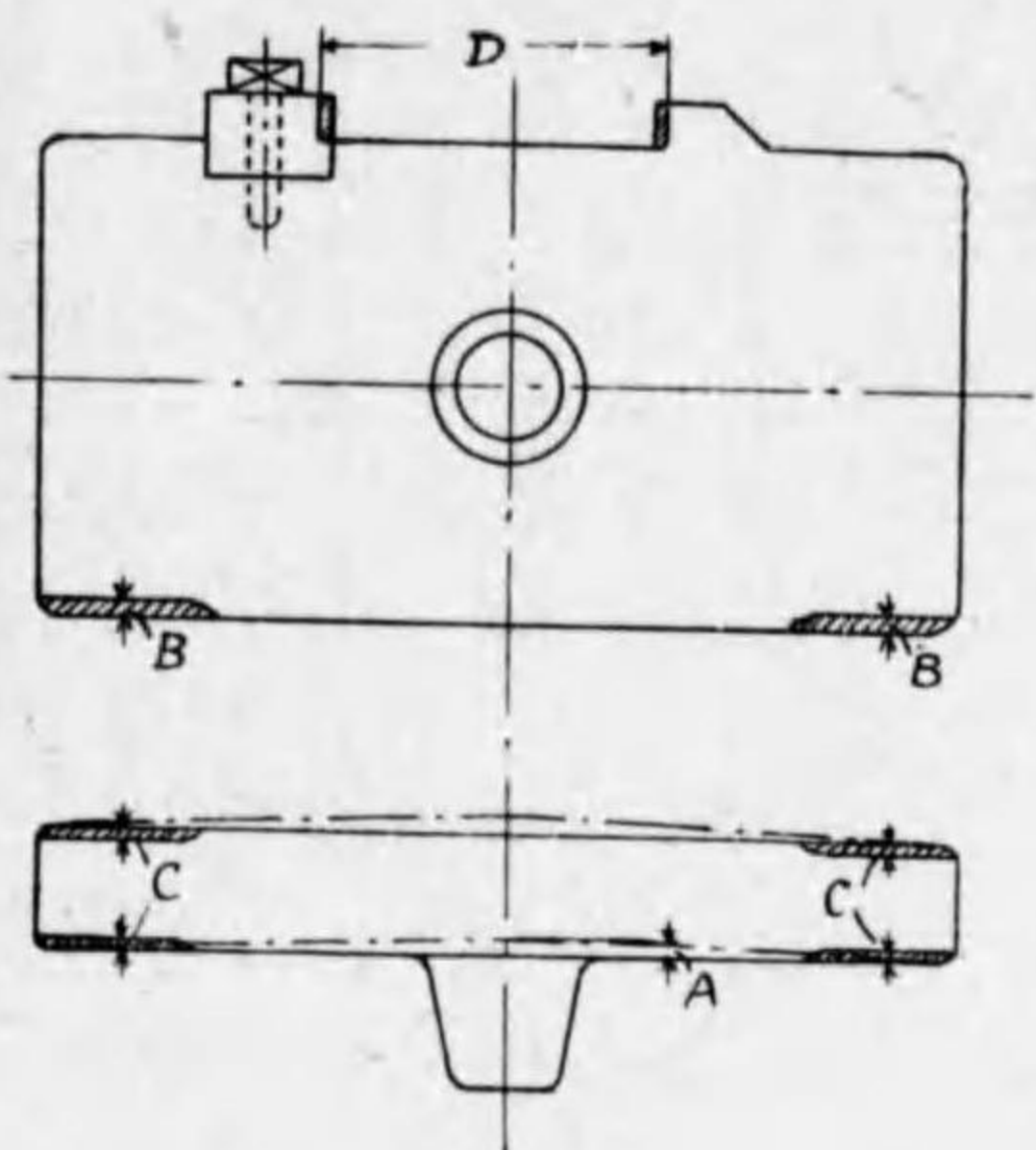
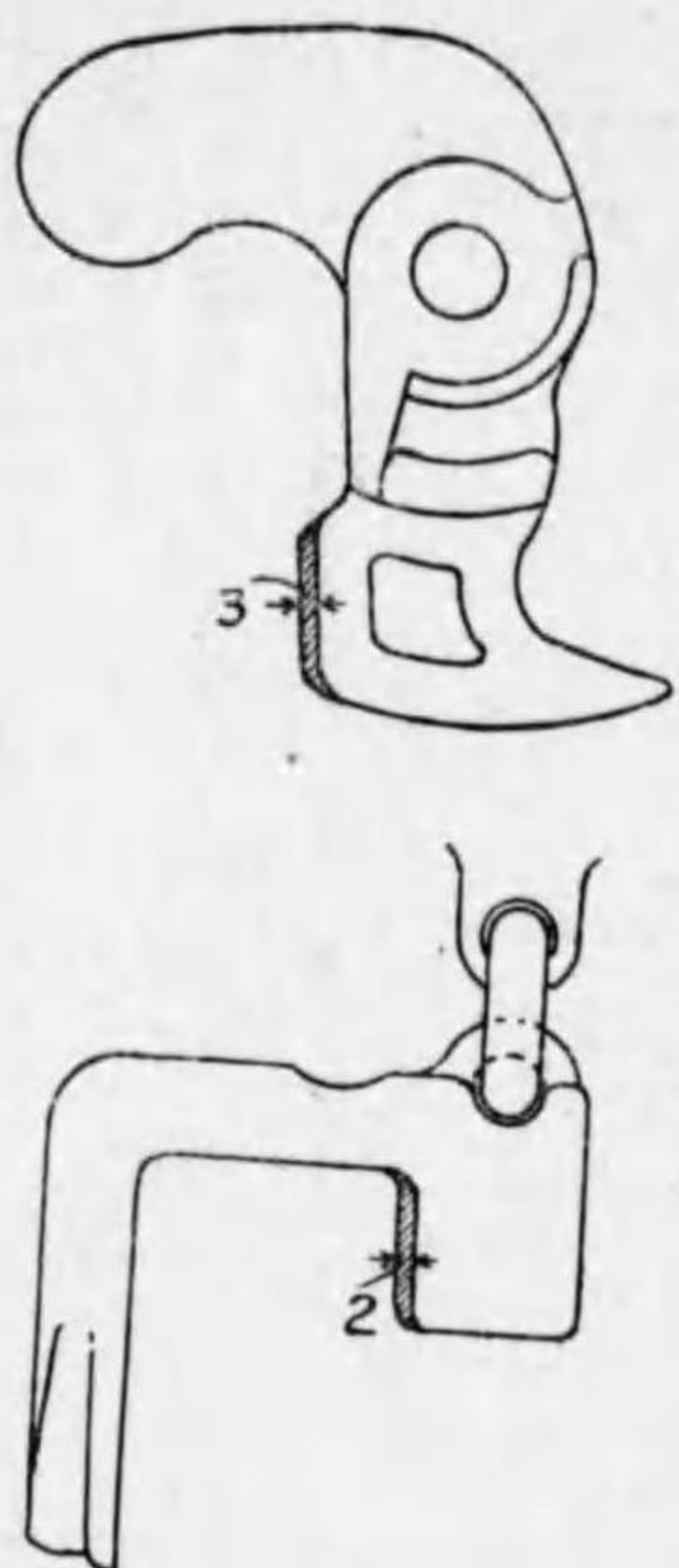
五 肘ピン穴ニハブシユヲ挿入スルコトヲ得、ブシユハ

総合スヘカラス尙ブシユノ形状ハ新規ノ場合左圖ノ通  
トシ長サハ耳ノ長サト同一トシ上下耳用ブシユハ上方  
ヨリ挿入シフランヂハ植込トス但シシャロン式下作用  
ニ挿入スル上耳用ブシユハフランヂノ厚サヲ九〇耗  
トシ植込トスヘカラス



六 肘ピン穴ブシユノ材質ハSR三四トシ炭素焼入スヘシ

七 引張バネヲ伴板ノ間ニ挿入シタル場合ニバネノ圧縮  
量不足又ハ伴板ト伴板守ノ隙間ヲ調整ノタメ用フル  
イナハ次ノ通ニスヘシ  
ア 伴板トバネ間ニ挿入スルモノハ外バネ外径ト同シ  
徑ヲ有スルモノトシ、ライナノ厚サハ三・二耗以下



トス

イ 伴板ト胴尻又ハ底座間ニ挿入スルライナハ胴尻又ハ底座ニ熔接スルコト、シ底座側ニ挿入スルモノハ折曲ケトスルコトヲ得

但シ底座側ニ折曲ケテ挿入スルモノハ兩側共五〇・〇耗以上折曲ケトス

ウ ライナノ厚サハ 總計(ア+イ) 六・四耗ヲ超ユルヘカラス

八 底座取替ノ際ハ増寸法ノモノヲ用フルコトヲ得、増寸法底座ノ最大厚サハ三五・〇耗トス

九 枠ノ底座ト胴尻間ノ距離カ工場修繕限度ニ抵觸スルモノハ底座取替若クハ胴尻ニ電氣又ハガス盛金ノ上仕上ヲ行フヘシ

一〇 伴板守ニ加修シテ前後伴板挿入部ノ距離ヲ直シタ

### 三二、自動連結器(引張摩擦裝置及接手付枠關係)ノ修繕基準假制定ノ件 (昭和四、三、一) (東達乙第五一六號)

自動連結器(引張摩擦裝置及接手付枠關係)ノ修繕限度並ニ修繕基準假制定シ當分ノ間別表ノ通定ム

#### 自動連結器ノ修繕限度

件	名	工場修繕限度(耗)
一	引張摩擦裝置	
	枠ノ厚サノ修繕限度	三・〇

伴板厚サノ修繕限度	二・〇
枠ノ胴尻ト枠尻間ノ距離	五三・五〇
前後伴板守間ノ距離	五三・七〇
伴板守ト伴板(又ハバネ箱)トノ隙間	三・〇
二 接手付枠	
ピンノ直徑	五〇・〇
ピン穴ノ直徑	五五・〇
ピントピン穴ノ隙間	三・〇
枠接手ト枠トノ隙間(上下方向ニ於テ)	五・〇

#### 自動連結器ノ修繕基準

- 一 接手付枠ピンノ直徑ハ五一・〇耗(基本寸法)五二・〇耗五三・〇耗(増寸法)ノ三種トス
- 二 接手付枠ピン穴ニハブシユヲ挿入スルコトヲ得、ブシユノ厚サハ新規ノ場合六・〇耗トス

### 三三、蒸氣暖房器使用手續 (昭和四、一〇、三) (達第七八三號)

蒸氣暖房器使用手續左ノ通定メ昭和四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
大正八年九月達第八六六號蒸氣暖房器使用手續ハ之ヲ廢止ス

#### 蒸氣暖房器使用手續

- 第一條 旅客列車(混合列車ニシテ前部ニ客車ヲ連結セラルモノヲ含ム)ニハ特殊ノ事由アル場合ノ外蒸氣暖房器(以下暖房器ト稱ス)ヲ使用スヘシ
- 第二條 暖房器ノ使用期間ハ左ノ通トス

一七〇

- ル場合ハ引張バネカ圧縮サレタル場合前後伴板ノ接スル伴板守ノ距離モ必ス基本寸法ニ直スヘシ
- 一 體內懷(錠接觸面)ノ修繕限度カ工場修繕限度ニ抵觸スルモノハ盛金ヲ施スコト
  - 二 時、錠及體內懷ノ錠接觸面等作用ノ圓滑ヲ必要トスル箇所ニ盛金シタル場合ハ必ス盛金面ノ仕上ヲ行フヘシ
  - 三 第一種座付連結器座ニ於ケル取付ピン穴ニハブシユヲ挿入スルコトヲ得
  - 四 時及錠ニ加修シタル場合ハ別ニ制定シタルゲージニ依リ検査スヘシ(サ五〇五〇―サ五〇六一)
  - 五 自動連結器各部検査ノ際ハ別ニ制定シタル検査ゲージニ依ルヘシ(サ五〇一五、サ五〇一六)

北海道 自十月一日 至翌年五月三十一日

東北線、奥羽線、陸羽線、磐越線、信越線、高山線、北陸線、山陰線 自十月一日 至翌年五月二十日

九州線 自十月二十日 至翌年四月三十日

其ノ他ノ線 自十月二十日 至翌年五月十日  
鐵道局長ハ氣温ノ高低ニ依リ前項ノ期間ヲ伸縮シ又ハ使用時間ヲ限定スルコトヲ得、此ノ場合列車カ二鐵道局以上ニ跨リテ運轉スルトキハ關係鐵道局長ニ於テ協

一七一

議ノ上施行スヘシ

- 第三條 機關車、暖房車又ハ暖房豫熱装置ヨリ列車ニ供給スヘキ蒸氣ノ最高圧力ハ一平方糎ニ付五・五冠トス
- 第四條 暖房器使用列車ノ始發驛ニ於テハ機關車又ハ暖房豫熱装置ヨリ列車ニ送氣シ發車時刻迄ニ攝氏十五度以上ニ車室内ヲ暖ムル様努ムヘシ
- 第五條 發車時刻前ニ前條ノ作業ヲ完了シ能ハサル場合ニハ必要ニ應ジ檢車掛ヲ乗込マシメ之ヲ取扱ハシムヘシ
- 第六條 列車運轉中ニ於ケル車室内ノ標準溫度ハ攝氏十八度(一、二等寢台車ニ在リテハ寢臺使用中ニ限リ攝氏十六度)トシ第七條ニ依リ車掌(客扱專務車掌ノ乗務セル列車ニ在リテハ客扱專務車掌)ニ於テ調節スヘシ
- 第七條 加減弁ハ高压蒸氣暖房器ニ在リテハ列車ノ後部ヨリ前部ニ到ルニ從ヒ各車輛毎ニ其ノ開キノ程度ヲ漸次減少シ、大氣圧蒸氣暖房器ニ在リテハ各車輛共加減弁ヲ全開ノ儘トシ加減コックニ依リテ各車室内ヲ標準溫度ニ保持スル様努ムヘシ

### 三四、車輛ノ蒸氣暖房主管ヲ連結スル暖房「ホース」ノ取付及取扱方ノ件

(昭和二、九、二二) (達第八一、一號)

一七二

- 第八條 高压蒸氣暖房器ニ於テ機關車、緩急車、暖房車又ハ暖房豫熱装置ノ圧力計ニ相當ノ圧力ヲ示スニモ拘ラス車室内溫度著シク低キ場合ハ排水弁ヲ開キテ充分排水セシムヘシ
- 第九條 列車最後部ノ閉塞弁ハ時々之ヲ開キテ蒸氣ノ全通シ居ルヤ否ヤヲ檢査スヘシ
- 第十條 加減弁又ハ加減コックニ依リ車室内ノ溫度ヲ適度ニ調節シ能ハサルトキハ機關士(暖房車ヨリ送氣スル列車ニ在リテハ機關助士又ハ運轉助士)ニ通告スヘシ
- 第十一條 機關士、運轉助士又ハ機關助士ニ於テ前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ直ニ送氣ノ加減ヲ爲スヘシ
- 第十二條 運轉中車室ニ於ケル暖房装置ノ一部分ニ故障ヲ生シ加減弁ヲ閉塞シタル場合高压蒸氣暖房器ニ在リテハ排水弁ヲ開放スヘシ
- 第十三條 鐵道局長ハ時々車室内溫度ノ適否ヲ監査セシメ第六條ノ標準溫度ノ保持ニ努ムヘシ

車輛ノ蒸氣暖房器使用期間中其ノ暖房主管ヲ連結スル暖房ホースノ取付及取扱方左ノ通定ム

- 一 客車ヲ牽引スル機關車ニハ其ノ一端ニV形接手付暖房ホース(以下V形ホースト稱ス)ヲ取付クルモノトス
- 二 客車ニハ其ノ一端ニV形ホースヲ取付クルモノトス但シV形ホースカ不足シタル場合ハ客車間ニ於テ常ニ解結セサル箇所ニ限リ在來ノ連結器付暖房ホース(以下C形ホースト稱ス)ヲ使用スルコトヲ得
- 三 前項ノV形ホース取付方向ハ左ノ線路ニ於テハ下記驛寄トス

東海道本線	東	京
橫濱線	東	神奈川
北陸本線	直	江津
小濱線	敦	賀
中央本線	東	京
高山本線	富	山
山陽本線	神	戶
山口線	石	見
山陰本線	京	都
關西本線	湊	町
鹿兒島本線	門	司

東北本線	青	森
常磐線	岩	沼
水郡線	郡	山
磐越東線	平	津
磐越西線	會	津
羽越本線	秋	田
上越線	新	潟
信越本線	新	潟
函館本線	旭	川
宗谷本線	稚	内
根室本線	根	室

- 四 二軸客車ノ暖房主管止メ弁ハVOC六五三七圖ノモノヲ定ムルモノトス
- 前號以外ノ線路ニ於ケル取付方向ハ鐵道局長ニ於テ之ヲ使用スルモノトス
- (註) 一、在來ノ止メ弁ヲ使用セルモノハ之ニ改造スルコト
- 二、在來ノ止メ弁ヲ有スル二軸客車ト機關車又ハ客車トヲ連結スル場合ハC形ホースヲ使用スルコト
- 五 機關車ト客車トヲ連結スル際双方ノV形ホースカ重複シタル場合ハ客車ニ取付ケアルモノヲ使用シ機關車ノモノハ之ヲ取外シ適宜ノ位置ニ懸垂シ置クモノトス

# 第七編 ブレーキ装置

## 三五、空氣制動機取扱心得(拔萃)

(昭和三、八、一四)  
(達第六六四號)

空氣制動機取扱心得左ノ通定ム  
大正十三年十二月達第八八〇號 蒸氣列車空氣制動機取扱心得ハ之ヲ廢止ス

### 空氣制動機取扱心得

#### 第一編 列車空氣制動機

##### 第一章 總 則

第一條 列車(電車ヲ除ク)空氣制動機ノ取扱ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外本編ニ依ルヘシ

第二條 本編ニ於ケル空氣制動裝置ハ特ニ明記セサル限リ蒸氣機關車ニ在リテハ「E T 6」形、電氣機關車ニ在リテハ「E L 14」形、客車ニ在リテハ「A」形又ハ「P」形、貨車ニ在リテハ「K」形トス

第三條 各種圧力計ハ正シク調整シ置キ常ニ正確ナルコトヲ期スヘシ

第五條 制動筒ピストンノ行程ハ停止中全制動ヲ行ヒタ

ル場合ニ於テ左ノ範圍内ニ調整シ置クヘシ

機關車	八〇耗乃至一三〇耗
炭水車	一〇〇耗乃至一五〇耗
客貨車	一三〇耗乃至一八〇耗

#### 第四章 列車ノ組成

第二十條 列車組成セラレタルトキハ各車輛間ノホースヲ連結シ總テノ肘コック(組成客貨車ノ前後部ヲ除ク)ヲ開キ各車輛ニ就キ左ノ各號ヲ確認スヘシ

一 各車輛ノ制動支管ノコックハ開キアルコト

二 車掌弁ハ閉チアルコト

第二十一條 列車ノ制動管ニ込メヲ行フニハ先ツ機關車ノ肘コックヲ開キタル後次位車輛ノ肘コックヲ徐々ニ開キ自動制動弁取手ヲ弛メ位置ニ移シ次ニ之ヲ運轉位置ニ移スヘシ此ノ際制動管圧力カ約四・五疋トナル如ク弛メ位置ニ置ク時間ヲ加減スヘシ

組成客貨車ノ制動管ニ圧力ナキカ又ハ圧力アルモ低キ場合蒸氣機關車ニ在リテハ込メヲ速ナラシムル爲必要

ニ應シ先ツ自動制動弁取手ヲ重リ位置ニ移シ元空氣溜ヲ八疋ニ込メタル後前項ノ込メヲ行フヘシ

#### 第五章 列車組成後ノ制動機試験

第二十二條 列車組成セラレタルトキハ左ノ各號ノ順序ニ依リ前途制動機ヲ操縦スル制動弁ニ於テ制動機試験ヲ行フモノトス

一 檢車掛(檢車掛ノ検査ヲ擔當セサル列車ニ在リテハ操車掛、車掌又ハ其ノ適任者以下同シ)ハ後部緩急車圧力計ノ指針ニ依リ制動管カ約五疋ニ達シタルコトヲ確メタルトキハ直ニ機關士又ハ運轉士ニ對シ左ノ方式ニ依リ制動合圖ヲ爲スコト

晝間 片腕ヲ高ク舉ケテ圓形ヲ畫ク  
夜間 白色燈ヲ高ク舉ケテ圓形ヲ畫ク

二 機關士又ハ運轉士ハ制動合圖アリタルトキハ自動制動弁取手ヲ常用制動位置ニ移シ〇・六疋ノ減圧ヲ行ヒテ重リ位置ニ置キ制動排氣ノ已ミタル後制動管ノ漏洩ヲ計リ圧力ノ下降一分時ニ付〇・四疋以内タルコトヲ確認スルコト

三 檢車掛ハ後部緩急車ノ制動機カ締結スルコトヲ確メタル後機關士又ハ運轉士ニ對シ左ノ方式ニ依リ緩解合圖ヲ爲スコト

晝間 片腕ヲ高ク舉ケテ左右ニ振ル  
夜間 白色燈ヲ高ク舉ケテ左右ニ振ル

四 機關士又ハ運轉士ハ緩解合圖アリタルトキハ第三十七條ニ依リ弛メヲ行ヒ檢車掛ハ後部緩急車ノ制動機カ緩解スルコトヲ確ムルコト

(註) 一、後部ニ緩急車ヲ連結セサル列車ニ在リテハ最後部制動筒付車輛ノ制動管カ約五疋ニ達シタルコトヲ推定シ制動合圖ヲ行フコトヲ得ルモノトス

(註) 二、列車推進ノ場合ハ前部緩急車ヲ後部緩急車ト看做スモノトス

第二十三條 前條ノ試験ニ於テ不完全ナル車輛アルコトヲ發見シタルトキハ相當手當若ハ修理ヲ行フヘシ手當若ハ修理後尙不良ナル場合ニハ左ノ各號ニ依ルヘシ此ノ場合所要制動軸數ヲ備フルヤ否ヤヲ注意スルコトヲ要ス

一 制動管ノ漏洩カ〇・八疋以上ナル場合ニハ不良車輛ヲ摘出シテ之ヲ列車ヨリ解放スヘシ若運用上之ヲ解放シ能ハサル場合ニハ該車輛ノ肘コックヲ閉チ成ルヘク之ヲ列車ノ後部寄ニ附換ヲ爲スヘシ

二 三動弁、動作弁、補助空氣溜又ハ制動筒ニ故障アル場合ニハ該車輛ノ制動支管ノ締切コックヲ閉チ補助空氣溜内圧縮空氣ヲ放出スヘシ此ノ場合動作弁ヲ

有スルモノハ圧縮空氣放出前附加空氣溜ノコツクヲ閉ツヘシ  
列車出發後故障起リタル場合ノ處置又前項ニ同シ

### 第六章 車輛ノ解結

第二十四條 車輛解結ニ當リホースヲ連結シタルトキハ之ニ附屬スル兩肘コツクヲ開クヘシホースヲ切り放ス場合ニハ先ツ之ニ附屬スル兩肘コツクヲ閉チ切放シタルホース(直ニ他ノ車輛ト連結スルモノヲ除ク)ハ之ヲ連結器塞ニ接合シ置クヘシ

第二十五條 車輛解結ノ際ニ於ケル制動機ノ取扱方ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 列車カ終端停車場ニ到着シ機關車ヲ解放スル場合ニハ先ツ全列車ニ適用制動ヲ行ヒタル儘之ヲ解放スヘシ但シ轉動ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス
  - 二 機關車附換ノ爲之ヲ解放スル場合ニハ先ツ全列車ニ適用制動ヲ行ヒタル儘之ヲ解放スヘシ
  - 三 客車又ハ貨車ヲ解結スル場合ニハ先ツ全列車ニ適用制動ヲ行ヒ殘留車輛ノ制動ハ其儘トシ前部車輛ノミニ制動機ヲ緩解シテ入換ヲ行フヘシ
  - 四 解放車輛ノ空氣制動機ハ之ヲ緩解シ置クヘシ
- 第二十六條 車輛解結後ノ込メハ第二十一條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ行フヘシ

第二十七條 中間停車場ニ於テ車輛ノ解結ヲ爲シタルトキハ檢車掛ハ左ノ各號ニ依リ制動管ノ貫通セルコトヲ確認スヘシ

- 一 殘留車輛ニ連結スルトキハ本務ノ機關士又ハ運轉士ヲシテ制動機ヲ緩解セシメ該殘留部分ノ制動機ヲ緩解スルコト
- 二 前號以外ノ場合ハ本務ノ機關士又ハ運轉士ヲシテ制動機ヲ締結セシメ連結シタル車輛ノ制動機ヲ締結スルコト

(註) 本條第一號制動機緩解ノ確認ハ殘留車輛中連結箇所最寄車輛ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス第二號ノ取扱ニ關シテモ之ニ準シ得ルモノトス

### 第七章 列車ノ操縦

#### 第二節 常用制動

第三十七條 常用制動後弛メヲ行フニハ自動制動弁取手ヲ弛メ位置ニ移シ次ニ之ヲ運轉位置ニ移シ(此ノ場合制動管圧力カ約四・五疋トナル如ク弛メ位置ニ置ク時間ヲ加減スヘシ)制動管圧力カ約リ合ヒタル後キツクオフ(自動制動弁取手ヲ約一秒間弛メ位置ニ置キ直チニ運轉位置ニ復スコト)ヲ行フヘシ但シ輕キ減圧ニ依リ制動ヲ行ヒタル場合ニハ其ノ儘ニテハ緩解シ難キコトアルヲ以テ更ニ減圧ヲ爲シテ全減圧カ〇・六疋以上トナリタル後弛メヲ行フヘシ

### 第九章 込メ過キ及緩解不良

第五十七條 列車停止中込メ過キヲ爲シタルトキハ四疋迄減圧ヲ爲シタル後弛メヲ行ヒテ所定圧力ニ復スヘシ

第五十八條 列車運轉中込メ過キヲ爲シタルトキハ次ニ停車スル迄其ノ儘トシ停車後前條ニ依リ所定圧力ニ復スヘシ但シ連結車數少キ場合ニハ輕キ制動及弛メヲ繰リ返シテ所定圧力ニ復スルコトヲ得

第五十九條 列車ノ制動機緩解不完全ナル場合ニハ先ツ一・四疋ノ減圧ヲ行ヒタル後更ニ弛メヲ行フヘシ但シ緩解不完全ナル車輛數少キ場合ニハ弛メ弁(弛メ弁ナキトキハ補助空氣溜ノ排水コツク)ヲ開キテ之ヲ緩解スルコトヲ得

第六十條 前條ノ方法ニ依リ緩解シタル車輛カ再ヒ緩解

### 三六、空氣ブレーキ検査心得(拔萃)

(大正一四、六、三〇) (達第五一七號)

空氣ブレーキ検査心得左ノ通定ム

#### 第一編 蒸氣機關車空氣ブレーキ

#### 第四章 三ヶ月検査

第十六條 圧力計ハ圧力計試験器ニ依リ其ノ正否ヲ検査

#### 第五章 六ヶ月検査

第二十條 制動筒ハ之ヲ分解シテ各部ノ掃除及検査ヲ行ヒ不良部分ヲ取換ヘタル後滑劑(グリースノ類)ヲ給

不完全トナリタルトキハ第二十三條第二號ノ取扱ヲ爲スヘシ

### 第十章 停止中ノ車輛制動

第六十一條 機關車ヲ給炭水線、轉車台又ハ遷車臺上ニ停止セシメ置ク場合其ノ他必要アルトキハ單獨制動弁取手ヲ緩制動位置ニ置キ制動ヲ爲シ置クヘシ

第六十二條 列車ヲ長ク停止セシメ置ク場合ニハ機關車ニハ前條ニ依リ制動ヲ行ヒ列車ノ制動管ニハ所定圧力ヲ保チ置クヘシ但シ勾配線ニ於テ停電又ハ其ノ他ノ爲元空氣溜圧力カ四疋以下ニ下降シタル場合ハ空氣制動機ニ依ルヘカラス

第六十三條 客貨車ヲ長ク停止セシメ置ク場合ニ於ケル制動ハ空氣制動機ニ依ルヘカラス

スヘシ

シテ之ヲ組立ツヘシ

第二十一條 渦巻塵取ハ其ノ下部ノ栓ヲ拔取り内部ノ掃除ヲ爲スヘシ

### 第六章 一般検査

第二十八條 制動筒ノ検査ヲ行フニハ特ニ左ノ各號ヲ確認シ之ヲ組立タル後漏洩試験ヲ行ヒ圧力三・五疋ピストン行程百耗ノトキ圧力ノ下降カ一分時ニ付〇・三疋以内ナルコトヲ確認スヘシ

- 一 ピストンニ毀損セル箇所ナキコト
- 二 ピストン鞣棒ニ曲リナク且確實ニ取付アルコト
- 三 ピストンパツキン押へ用植ボールトノ取付ハ氣密ナルコト

四 パツキンニ異常ナキコト

五 弛メバネハ適當ナル彈力ヲ有スルコト

第三十條 各種コツクハ分解検査ヲ行ヒタル後之ヲ組立漏洩ナキコトヲ確認スヘシ

第三十一條 各管及ホースハ各部ヲ検査シ各接目ノ完全ナルコト及漏洩ナキコトヲ確認スヘシ但シ制動管及支管ハ小鐘ニテ輕ク叩キ管内壁ノ錆ヲ落シタル後圧縮空氣ヲ以テ吹キ出サシムヘシ

第三十三條 圧力計ハ之ヲ分解シテ各部ニ異狀ナキコト

ヲ確メタル後試験器ニ依リ其正否ヲ検査スヘシ

### 第二編 客貨車空氣ブレーキ

#### 第一章 總則

第三十四條 客貨車空氣ブレーキ(電車空氣ブレーキヲ除ク)ノ検査ハ之ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 列車検査
  - 二 仕立検査
  - 三 局部検査
  - 四 一般検査
- 第三十五條 列車検査ニ在リテハ左ノ各號ヲ確認スルモノトス
- 一 制動管漏氣ノ有無
  - 二 ホース連結狀態ノ適否
  - 三 肘コツク、締切コツク、排水コツク及車掌弁取手ノ位置ノ適否

第三十六條 仕立検査ニ在リテハ左ノ各號ヲ確認スルモノトス

- 一 各部取付狀態ノ完否
- 二 制動管漏氣ノ有無
- 三 制動作用ノ良否
- 四 制動筒ピストン行程ノ適否

五 制動筒漏氣ノ有無

六 吐出絞、弛メ弁、車掌弁其ノ他附屬品ノ完否

第三十七條 局部検査ニ在リテハ左ノ各號ヲ行フモノトス

- 一 三動弁(吐出絞ヲ含ム以下同シ)、動作弁及制動筒ノ検査、掃除及給油
- 二 渦巻塵取ノ検査及掃除
- 三 圧力計ノ検査

第三十八條 一般検査ニ在リテハブレーキ裝置ノ全般ニ亙リ各部ヲ細密ニ検査スルモノトス

第三十八條ノ二 第三十四條ノ客貨車空氣ブレーキノ各種検査ハ夫夫客貨車ノ各種検査施行箇所ニ於テ客貨車ノ検査ト同時ニ之ヲ行フモノトス但シ第三號及第四號ノ検査ニ於テ三動弁又ハ動作弁ノ検査、掃除及給油ハ指定工場ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ他ノ箇所ニ於テハ豫メ指定工場ニ於テ検査済ノ豫備品ト之ヲ取換フルモノトス三動弁又ハ動作弁ノ作用不具合ニシテ試験臺試験ヲ必要ト認ムルトキ亦前項但書ニ同シ

(註) 試験臺試験ヲ必要トスル程度ハ掃除、滑劑給與及部分品(バネ、ガスケット等)取換以外ノ手當ヲ云フ

### 第二章 列車検査

第三十九條 制動管漏氣ノ有無ヲ検査スルニハ制動管ヲ五疋ニ込メタル後制動弁ニテ〇・六疋ノ減圧ヲ行ヒテ重リ位置ニ置キタルトキ制動管圧力ノ下降一分時ニ付〇・四疋以内ナルコトヲ確認スヘシ

#### 第三章 仕立検査

第四十二條 制動管漏氣ノ有無ヲ検査スルニハ〇・四疋ノ減圧(減圧ハ制動管ヲ五疋ニ込メ圧力カ鈞合ヒタル後單車試験器ニテ行フ以下同シ)ヲ行ヒ重リ位置ニ置キタルトキ制動管圧力ノ下降一分時ニ付〇・二疋以内ナルコトヲ確認スヘシ

第四十三條 制動作用ノ検査ヲ行フニハ左ノ各號ヲ確認スヘシ

- 一 〇・四疋ノ緩ナル減圧ヲ行ヒ直チニ制動スルコト
- 二 急ナル減圧ニテ全制動減圧ヲ行ヒ非常制動ヲ起ササルコト
- 三 全制動減圧後階段弛メヲ行ヒ三回以上弛メ重リ位置ヲトルコト







### 三七、客車ト貨車トヲ以テ組成スル列車ノ空氣制動機取扱方

二就テ (昭和二、九、三) (公報通報)

客車ト貨車六輛以上トヲ以テ混合組成スル列車ニ在リテハ非常制動ノ取扱ニ伴フ衝動ヲ緩和スル爲左ノ取扱ヲ爲スモノトス

至リタルトキ之ヲ開クコト  
二 本取扱ヲ爲シタル列車ヲ常用制動ニ依リ停止セシムルニハ空氣制動機取扱心得第三十三條第二號ノ取扱ニ依ルコト

### 三八、客貨車制輪子磨耗限度制定ノ件

(本省通牒昭和八年七月) (作工業第八一二六號)

客貨車制輪子ノ厚サニ對スル磨耗限度ヲ左記ノ通定ム

但シ本限度寸法ハ何レモ最薄キ部分ニ於テ測定スルモノトス

使用限度	甲型	乙型
	五耗	七耗

一 客車 (除電車)

使用限度	甲型	乙型
	五耗	七耗

二 貨車

區修繕限度	甲型	乙型
	八耗	一〇耗

但シワキ一、ワムフ一、ワフ二〇〇〇〇、ワ五〇〇〇〇形式ニ限リ次ノ限度ニ依ル

## 第八編 修繕及掃除

### 三九、機關區、檢車區及電車區ニ於テ施行スヘキ客貨車修繕

工事ノ範圍 (昭和六、九、一九) (達第六八〇號)

機關區、檢車區及電車區ニ於テ施行スヘキ客貨車修繕工事ノ範圍左ノ通定ム

大正二年十二月達第一二二一號ハ之ヲ廢止ス

#### 機關區、檢車區及電車區ニ於テ施行スヘキ客貨車修繕工事ノ範圍

第一條 客貨車ニシテ左記各號ノ修理ヲ要スルモノハ之ヲ工場ニ廻送セス機關區、檢車區及電車區ニ於テ之カ修繕ヲ爲スヘシ但シ同一車輛ニ對シ數工事ヲ併セ施行スル必要アルモノ又ハ特ニ工場ニ於テ施行スルヲ便宜ト認メタルモノハ此ノ限リニ在ラス

- 一 擔バネノ取替
- 二 手用及車側制動機ノ調整及部分品ノ取替
- 三 空氣制動機及基礎制動裝置ノ調整竝ニ部分品ノ取替
- 四 軸箱及部分品ノ取替

- 五 簡易削正器ニ因ル輪緣削正器ニ車輪ノ轉向軸箱守ノ取替
- 六 發熱車軸ノ修理但シ車軸ノ削正又ハ取替ヲ要スルモノヲ除ク
- 七 連結器、引張裝置及部分品ノ取替
- 八 諸種車票挿及馬ツナギ輪ノ取替
- 九 標識掛金具ノ取替
- 一〇 暖房器附屬品ノ取替及輕微ナル修理但シ客車ノ電氣暖房器ヲ除ク
- 一一 窓掛ノ取替
- 一二 窓硝子ノ取替
- 一三 鐵戸又ハ網戸ノ取替
- 一四 塗粧ノ輕微ナル補修竝ニ標記ノ記入又ハ書替
- 一五 屋根燈用ケースノ取替
- 一六 戸蝶番、取手及錠前等ノ取替
- 一七 網棚及受金具ノ取替
- 一八

- 一九 雨漏ノ輕微ナル補修
- 二〇 燈器裝置ニ對スル輕微ナル修理但シ客車ニ裝置ノ分ヲ除ク
- 二一 貨車側板及床板ノ補修又ハ取替
- 二二 無蓋貨車妻柱及側柱ノ取替
- 二三 引戸、開戸及幌ノ具合修理
- 二四 水揚裝置ノ調整、部分品取替及輕微ナル修理
- 二五 便所、化粧室及給水諸裝置ノ具合修理又ハ部分品取替
- 二六 踏段及棧板ノ修理又ハ取替
- 二七 集電裝置ノ調整、部分品取替及輕微ナル修理
- 二八 制御裝置ノ調整、部分品取替及輕微ナル修理

四〇、車輛部分品磨耗限度種別規程

(昭和五、九、一一) (達第七九六號)

- 車輛部分品磨耗限度種別規程左ノ通定ム
- 車輛部分品磨耗限度種別規程
- 第一條 車輛部分品ノ磨耗限度ノ種別ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
  - 第二條 磨耗限度ノ種別ハ左ノ通トス
    - 一 工場修繕限度

- 二九 布設電線ノ輕微ナル修理但シ客車ニ布設ノ分ヲ除ク
  - 三〇 電車内ノ蓄電池及乾電池ノ取替、蓄電池ノ充電
  - 三一 避雷器ノ調整及部分品ノ取替
  - 三二 圧縮機ノ部分品取替及輕微ナル修理
  - 三三 電動機、電動發電機、發電動機ノ部分品取替及輕微ナル修理
  - 三四 戸閉裝置ノ調整、部分品取替及輕微ナル修理
  - 三五 其ノ他前記各號ニ準スル輕微ナル工事
- 第二條 前條以外ノ修理ハ特殊ノ事由ナキ限り工場ニ廻送ノ上之ヲ施行スヘシ

第五條 使用限度トハ使用ヲ許容スル限界ヲ謂フ  
(註) 本限度ヲ超ニタル場合ハ使用ヲ禁スヘキモノトス

第六條 既ニ定メアル限度ノ種別並其ノ意義ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ之カ改正ヲ行フ迄從來ノ通取扱フモノトス

四一、貨車部分品修繕限度制定ノ件

(昭和四、四、二〇) (東達甲第一五五號)

貨車部分品修繕限度ヲ左記ノ通定ム  
但シ工場修繕限度ハ一般修繕ノ場合及局部修繕ニシテ當該部分ヲ加修スル場合ニノミ適用シ、區修繕限度ハ仕立検査ノ場合ニ適用ス

件名	工場修繕限度		記 事
	(耗)	(耗)	
軸箱守兩脚間ノ擴大量	6	8	(イ) 磨耗又ハ其ノ他ノタメノ擴リ最大部ニ於テ測(ロ) 第六種擔バネヲ使用シタル貨車ヲ含ム
軸箱守脚部厚サ磨耗量	3	3	
軸箱下面ト軸箱守軸上面トノ間隙	13	8	空車ノ場合ノ最小限度但シ三軸車及第六種擔バネヲ使用シタル貨車ヲ除ク
軸箱守ト軸箱ノ前後遊間	5	8	

車	制 動 機 關										28			
	有蓋貨車引戸レールノ磨耗量	サガジョンネヂ山厚	手用制動ネヂ棒及	同上各部ピントビ	基礎制動機各部ピ	梁軸ノ磨耗各部	制輪子吊下部制動	制輪子吊上部制動	遊間	制動軸頭ト受トノ		制動軸受穴ノ磨耗	制動軸頭直徑ノ磨	及同吊嵌入部)直
	2	3	5	2	4	3	6	3	3	3	3	3	3	3

第六種擔バネヲ使用シタル貨車ノ場合

(イ) 戸ヲ閉メタル位置ニ於ケル戸車停止部  
(ロ) 對シテハ上部ニ戸

體 金 具						
引戸覆ノ被リノ深サ	20	車ヲ有スルモノニ限ル				
戸車心棒ト戸車穴ノ遊間	3	戸ヲ閉メタル位置ニ於テ戸ヲ覆フ最小限度				
戸車直徑ノ磨耗量	5					
引戸ラツチピントピン穴ノ遊間	5					
無蓋車煽戸及開戸ピン直徑ノ磨耗量	4					
同上ピン穴ノ磨耗量	4					
無蓋車煽戸ピン止ロックノ掛リ	20					
(十五噸車)						

四二、貨車修繕基準制定ノ件(拔萃)

(昭和一一、一一、一) (東達甲第二九六號)

擔 ネ 装 置 關 係			
貨車組立狀態ニ於ケル左右擔バネ反	8	平坦線ニ於テ左右擔バネカ同時ニ荷重ヲ受タル如ク測定スル狀態ニ於テ	10
貨車組立狀態ニ於ケル前後及筋違擔バネ反リノ差	13	同上	15
擔バネ胴縮メトバネ座トノ間ニ挾ムライナーノ厚サ	10	使用シ得ル最大限度	
擔バネ靴厚サノ磨耗量	5	但シ磨耗ノタメ段ヲ生シタル場合ハ五耗以下ニテモ手當スルコト	

貨車修繕基準左ノ通定ム

貨車修繕基準

屋根張ノ部

三 防水布ノ一部分カ損傷セル場合ハ該部分ノ砂ヲ落シ他ノ防水布ヲ繼目塗料ヲ以テ充分密著スル様當張リヲ爲スヘシ

四 防水布塗面ノ龜裂ニシテ雨漏ノ虞アルモノハ該部ノ

砂ヲ搔キ落シアスフアルト系防水塗料ヲ叮嚀ニ塗布スヘシ

塗粧ノ部

五 防水布繼目カ剝離シ又ハ其ノ虞アル場合ハトーチラシ又ハ燒鍍ニテ該部分ヲ熱シ舊繼目塗料ヲ搔キ取リ新ラシキ繼目塗料ヲ流シローラ其ノ他適當ナル方法ニテ完全ニ密著セシムヘシ

四 標記及標示ハ次表ニ依リ筆書又ハ型押しヲ爲スヘシ尙各標記ノ標記又ハ位置ヲ變更スル場合ハ舊標記ヲ剝離ノ上行フヘシ

事項	筆書スヘキモノ	型押しノ儘ノモノ
記號番號	記號數字	形式記號
形式稱號	數字	荷重、高、米、噸、一、實容積、立方米
荷重	數字	自重、噸
自重	數字	換算積空
換算輛數	數字	〇、數字
軸位標記		
擔バネ	バネノ種類ヲ示ス数字反リノ公差ニ示ヨル區別ヲ示ス標	
國有鐵道ノ記號		鐵道省
檢査ノ標示	工場名、數字	輪廓
其ノ他	配屬局名、常備驛名、所有者用途、商標	

六 木部ノ取替又ハ切繼ヲ爲ス場合ハ左記ノ箇所ニクレスト又ハベイントヲ塗布スヘシ

品名	塗布箇所	塗料
羽目板	有蓋車羽目板相互ノ接觸面及木口	ベイント
長土臺	切繼面、床板トノ接觸部	クレオソート
柱	切繼面	クレオソート
軸箱守パツキング全部		クレオソート

軸箱守ノ部

二 軸箱守兩脚間距離ノ擴大量カ磨耗ノ爲工場修繕限度ヲ超エタルモノハ左記ニ依リ盛金又ハ當金熔接ヲ爲シ軸箱守ノ中心カ變ラサル様注意スヘシ  
 (イ) 脚内面ノ磨耗量三耗以下ノ場合又ハ局部的ノ磨耗量カ三耗ヲ超エタルモノハ盛金ヲ施スヘシ尙盛金ハ設計寸法ヨリ幾分餘分ニ盛上ケグラインダー其ノ他ノ方法ニ依リ平滑ニ設計寸法ニ仕上クヘシ  
 (ロ) 脚内面ノ磨耗量三耗ヲ超エタルモノハ當金ヲ熔接スヘシ尙熔接シタル當金ノ表面ハ平行トシ兩脚間内面距離ヲ設計寸法ニ仕上クヘシ  
 三 當金ノ熔接ハ次ノ第一法若ハ第二法ニ依ルヘシ